

高知県感染症発生動向調査事業報告

第 19 号

平成29年 1 月～30年12月

高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会
(事務局 高知県健康政策部健康対策課)
高知県感染症情報センター
(高知県衛生研究所内)

はじめに

高知県では、感染症予防の取り組みの一貫として、県医師会をはじめ多くの医療関係者の皆様のご協力を得て感染症発生動向調査事業を実施しており、収集・分析した結果を週報・月報・年報として各関係機関や県民の皆様にホームページなどで情報提供することにより、感染症の発生・拡大防止に備えた事前対応型の対策を推進しています。

近年、新興・再興の感染症等の発生や流行が毎年のように繰り返されるようになり、平成29年以降では、コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱の流行や、韓国で平成27年以来3年ぶりとなる中東呼吸器症候群（MERS）患者が確認されるなど、世界への感染拡大が懸念されました。

また、我が国では、平成27年3月に世界保健機関（WHO）から麻しん（はしか）の「排除状態」にあると認定されましたが、認定以降も海外からの帰国者や訪日外国人を発端とする流行が発生しております。今後2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、さらなる訪日外国人の増加が見込まれる中、感染症の拡大を未然に防止するためにも、日頃から県民の皆様への適切な情報提供とそれぞれの感染症に応じた予防対策等の普及啓発に取り組むことがますます重要になります。

この度、感染症予防の資料としてご活用いただく事を目的として、平成29年から平成30年の2年間の事業概要をとりまとめ、高知県感染症発生動向調査事業報告書第19号を発行いたしました。

本報告書が皆様にご活用いただけることを祈念いたしますとともに、今後さらにご協力をいただければ幸甚に存じます。

最後に、本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会の委員の皆様並びに県医師会、定点医療機関をはじめとした多くの医療関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、今後も本事業の推進になお一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

高知県健康政策部長

鎌倉昭浩

第19号の発刊に寄せて

—何故？，当然，まだまだ—

平成は31年4月までであり，第19号は平成最後の高知県感染症発生動向調査事業報告となります。過去2年間の感染症について振り返ってみますと，平成29～30年のインフルエンザはA型とB型の同時大流行があり（何故？これまでのA型の後B型の流行も何故？），平成30年には沖縄県での麻疹流行，関東地方を中心とした風疹流行，若い世代での梅毒の増加，高知県内では百日咳流行がみられました。RSウイルス感染症の流行のピークが9月と早くなっている理由も何故？です。風疹流行に関しては30～50代男性の罹患が多く，ワクチンの有効性を再認識しました。新しく導入された定期接種ワクチン（肺炎球菌，インフルエンザ菌b型，水痘）の効果は，感染症サーベイランスからも臨床的な実感からも明らかです。ロタウイルスワクチンは任意接種ですが，0歳で一定数の児が接種しているためか感染性胃腸炎の患者数のピークは低下しています。B型肝炎ワクチンも急性肝炎・慢性肝炎・肝臓の発生を低減することになるでしょう。これらの事実は有効性が確認されたワクチンを導入したのだから，当然と言えば当然の結果です。このような状況の中で，子宮頸がんワクチンの接種が勧奨されないことによるマイナスは，大変大きいのではないかと危惧しています。

近年日本に多くのワクチンが導入された結果，海外諸国とのワクチンギャップはかなり解消され，VPD（Vaccine Preventable Disease：ワクチンで予防できる病気）は着実に予防できるようになってきました。しかし，まだまだ問題があります。ワクチン接種率が低いのです。0歳児は母親が産休・育休中なので接種率は高いのですが，1歳以降の接種率が低いのです。平成29年度の高知県のMR（麻しん風しん）ワクチン接種率は，第1期（1歳で接種）の接種率は95.2%ですが，第2期（小学校入学前1年間の接種）の接種率は93.2%とまだまだなのです。全国平均は第1期96.0%（統計処理の関係で1位105.9%富山県，2位98.3%奈良県），第2期93.4%（1位96.3%青森県）です。目標は1期2期ともに95%以上です。高知県は「日本一の健康長寿県」を目指しています。接種率をあと数パーセントアップするには，医師，保育士，行政職員などの関係者が，健診その他の機会を利用してワクチン接種状況をチェックし，個別に繰り返し地道に接種勧奨する草の根活動が大切だと思います。ワクチン接種による感染症予防だけでなく，子どもの幸せのために色々な場面で親と関係者が協働しなければなりません。

厚生労働省の統計不正問題は信じられない事態です。感染症流行の判断・対策やワクチンの効果判定等には正確な感染症サーベイランスは不可欠です。今後も正確なデータを集積し高知県の感染症対策を推進するために，関係する皆様のご協力をお願いします。

平成31年3月

感染症発生動向調査部会

吉川清志

目 次

I 患者情報

高知県における感染症の年次的推移（第19報）	1
1 年間報告累計	2
2 インフルエンザ	3
3 咽頭結膜熱	
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5
5 感染性胃腸炎	6
6 水痘	
7 手足口病	8
8 伝染性紅斑	9
9 突発性発疹	
10 百日咳（2018年）	11
11 ヘルパンギーナ	12
12 流行性耳下腺炎	
13 RSウイルス感染症	14
14 流行性角結膜炎	15
15 無菌性髄膜炎	
16 マイコプラズマ肺炎	

II 検査情報

感染症発生動向調査における病原微生物分離	21
----------------------	----

III 地域情報

2017年～2018年 1 検査定点における病原体分離とその臨床像	33
2018年須崎市とその周辺を中心にみられた百日咳の流行について	42
2017/18シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討	46
2017年、2018年に経験した感染性腸炎の発生状況	48
2017/18シーズンインフルエンザについて	50

IV 高知県感染症情報月報（平成29年1月～30年12月）

53

V 参 考

高知県の伝染病	211
高知県日本脳炎患者発生状況	212

VI その他

高知県感染症発生動向調査事業実施要綱	213
高知県感染症対策協議会規約	280
高知県感染症対策協議会委員名簿	281
高知県感染症対策協議会の体系図	282

I 患者情報

高知県における感染症の年次的推移（第19報）

2017年（平成29年）1月から2018年（平成30年）12月までの報告

1 年間報告累計

疾患別の報告総数および1定点医療機関当たり報告数を、年次別に報告総数の多い順に配列し、それに全国の報告総数、1定点医療機関当たり報告数および前年の順位を併記したものが、2017年（平成29年）（表1）と2018年（平成30年）（表2）である。

インフルエンザと感染性胃腸炎とで1位と2位が年ごとに交代することが多かったが、2017年、2018年ともインフルエンザが1位である。

1) 2017年

インフルエンザは、新型インフルエンザの流行があった09年の報告数30,695名以降は増減を繰り返し、17年は15,550名である。

2位の感染性胃腸炎は、10年には過去2位となる10,567名の報告があったが、その後は減少傾向となり、17年の報告数は5,746名で07年以降最少の報告数である。

3位の手足口病は、16年の359名から大幅に増加し、11年の報告数と同じく89年以降最多の報告数3,345名である。

4位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、調査開始以来最多であった15年の報告数2,934名からわずかに減少し17年は2,580名である。

5位以下で増減の目立った疾患は、RSウイルス感染症が04年の調査開始以降11年の報告数1,026名から毎年1,000台を超え、17年は最多の報告数1,814名である。また、流行性耳下腺炎は16年報告数964名から17年198名と約1/5である。

2) 2018年

インフルエンザは、17年の報告数15,550名から増加し18年の報告数は21,771名と09年の新型インフルエンザの流行以降最多の報告数である。

2位の感染性胃腸炎は、04年以降最少の報告数であった17年の報告数5,746名からさらに減少し18年の報告数は5,031名である。

3位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、調査開始以来最多の報告数であった15年の2,934名から減少し18年の報告数は1,979名である。

4位の手足口病は、17年の報告数3,345名から大幅に減少し、18年の報告数は1,185名である。

5位以下で増減の目立った疾患は、流行性耳下腺炎が17年198名から大幅に減少し18年73名と調

表1 年間定点報告累計（全国との対比）

2017年（平成29年）

定点	順位	疾病名	高知県		全国		前年順位
			総数	定点当たり	総数	定点当たり	
インフルエンザ	1	インフルエンザ	15,550	323.96	1,614,999	326.66	1
小児科	2	感染性胃腸炎	5,746	191.53	871,927	276.19	2
	3	手足口病	3,345	111.50	358,806	113.65	10
	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,580	86.00	367,325	116.35	3
	5	RSウイルス感染症	1,814	60.47	139,557	44.21	4
	6	水痘	619	20.63	60,162	19.06	8
	7	ヘルパンギーナ	604	20.13	86,045	27.26	6
	8	突発性発疹	550	18.33	73,303	23.22	9
	9	咽頭結膜熱	409	13.63	92,269	29.23	7
	10	流行性耳下腺炎	198	6.60	77,884	24.67	5
	11	伝染性紅斑	115	3.83	12,436	3.94	10
	12	百日咳	29	0.97	1,661	0.53	12
	眼科		急性出血性結膜炎	0		441	0.63
		流行性角結膜炎	17	5.67	26,736	38.47	
STD		性器クラミジア感染症	17	2.83	24,825	25.13	
		性器ヘルペスウイルス感染症			9,308	9.42	
		尖圭コンジローマ	9	1.50	5,437	5.50	
		淋菌感染症	2	0.33	8,107	8.21	
基幹		細菌性髄膜炎	6	0.75	483	1.01	
		無菌性髄膜炎	7	0.88	955	2.00	
		マイコプラズマ肺炎	92	11.50	8,366	17.54	
		クラミジア肺炎（オウム病を除く）	14	1.75	263	0.55	
		感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	88	11.00	4,991	10.46	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	280	35.00	16,551	34.55	
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0.25	2,001	4.18	
	薬剤耐性緑膿菌感染症			128	0.27		

表2 年間定点報告累計（全国との対比）

2018年（平成30年）

定点	順位	疾病名	高知県		全国		前年順位
			総数	定点当たり	総数	定点当たり	
インフルエンザ	1	インフルエンザ	21,771	453.56	1,898,941	384.40	1
小児科	2	感染性胃腸炎	5,031	167.70	850,138	269.63	2
	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,979	65.97	358,376	113.66	4
	4	手足口病	1,185	39.50	122,725	38.92	3
	5	RSウイルス感染症	1,150	38.33	120,743	38.29	5
	6	突発性発疹	544	18.13	71,177	22.57	8
	7	咽頭結膜熱	531	17.70	73,959	23.46	9
	8	ヘルパンギーナ	477	15.90	99,304	31.50	7
	9	水痘	288	9.60	55,480	17.60	6
	10	伝染性紅斑	206	6.87	49,174	15.60	11
		流行性耳下腺炎	73	2.43	23,684	7.51	10
		急性出血性結膜炎	0	0.00	560	0.80	
	眼科		流行性角結膜炎	115	38.33	30,631	44.01
		性器クラミジア感染症	13	2.17	25,467	25.88	
STD		性器ヘルペスウイルス感染症	1	0.17	9,128	9.28	
		尖圭コンジローマ	0	0.00	5,609	5.70	
		淋菌感染症	2	0.33	8,125	8.26	
基幹		細菌性髄膜炎	5	0.63	507	1.06	
		無菌性髄膜炎	1	0.13	806	1.68	
		マイコプラズマ肺炎	104	13.00	5,597	11.66	
		クラミジア肺炎（オウム病を除く）	20	2.50	144	0.30	
		感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	35	4.38	3,234	6.74	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	216	27.00	16,311	33.91	
		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0.13	1,895	3.94	
	薬剤耐性緑膿菌感染症			121	0.25		

査開始以来最少の報告数である。また、水痘は17年の報告数619名から減少し、18年288名と調査開始以来最少の報告数である。なお、百日咳は2018年（平成30年）1月以降、定点報告疾患から全数報告疾患に変更となった。

2 インフルエンザ

定点当たりの報告数を全国と比較すると17年は全国の同程度であったが、18年は1.18倍と多い（表3）。また、流行パターンは17年18年ともに全国と同様に推移し、ピークは16～17年が17年2月（第5週定点当たり50.60）、17～18年が18年2月（第6週定点当たり67.67）である（図1）。

年齢別発生分布は、17年は、20歳以上が36%と最も多く、5～9歳が23%、10～14歳が17%と、5～

14歳で40%を占めている。18年は、3～9歳で増加し、20歳以上で減少した（図2）。

地域別発生分布は、17年は中央西・安芸・高知市・幡多で増加し、中央東・須崎で減少したが、18年には須崎・中央西で増加し、高知市・安芸で減少した（図3）。

ウイルス分離検出状況は、17年はApdm09型6件、A香港型59件、B型12件、18年はApdm09型34件、A香港型45件、B型41件である。

表3 インフルエンザの年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	15,550	323.96	326.66
2018	21,771	453.56	384.40

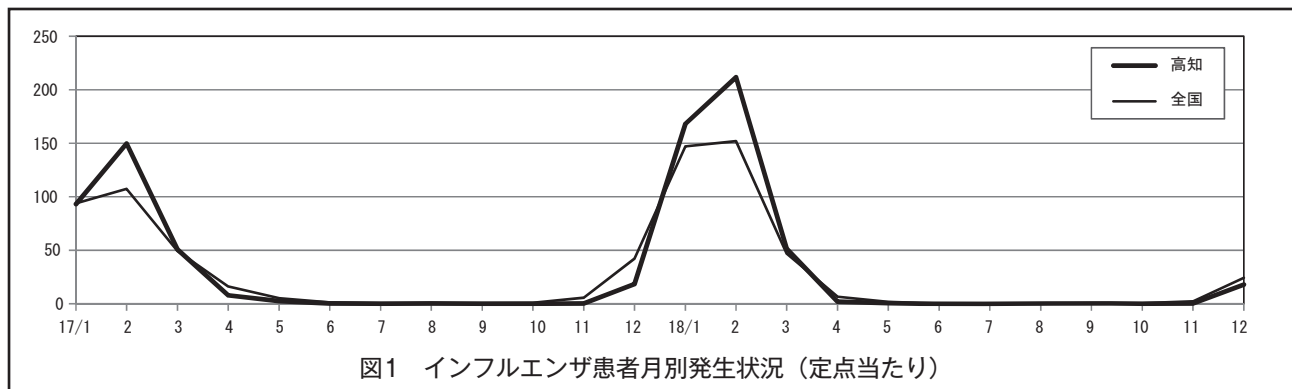


図1 インフルエンザ患者月別発生状況（定点当たり）

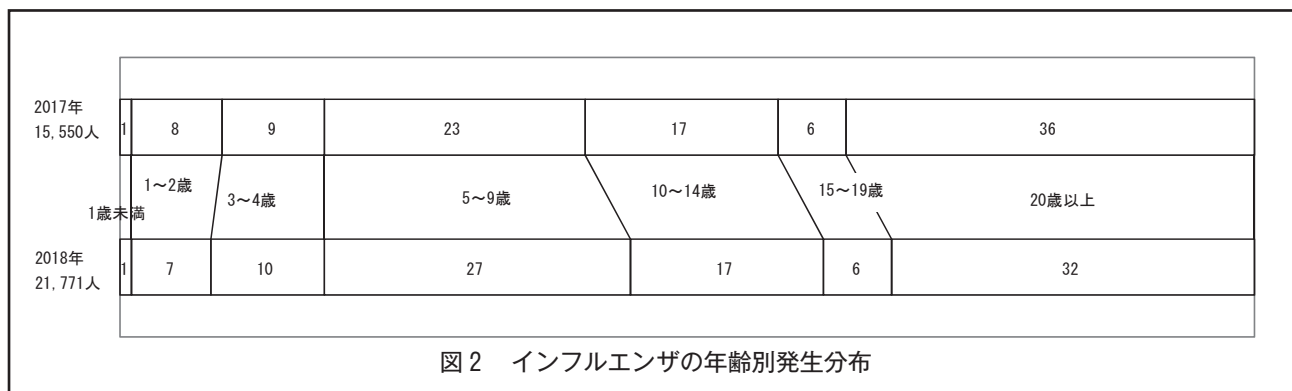


図2 インフルエンザの年齢別発生分布

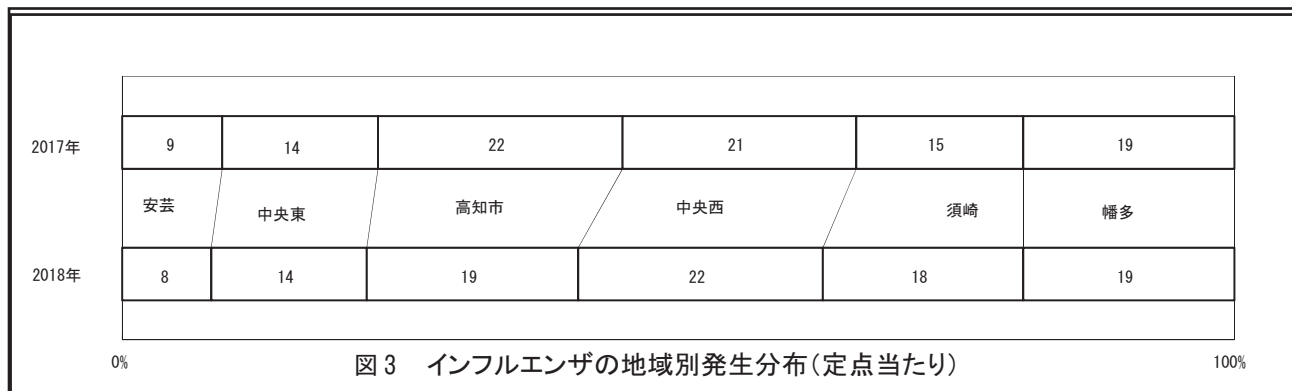


図3 インフルエンザの地域別発生分布（定点当たり）

3 咽頭結膜熱

17年と18年の定点当たりの報告数の比較では、全国は0.80倍で減少、高知県は1.30倍と増加した。また、高知県の報告数は、17年は全国の報告数の0.47倍、18年は0.75倍と少ない報告数である（表4）。

定点当たり報告数の推移を全国と比較すると、17年は全ての報告月で全国を下回ったが、18年は7月から9月の3ヶ月間全国を上回った。また、17年は全国が6月、高知県が5月、18年は全国が6月、高知県が8月のピークであった（図4）。

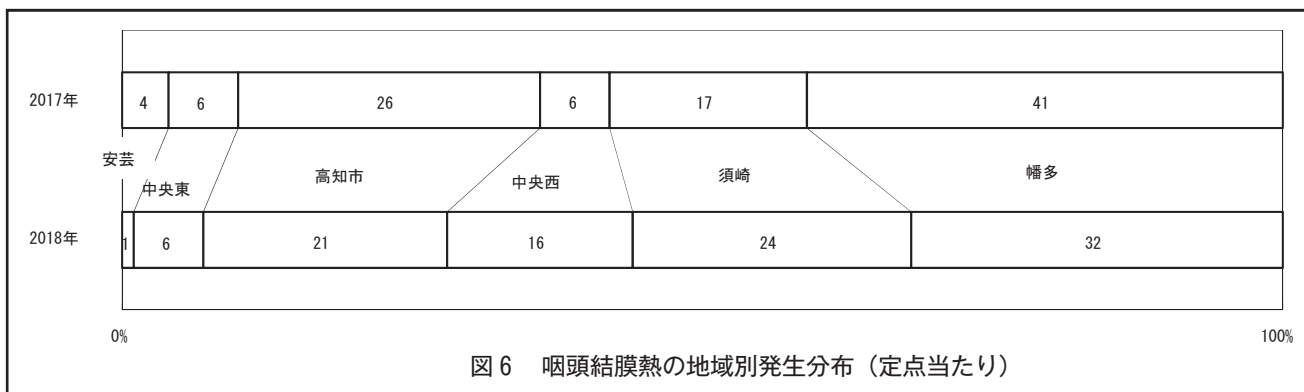
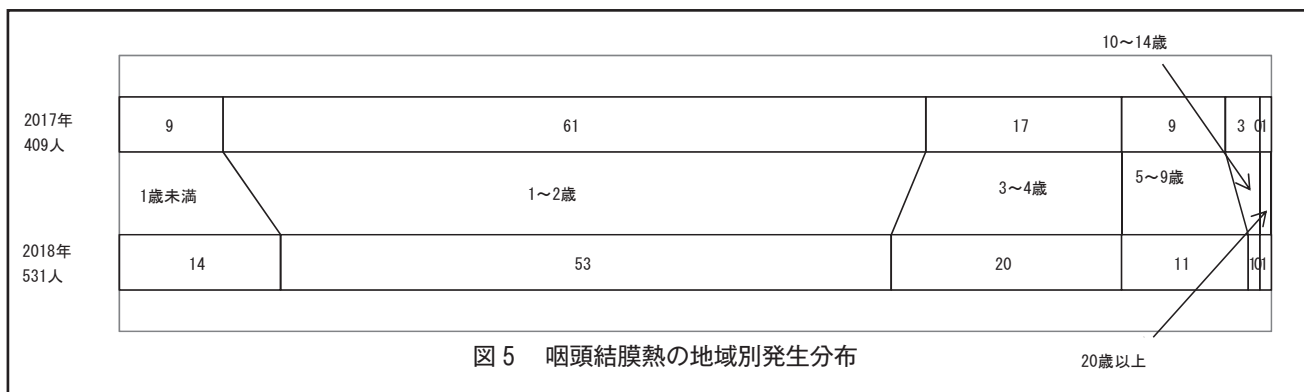
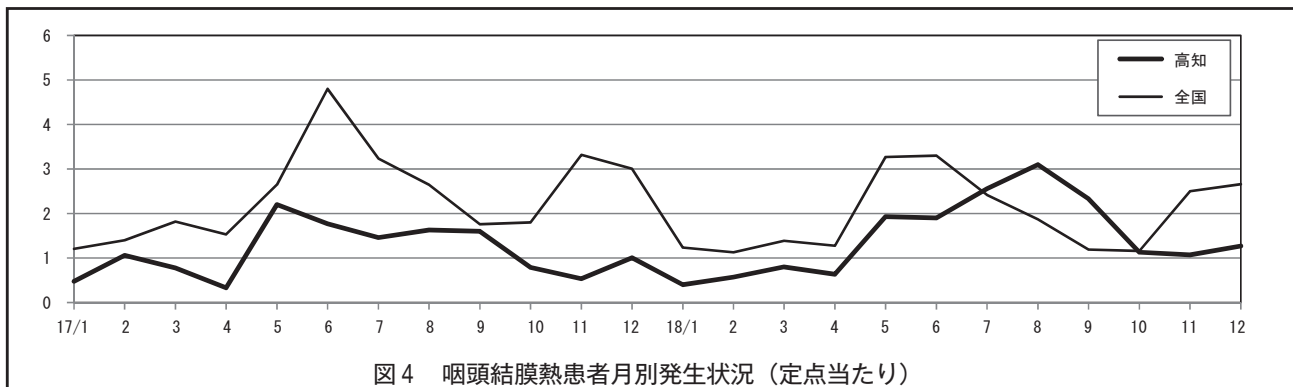
年齢別発生分布は、17年、18年とも1～2歳の割合が最も高く、3～4歳、1歳未満、5～9歳と続き、

これらの年齢でほぼ95%以上を占めている（図5）。

地域別発生分布は、17年は須崎・安芸・幡多で増加し、中央西・高知市・中央東で減少した。18年は中央西・須崎で増加し、幡多・高知市・安芸で減少した（図6）。

表4 咽頭結膜熱の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	409	13.63	29.23
2018	531	17.7	23.46



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの報告数は17年18年とも高知県は全国を下回った。00年～12年の年間報告数は1,200～2,500名程度で推移し、17年の2,580名は00年以降15年に次ぐ報告数である（表5）。

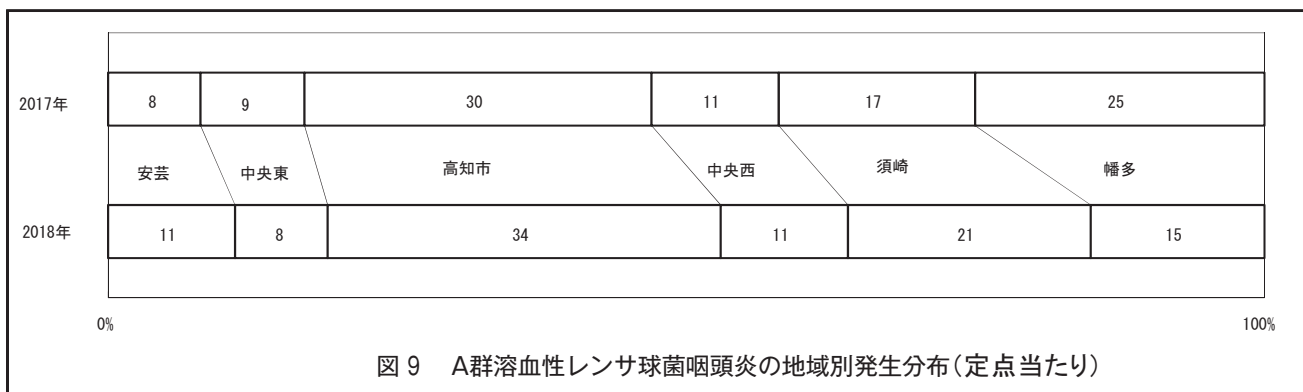
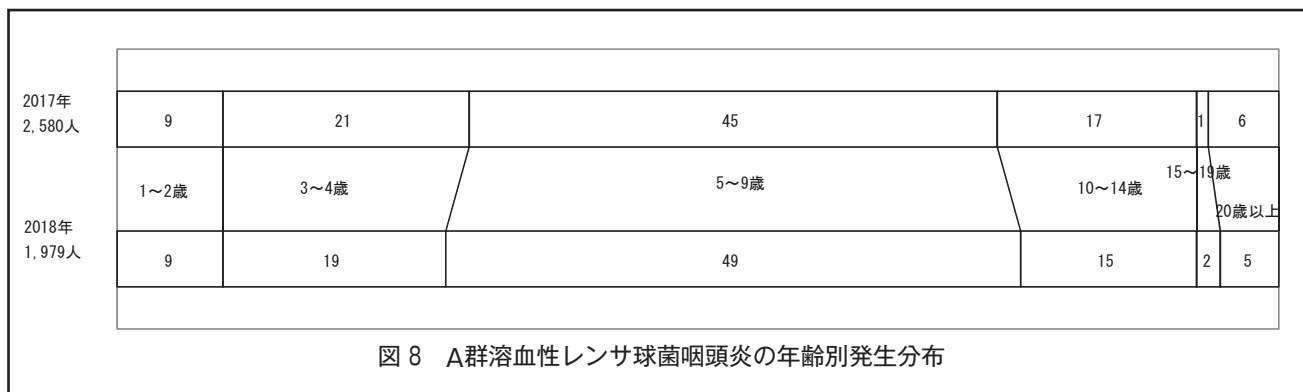
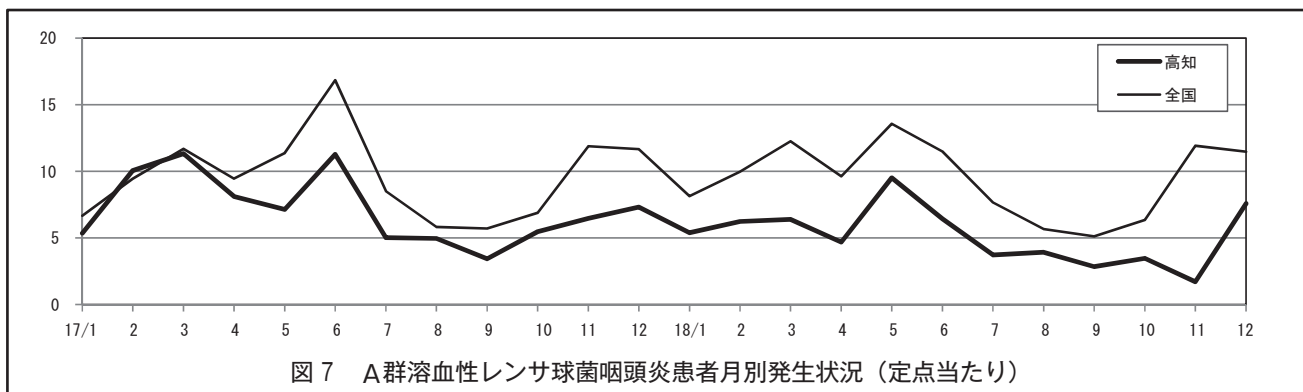
定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、17年の2月以外は高知県は全国より少ない状況を維持している（図7）。

17年と18年の年齢別発生分布はほとんど変動がなく、5～9歳の割合が45～49%と最も高く、次に3～4歳が19～21%、10～14歳が15～17%となっている（図8）。

地域別発生分布は、17年は須崎・幡多・高知市・安芸で増加し、中央西・中央東で減少した。18年は高知市・須崎・安芸で増加し、幡多・中央東で減少した（図9）。

表5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	2,580	86.00	116.35
2018	1,979	65.97	113.66



5 感染性胃腸炎

定点当たりの報告数は、16年17年とも全国を下回った。

高知県の報告数は、06年に11,070名と調査開始以来最高値を示し、その後も07年9,704名、08年9,470名と高い値を示していたが、09年には6,794名と減少した。10年には10,567名と再び増加に転じたが15年は6,475名と04年以降最少となり、17年5,746名、18年5,031名と減少している（表6）。

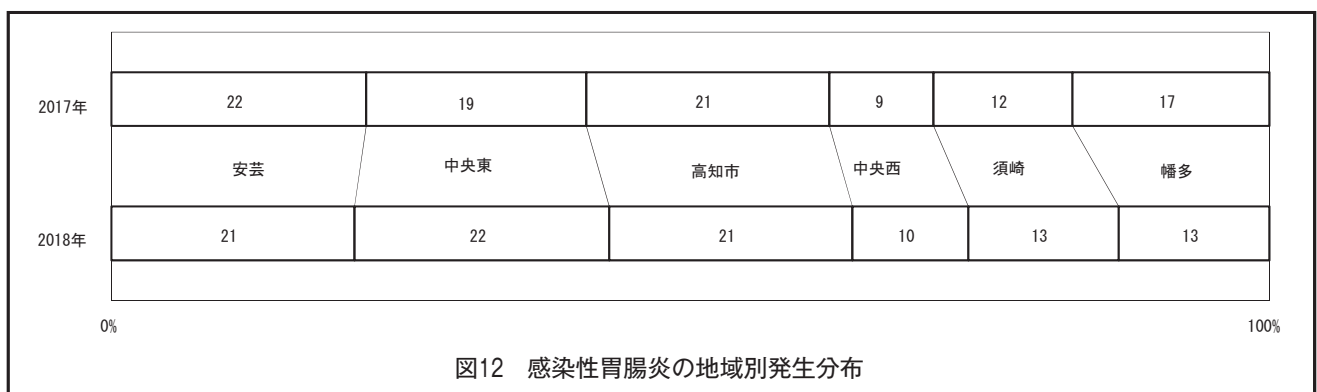
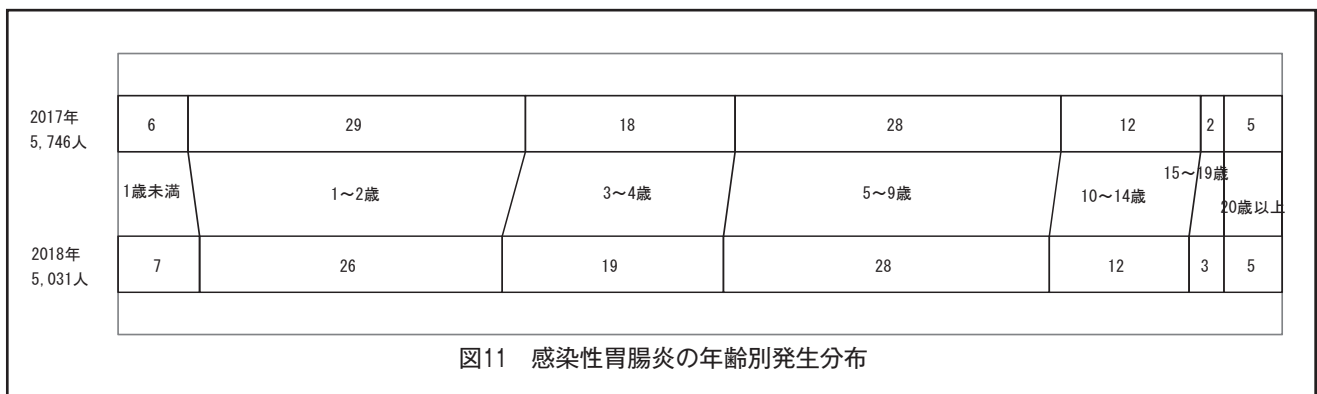
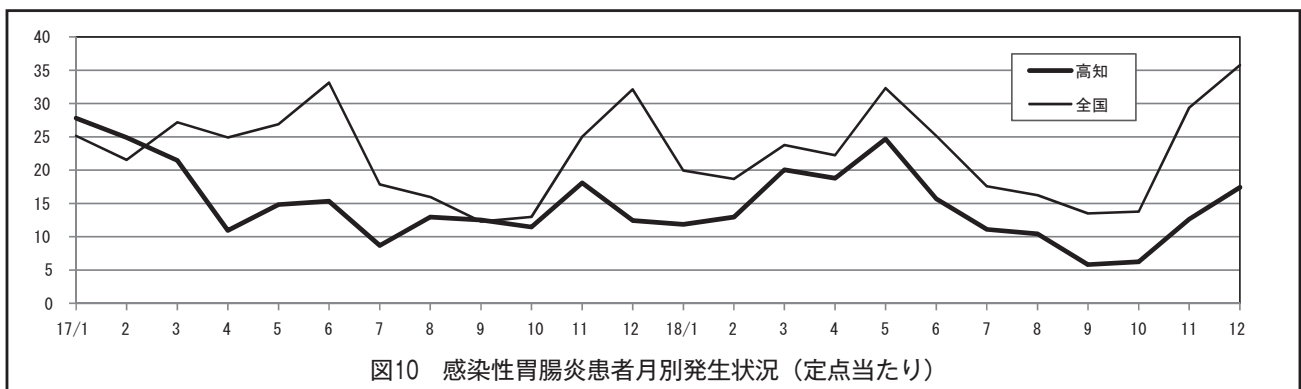
定点当たり報告数の推移を全国と比較すると、17年の全国では6月と12月にピークがきているが、高知県では1月にピークとずれており、18年は流行時期及びピーク値が全国とほぼ一致している（図10）。

年齢別発生分布は、17年、18年とも4歳以下が約50%を占め、5～9歳の28%が続いている（図11）。

地域別発生分布は、17年は安芸、高知市、幡多で増加し、須崎、中央西、中央東で減少した。18年は中央東、須崎、中央西で増加し、安芸、幡多で減少した（図12）。

表6 感染性胃腸炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	5,746	191.53	276.19
2018	5,031	167.70	269.63



6 水痘

定点当たりの報告数は、17年は全国と同程度であったが、18年は全国を大きく下回った（表7）。98年以降で見ると高知県での報告数は2～3年周期で2,000～3,000名と比較的大きく変化しているが、15年559名、16年574名と減少し、17年は619名と横ばいだが18年は288名とさらに減少し調査開始以来最少となった。これは14年10月からの水痘ワクチン定期接種開始の影響が考えられる。

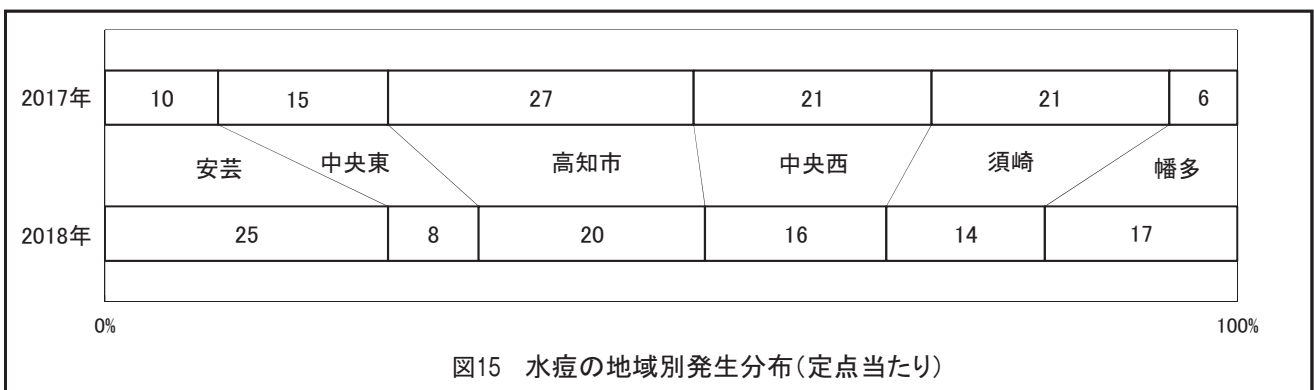
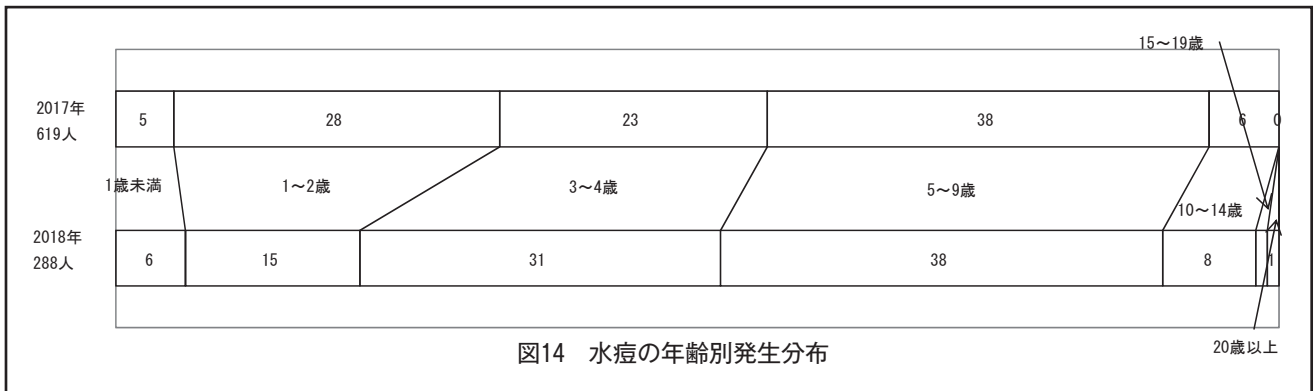
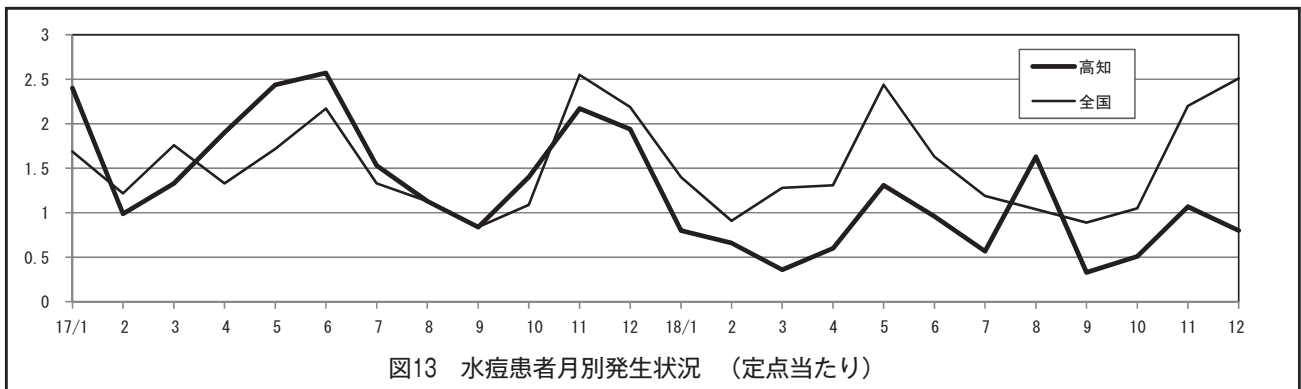
定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、ピーク値の差は多少みられるものの流行時期は同様に7～10月が少なく、11～6月までが多い。これは夏休みの影響が推測される（図13）。

年齢別発生分布は、17年は4歳以下が56%、5～9歳が38%で、18年は4歳以下が52%、5～9歳が38%と、9歳以下が90%以上を占めている（図14）。

地域別発生分布は変動がみられ、17年は高知市・安芸・中央西で増加し、幡多・須崎・中央東で減少した。18年は幡多・安芸で増加し、中央東・高知市・須崎・中央西で減少した（図15）。

表7 水痘の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	619	20.63	19.06
2018	288	9.6	17.6



7 手足口病

定点当たりの報告数は、05～09年にかけ連続して全国を下回っているが、10年は高知県で、11年以降全国では13年、15年、17年と2年おきに流行があり、高知県でも同じ傾向であった。この疾患は年によって流行規模に比較的大きな差があり、調査開始以来約100～3,000名が報告されている。17年の3,345名は89年以降最多の報告数なのに対し、18年は0.35倍の1,185名と半減している（表8）。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較すると、全国の流行のピークは90年以降一定して7月にあったが、17年は8月、18年は7月なのに対し、高知県のピークは、17年は7月、18年は8月である（図16）。

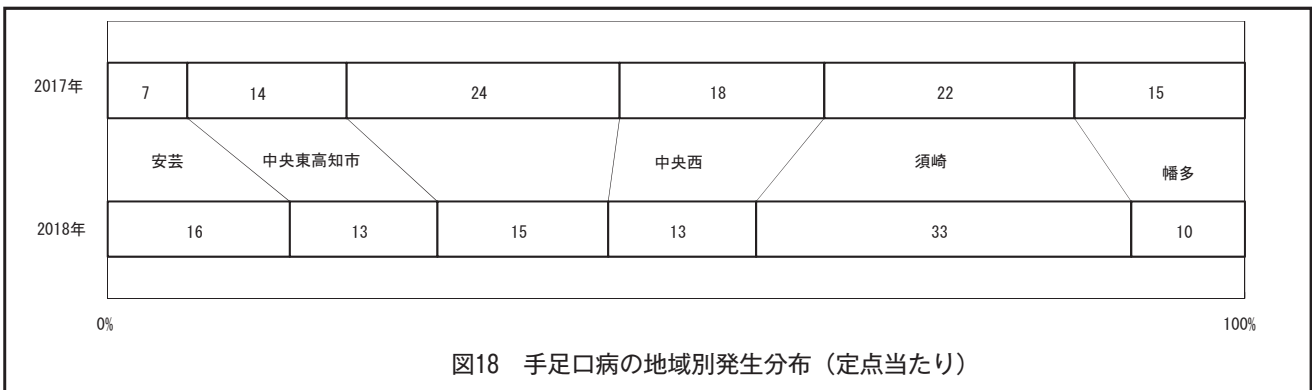
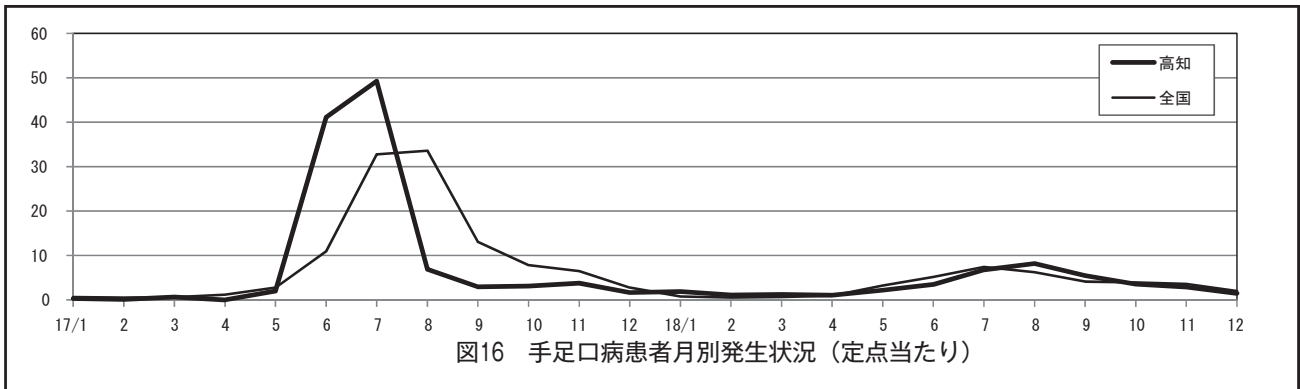
年齢別発生分布は、17年は1歳未満、1～2歳、

15～19歳が増加し、3～4歳、5～9歳、10～14歳が減少したが、18年は3～4歳、5～9歳が増加し、1歳未満、1～2歳、15～19歳、20歳以上が減少した。1歳未満～9歳までの報告数は17年18年とも全体の97%以上を占めている（図17）。

地域別発生分布は、17年は幡多・須崎・高知市が増加し、中央西・中央東・安芸が減少した。18年は須崎・安芸が増加し、高知市・中央西・幡多・中央東が減少した。（図18）。

表8 手足口病の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	3,345	111.5	113.65
2018	1,185	39.5	38.92



8 伝染性紅斑

定点当たりの報告数は調査開始以来大きく変動しており、12年は820名と89年以降4番目に多い報告数であったが、13年、14年は激減し14年は89年以降2番目に少ない報告数42名となった。その後、16年は359名、17年は115名、18年206名と増減を繰り返している。17年18年ともに全国を下回り、特に18年は大きく下回った（表9）。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、高知県は07年が突出した高い値で全国を上回った以降11年まで全国を下回っていたが、12年は再び全国を大きく上回った。その後17年は全国と同程度であったが、18年は9月以降全国を下回っている（図19）。

年齢別発生分布は、17年は5～9歳が減少し、18

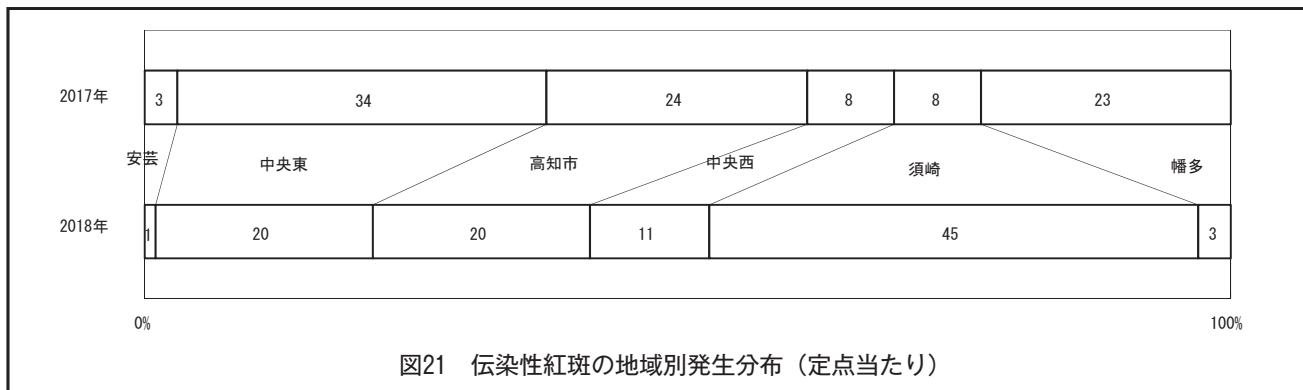
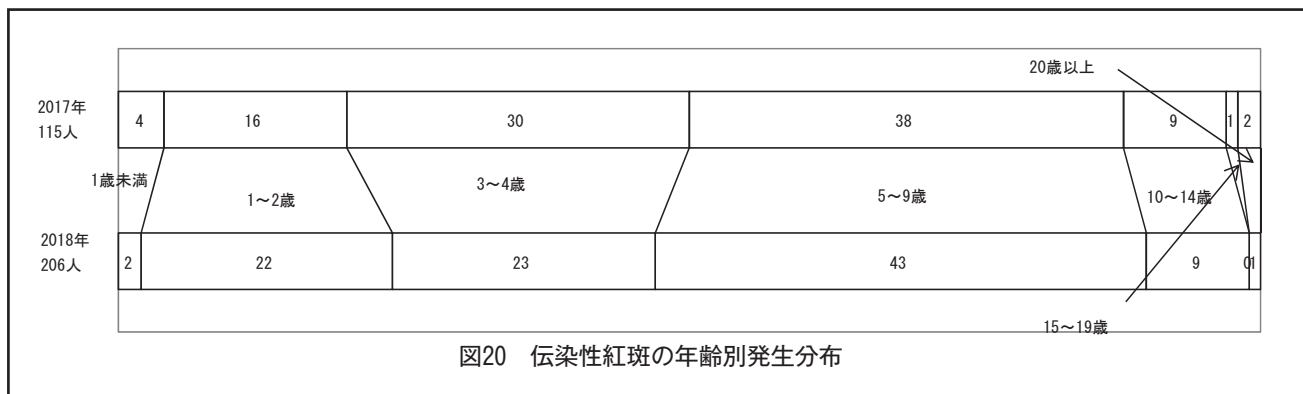
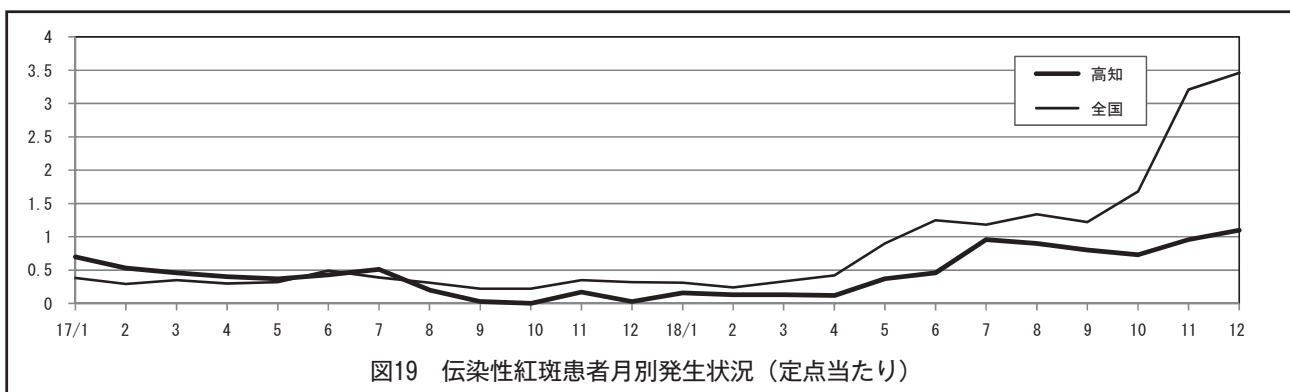
年は5～9歳が増加している。（図20）。

地域別発生分布では、17年は中央東・幡多・須崎で増加し、安芸・中央西・高知市で減少した。18年は、須崎・中央西で増加し、幡多・中央東・高知市・安芸で減少している（図21）。

また、調査開始以来、87年、92年、97年、02年、07年、12年、16年で報告数が多くなっており、4～5年周期で流行を繰り返している。

表9 伝染性紅斑の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	115	3.83	3.94
2018	206	6.87	15.60



9 突発性発疹

高知県の定点当たりの報告数は、全国よりも少ない状況が持続している（表10）。また、報告数は年々減少傾向にあり、02年に1,000名を割り、その後も減少し17年は550名、18年544名と調査開始時の報告数の5分の1となった。この原因は出生数の減少も関与していると推測される。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、一年を通じて変動が少なく全国に類似している（図22）。

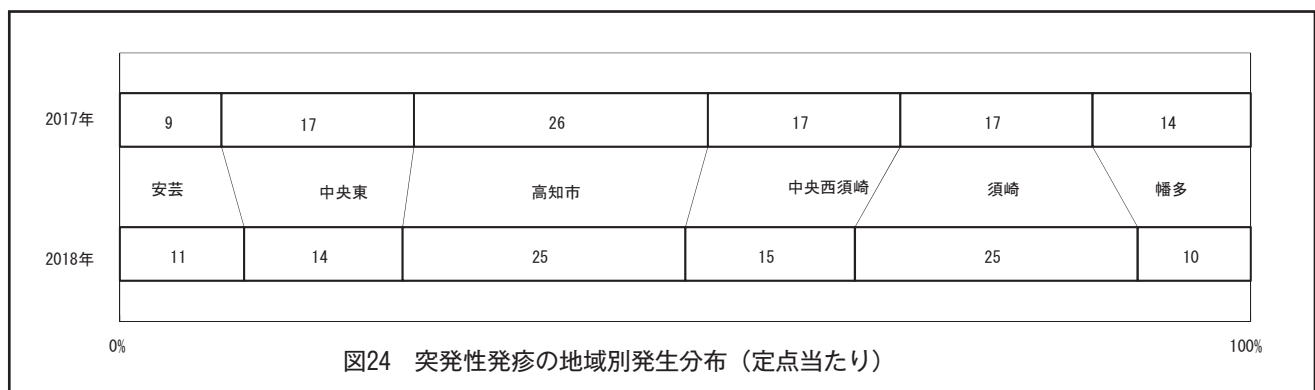
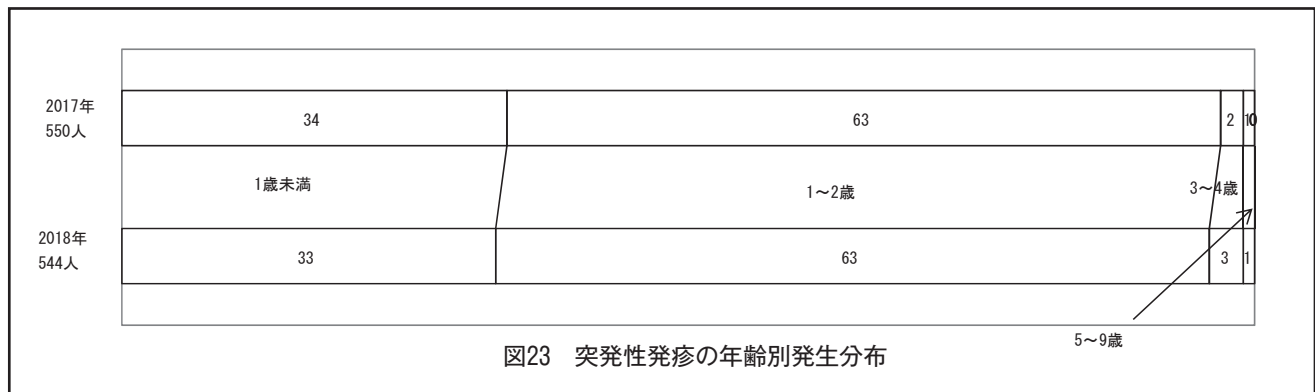
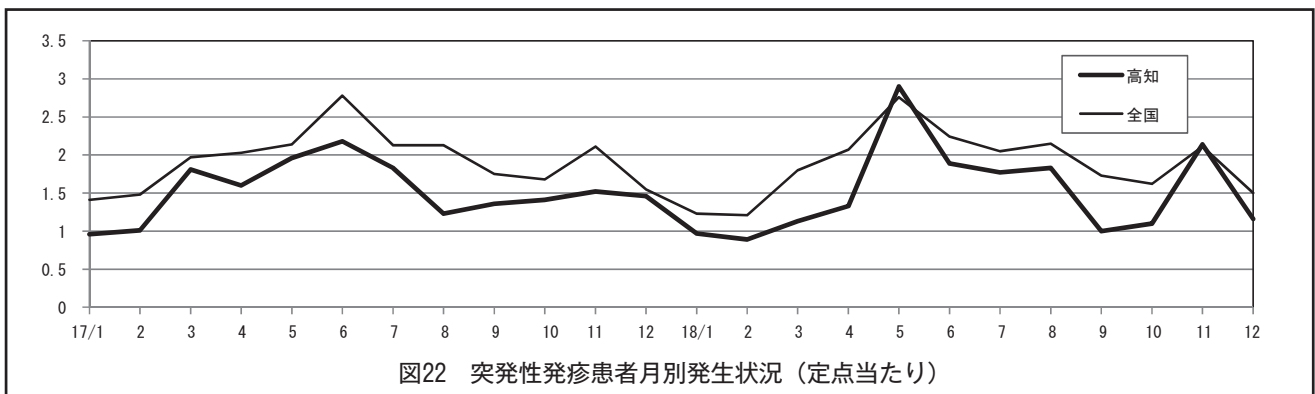
年齢別発生分布では、17年18年とも例年通り2歳以下が95%以上を占めている。1歳未満は10年まで

半数以上を占めていたが、11年以降1～2歳が半数以上を占め17年18年とも同様である（図23）。

地域別発生分布に大きな変動がないことが特徴であるが、高知市・須崎・中央西でやや多い（図24）。

表10 突発性発疹の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	550	18.33	23.22
2018	544	18.13	22.57



10 百日咳（2018年から全数報告）

高知県の定点当たりの報告数は、17年は全国の1.83倍と上回っている（表11）。89年以降2番目に多い12年311名から13年は50名と大幅に減少し、14年15名、15年27名と推移し、16年は4.59倍の124名と増加したが17年は29名と激減している。

定点当たりの報告数の推移を全国と比較してみると、17年の高知県の報告数は増減を繰り返し、ピークは3月、7月、10月、12月にみられるが、全国は低い値でほぼ一定に推移している（図25）。

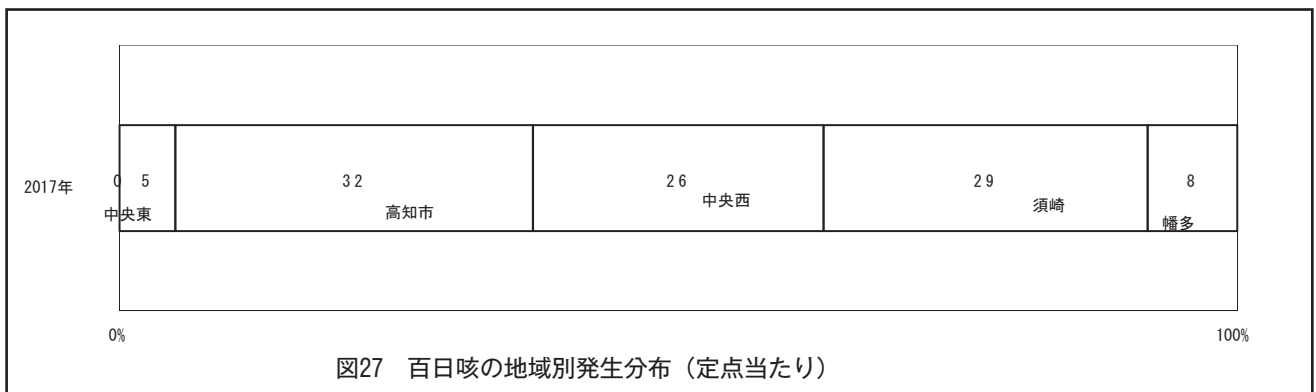
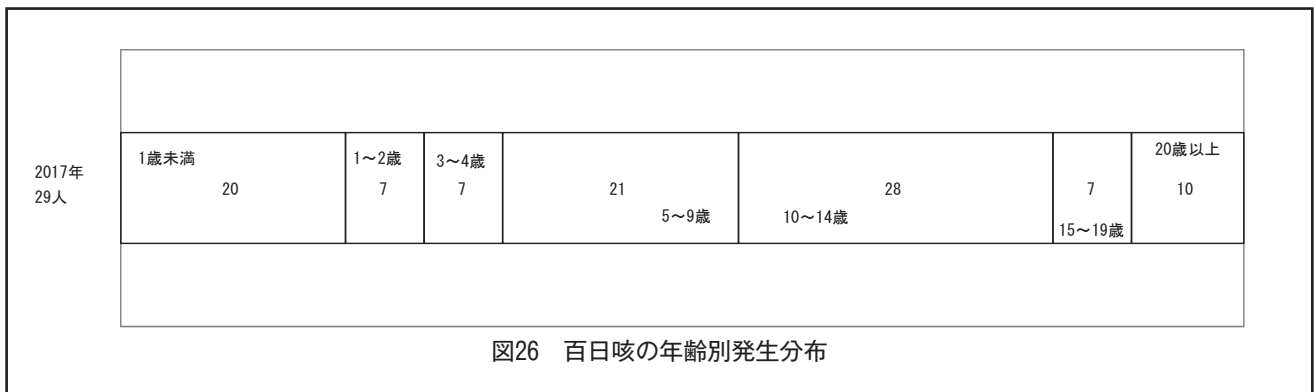
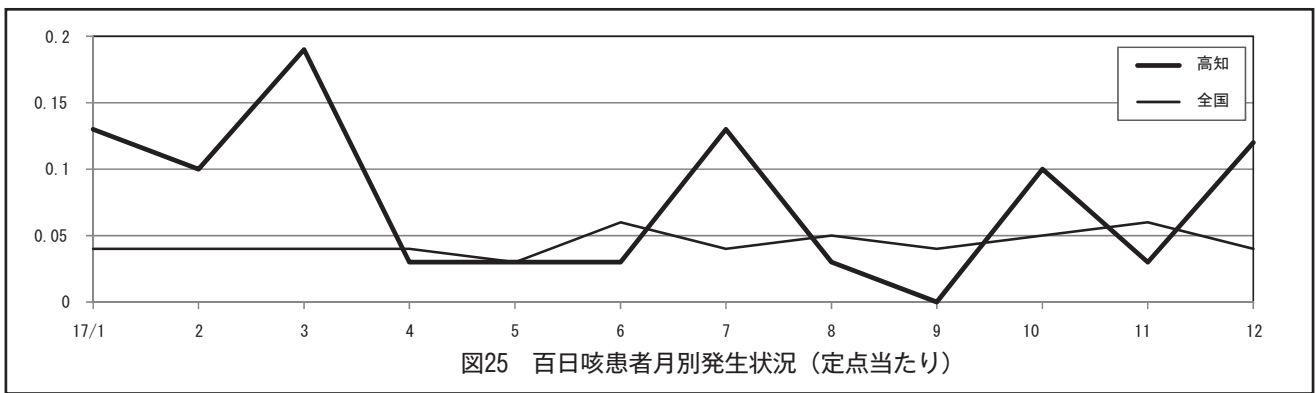
年齢別発生分布は、89年以降08年までは4歳以下が50%以上を占めている事が多かったが12年は19%と減少した。その後増減を繰り返し、16年の18%から、17年は34%と増加している。20歳以上では、

07年以降2年毎に増減を繰り返し12年16%、13年14%、14年34%、15年26%、16年14%、17年10%である（図26）。

地域別発生分布は、年によって流行地域が大きく変化することが特徴である。07年以降は須崎の割合が非常に高かったが、17年は高知市32%、須崎29%、中央西26%となっている（図27）。

表11 百日咳の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	29	0.97	0.53
2018			



11 ヘルパンギーナ

定点当たりの報告数は、17年は全国の0.74倍、18年は全国の0.50倍と少ない報告が続いている（表12）。09年668名を除き、00年以降約800～1,500名で推移していたが、15年以降減少傾向となり、18年は477名と調査開始以来最少となった。

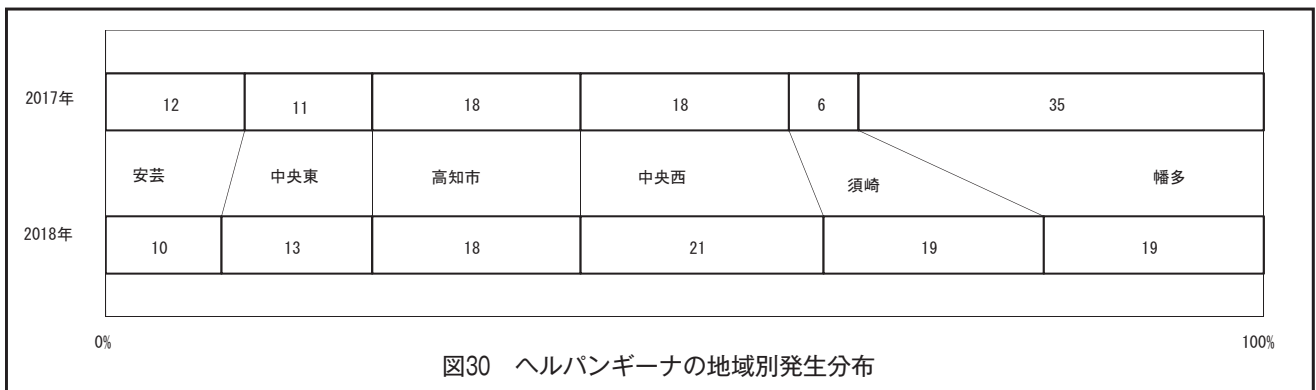
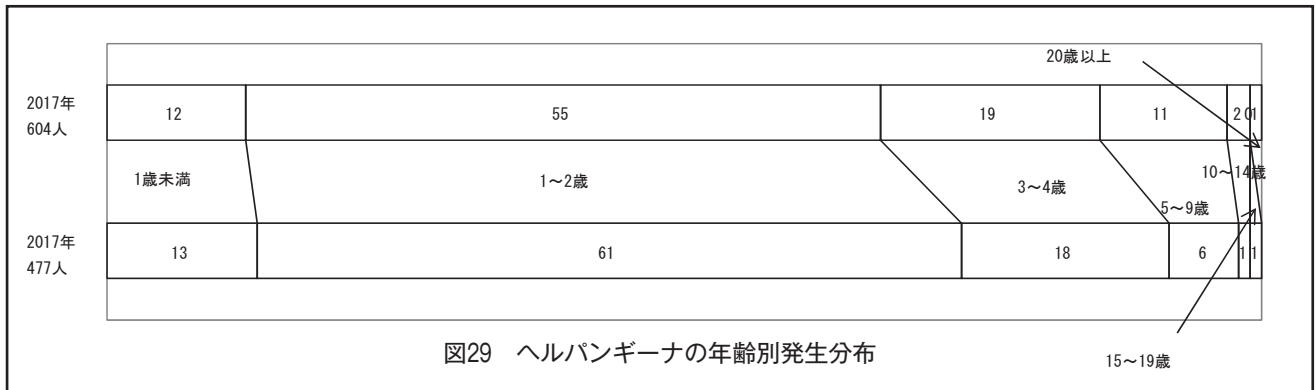
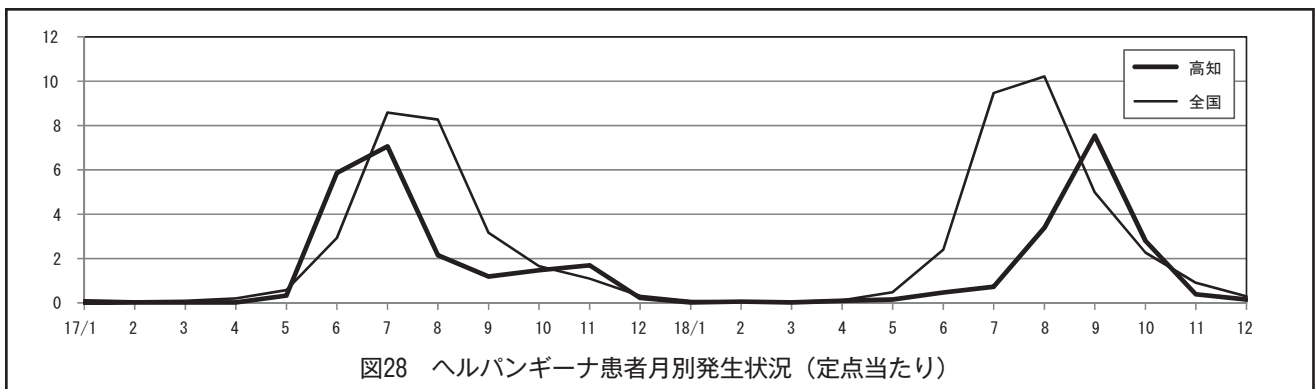
17年は高知県、全国とも7月にピークとなるが、18年のピークは全国は8月、高知県は9月である（図28）。

年齢別発生分布は、毎年同様の分布を示し、1～2歳が50%以上を占めている（図29）。

地域別発生分布は、17年は幡多・安芸で増加し、中央西・須崎・中央東で減少した。18年は須崎・中央西・中央東で増加し、幡多・安芸で減少した（図30）。

表12 ヘルパンギーナの年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	604	20.13	27.26
2018	477	15.90	31.50



12 流行性耳下腺炎

定点当たりの報告数は、13年、14年と全国の2～3倍と多い報告数で推移していたが、16年以降は、17年は0.27倍、18年0.32倍と全国を下回っている。(表13)。

定点当たりの推移を全国と比較すると、高知県は10年1月以降11年後半までは全国よりかなり低い値を持続しているが、13年後半から14年前半までは全国を大きく上回っている。その後、15年6月からは再び全国を下回っており、17年、18年ともに、全国を下回っている(図31)。3～5年毎に増減をくり返す疾患であり、18年は報告数が少ない周期の年である。

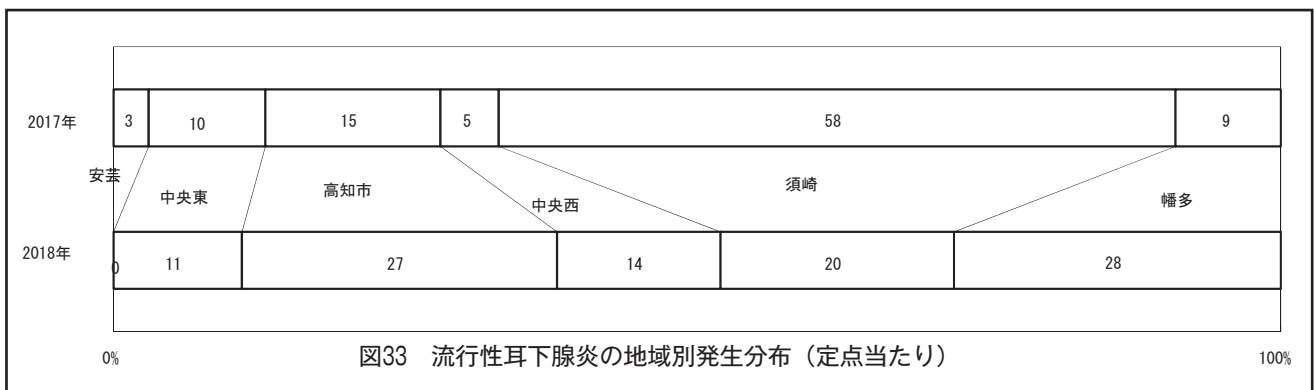
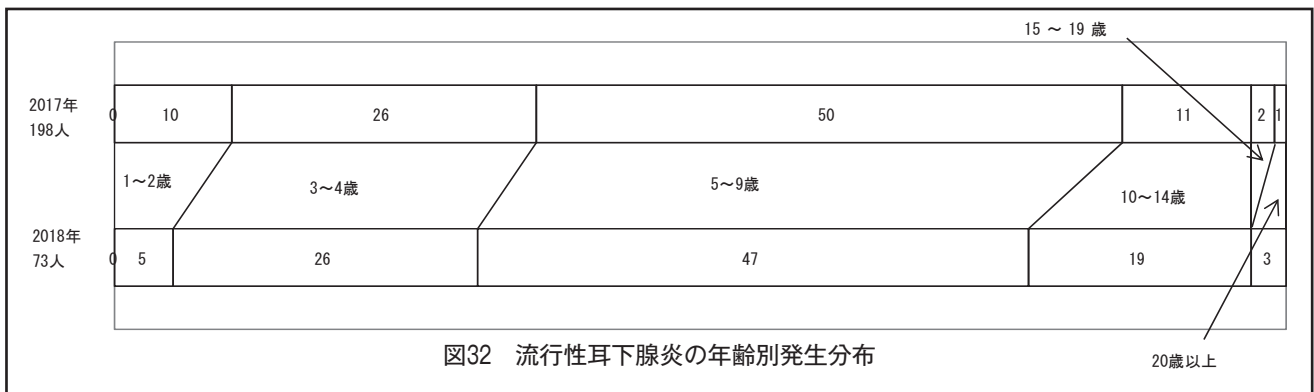
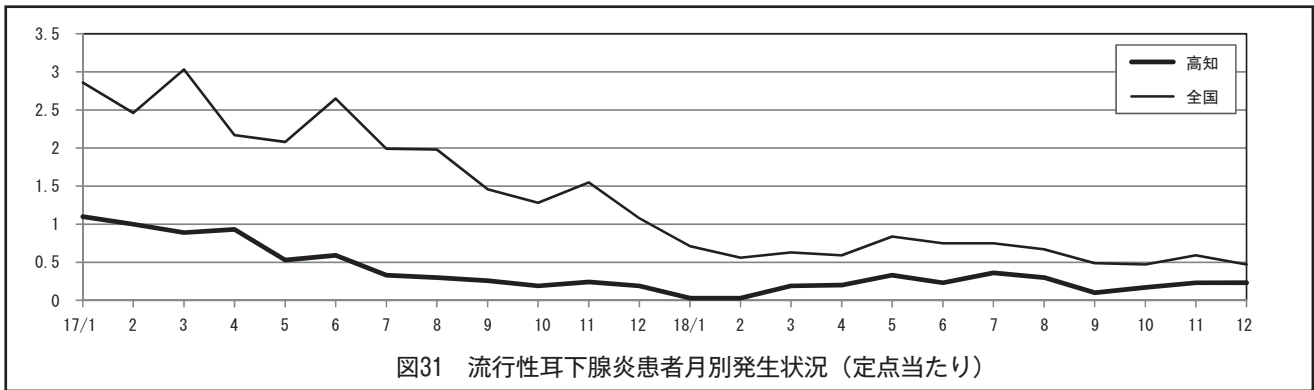
年齢別発生分布はほとんど変動がなく、5～9歳

が47～50%で最も多く、3～4歳が26%程度で続いている(図32)。

地域別発生分布では、年毎に比較的大きな変動がみられ、17年は須崎・安芸で増加し、中央西・幡多・中央東・高知市で減少した、18年は幡多・高知市・中央西・中央東で増加し、須崎・安芸で減少した(図33)。

表13 流行性耳下腺炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	198	6.6	24.67
2018	73	2.43	7.51



13 RSウイルス感染症

04年から調査が行われている疾患で、高知県の報告数は04年229名であったが、その後増加し11年に1,026名となり17年1,814名、18年1,150名と1,000台が続いている。定点当たりの報告数は17年、18年ともに全国を上回った（表14）。

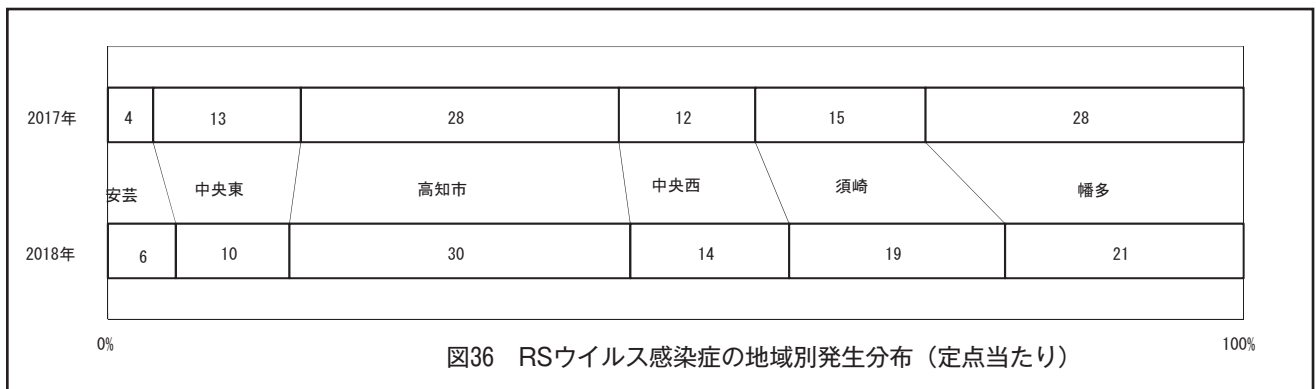
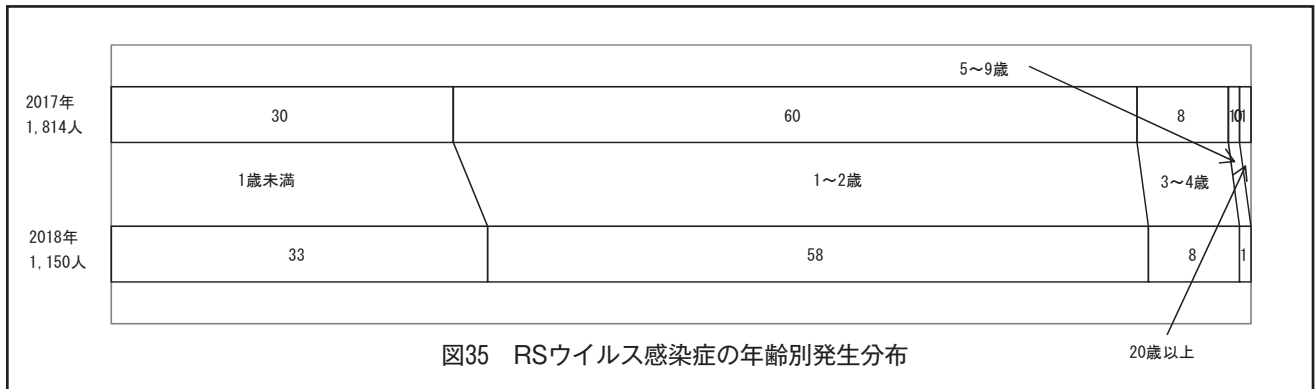
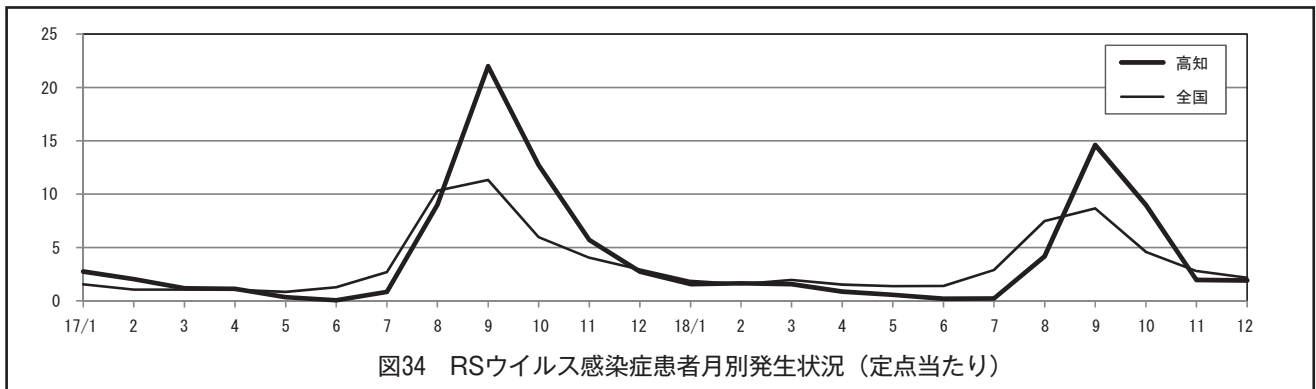
年齢別発生分布は、2歳以下が9割以上を占めている（図35）が、保険制度上の問題で検査されていないのみで、それよりも上の年齢や保護者も罹患していると推測される。兄弟から、または保育所で感染し、2歳未満では喘鳴・呼吸困難のためしばしば

入院する疾患である。

地域別発生分布では、17年は幡多・須崎・高知市で増加し、安芸・中央東で減少した。18年は須崎・安芸・高知市・中央西で増加し、幡多・中央東で減少した（図36）。

表14 RSウイルス感染症の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	1,814	60.47	44.21
2018	1,150	38.33	38.29



14 流行性角結膜炎

定点当たりの報告数は、07年08年とも高知県が全国を上回っていたが、09年以降は全国を下回り、17年0.15倍、18年0.87倍である。17年は17名と少ない報告数であったが、18年は115名と6.76倍である（表15）。

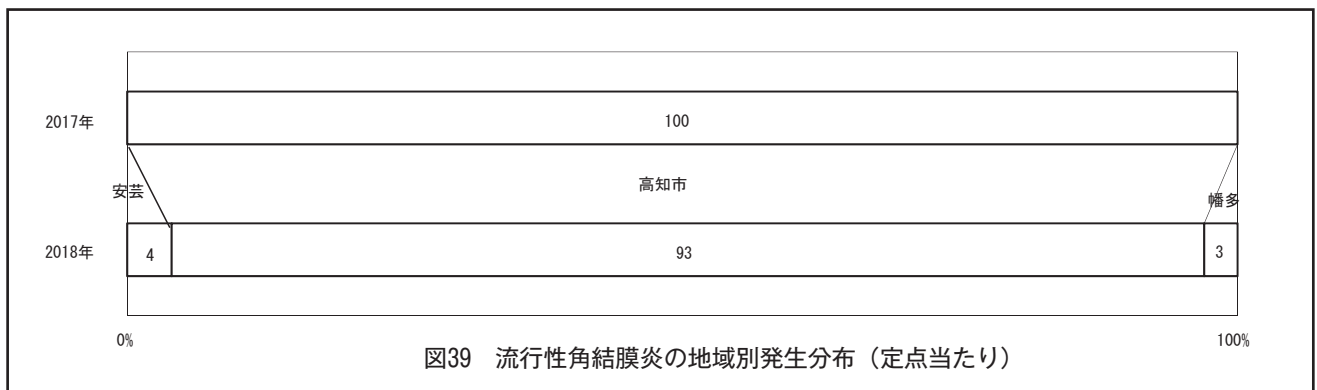
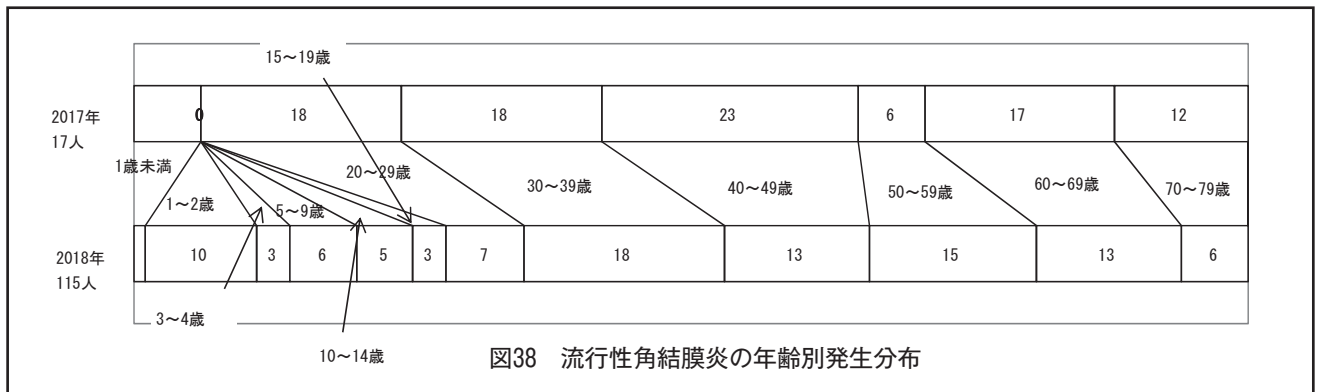
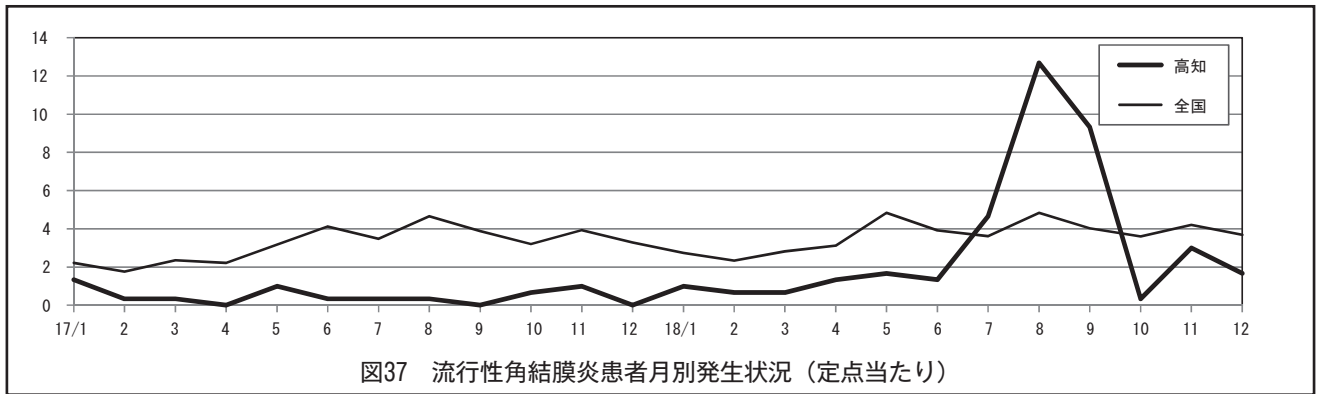
年齢別発生分布は、16年に比し17年は1歳未満（6%）、20～29歳（18%）、50～59歳（6%）、70～79歳（12%）、で増加し、1～2歳（0%）、15～19歳（0%）30～39歳（18%）、40～49歳（23%）、60～69歳（17%）で減少しているが、18年は1～2歳（10%）、3～4歳（3%）、5～9歳（6%）、10～14歳（5%）、15～19歳（3%）、50～59歳（15%）で増加し、1歳未満（1%）、20～29歳（7%）、40

～49歳（13%）、60～69歳（13%）、70～79歳（6%）で減少している。13年までは20歳以上が9割程度占めていたが15年は8割程度、16年は9割程度、17年は8割程度、18年は7割程度である（図38）。

地域別では、17年はすべて高知市からの報告で18年高知市が93%、安芸4%、幡多3%の報告である（図39）。

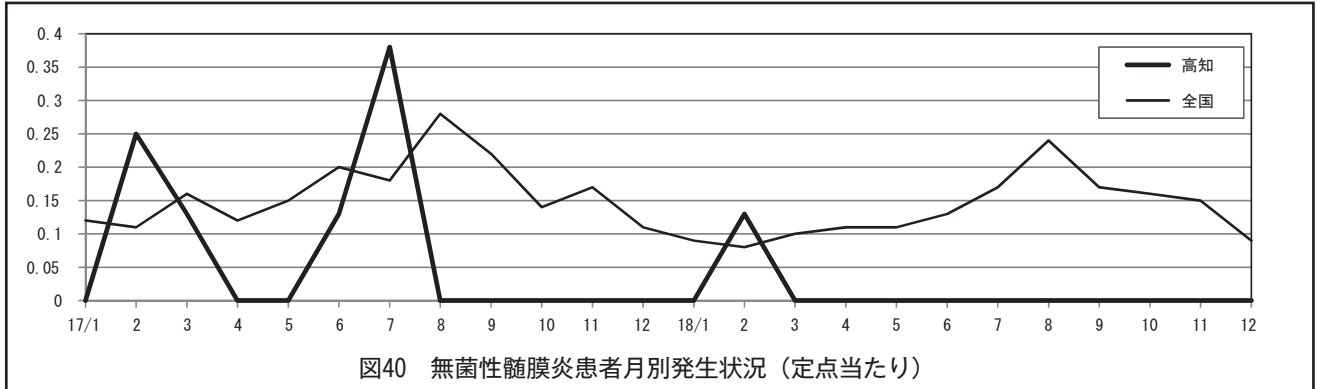
表15 流行性角結膜炎の年間報告数

年次	報告件数	定点当たり	全国定点当たり
2017	17	5.67	38.47
2018	115	38.33	44.01



15 無菌性髄膜炎

定点当たりの報告数は、09年以降は全国を上回っていたが、17年は全国の0.44倍、18年は0.08倍と大きく下回っている。報告数は17年7名、18年1名である（図40）。



16 マイコプラズマ肺炎

定点当たりの報告数は、05年以降全国より少ない報告数で推移していたが、13年、14年、15年は全国よりも多い報告数に変化している。16年、17年は再び全国を下回っていたが、18年は全国を上回っている。17年は92名、18年は104名の報告数であった。（図41）。

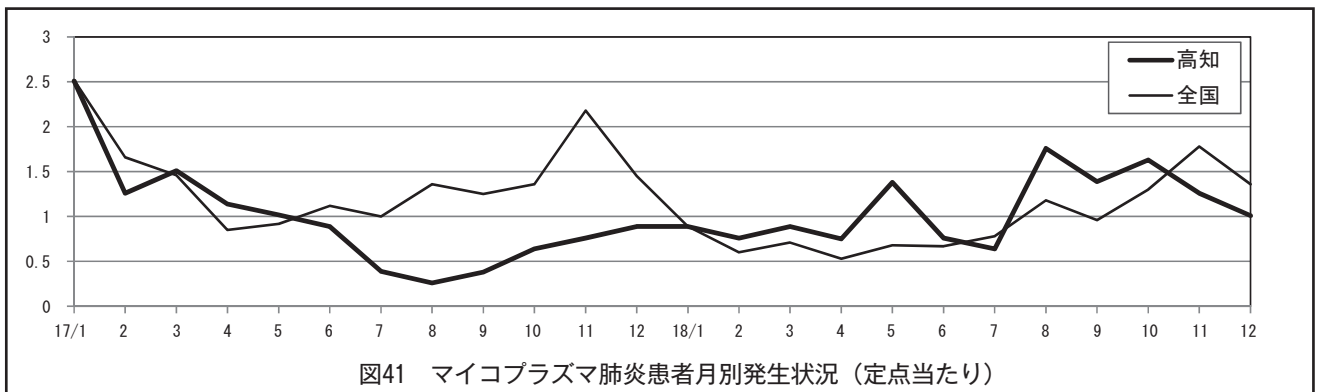


表16 施設におけるインフルエンザ様疾患年別、週別発生状況

年	月、週	1 2 月				1 月				2 月				3 月				4 月	計	型
		1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週			
1981~1982				18			42	1,406	2,181	3,457	2,063	1,072	427	49				10,715	B A 香港	
1982~1983							428	768	1,935	1,731	944	1,200	140	72				7,218	A 香港	
1983~1984						396	9,264	10,463	784		35							20,942	A ソ連	
1984~1985								628	1,376	3,015	1,663	4,057	2,822	1,051	59			14,671	B	
1985~1986		61	850	943	2,868	77		9	86	184								5,078	A 香港	
1986~1987							70	755	702	626	42		110					2,305	A ソ連	
1987~1988									12			8	1,476	412	908	1,206		74	4,096	B A 香港
1988~1989			35	338			27	624	1,009	312	117	21	66					2,549	A ソ連	
1989~1990			20	51			554	7,405	8,177	3,980	497	300	1,219	510	265	289	22	23,289	B A 香港	
1990~1991									58	12	44	55		30	43			242	B A 香港	
1991~1992							290	1,278	2,470	2,174	2,518	882	71	22				9,705	A ソ連 A 香港	
1992~1993							91	1,265	4,792	2,142	859	768	881	1,380	234			12,412	B A 香港	
1993~1994													22	20				42	A 香港	
1994~1995							569	8,977	6,622	697	129	71	85	11	19			17,180	B A 香港	
1995~1996								106	25		65	71	24				18	309	A ソ連 A 香港	
1996~1997							17	3,875	1,052	264	296	885	831	177	49	49		51	7,546	B A 香港
1997~1998							5		41	359	1,269	2,030	1,528	491	160			5,883	A 香港 B	
1998~1999		18					720	1,677	666	153	125	84	131	12			18	18	3,622	A 香港
1999~2000							378	1,955	2,184	666	348	336	126	40				6,033	A ソ連 A 香港	
2000~2001							74	20	354	661	918	1,250	671	417	193	13		4,571	B, A 香港 A ソ連	
2001~2002			49				42	214	324	446	134	512	208	21	5			1,955	B, A 香港 A ソ連	
2002~2003				38			481	2,251	1,047	929	146	386	420	98	120	91		6,007	A 香港 B	
2003~2004							115	272	195	174	58	123	46	14				997	A 香港 B	
2004~2005							36	0	8	247	389	202	357	156	78			1,473	A 香港 B	
2005~2006							72	39	307	334	1,356	1,684	866	1,282	256	38		6,234	A 香港 A ソ連, B	
2006~2007														17	98	24	31	5/21-51	221	A 香港 A ソ連, B
2007~2008							107	188	316	187	129	205	157	32			67	1,388	A ソ連, B	
2008~2009							47	443	909	355	97	40	290	85	59	23		2,348	A 香港 A ソ連, B	

年	月、週	8 月				9 月				10 月				11 月				12 月				1 月				2 月	計	型
		1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週			
2009~2010		4	32	112	167	213	63	56	203	214	645	1,852	1,826	2,589	2,265	3,072	1,277	880	846	307	3	14	94	122	100	133	17,089	Apdm09 A ソ連

年	月、週	1 2 月				1 月				2 月				3 月				4 月	計	型								
		1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週	1 週	2 週	3 週	4 週											
2010~2011								50	250	193	77	72	77	54												773	B, Apdm09 A 香港	
2011~2012						14	1,141	1,184	574	227	56	113	40	36	32											3,417	B A 香港	
2012~2013		9		50	20		77	133	537	345	133	143	134	96	99	73									35	1,884	A 香港 B	
2013~2014		16	51				10	149	101	33	64	84	96	69	98	72										67	910	A 香港 Apdm09, B
2014~2015				52	35			300	893	650	305	127	92	171	65	55	94	14	2,853	A 香港 B								
2015~2016									43	57	197	185	645	556	413	124	6	94	2,320	Apdm09 B								
2016~2017					90		10	333	831	887	546	251	176	84	5	7	14		3,234	A 香港 B								
2017~2018		7	11	18			13	892	969	886	888	462	169	51	61	28			4,455	A 香港 Apdm09, B								

表17 医療機関におけるインフルエンザ様疾患年別、週別発生状況

年	月、週	12月				1月				2月				3月				4月	計	型	ウイルス採取月日
		1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週				
1981~1982		22	16	26	36	42	20	53	193	659	1,108	1,606	946	873	409	169	58		6,236	A香港 B	
1982~1983		6	4	7	4	5	32	58	318	871	960	888	750	402	210	48	11		4,574	A香港	
1983~1984		10	6	10	5	24	311	1,864	2,196	801	316	106	41	6	44	10	1		5,751	Aソ連	
1984~1985		5	2	2	1	1	7	4	33	256	802	1,461	1,789	1,836	1,034	424	214		7,871	B	60.1.29
1985~1986		194	780	1,654	1,748	609	319	184	105	72	60	12	14	2	2		5		5,760	A香港	60.12.4
1986~1987		3	1	17	3	56	199	601	1,054	809	519	292	233	130	74	41	25		4,057	Aソ連	62.1.5
1987~1988				10	4	5	13	25	57	98	82	121	148	375	793	1,518	1,327		4,576	A香港 B	B型 63.1.22 A香港 63.3.3
1988~1989		1	26	214	576	512	592	644	683	648	435	245	137	55	28	31	71		4,898	Aソ連	元.12.5
1989~1990			2	2	10	46	464	2,419	3,544	2,806	1,636	984	931	791	552	414	157		14,758	A香港 B	A香港元.12.20 B型 2.1.24
1990~1991		16	27	23	19	17	13	23	22	60	72	59	87	99	189	253	285		1,264	A香港 B	A香港 3.2.27 B型 3.4.5
1991~1992				1	4	5	12	38	240	1,135	1,854	1,718	1,313	938	529	200	65		8,052	Aソ連 A香港	Aソ連 4.1.23 A香港 4.1.23
1992~1993		2	3	32	55	62	394	1,598	2,741	2,238	1,572	1,537	1,377	1,334	1,154	693	337		15,129	A香港 B	B型 4.12.24 A香港 5.1.7
1993~1994			3			3		4	45	80	66	52	56	49	54	14	12		438	A香港	6.2.1
1994~1995				3	6	89	1,014	3,413	3,320	1,425	541	271	265	283	450	398	332		11,810	A香港 B	A香港 7.1.10 B型 7.1.19
1995~1996		7	31	53	57	95	130	278	523	706	854	607	614	563	365	210	85	30	5,208	Aソ連 A香港	A香港 7.12.22 Aソ連 7.12.28
1996~1997		3	10	23	244	536	1,308	1,824	1,641	1,056	616	502	554	723	639	588	370		10,637	A香港 B	A香港 8.12.12 B型 9.1.31
1997~1998		21	18	17	4	17	22	45	184	740	2,023	2,094	1,733	22	568	257	156	41	7,962	A香港	10.1.19
1998~1999		8	2	20	39	136	777	1,856	2,075	1,233	556	433	532	212	220	169	163	115	8,546	A香港 B	B型 10.12.21 A香港 11.1.4
1999~2000		8	9	9	28	108	268	1,011	1,852	2,069	1,388	891	686	468	258	122	49	21	9,245	Aソ連 A香港	A香港 11.12.30 Aソ連 12.1.5
2000~2001		4	3	8	7	5	7	26	36	207	527	811	1,518	1,183	1,001	980	553	245	7,121	B.A香港 Aソ連	B型 13.1.16 A香港 13.3.12 Aソ連 13.4.9
2001~2002		1	7	14	35	45	173	282	505	827	949	711	780	693	451	357	226	86	6,142	B.A香港 Aソ連	A香港 13.12.14 Aソ連 13.12.18 B型 14.1.26
2002~2003		1	9	66	131	402	887	1,738	2,325	1,908	1,542	1,083	777	855	700	614	458	305	13,801	A香港 B	A香港 14.12.6 B型 14.12.20
2003~2004			3	3	4	13	56	145	344	679	962	890	1,030	719	439	269	116	24	5,696	A香港 B	A香港 16.1.5 B型 16.3.18
2004~2005		2	4	12	17	15	13	44	166	387	1,003	2,040	2,780	3,083	2,695	1,857	1,031	1,391	16,540	A香港 B	A香港 16.12.17 B型 17.1.19
2005~2006		1	4	22	69	119	355	506	640	784	1,022	1,548	1,915	2,170	2,046	1,289	849	524	13,863	A香港 Aソ連 B	Aソ連 17.12.16 A香港 17.12.9 B型 18.1.16
2006~2007			2		1	3	5	4	5	25	108	158	213	329	382	584	836	1,983	4,638	A香港 Aソ連 B	A香港 19.12.3 Aソ連 19.2.14 B型 19.3.9
2007~2008		30	57	197	289	215	351	836	1,507	1,680	1,278	704	659	449	353	268	167	284	9,324	Aソ連 B	Aソ連 19.11.27 B型 20.1.25
2008~2009		10	12	38	29	148	346	935	1,921	2,028	1,490	1,025	689	870	750	842	825	1,042	13,000	Aソ連 A香港 B	Aソ連 20.12.1 A香港 21.1.9 B型 21.1.26

年	月、週	8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月	計	型	ウイルス採取月日
		1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週				
2009~2010		107	116	144	135	180	204	152	117	228	351	798	1,293	1,538	1,863	1,910	2,204	1,551	1,347	1,216	1,067	777	610	558	298	278	19,042	Apdm09 Aソ連	Apdm09 21.8.6 Aソ連 21.8.16

年	月、週	12月				1月				2月				3月				4月	計	型	ウイルス採取月日
		1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週				
2010~2011		3	1	12	26	77	226	678	1,118	1,291	937	703	640	405	545	838	738	3,463	11,701	A香港 Apdm09 B	A香港 22.10.4 Apdm09 22.10.28 B型 23.2.5
2011~2012		6	0	19	53	119	937	2,847	3,201	2,602	1,749	1,056	706	406	311	291	402	1,545	16,250	A香港 B	A香港 23.12.10 B型 24.1.21
2012~2013		17	61	134	156	157	350	608	986	1,533	1,413	1,216	1,090	1,210	949	621	468	425	11,394	A香港 B	A香港 24.10.29 B型 24.11.5
2013~2014		96	117	188	238	312	418	645	1,003	952	631	645	859	1,034	860	913	822	1,429	11,162	A香港 B	A香港 25.11.16 Apdm09 26.1.8 B型 26.1.5
2014~2015		12	24	172	451	1,034	1,479	2,383	2,452	1,791	1,121	929	826	679	475	522	542	1,076	15,968	A香港 B	A香港 26.9.4 B型 27.1.6
2015~2016		7	4	2	11	21	30	86	268	789	1,148	1,596	2,247	2,372	1,944	1,478	894	2,053	14,927	A香港 Apdm09 B	A香港 28.1.7 Apdm09 28.1.22 B型 28.1.28
2016~2017		44	108	212	340	490	684	1,380	1,917	2,429	1,998	1,616	1,153	707	480	543	390	384	14,875	A香港 Apdm09 B	A香港 28.12.12 Apdm09 28.12.13 B型 29.4.5
2017~2018		43	64	210	567	902	1,523	3,076	2,575	3,177	3,248	2,199	1,549	1,115	653	384	214	223	21,722	A香港 Apdm09 B	A香港 29.12.18 Apdm09 30.1.5 B型 29.12.22

表18 インフルエンザの年別月別患者数

	1980年 昭和55年	1981年 昭和56年	1982年 昭和57年	1983年 昭和58年	1984年 昭和59年	1985年 昭和60年	1986年 昭和61年	1987年 昭和62年	1988年 昭和63年	1989年 平成元年	1990年 平成2年	1991年 平成3年	1992年 平成4年	1993年 平成5年
1月	291	201	344	413	4,397	301	1,291	1,910	100	2,431	9,279	135	1,430	4,795
2月	3,193	692	4,444	3,687	1,275	5,888	88	1,853	449	1,465	4,342	317	5,823	6,724
3月	1,242	769	1,537	721	79	1,722	10	270	4,820	122	1,181	861	804	3,620
4月	49	35	50	2	3	31	6	37	1,199	0	55	92	12	20
5月	58	0	9	0	0	3	6	14	146	0	6	12	8	0
6月	4	0	1	0	1	0	0	5	0	1	1	0	0	20
7月	0	2	0	0	0	0	30	0	0	4	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	1	0	14	0	3	0	1	0	0	0
9月	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0
10月	0	9	2	2	2	0	1	0	7	0	0	0	0	0
11月	0	25	6	13	10	24	8	0	0	0	58	0	0	0
12月	17	126	24	33	10	4,376	51	14	817	14	85	5	98	8
計	4,854	1,859	6,417	4,872	5,778	12,345	1,508	4,105	7,541	4,037	15,008	1,422	8,175	15,187

	1994年 平成6年	1995年 平成7年	1996年 平成8年	1997年 平成9年	1998年 平成10年	1999年 平成11年	2000年 平成12年	2001年 平成13年	2002年 平成14年	2003年 平成15年	2004年 平成16年	2005年 平成17年	2006年 平成18年	2007年 平成19年
1月	52	7,836	1,732	6,365	268	4,844	3,239	74	1,832	7,260	1,237	238	1,620	17
2月	254	2,502	2,638	2,395	6,590	2,526	5,034	3,063	3,133	4,257	3,601	6,210	5,269	504
3月	160	1,586	690	1,802	1,865	914	918	3,962	1,120	2,077	875	9,287	6,674	3,003
4月	65	154	97	205	64	476	12	187	71	137	22	546	256	1,250
5月	14	18	22	5	1	92	1	21	0	7	2		12	295
6月	0	22	0	0	7	19	0	0	0	1	0		2	22
7月	0	28	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	
8月	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
9月	0	23	0	0	5	0	0	0	0	0	0			
10月	2	13	0	0	8	1	0	0	1	0	0			
11月	0	3	9	9	7	14	1	2	0	0	3		3	20
12月	9	148	280	80	76	63	22	57	207	10	40		3	573
計	556	12,358	5,468	10,861	8,891	8,950	9,227	7,366	6,364	13,749	5,780	16,281	13,840	5,684

	2008年 平成20年	2009年 平成21年	2010年 平成22年	2011年 平成23年	2012年 平成24年	2013年 平成25年	2014年 平成26年	2015年 平成27年	2016年 平成28年	2017年 平成29年	2018年 平成30年
1月	4,589	5,378	2,241	2,098	7,103	2,101	3,330	9,139	398	4,471	8,076
2月	3,090	4,074	278	3,571	6,113	5,255	3,169	3,555	5,741	7,196	10,173
3月	908	2,852	18	3,406	1,761	3,451	3,243	1,832	7,619	2,445	2,476
4月	191	765	6	2,582	1,194	278	781	674	1,009	384	103
5月	39	102	1	630	175	113	211	54	60	122	32
6月		32	2	45	10	0	7	55	1	11	2
7月		32	0	3	0	0	0	9	0	2	
8月		384	2	0	2		3	2	1	17	1
9月		671	4	1	0	1	56	4	0	1	29
10月	2	2,787	6	4	5	0	8	2	0	3	2
11月	5	7,515	34	4	15	50	10	31	31	14	13
12月	89	6,103	42	81	369	639	659	35	727	884	864
計	8,913	30,695	2,634	12,425	16,747	11,888	11,477	15,392	15,587	15,550	21,771

表19 月別発生状況（2017年）

単位：人

分類	疾病名	報 告 月												総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2類	結核	5	8	8	8	7	10	8	10	18	13	6	7	108
3類	細菌性赤痢									2				2
	腸管出血性大腸菌感染症										2			2
4類	オウム病						1							1
	つつが虫病	1										6	4	11
	レジオネラ症		1					2			1	2		6
	レプトスピラ症								1					1
	日本紅斑熱				1	1		3		1				6
	重症熱性血小板減少症候群					1	1	1	1			1		5
5類	アメーバ赤痢			2	2		1							5
	ウイルス性肝炎			1		1								2
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1		1	1	4	4	1	1	2	1	3	3	22
	急性脳炎											1		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病								1		1			2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症						1				1	1	2	5
	後天性免疫不全症候群		1		1	2	1	1						6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1		1				1				4
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	2	4	2	3	1	1	2		1			18
	水痘（入院例）												1	1
	播種性クリプトコックス症			2								1		3
	破傷風							1						1
	梅毒	1	2		1	5	1		2		6	2	2	22
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							1						1
総計		11	14	19	16	25	21	19	18	24	26	23	19	235

(保健所受理日の月数で計算)

表20 保健所別発生状況（2017年）

単位：人

分類	病名	HC	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
2類	結核		13	15	35	18	10	17	108
3類	細菌性赤痢		2						2
	腸管出血性大腸菌感染症				2				2
4類	オウム病				1				1
	つつが虫病			11					11
	レジオネラ症			1	3		1	1	6
	レプトスピラ症							1	1
	日本紅斑熱				4	2			6
	重症熱性血小板減少症候群				2		1	2	5
5類	アメーバ赤痢			1	4				5
	ウイルス性肝炎				2				2
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症			1	17		3	1	22
	急性脳炎							1	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病				2				2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	4				5
	後天性免疫不全症候群			4	2				6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症				4				4
	侵襲性肺炎球菌感染症			4	11	1		2	18
	水痘（入院例）				1				1
	播種性クリプトコックス症			1	2				3
	破傷風				1				1
	梅毒			3	17		2		22
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1				1	
総計		15	42	115	21	17	25	235	

(保健所受理日の月数で計算)

表20 月別発生状況（2018年）

単位：人

分類	疾病名	報 告 月												総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2類	結核	6	12	12	12	6	7	8	6	5	9	10	4	97
3類	腸管出血性大腸菌感染症							1	2	1				4
4類	日本紅斑熱				1	4	3	2		1	2			13
	つつが虫病											1	1	2
	レジオネラ症	1						1	2	2	1	2		9
	重症熱性血小板減少症候群					3	2							5
5類	アメーバ赤痢						1			2				3
	ウイルス性肝炎										1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1		1		5	6	2	2	2	1	21
	急性弛緩性麻痺										1			1
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1											1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1			1		1		1				6
	後天性免疫不全症候群	2		3	2	1							1	9
	ジアルジア症		1											1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			1	1	2		1		1		1		7
	侵襲性肺炎球菌感染症	6	3		2	1			1			1		14
	水痘（入院例に限る）								1		1	1		3
	播種性クリプトコックス症	2	1						1				1	5
	梅毒	3	1	1	2	3	1	1	3	2			2	19
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症												1	1
	百日咳	13	28	12	16	35	11	22	17	6	2	3	8	173
風しん												1	2	3
	総計	36	48	30	36	57	25	42	39	23	19	23	20	398

(保健所受理日の月数で計算)

表21 保健所別発生状況（2018年）

単位：人

分類	疾病名	HC	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
2類	結核		16	11	34	16	8	12	97
3類	腸管出血性大腸菌感染症			1	3				4
4類	日本紅斑熱		6		4	3			13
	つつが虫病			1	1				2
	レジオネラ症				6	1	2		9
	重症熱性血小板減少症候群				1	1		3	5
5類	アメーバ赤痢				3				3
	ウイルス性肝炎				1				1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		1	1	17	1	1		21
	急性弛緩性麻痺				1				1
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1					1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	4		1		6
	後天性免疫不全症候群			6	2			1	9
	ジアルジア症				1				1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1		5			1	7
	侵襲性肺炎球菌感染症			4	9			1	14
	水痘（入院例に限る）			1	1			1	3
	播種性クリプトコックス症			3	2				5
	梅毒			3	16				19
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							1	1
	百日咳		1	10	38	8	116		173
風しん				3				3	
	総計		25	43	152	30	128	20	398

(保健所受理日の月数で計算)

Ⅱ 檢 査 情 報

感染症発生動向調査における病原微生物分離

前田明彦

1 月別疾患別検査数および検出件数

1) ウイルス

表1, 表2の上段の小計のとおりで, 検査件数は2017年667件, 2018年849件である. 新型インフルエンザが流行した09年1,105件を除けば, 700件程度で推移していた検査件数が13年14年と900件を超え, さらに

15年には1,000件に到達していた, 16年に756件に減少したが, その理由は, ウイルス感染症の減少ではなく, 業務量の増大により検体数の抑制を呼びかけた結果と推測され, 以後は同等の数字で推移している. 2018年に依頼件数が多かったのは, パンデミックの2009年に次ぐインフルエンザの大流行を反映していると思われる.

表1 月別疾患別検査件数 (2017年)

定点区分	疾患名	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ウイルス	小児科	咽頭結膜熱	8	2		3		1			1				1
		感染性胃腸炎	90	14	7	7		8	5	3	18	10	5	5	8
		水痘	1												1
		手足口病	77					13	20	16	5	5	11	4	3
		伝染性紅斑	10	3	1		3		1		1	1			
		突発性発疹	5				1	1	1	2					
		ヘルパンギーナ	13							6	3		1	1	2
		流行性耳下腺炎	1					1							
	RSウイルス感染症	11	4							4		1	1	1	
	内科・小児科	インフルエンザ(小児科)	68	23	22	6	6	2			4				5
		インフルエンザ(内科)	18	6	4	4	2	1							1
	眼科	流行性角結膜炎	0												
	基幹	無菌性髄膜炎	30		4	2		2	1	7	5			6	3
	その他		335	39	29	10	10	41	24	38	38	26	24	36	20
	小計	667	91	67	32	22	70	58	73	72	44	42	54	42	
細菌	小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10		4			2						1	3
		感染性胃腸炎	5			1					1	1	1	1	
		百日咳	53	14	7	4	6	3	4	1	5	3	3	1	2
	基幹	細菌性髄膜炎	1								1				
	その他		3			1		1				1			
	小計	72	14	11	5	7	5	5	1	7	4	5	3	5	
合計		739	105	78	37	29	75	63	74	79	48	47	57	47	

表2 月別疾患別検査件数 (2018年)

定点区分	疾患名	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ウイルス	小児科	咽頭結膜熱	26	3	1	2	2	3	3	2	1	3	2	2	2
		感染性胃腸炎	94	10	1	6	12	14	7	9	8	3	8	5	11
		水痘	0												
		手足口病	75	3	1		6	6	10	17	12	11	3	3	3
		伝染性紅斑	12			1		1		3	4	2		1	
		突発性発疹	7	1			1	2	1				1	1	
		ヘルパンギーナ	13					1	1	1	4	3	3		
		流行性耳下腺炎	3					1		1			1		
	RSウイルス感染症	8	1				2			2	3				
	内科・小児科	インフルエンザ(小児科)	104	61	20	9	6								8
		インフルエンザ(内科)	16	7	3	2	1	1							2
	眼科	流行性角結膜炎	2						1	1					
	基幹	無菌性髄膜炎	13	2			1			1	3	2	2	1	1
	その他		476	42	17	36	36	41	38	58	28	36	50	45	49
	小計	849	130	43	56	65	72	61	93	62	63	70	58	76	
細菌	小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22			2	1	2	3	1	3		6	3	1
		感染性胃腸炎	7	1				1	1	2	1				1
		百日咳	0												
	基幹	細菌性髄膜炎	0												
その他		2									2				
	小計	31	1	0	2	1	3	4	3	4	0	8	3	2	
合計		880	131	43	58	66	75	65	96	66	63	78	61	78	

疾患別検査件数では、例年通りインフルエンザと感染性胃腸炎が多い。インフルエンザは17年86件、18年120件で、感染性胃腸炎は17年90件、18年94件の依頼があった。続いて手足口病が多く、17年77件、18年75件と流行を反映して多めの依頼件数だった。咽頭結膜熱は17年8件、18年26件で、ヘルパンギーナは17年18年ともに13件の依頼があった。無菌性髄膜炎は17年30件、18年13件で、通常20～30件であるので、18年は例年よりも少なかった。その他（調査研究に係わる検体）の件数は17年335件、18年476件であり変動はあるが平年並みといえるだろう（15年554件、16年344件）。

2) 細菌

表1、表2の下段の小計のとおりで、検査件数は17年72件、18年31件と減少している。15年101件、16年249件（百日咳流行による増加）と比べ急速に減少した原因は、百日咳菌の核酸検出すなわちLAMP法が保険適応になったことを受けて、百日咳疑いの患者検体の受付を終了したことが主因である。

百日咳は17年53件、18年0件であった。感染性胃腸炎は、かつては100件以上の検査が行われていたが、徐々に減少し17年は5件18年は7件であった。自施設での細菌培養検査実施が原因と考えられる。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は17年10件、18年22件であった。03～06年は42～95件、07～18年は7～33件と徐々に減少している。原因は迅速診断キットで診療が完結しているためと考えられるが、血清型の判別と疫学の把握のためには衛生研究所での一定数の検体検査が必要である。

ウイルスと細菌の合計検査件数は、17年739件、18年880件である。15-16年は1,000件以上であったので、減少に転じている。今後もウイルス検査が主体となると推測される。

なお、月別ウイルス検査材料は表3、表4のとおりで、咽頭ぬぐい液が最も多く、便が続く、次が鼻腔ぬぐい液、髄液の順である。冬季と夏季の検体数が多い理由はそれぞれの時期に流行するウイルス感染症のためである。便検体は1年を通して依頼が多い。

2 疾患別、月別分離検出状況

1) ウイルス

疾患別、月別分離検出状況は表5、表6のとおりで、17年397件、18年572件で、15年561件、16年387件に比べると想定内の変動であった。分離検出率は、17年397/667=59.5%、18年572/849=67.4%で15年561/1000=56.1%、16年387/756=51.2%よりも上昇した。

表3 ウイルス検査材料件数（2017年）

検査材料	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
咽頭ぬぐい液	46	39	18	18	49	46	52	30	23	27	26	20	394
咽頭うがい液	2											1	3
鼻腔ぬぐい液	10	9	2	1	2	6	3	11	9	4	7	5	69
便	20	10	7	2	14	4	6	24	10	6	12	10	125
髄液	7	6	2		2	1	12	4	1	3	4	5	47
穿刺液										1			1
鼻汁	2	2	2		1				1	1	3	2	14
喀痰等								1					1
尿	3	1	1	1	2	1		1			1		11
その他	1							1					2
計	91	67	32	22	70	58	73	72	44	42	54	42	667

検査件数は受付日に基づいて集計しています

表4 ウイルス検査材料件数（2018年）

検査材料	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
咽頭ぬぐい液	95	35	33	39	36	39	64	37	37	32	28	35	510
咽頭うがい液							1		1				2
鼻腔ぬぐい液	12	3	7	2	11	3	8	4	7	10	11	12	90
便	14	1	10	20	17	14	17	12	9	16	10	20	160
髄液	2	1	4	2	1	2	3	6	7	5	2	6	41
鼻汁	7	3	1	1	6	1		3	2	4	4	1	33
喀痰等				1		1							2
尿						1				2	2	1	6
穿刺液											1		1
水泡			1										1
結膜ぬぐい液										1			1
その他					1								1
計	130	43	56	65	72	61	93	62	63	70	58	76	849

検査件数は受付日に基づいて集計しています

17年の疾患別分離検出件数（表5）は、第1位インフルエンザ77件、第2位感染性胃腸炎67件、第3位手足口病65件、第4位ヘルパンギーナ12件、第5位無菌性髄膜炎11件、第6位咽頭結膜熱7件、その他147件である。

18年の疾患別分離検出件数（表6）は、第1位インフルエンザ120件、第2位感染性胃腸炎75件、第3位手足口病69件、第4位咽頭結膜熱21件、第5位ヘルパンギーナ12件、第6位は伝染性紅斑、無菌性髄膜炎、RSウイルス感染症が8件で同数、その他240件である。

さらに、以下でこれらを個別に検討する。

インフルエンザ

16～17年の流行株は、AH3NTが1月～4月、8月に計58件、加えてAH1pdm09が同時期に6件、B型はVictoriaが5件とYamagataが3件検出された。

17～18年の流行株は、AH3NTが12月～5月に39件、加えてAH1pdm09が1月～4月に32件、B型はYamagataが12月～4月に37件、Victoriaが12月～4月に8件検出された。4種類の亜型が同時期に流行し、うち前3株いずれもがきわだった優勢を示さず、拮抗する形で流行した点が、例年と異なっている。18年12月にはAH3NTが7件、AH1pdm09が2件検出され、両者が2019年1月以降の主たる流行株となっている。

表5 疾患別月別ウイルス分離検出状況（2017年）

臨床診断名	検体数	病原微生物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
インフルエンザ	86	A H3 NT	22	19	7	6				4					59	
		A H1pdm09	2	2	1	1									6	
		B /Victoria	1	2	1	1									2	
		B /Yamagata	1			1	1								7	
咽頭結膜熱	8	Adeno 1	1												1	
		Adeno 2			1	1									3	
		Adeno 3			1										1	
		Echo 9			1										1	
		HHV 6			1										1	
感染性胃腸炎	90	Adeno 1				1									1	
		Adeno 2			2					1		1	1		5	
		Adeno 3								1					1	
		Adeno 41					1			1					2	
		Astrov NT			2										2	
		Cox B1			1										1	
		Cox B4								1	2				3	
		Echo 3										1			1	
		Echo 9								2					2	
		Echo 25						1							1	
		HHV 6					1								1	
		Noro GII NT	9	3	3					9	5	1	2	4	36	
		Parecho 1										1			1	
		Rhino	1												1	
		Rota AG3							2						2	
		Rota AG9	2												2	
Rota A NT				1										1		
Sapo genogroup unknown	1	1			1						1			4		
ヘルパンギーナ	13	Adeno 2						1							1	
		Cox A6						4	2						6	
		Cox A10									1	1			2	
		Cox B5										1			1	
		HHV 6								1					1	
		HHV 7					1								1	
		Adeno 2				1									1	
手足口病	77	Cox A6				8	16	10	2	2					38	
		Cox A16							1						1	
		CMV			1		1	1				1	1		5	
		Entero 71								1	4	2	1		8	
		Echo 7				2									2	
		Echo 9					1	2	1						4	
		HHV 6					1	1			2				4	
		HHV 7										2			2	
		Adeno 2													0	
		伝染性紅斑	10	Echo 9							1					
HHV 7	1			1										2		
B19							1							1		
流行性耳下腺炎	1													0		
無菌性炎症	30	Echo 9							2	2					4	
		HHV 6					1								1	
		HHV 7				1			3						4	
		VZV		1				1							2	
RSウイルス感染症	11	RS-B							1						1	
		Cox B4							1						1	
水痘	1													1		
突発性発疹	5	CMV				1									1	
		HHV 6				1			2						3	
その他	335	Adeno 1	1										1		2	
		Adeno 2							2		1				5	
		Adeno 3	1												1	
		Adeno 4							1						1	
		Adeno B							1						1	
		Cox A2	1									1			2	
		Cox A6				3		3							6	
		Cox A10											1		1	
		Cox B1											1		1	
		CMV	3			2	1	1				1	1	1	10	
		Echo 3			1						1				2	
		Echo 7						3	5	1					9	
		Echo 9							3	8	9				20	
		Echo 18													1	
		Entero NT										3			3	
		EBV	1				1		1							3
		HSV 1									1				6	
		HHV 6	1			1	2		2	2	2	3	4			17
		HHV 7	2	1	1	1				1	2		4	1		13
		hMPV			1						1					2
		Noro GII NT			1											1
		Parainflu 2											1			1
		Parainflu 3					1	2	4	1		1				9
		Parecho 1								1			1			2
		RS-A				1						3	2			6
		RS-B	1			1							2			4
Rhino	1	1	1	1	3		2	1						10		
Sapo genogroup unknown						1								1		
VZV								1						1		
総計	667		52	36	23	20	34	41	47	46	25	22	27	24	397	

表6 疾患別月別ウイルス分離検出状況（2018年）

臨床診断名	検体数	病原微生物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
インフルエンザ	120	A H3 NT	17	12	7	1	1								7	
		A H1pdm09	28	3		1									2	
		B /Victoria	3	1		2										6
		B Yamagata	21	7	4	3										35
咽頭結膜熱	26	Adeno 1	1					2						1	4	
		Adeno 2	1	1		2	1		1						6	
		Adeno 8								1	1				2	
		CMV					1								1	
		Entero 71											1		1	
		HSV 1									1				1	
		HHV 6									1				1	
		Rhino			1							2		1	1	
		Adeno 2			1		1	1	1	1	1				2	8
		Adeno 3											1			1
感染性胃腸炎	94	Adeno 40/41				1									1	
		Adeno 41					1	2	1						4	
		Astros NT			1				1						2	
		Cox A4											1	1	2	
		Cox A9									1				1	
		Echo 7								1					1	
		Echo 11										1			1	
		Entero 71						1							1	
		Entero NT											1		1	
		hMPV									1				1	
		Noro GI NT					1								1	
		Noro GII NT	5	1	1	3	2	2	2	2	2				4	22
		Rota A G9					1	1								2
		Rhino								1		1				2
		Sapo	2			2	4	1	1	3			2	3	5	23
		ヘルパンギーナ	13	Cox A2									1			
Cox A4													1	2	3	
Cox A9											1		1		2	
Cox A10													1		1	
CMV								1							1	
Entero 68												1			1	
HHV 6											2				2	
Parainflu 3									1				1			
手足口病	75	Adeno 1				1			1						2	
		Cox A4											1		1	
		Cox A9								1	1				2	
		Cox A16								1	5	7	2		17	
		CMV									1	1			3	
		Entero 71	2	1		2	1	3	7	2	2			1	21	

臨床診断名	検体数	病原微生物	月												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
		Echo 18												1	1
		Echo 25								1					1
		Entero 68										1	1		2
		Entero 71						1	2	1					4
		EBV							1	1		2			8
		HSV 1	1	1	1	2		3	3	1			1		13
		HHV 6	2	1	1	2	3	2	3			1			15
		HHV 7	1		3	2	1	4	3	1	1	3	1		20
		hMPV	3	1	4	2	2					1	1		14
		B19							1	1	2				1
		A H1pdm09	1								1				2
		B Yamagata		2											2
		Noro GI NT	1			1		1			1				4
		Parainflu 2	1												1
		Parainflu 3			1	1	5	4		1					12
		Parecho 1							1						1
		Parecho 3							1	1	1				3
		RS-A									1	2			3
		RS-B							1	1	1				3
		Rhino			1	5	2	5	2	16	8	6	3		48
		Rota AG1						1							1
		Rota AG3						1							1
		Sapo						1				1			2
総計	849		97	33	27	38	45	40	85	42	59	37	34	35	572

咽頭結膜熱

17年は咽頭結膜熱の検体からAdenovirus 2型3件、1型3型が各1件、合計5件が検出された。また、その他の疾患から、2型5件、1型2件、3型1件、4型1件、B型1件、合計10件検出された。

18年は咽頭結膜熱検体からAdenovirus 2型6件、1型4件、8型2件の合計12件が検出され、その他の疾患から2型12件、1型5型11型41型が各2件、3型6型8型31型54型が各1件の合計25件検出された。

感染性胃腸炎

17年のNorovirusは前年同様にG II NTが主な流行株で1～3月に15件、8～12月に21件検出された。Rotavirusは5件（AG3が2件、AG9が2件、A NTが1件）検出された。Sapovirusが4件（1月3月6月10月に各1件）検出された。Adenovirus 9件（2型5件、41型2件、1型と3型が各1件）、Coxsackievirus 4件（B4型3件、B1型1件）、Echovirus 4件（9型2件、3型と25型が各1件）、Parechovirus 1型が1件、Astrovirus NTが2月に2件検出された。

18年のNorovirusはG II NTが流行株で計22件（1～8月に18件、12月に4件）検出され、4月にG I NTが1件検出された。Rotavirusの検出はAG9の2件にとどまった。Sapovirusが時期を問わず計23件検出された。Adenovirus 14件（2型8件、41型4件、3型と40/41型が各1件）、Coxsackievirus 3件（A4型2件、A9型1件）、Echovirus 3件（11型2件、7型1件）、Enterovirus 2件（Enterovirus 71型とNT各1件）、Astrovirus NTが2件検出された。

ヘルパンギーナ

17年はCoxsackievirus A6型6件、A10型2件、B5型1件が検出された、ヘルパンギーナ及び手足口病以外の疾患からは、A6型が6件、A2型が2件、A10型

1件、B1型2件、B4型が4件検出された。

18年はCoxsackievirus A4型3件、A9型2件、A2型1件、A10型1件、9月にEnterovirus D68（急性弛緩性麻痺や重症喘息発作との関連が示唆され話題になったウイルス）が1件検出された。ヘルパンギーナ及び手足口病以外の疾患からは、A9型27件、A4型6件、A10型1件、B4型3件、B2型が1件検出された。

手足口病

17年は5～9月にCoxsackievirus A6型が38件、9月にA16型が1件、9～12月にEnterovirus 71型が8件検出され流行株が切り替わった。他にEchovirus 9型が4件、7型が2件検出された。

18年は、17年に引き続き主に1月～9月にEnterovirus 71型が21件検出され流行株であった。7～12月にCoxsackievirus A16型が17件検出された。ほかにA9型が2件、A4型が1件、Echovirus 7型が1件検出された。手足口病との関係が判然としないのであるが、Rhinovirusが12件、HSV1が4件検出されたことは、例年みられない現象であり今後注意して見守りたい。

無菌性髄膜炎

17年はEchovirus 9型が7月8月に計4件、VZVが2件、HHV7が4件、HHV6が1件検出された。

18年はCoxsackievirus B4型、Echovirus 7型、Parechovirus 3型、Rhinovirusが各1件、HSV1型が2件、HHV7が2件検出された。

その他

前述したウイルスに加えて、17年はRhinovirus 11件、RS virus 11件（A型6件、B型5件）、hMPV 4件、Parainfluenza virus 10件（3型9件、2型1件）、Parechovirus 2件（1型2件）、Parvovirus B19が1件検出された。潜伏感染し再活性化という感染様態でも検出され得るヘルペス群ウイルスとしては、HHV6 27件、HHV7 18件、CMV 16件、EBV 3件、HSV 7件、VZVが2件検出された。

18年はRhinovirus 59件、RS virus 12件（A型6件、B型6件）、hMPV 16件、Parainfluenza virus 14件（3型13件、2型1件）、Parechovirus 5件（3型3件、1型2件）、Parvovirus B19 7件、ヘルペス群ウイルスとしては、HHV7 25件、HHV6 21件、CMV 21件、EBV 10件、HSV 19件検出された。

2) 細菌

検査総数は表7、表8の右下に示した通りで、17年72件から18年31件と著しく減少した。減少した原因は、百日咳菌の核酸検出（LAMP法）が保険診療で認められたことを受けて、18年から衛生研究所での検査受付を終了したことである。また、百日咳は第5類感染症として全数報告疾患となった。検査対象から百日咳が

検出されている。SalmonellaがTyphimuriumからS.Enteritidisに変化した後、2010年代は検出数が激減していたが18年には再びS.Enteritidisが4件と増加した。

3 各種疾患の発生状況と病因の考察

1) インフルエンザ -18年はパンデミックの09年にせまる大流行だった-

患者発生状況は図1、報告人数は表12のとおりである。16~17年のシーズンは12月(727名)に流行が始まり、12月から5月までの報告数は計15,345名、2月がピークであった。17~18年のシーズンは12月(884名)に流行が始まり、12月から5月までの報告数は計21,744名、2月がピークであった。年間報告数は、12~13年シーズン11,587名、13~14年シーズン11,434名、14~15年シーズン16,053名、15~16シーズン14,901名

なので、数字上では流行規模は、ここ5年間の拡大傾向は如実である。

03年以降で年間報告数が最も多かった年は、1月~5月の季節性インフルエンザに加えて8月以降にAH1pdm(いわゆる新型インフルエンザ)が流行した09年で30,695名、最も少なかった年は翌10年2,634名である。年間報告数の1位は変わらず09年だが、18年はそれに次ぐ21,771名で第2位の大流行だった。

月別ウイルス分離状況(表10, 11)をみると、16~17年のシーズンは圧倒的多数のAH3NTと少数のAH1pdm09とB/VictoriaとB/Yamagataとがほぼ同時期に流行した。17~18年シーズンはAH3NT, B/Yamagata, AH1pdm09の3者がほぼ拮抗しながら、それよりも少ないB/Victoriaとがほぼ同時期に流行し、単一流行シーズンとしては過去で最大規模の流行となった。

表10 インフルエンザの月別ウイルス分離状況

(2017年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A H3 NT		22	19	7	6				4				1	59
A H1pdm09		2	2	1	1									6
B /Victoria		1	2	1	1								2	7
B /Yamagata			1		1	1							2	5

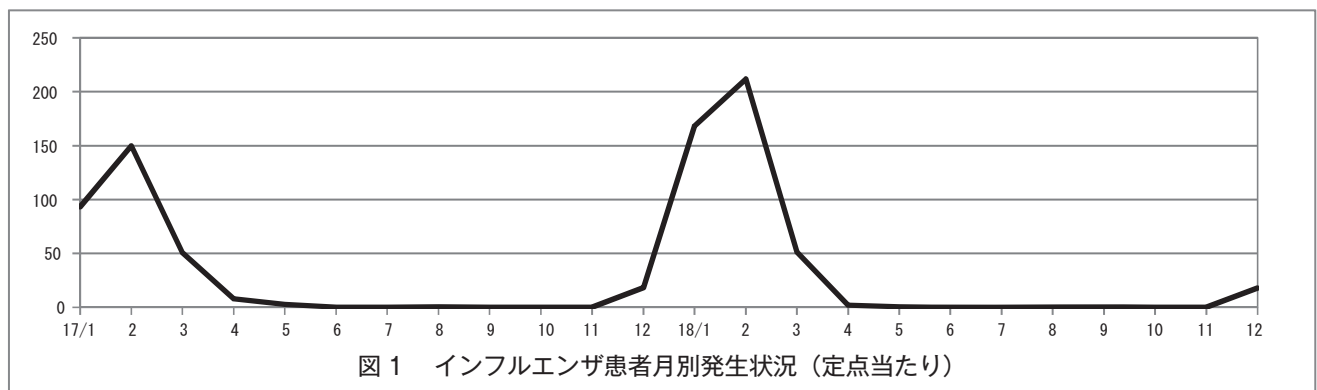
表11 インフルエンザの月別ウイルス分離状況

(2018年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
A H3 NT		17	12	7	1	1							7	45
A H1pdm09		28	3		1								2	34
B /Victoria		3	1		2									6
B /Yamagata		21	7	4	3									35

表12 インフルエンザ報告人数

2017年	1月	4,471	2018年	1月	8,076
	2月	7,196	2月	10,173	
	3月	2,445	3月	2,476	
	4月	384	4月	103	
	5月	122	5月	32	
	6月	11	6月	2	
	7月	2	7月		
	8月	17	8月	1	
	9月	1	9月	29	
	10月	3	10月	2	
	11月	14	11月	13	
	12月	884	12月	864	
	合計	15,550		21,771	



2) 咽頭結膜熱 —やや大きめの流行だった—

患者発生状況は図2、報告人数は表15のとおりある。17年の年間報告数は409名、1年を通して相当数の報告が続いたがピークは5月であった。18年は531名、ピークは8月にみられた。03年以降の年間報告数をみると、08年までは729～522名であったが、09～15年は473～149名と減少していた。16年は715名と久しぶりの大きな流行だったが、17、18年もやや大きめの流行であった。

17年の月別ウイルス分離状況（表13）ではAdenovirus 2型が3件、1型、3型が各1件検出された。18年の月別ウイルス分離状況（表14）をみると、Adenovirus 2型が6件、1型が4件、8型が2件検出された。

表15 咽頭結膜熱報告人数

2017年	1月	14	2018年	1月	12
	2月	32	2月	17	
	3月	23	3月	24	
	4月	10	4月	19	
	5月	66	5月	58	
	6月	53	6月	57	
	7月	44	7月	77	
	8月	49	8月	93	
	9月	48	9月	70	
	10月	24	10月	34	
	11月	16	11月	32	
	12月	30	12月	38	
	合計	409		531	

表13 咽頭結膜熱の月別ウイルス分離状況

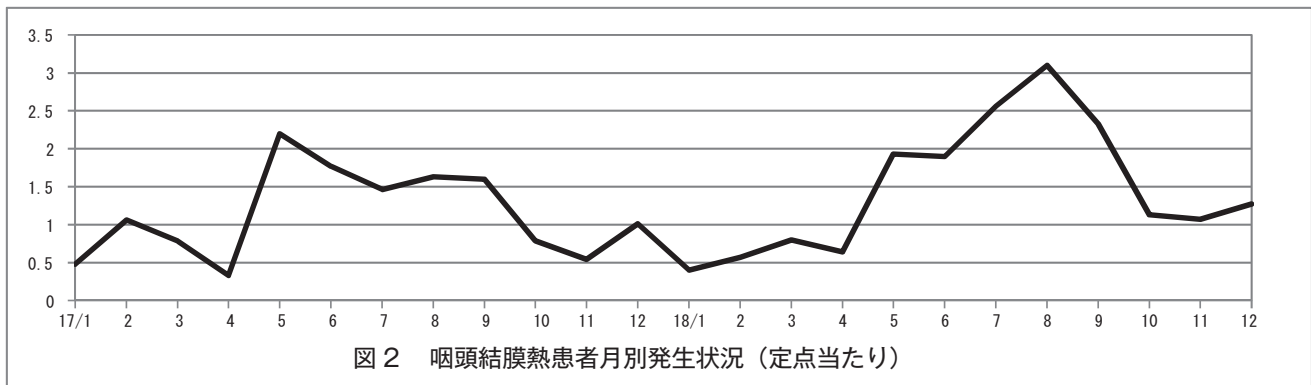
(2017年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 1		1												1
Adeno 2				1		1							1	3
Adeno 3				1										1
Echo 9				1										1
HHV 6				1										1

表14 咽頭結膜熱の月別ウイルス分離状況

(2018年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 1		1					2					1		4
Adeno 2		1	1		2	1		1						6
Adeno 8									1	1				2
CMV						1								1
Enterovirus 71											1			1
HSV 1								1						1
HHV 6									1					1
Rhino				1						2		1	1	5



3) 感染性胃腸炎 —過去最小の流行規模だった—

患者発生状況は図3、報告人数は表18のとおりである。16～17年のシーズンは10月420名、11月594名と流行がはじまり、12月に1,079名とピークを形成し、その後なだらかに減少し、7月に最小報告数となった。8月以降は300名台で推移し11月に543名、2018年は5月に740名と小さなピークがあったものの、例年のような大きなピークはみとめられなかった。報告数は17年が5,746名、18年が5,031名で、15年6,475名、16年7,183名と比べて減少している。03年以降の年間報告数は、06年11,070名が最高で、03年6,123名が最低であったが、17年、18年と過去最低報告数を記録するに至った。

表18 感染性胃腸炎報告人数

2017年	1月	835	2018年	1月	356
	2月	747	2月	389	
	3月	644	3月	602	
	4月	329	4月	564	
	5月	445	5月	740	
	6月	460	6月	471	
	7月	261	7月	333	
	8月	389	8月	313	
	9月	376	9月	174	
	10月	344	10月	187	
	11月	543	11月	379	
	12月	373	12月	523	
	合計	5,746		5,031	

17年の月別ウイルス分離状況（表16）をみると、Norovirusは、13～16年と同様にNoroG II NTが流行株で4～7月を除いて毎月、合計36件検出された。Rotavirusの流行株としてA型G3が6月に2件、AG9が1月に2件、ANTが4月に1件検出された。Norovirusと同じカリシウイルス属のSapovirusは4件検出され、15年26件16年14件と比べて減少した。それ以外では、Adenovirusが9件（2型が5件、41型2件、1型1件、3型1件）、Echovirusが4件（8月に9型2件、11月に3型1件、6月に25型1件）、Coxsackievirusが4件（B4型3件、B1型1件）、Astrovirusが2月に2件検出された。

18年の月別分離状況（表17）では、NorovirusはG II NTが流行株で9～11月を除いて計22件が検出され、GIが4月に1件のみ検出された。Sapovirusは通年性に検出され計23件に増加した。RotavirusはAG9が4月と6月に1件ずつ検出されるにとどまった。Adenovirusが14件（2型8件、41型4件、3型1件、40/41型1件）、Echovirusが3件（11型2件、7型1件）、Coxsackievirusが3件（A4型2件、A9型1件）、Enterovirus 71型1件、同NT1件、ほかにAstrovirusが2件検出された。

表16 感染性胃腸炎の月別ウイルス分離状況

(2017年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 1						1								1
Adeno 2			2							1	1	1		5
Adeno 3								1						1
Adeno 41					1			1						2
Astrov NT		2												2
Cox B1			1											1
Cox B4								1	2					3
Echo 3												1		1
Echo 9								2						2
Echo 25						1								1
HHV6						1								1
Noro GII NT	9	3	3						9	5	1	2	4	36
Parecho 1											1			1
Rhino	1													1
Rota AG3							2							2
Rota AG9	2													2
Rota A NT				1										1
Sapo genogroup unknown	1	1				1					1			4

表17 感染性胃腸炎の月別ウイルス分離状況

(2018年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 2				1		1		1	1	1		2	1	8
Adeno 3												1		1
Adeno 40/41					1									1
Adeno 41				1	2	1								4
Astros NT			1				1							2
Cox A4												1	1	2
Cox A9								1						1
Echo 7								1						1
Echo 11										1		1		2
Entero 71						1								1
Entero NT											1			1
hMPV								1						1
Noro GI NT					1									1
Noro GII NT	5	1	1	3	2	2	2	2					4	22
Rota A G9				1		1								2
Rhino								1		1				2
Sapo	2			2	4	1	1	3		2	3	5		23

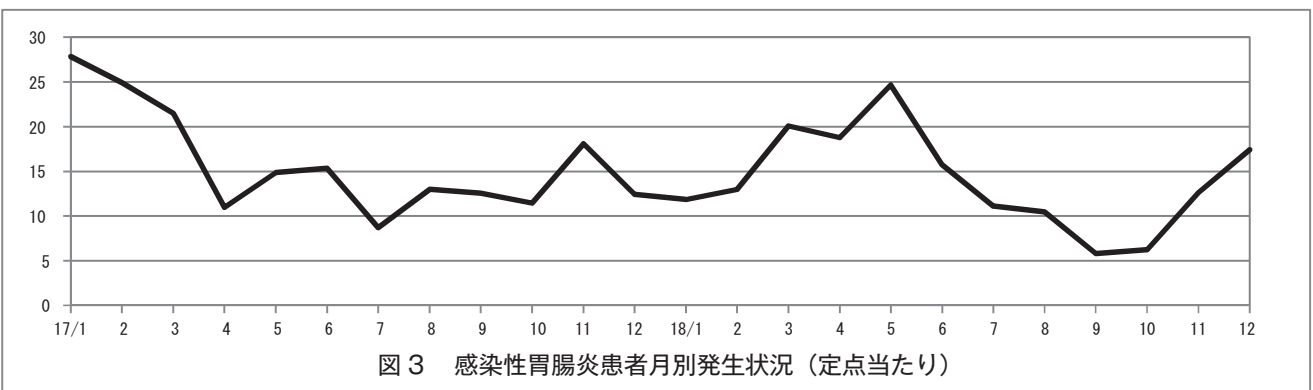


図3 感染性胃腸炎患者月別発生状況（定点当たり）

4) 手足口病

—17年は11年と並び最大規模の流行だった—

患者発生状況は図4、報告人数は表21のとおりである。17年は5月から流行がはじまり7月に大きなピークを形成した後、11月にも再上昇し、その後は終息することなく18年に入ってもだらだらと流行が続き、8月に小さなピークがみられた。年間報告数は、17年は3,345名と03年以降で11年と全く同数で並び最多となった。18年は1,185名で比較的小さな流行であった。15年が2,479名、16年が359名だったので流行規模は年ごとに変動がある。

17年の月別ウイルス分離状況（表19）をみると、流行株は、5～9月がCoxsackievirus A6型（38件）で9～12月がEnterovirus 71型（8件）であった。ほかに、Coxsackievirus A16型が1件、Echovirus 9型が4件、7型が2件検出された。

18年の月別ウイルス分離状況（表20）では、流行株は、前年9月から引き続き18年9月までEnterovirus 71型（21件）で、7～12月がCoxsackievirus A16型（17件）であった。特筆に値することは、Rhinovirusが6～11

月に計12件も検出されていることは、例年みられない現象である。手足口病の原因ウイルスとすべきなのか、たまたま検出されただけのPassenger virusなのか慎重な評価が必要とはいえ、無視できない数と時期的集積があり、注目される。ほかにCoxsackievirus A9型が2件A4型が1件、Echovirus 7型が1件検出された。

表21 手足口病報告人数

2017年	1月	10	2018年	1月	57
	2月	4	2月		34
	3月	2	3月		38
	4月		4月		33
	5月	61	5月		66
	6月	1,235	6月		105
	7月	1,477	7月		203
	8月	208	8月		245
	9月	89	9月		165
	10月	94	10月		107
	11月	114	11月		87
	12月	51	12月		45
合計		3,345			1,185

表19 手足口病の月別分離状況

(2017年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 2						1								1
Cox A6						8	16	10	2	2				38
Cox A16										1				1
CMV					1		1	1			1	1		5
Entero 71										1	4	2	1	8
Echo 7						2								2
Echo 9							1	2	1					4
HHV6							1		1		2			4
HHV7											2			2

表20 手足口病の月別分離状況

(2018年)

ウイルス	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 1					1			1						2
Cox A4												1		1
Cox A9								1	1					2
Cox A16								1	5	7	2		2	17
CMV								1	1	1				3
Entero 71		2	1		2	1	3	7	2	2			1	21
Echo 7						1								1
EBV		1												1
HHV 6						1								1
HHV 7							2		1					3
B19										1				1
HSV 1					1	2		1						4
Rhino							3	5		1	1	2		12

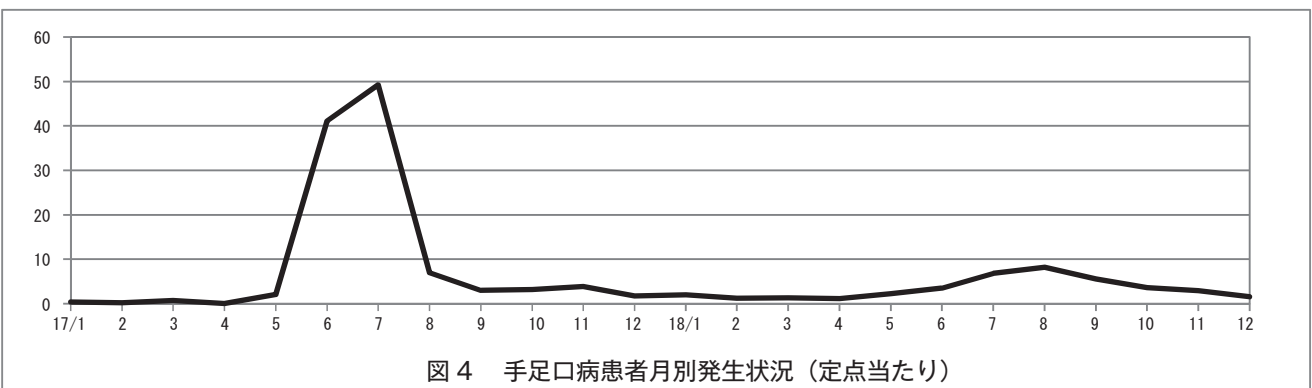


図4 手足口病患者月別発生状況（定点当たり）

5) ヘルパンギーナ —過去最小の流行だった—

患者発生状況は図5，報告人数は表24のとおりである。流行期間は，17年は5～11月で7月がピーク，18年は6～11月で9月がピークだった。年間報告数はいずれも非常に少なく，17年が604名，18年が477名であった。03年以降の年間報告数は，最多は13年の1,714名，最小が09年の668名なので，17年18年と過去最少を記録し，年々減少している。17年の月別ウイルス分離状況（表22）をみると，流行株はCoxsackievirus A6型が6月，7月に計6件，Cosackievirus A10型が10月，11月に計2件，B5型が11月に1件検出された。18年（表23）は，Coxsackievirus A4型が9月，10月に計3件，A9型が7月，9月に計2件，A2型が8月に1件，A10型が10月に1件検出された。

表24 ヘルパンギーナ報告人数

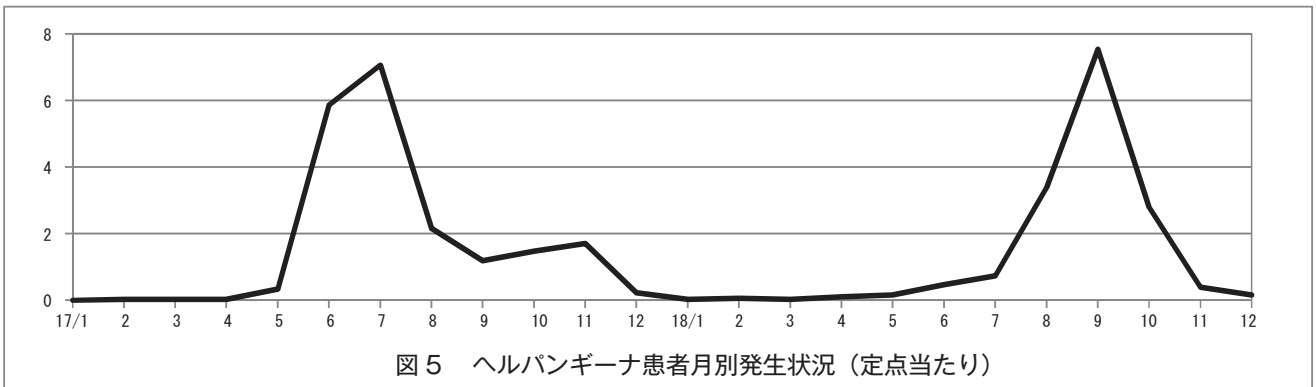
2017年		2018年	
月	報告人数	月	報告人数
1月		1月	1
2月	1	2月	2
3月	1	3月	1
4月	1	4月	3
5月	10	5月	5
6月	176	6月	14
7月	212	7月	22
8月	65	8月	102
9月	36	9月	226
10月	44	10月	84
11月	51	11月	12
12月	7	12月	5
合計	604		477

表22 ヘルパンギーナの月別ウイルス分離状況 (2017年)

ウイルス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Adeno 2							1						1
Cox A6						4	2						6
Cox A10										1	1		2
Cox B5											1		1
HHV6								1					1
HHV7						1							1

表23 ヘルパンギーナの月別ウイルス分離状況 (2018年)

ウイルス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
Cox A2								1					1
Cox A4									1	2			3
Cox A9							1		1				2
Cox A10										1			1
CMV					1								1
Entero 68									1				1
HHV 6									2				2
Parainflu 3								1					1



6) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 —17年は大きな流行だった—

患者発生状況は図6，報告人数は表27のとおりで，基本的には夏から秋に減少し，11月頃から増加に転ずる疾患である。17年は夏季に減少傾向はみとめたものの，1年を通して大きな数字で推移した。3月，6月，12月と3つのピークがあった。18年は3月，5月，12月にピークがあった。年間報告数は17年2,580名，18年1,979名であった。17年は15年2,934名に次ぐ数字で，03年以降では2位の多さであった。03年以降の年間報告数は，2,934～771名と変動幅が大きい。

17年のT型別検出状況を見ると（表25），T-4型2件，T-1型1件，UT5件であった。18年（表26）は，TB3264が11件と最多で，T-1型3件，T-4型3件，T-3型1件，T-12型1件であった。

表28は89年以降のT型別の推移を示している。分離件数の多い順は，1位はT-12型485件，T-4型459件，T-1型366件で17～18年にも検出されている。18年のTB3264の増加が目立ち，T-3型は1件だが県下では17年ぶりに検出された。2016年に県下で分離された菌

株6株について抗菌薬感受性試験を行っているが（表29），いずれもABPC，CEX，CDTR，CFDN，クロラムフェニコール，CLDMには感受性であるが，テトラサイクリン，EM，CAM（マクロライド系）には耐性の菌株が多いことが示された。流行の規模に比して分離株数が減少しているのので，検査定点機関からの検体の提出をお願いしたい。

表27 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告人数

2017年1月	161	2018年1月	162
2月	302	2月	187
3月	340	3月	192
4月	244	4月	141
5月	214	5月	285
6月	338	6月	193
7月	151	7月	112
8月	149	8月	118
9月	103	9月	86
10月	164	10月	104
11月	194	11月	171
12月	220	12月	228
合計	2,580		1,979

表25 A群レンサ球菌T型別検出状況（患者由来）

T型別	2017年 月別菌株数												計	%	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
T-1		1											1	12.5	
4												1	1	2	25.0
UT		2			1								2	5	62.5
計		3			1							1	3	8	100.0

表26 A群レンサ球菌T型別検出状況（患者由来）

T型別	2018年 月別菌株数												計	%	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
T-1			1			1		1						3	15.8
3			1											1	5.3
4				1		1		1						3	15.8
12								1						1	5.3
B3264					2		1	1		4	2	1		11	57.9
計		2	1	2	3	1	3		4	2	1		19	100.0	

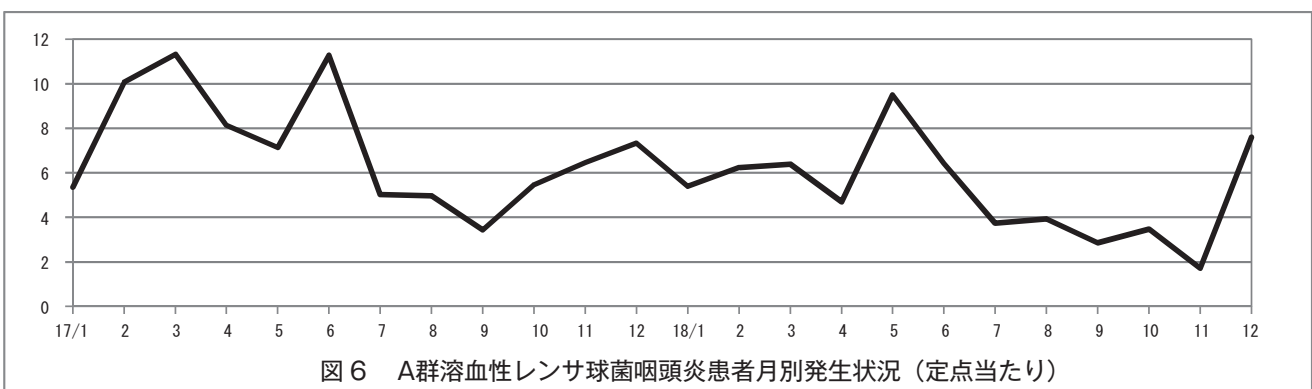


表28 T型別の年次推移

年	1	2	3	4	6	9	11	12	13	22	23	25	28	B3264	5/27/44	14/49	UT	分離株数
1989	16			12	28		2	12		2			4	10				86
1990	44			20	9	2	2	41		7			3	6			1	135
1991	32			48	1	3	1	36	3	43	1		2	2			4	176
1992	12			76			9	33	15	26			3	4	3		5	186
1993	21		46	40			2	31	24	8			1	40	1		1	215
1994	8		67	8			1	32	1	4			7	15			4	147
1995	5		11	26				34					1	7	1		5	90
1996	30		1	39			2	44	1				15	6			9	147
1997	41	2	7	17	1		1	52		2			9	11			16	159
1998	11	2	2	21	39		2	25		1		2	18	18				141
1999	11	3	2	32	45			13	1	10			18	13			5	153
2000	1	3	1	4				3	1			3		3			1	20
2001	19	1	1					22				7	11	3		1		65
2002	40	1		6	3			20				1	3	6			1	81
2003	6			27			4	4				2	2	5			3	53
2004	2			41				18				4	1	4		1	5	76
2005				10				11									2	23
2006	19			2	1	2		14									5	43
2007	17			3		1		7								1	1	30
2008	1			5								10						16
2009								1					3				1	5
2010	4			8				6				2					3	23
2011	9			1				14				1	1	3				29
2012	10			1				4				2	2				4	23
2013	1			2				1					3	1				8
2014								2					2				3	7
2015				2	8			4					3				1	18
2016	2			3									1					6
2017	1			2													5	8
2018	3		1	3				1						11				19
合計	366	12	139	459	135	8	26	485	46	103	1	34	107	174	5	3	85	2,188

表29 薬剤別, T型別, MIC値 (2016年1月~12月分離菌株)

(東京都健康安全研究センター)

薬剤感受性試験結果 (微量液体希釈法: ドライプレート (栄研化学) を使用、CLSI M100-S23 に準拠)											
No.	T 型別	ABPC	CEX	CDTR	CFDN	TC	CP	EM	CAM	CLDM	LCM
1	T-4	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	32 (R)	1 (S)	<=0.03 (S)	0.03 (S)	<=0.5 (S)	0.12
2	T-1	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	4 (S)	16 (R)	16 (R)	<=0.5 (S)	0.25
3	T-4	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	32 (R)	1 (S)	<=0.03 (S)	0.03 (S)	<=0.5 (S)	0.12
4	T-4	0.03 (S)	0.5 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	32 (R)	1 (S)	<=0.03 (S)	0.03 (S)	<=0.5 (S)	0.12
5	T-B3264	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.12 (S)	2 (S)	0.06 (S)	0.06 (S)	<=0.5 (S)	0.12
6	T-1	0.03 (S)	0.25 (S)	0.008 (S)	0.008 (S)	0.25 (S)	4 (S)	16 (R)	16 (R)	<=0.5 (S)	0.25
7	B 群レンサ球菌でなかったため、未実施										

S: 感性 I: 中間 R: 耐性

< 参考 >

*CLSI: M100-S23

MIC Interpretive Standard for Streptococcus spp. β-Hemolytic Group

	S	I	R
ABPC (ampicillin)	≤ 0.25	-	-
CEX (cephalexin) I	≤ 0.5	-	-
CFDN (cefдинир) III		-	-
CDTR (cefditoren) III		-	-
TC (tetracycline)	≤ 2	4	≥ 8
CP (chloramphenicol)	≤ 4	8	≥ 16
EM (erythromycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
CAM (clarithromycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
CLDM (clindamycin)	≤ 0.25	0.5	≥ 1
LCM (lincomycin)	-	-	-

Ⅲ 地 域 情 報

2017年～2018年 1 検査定点における病原体分離とその臨床像

はまだ小児科 濱田義文・濱田文彦・倉繁 迪

私達は成書から、各種疾患について、その病原体や臨床症状を学ぶ。しかし、同一疾患でも病原体は異なり、症状も多様である。

今回、2017年～2018年の2年間に、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、溶連菌感染症について、それぞれの疾患で分離された病原体とその臨床症状を示す。症状は概ね成書の通りであるが、診断上の留意点、過去との比較など若干の考察を加えて報告する。

手足口病

患者の発生状況は図1、図2に見る様である。2017年には大きな流行があり、患者数が多かったが、8月～11月にも少数の発生がみられた。2018年は流行もなく、年間を通して患者数は少なかったが、7月～8月には少し増加していた。

この間に分離された病原ウイルスは、表1、表2の様である。2017年はCox.A6が9株、Cox.A16が1株、Enterovirus71が6株、HHVが2株であった。2018年は前年に比し分離ウイルスが多様で、Enterovirus71が9株と多いが、Cox.A16が5株、Cox.A4、HSV、EBV、Adenoが各1株、Rhino 4株であった。Enterovirus71及びCox.Aウイルス以外は本症との因果関係に疑問が残る。

臨床症状を病原ウイルスと対比しながら表3に示す。2017年の症例では、病変部位を手足口にもつもの9例、手足にもつもの4例、従って手足に病変をもつものが19例中13例(68.4%)に達する。この傾向は2018年の症例で更に顕著となり、病変部位が手足口のもの7例、手足9例、従って手足に病変をもつものが17例中16例とほぼ全例となる。即ち本症は手足の病変が主徴である。

発熱は41.6%にみられるが、38.5℃以上のものも22.2%にみられ、口内痛と共に子どもを悩ませている。また、Enterovirus71による脳症もよく知られているが、2017年～2018年の症例では見られなかった。しかし、本県でも2003年～2004年の70例の患者から1例の脳症が発生している。

これ等の中で、特異な例をあげる。

症例8は、全身に(頭部)にも大小種々の水疱性丘疹がみられた。足底、手掌には粟粒赤色丘疹を、咽頭部にはアフタ様病変と点状の出血斑を認めた。なお、1ヶ月前にも手足口病に罹患していた。

症例14は、5歳2ヶ月で臨床的には突発性発疹とは考えられず手足口病と診断されるが、HHV6及び7が分離されている。

その理由については、ヘルパンギーナの項で再び説明を加えるが、ヘルペス属は潜伏感染を来しやすく、一方、PCR法による病原ウイルスの検出率は細胞培養法の100～1000倍高いためと思われる。また、HHV6と7は遺伝子構造が極めて類似しており両者の鑑別が難しいので2者を併記。

症例23は口内痛を訴えて来院、咽頭部に1ヶのアフタ性病変を認めたが、手指、足底にも紅斑性小丘疹を認めたことから、手足口病と考えたが、HHV6が分離されたことから単純ヘルペスの可能性を否定できない。

Rhinoが分離された症例が2018年に4例あったが、うち2例は気管支炎を伴っていた。症例26は膝に赤色小丘疹を認め、舌に口内炎、手掌、足底に水疱性丘疹を認めた。症例27は、保育で手足口病の流行があり、患児も手足に水疱性丘疹を指摘され来院、口腔内は異常なし。湿性咳嗽と聴診で軽度のラ音が聴取された。

衛生研究所では、PCR法では他のEnterovirusウイルスが陰性の場合、最後にRhinoが検出されると言う。

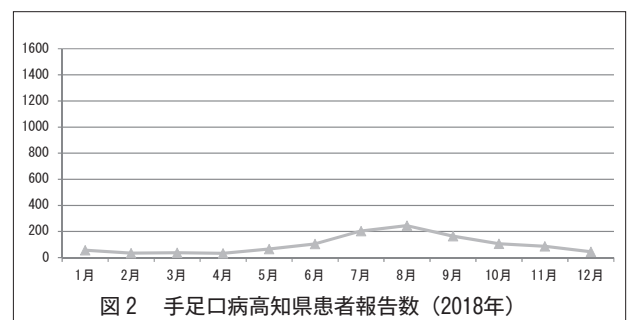
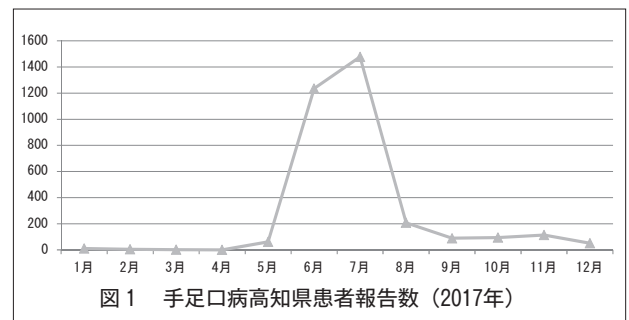


表1 手足口病のウイルス分離状況（2017年）

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域	受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域	
1月				CoxA6	CoxA6	
2月				CoxA6	CoxA6	
3月					CoxA6	
4月					CoxA6	
5月		CoxA6	7月	CoxA6	CoxA6	
		CoxA6		CoxA6		
		CoxA6		CoxA6		
		CoxA6		CoxA6		
		CoxA6		Echo 9		
		CoxA6		Echo 9		
		CoxA6		Cytomegalo		
		CoxA6	8月	CoxA6	CoxA6	
		Echo 7		CoxA6		
		Echo 7		Cytomegalo		
Adeno 2	HHV6					
6月	CoxA6	CoxA6	9月	CoxA6	CoxA6	
		CoxA6		Cox A16		
		CoxA6	Entero 71			
	CoxA6	CoxA6	10月	Entero 71	Entero 71	
				Entero 71	Entero 71	
				Entero 71	HHV 6	
				HHV 6	HHV 7	
			CoxA6	11月	Entero 71	Cytomegalo
			CoxA6		Entero 71	
			CoxA6	12月		Cytomegalo
			HHV 6		Entero 71	
			Echo 9			

表2 手足口病のウイルス分離状況（2018年）

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域	受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域
1月	Entero 71		7月	Entero 71	CoxA 9
	Entero 71			Adeno 1	CoxA 16
	E-BV			Entero 71	Entero 71
2月	Entero 71	Entero 71			
3月		Entero 71			
4月	Entero 71	Entero 71		Entero 71	
	HSV 1	Echo 7		CMV	
5月		Adeno 1		HSV 1	
		Entero 71		HSV 1	
		HHV 6		HHV 6	
6月	Entero 71	Entero 71	Rhino		
	Rhino	Entero 71	Rhino		
	Rhino	HHV 7	Rhino		
		HHV 7	Rhino		
8月			CoxA 16	CoxA 9	
				CoxA 16	
				CoxA 16	
				CoxA 16	
				Entero 71	
				Entero 71	
				CoxA 16	
				CMV	
				HHV 7	
			9月		
Entero 71	CoxA 16				
	CoxA 16				
	CoxA 16				
	CoxA 16				
	B19				
	CoxA 16				
	CMV				
10月			Entero 71	Entero 71	
11月			CoxA 4	Rhino	
			Rhino		
12月			CoxA 16	CoxA 16	
				Entero 71	

表3 手足口病の臨床症状

手足口病 2017年~2018年(平成29年~30年)

症例 No	分離 ウイルス	発症 月日	体温	病変部位										
				手足口	手足	手口	足口	足	口	上肢	下肢	臀部	全身	
2017年	1	Cox.A6	5/30	37.5		○								
	2	Cox.A6	5/30	39.1					○					
	3	Cox.A6	6/4	38.7				○						
	4	Cox.A6	5/30	38.5		○							○	
	5	Cox.A6	6/5	39.8						○		○		
	6	Cox.A6	6/12	38.0	○							○	○	
	7	Cox.A6	6/15	39.5		○						○		
	8	Cox.A6	7/16	38.0	○									○
	9	Cox.A6	7/7	39.0	○									
	10	Cox.A6	8/26							○				
	11	Cox.A16	9/11		○									
	12	Enterov71	9/22		○									
	13	Enterov71	10/2			○								
	14	HHV6,7	10/7	38.0				○						
	15	Enterov71	10/27		○									
	16	Enterov71	10/30		○									
	17	Enterov71	11/7	37.5	○									
	18	Enterov71	11/24		○									
	19	Enterov71	11/25				○							
2018年	20	Echo7	1/12				○							
	21	Enterov71	2/17	39.2	○									
	22	Enterov71	4/11			○					○			
	23	Herpes Simplex	4/24		○									
	24	Enterov71	5/19	38.2	○									
	25	Enterov71	6/6		○									
	26	Rhino	6/6		○									
	27	Rhino	6/21			○								
	28	Enterov71,Adeno1	7/2	微熱		○								
	29	Enterov71	7/7			○								
	30	Cox.A16	7/10			○								
	31	Cox.A16	8/27		○									
	32	Enterov71	9/7	38.4		○								
	33	Cox.A16	10/9			○								
	34	Rhino	10/19			○								
	35	Rhino	11/5			○								
	36	Cox.A4	11/17	39.0			○							
	37	Cox.A16	11/26		○									

ヘルパンギーナ

患者の発生状況は図3，図4に見られる通りである。2017年は6月～7月に急増し，その他の時期には少ない。2018年もほぼ同様であるが，9月をピークに8～10月に多い。

この間に分離された病原ウイルスは表4，表5の様である。2017年にはCox.A6が1株，Cox.A10が2株分離され，2018年にはCox.A2が1株とCox.A4が2株，CMVとHHV6がそれぞれ1株分離されている。ヘルパンギーナの病因ウイルスは主としてCox.A群で2，3，4，5，6，10，22である。私共の症例もこれに該当する。Cytomegalo virusとHuman Herpes virusが，それぞれ1株分離されているが，これについては後述する。

臨床症状は，突然に39℃前後の高熱で発症，咽頭痛，不機嫌，食欲不振あり，口蓋垂のまわりに水疱性の丘疹とアフタ性病変をみる。病変は口蓋垂のまわりに限られ，頬粘膜や歯肉には見られない。症状はこの様に特徴的であるため診断に困る事は少ない。私共の症例も全例，典型的であった。

CMVとHHV6が分離された症例を提示する。

症例1 H28年11月生，5月19日39℃に発熱，元気はあるが不機嫌，咽頭発赤と軟口蓋に2ヶの水疱性小丘疹を認める。その他の口内疹，手足の発疹を認めない。Cytomegalo virus (+)

症例2 H27年9月生，8月22日38℃，24日39.6℃，食欲なくぐったりしている。咽頭部に水疱性小丘疹1ヶ認めるのみ。口内疹，皮疹なし。27日35.9℃，元気あり。Human Herpes 6 virus (+)

Cytomegalo virusが検出された理由について述べる。CMVは主として乳幼児期に，多くは不顕性感染の状態で初感染をおこし，その後病原感染ウイルスは，その生産を停止し，ウイルス遺伝子を宿主内に存続させる潜伏感染を生じる。一方，PCR法による病原体の検索では，病原遺伝子のDNA断片を100万倍まで増幅させるので，微量の病原遺伝子も検出される。このためCMVが検出されたものである。

次に，Human Herpes virusが検出された理由であるが，HHVはCytomegalo，水痘と共にヘルペスウイルス属であり潜伏感染を生じる。それがPCR法により検出されたものである。潜伏感染しているウイルスはその後，宿主の体力の低下などに伴って増殖を自律的に開始する。この現象は再活性化と呼ばれ，自律的に再活性化を行うことができるのは，ヘルペスウイルス属だけである。

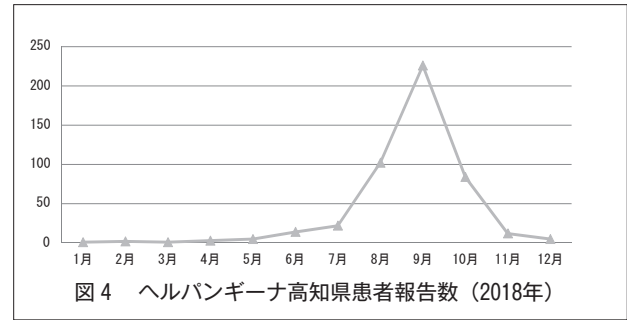
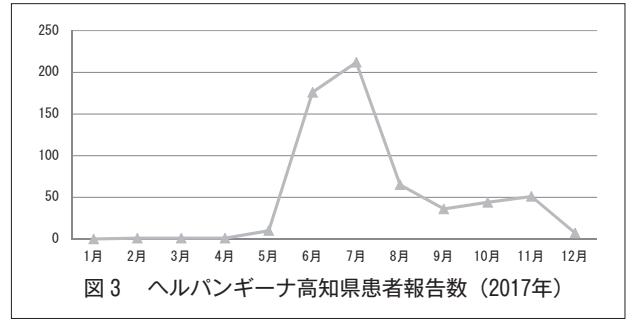


表4 ヘルパンギーナのウイルス分離状況 (2017年)

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の高知県下全域
1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月	CoxA6	CoxA6
		CoxA6
		HHV7
		CoxA6
7月		CoxA6
		CoxA6
		Adeno 2
8月		
9月		
10月	CoxA10	
11月	CoxA10	CoxB5
12月		

表5 ヘルパンギーナのウイルス分離状況 (2018年)

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の高知県下全域
1月		
2月		
3月		
4月		
5月	CMV	
6月		
7月		Cox A9
8月	Cox A2	HHV 6
	HHV 6	Parainflu 3
9月	Cox A4	Cox A9
		Entero 68
10月	Cox A4	Cox A4
		Cox A10
11月		
12月		

咽頭結膜熱

患者の発生状況は図5, 図6の様である。2017年は5月をピークとして、5～9月に多いが、冬季にも発生がみられている。2018年は8月をピークとして6月～9月に流行がみられたが、冬から春にかけても少数の発生がみられている。

この期間に分離された病原ウイルスは表6, 表7の如くであり、2017年は12月にAdeno 2が1株、2018年には1月にAdeno 1, 8月, 9月にAdeno 8がそれぞれ1株、12月にAdeno 1が1株分離されている。

ウイルスが分離された5例の臨床症状をまとめたものが表8である。

最高体温が39℃～40℃を占めるものが80%を占める。更に持続日数も3～5日が80%であり、本症が高熱患者である事を示している。それにも拘わらず咽頭発赤は全例軽度か僅かであり、これは診断にあたり留意すべき所見である。結膜炎は過半数に認められたが、結膜充血や眼脂のない症例があることも示されている。白血球増多が診断に有効であることはよく知られている。

次に診断に迷った症例の経過を示す。

症例 H24年9月生, 12月21日11am 39.7℃. 受診時は咽頭軽度発赤, 夜39.7℃, 嘔吐2回, 22日朝39.4℃, ゆるい便, 咳嗽(++) 食欲不振, 元気なく再診。咽頭発赤増強, 白血球23700, CRP 8.6, 肺炎の所見なし。重症感あり転医し入院。アデノチェック(+), 抗生物質なく点滴で23日下熱。25日退院。アデノ2型が分離された。

アデノ感染症が、時に重症化する事を再認識させられた症例であった。

Adeno virusには50種余りの血清型があり、従来血清型と臨床症状に関係があるとされ、3型の咽頭結膜熱, 7型の重症肺炎, 11型の血性膀胱炎, 40/41型の感染症腸炎が知られていた。現在は、両者の関係は複雑であり、不全型もあるが、1, 2, 5, 6型の呼吸器疾患, 3型の咽頭結膜熱, 8型の結膜炎, 流行性角結膜炎等があげられている。

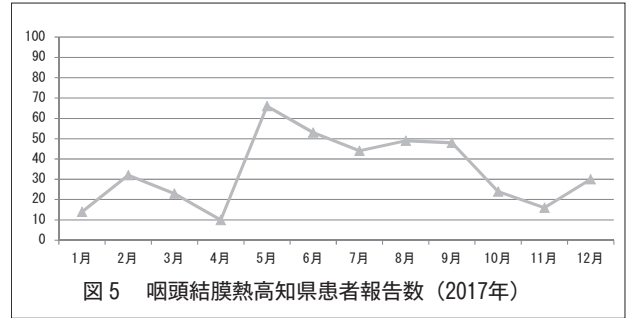


図5 咽頭結膜熱高知県患者報告数 (2017年)

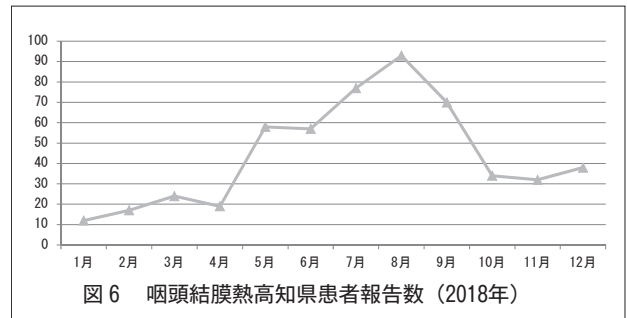


図6 咽頭結膜熱高知県患者報告数 (2018年)

表6 咽頭結膜熱のウイルス分離状況 (2017年)

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の高知県下全域
1月		Adeno 1
2月		
3月		Adeno 3
		Adeno 2
		Echo 9
		HHV6
4月		
5月		Adeno 2
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月	Adeno 2	Adeno 2

表7 咽頭結膜熱のウイルス分離状況（2018年）

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の高知県下全域
1月	Adeno 1	Adeno 2
2月		Adeno 2
3月		Rhino
4月		Adeno 2
		Adeno 2
5月		Adeno 2
		CMV
6月		Adeno 1
		Adeno 1
7月		Adeno 2
		HSV 1
8月	Adeno 8	
9月	Adeno 8	Rhino
		Rhino
10月		Entero 71
11月	Adeno 1	Rhino
12月		Rhino

表8 咽頭結膜熱の臨床症状

症例	分離ウイルス型	最高体温℃	持続日数	咽頭発赤	結膜炎		その他
					充血	眼脂	
1	Adeno 2型	39.7	3日	軽→強度	(-)	(-)	重症感 (+) 白血球23700
2	Adeno 1型	39.8	5日	軽度	(+)	(+)	
3	Adeno 8型	40	4日	軽度	(-)	(-)	
4	Adeno 8型	39	4日	軽度	(+)	(-)	
5	Adeno 1型	38	1日	僅か	(+)	(+)	眼瞼腫脹 (+)

感染性胃腸炎

患者の発生状況は図7、図8の様で、2017年は1月をピークとし、その後漸減し、11月に増加している。2018年は3～5月にピークを迎えたあと漸減し、12月に再び増加している。年度により多少の違いはあるが、冬期早春に多いパターンは例年通りである。

病原体分離の状況は表9、表10の通りで、はまだ小児科では2017年2株、2018年6株が分離されており、後述の症例提示順に下記に示す。

- 症例1.Rota AG9 2017年1月分離
- 2.Staphylococcus aureus 2017年3月分離
- 3.Sapovirus genogroup unknown 2018年4月分離
- 4.Adeno 40/41 2018年4月分離
- 5.Sapovirus genogroup unknown 2018年5月分離
- 6.Noro G I I NT 2018年8月分離
- 7.Salmonella Enteritidis 2018年8月分離

註 ①RotaはA～G群にわかれ、A群は、15の血清型にわかれる

②NoroはGenogroup I (G I) と Genogroup II (G II) にわかれ、G I は14、G II は17のGenotypeにわかれる

症例1 H26年3月生、2017年1月21日朝 下痢、嘔吐あり受診.便に膿球 (-)、ノロ (-)、ロタ (-)

Rota AG9

症例2 H27年10月生、8月10日、有形便のまわりに粘液と血液付着、検便でヒトHb (-)、膿球石垣状、12日軟便1日2回、検便で膿球なし

Staphylococcus aureus

症例3 H28年4月生、2018年4月7日 朝から下痢3回、嘔吐1回、発熱 (-)、9日下痢続く、水様、嘔吐 (-)、検便で膿球 (-)、ノロ (-) Sapovirus

症例4 平成29年2月生 4月10日咳嗽、12日嘔吐2回、検便での膿球 (-)、ロタ (-)、ノロ (-)

Adeno 40/41

症例5 平成28年2月生、5月10日に便白っぽい、11日朝普通便、夕方白色水様、12日少し白っぽい軟便、検便で膿球 (-)、ロタ (+)、ノロ (+) Sapovirus

症例6 平成29年10月生、7月25日～28日下痢、30日有形便、検便で膿球 (-)、ロタ (-)、ノロ (-)

Sapovirus

症例7 平成21年5月生、9月22日夕方上海から関空へ帰国、その時から下痢度々、23日検便で膿球 (-)、ヒトHb (-) Salmonella Enteritidis

症例が少ないため、病原体別の症状を提示できないが、便の顕微鏡的観察で細菌性は膿球 (+)、ウイルス性は (-) であり、基本的な検査が重要なことが示されている。

下痢を来す主なウイルスは、ロタ、ノロ、サポ、アデノ、アストロの5種類であるが、今回分離したウイルスに、そのうちの4種類があった。

また、症例5はサポウイルスが分離されているが、簡易迅速検査ではロタ、ノロも陽性であった。

牛島廣治は、ロタウイルス、ノロウイルスの重複感染あるいはアデノ、アストロ、サポウイルスなどとの重複感染があると報告している。私共の症例も、それに該当する可能性があると考え。

今回の症例でAdeno 40/41が分離されており、乳幼児急性胃腸炎の10%は腸管系アデノによると推定されているのでアデノについて付記する。アデノウイルスは下痢症患者のみならず健康な小児の便からも検出されるので、下痢の病因としての確定が長い間されていなかった。1970年代になって、下痢患者の便から分離されるアデノは、通常の培養細胞では分離不可能であり、血清型も1～39と異なっている事が分かった。下

痢症の原因となるアデノウイルスは腸管系アデノウイルス (enteric adeno virus) と呼ばれ、現在40, 41の2つの血清型が知られている。高知県では、平成5年

7月保育園で急性腸炎の小流行があり、その園児の便から Adeno 40/41 が分離された報告が最初であると考えている。

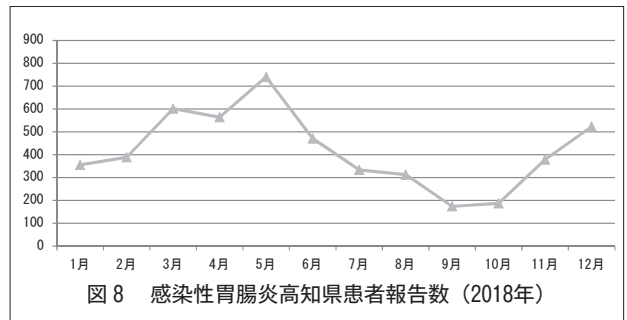
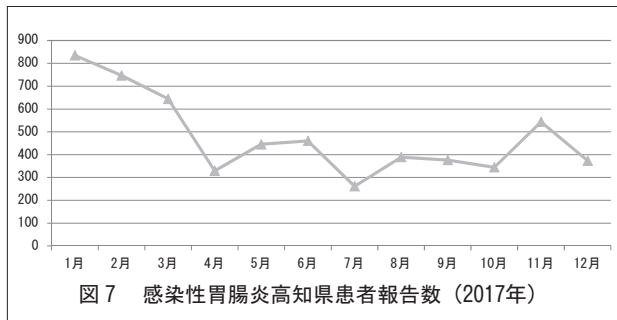


表9 感染性胃腸炎の病原体分離状況 (2017年)

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域	受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域
1月	Rota A G9	Noro GII NT	7月		
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
		Noro GII NT			
2月		Noro GII NT	8月		Noro GII NT
		Noro GII NT			Cox B4
		Noro GII NT			Noro GII NT
		Astro			Noro GII NT
3月	<i>Staphylococcus aureus</i>	Noro GII NT	9月		Noro GII NT
		Noro GII NT			Noro GII NT
		Adeno 2			Cox B4
		Noro GII NT			Cox B4
		Sapo			Adeno 2
5月		Rota A NT	10月		Sapo
		Adeno 1			Noro GII NT
		Adeno 41			Parecho 1
6月		HHV6	11月		Noro GII NT
		Echo 25			Noro GII NT
		Rota A G3			Adeno 2
		Sapo			Echo 3
		Rota A G3	12月		<i>Campylobacter jejuni</i>
	Noro GII NT				
	Noro GII NT				
	Noro GII NT				
					Adeno 2

表10 感染性胃腸炎の病原体分離状況 (2018年)

受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域	受付月	はまだ小児科	はまだ小児科以外の県下全域
1月		Noro GII NT	7月		Noro GII NT
		Noro GII NT			Adeno 2
		Noro GII NT			Rhino
		Noro GII NT			Noro GII NT
		Noro GII NT			Echo 7
		Sapo			HSV1
2月		Noro GII NT			HHV7
		Sapo			
3月		Noro GII NT			Sapo
		Adeno 2			CoxA9
		Astro			hMPV
4月	Adeno 40/41	Noro GII NT	8月		<i>Salmonella Enteritidis</i>
		Noro GII NT			Noro GII NT
		Noro GII NT			Noro GII NT
		Noro GI NT			Noro GII NT
		Rota A G9			Noro GII NT
5月	Sapo	Noro GII NT	9月		Adeno 2
		Noro GII NT			Echo 11
		Adeno 41			Rhino
		Sapo			Sapo
6月		Noro GII NT	10月		Sapo
		Noro GII NT			Sapo
		Adeno 41			Entero NT
		Sapo			Adeno 3
		Adeno 2			Sapo
		Sapo			Adeno 2
7月		Noro GII NT	11月		Sapo
		Noro GII NT			Sapo
		Adeno 41			CoxA4
		Adeno 2			Sapo
		Adeno 41			Adeno 2
8月		Noro GII NT	12月		Noro GII NT
		Noro GII NT			Sapo
		Adeno 41			Noro GII NT
		Adeno 2			Noro GII NT
		Adeno 41			Echo 11
		Adeno 41			Sapo
9月		Noro GII NT			Adeno 2
		Noro GII NT			Sapo
		Adeno 41			Adeno 2
		Adeno 41			<i>Salmonella Enteritidis</i>

溶連菌感染症

患者の発生状況は図9、図10の通りで、2017年は3月と6月にピークがあるが、12月にも小さなピークがあり、7月～10月の夏期に少ない。2018年もほぼ同様のパターンであるが患者数は少ない。5月と12月にピークがあり、7月～10月に低下している。

臨床症状は、表11、表12に示す通りである。

発熱は38.5℃以上のものが39.2%を占め、どちらかと言えば高熱疾患の部類に入る。咽頭痛が71.5%にみられる事は留意しておくべき事項である。かぜウイルスによる咽頭炎では、痛みを訴えることが少ないため、咽頭痛を訴えて来院した時は、まず本症を疑う。

咽頭所見としては、強い発赤が57.1%に認められる。また、軟口蓋を中心として、小濾胞や小さな赤い点状の粘膜疹、稀に出血を伴うのを見る。これはForschheimer斑と呼ばれるもので、風疹などでもみられるので、溶連菌性咽頭炎に特異的な所見とは言えないが、参考所見として意義は大きい。これ等の症例でも28.5%にみられた。

発疹は粟粒大の赤色丘疹が主で、25%に認められた。平成15～16年のデータでも23%に認められていた。

T型別は、B3264が20株中11株と半数を占め、その他T4が5株、T1が2株、T3、T12が1株となっている。T型別は以前と大きく異なっており、平成元年から16年までの1930株では、T12が420株、T4が417株、T1が299株で、B3264は153株と少なかった。

本症では再発が知られているが、今回の症例でも21例中6例、28.6%に再発が認められている。平成15～16年の報告では12%と考えられている。再発が再燃か再感染かの区別は、困難な事が多い。一般的には再発までの期間、T型別の異同が参考になる。しかし、同型での再感染もある。

T型別は、溶連菌表層のT蛋白を利用しているが、M蛋白が腎炎の発生など病原性と一致しているとの報告があり、M型別とT型別との異同を検討して貰ったことがある。山口県衛生研究所に依頼して、平成7年～8年の10株について検討して貰ったが、株数の少なかったためか10株はすべて同じであった。最近、M蛋白をコードするemm遺伝子の検索が報告されている。今後、emm遺伝子にかかる研究の発展を期待する。

溶連菌に対する薬剤の耐性については、薬剤の最小発育阻止濃度（MIC）の測定か、当該薬品が培地に植えられた溶連菌の発育を阻止する広さ（阻止円の大きさ）をみる方法がある。高知衛研では後者を行っている。その判定区分は表13の様である。

それによると、今回分離された25株のうち、耐性はMINO 4株、CAM 1株、CFDN 1株で、中間はMINO 4株、CAM 1株、CDTR 1株で、AMPCは

すべて感性であった。これに対し平成15年東京都健康安全センターで50株についてMIC測定で行われた結果では、耐性はCAM 1株であった。

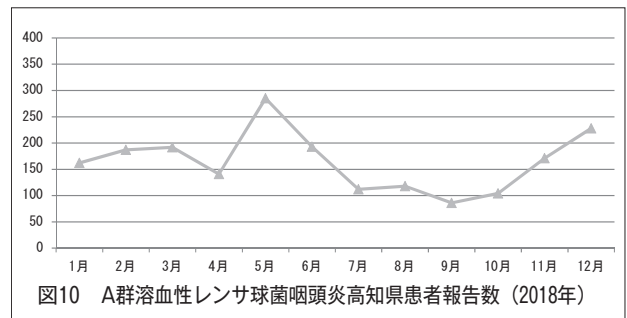
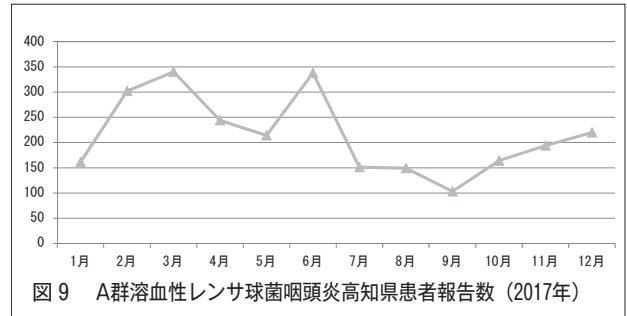


表11 溶連菌感染症の臨床症状とT型別 (2017年)

症例	体温℃	咽頭発赤	咽頭痛	F斑	発疹	T型別
1	38	+			+	UT
2	38.8	+	+			UT
	37.6	+	+	+		
3	38.8	++	+			T4 T4
	38.7	++			+	
	38	++	+			
	38.5	++	+			
4	38.1	+				UT
	38.7					
5	37.5	+			+	UT

表12 溶連菌感染症の臨床症状とT型別 (2018年)

症例	体温℃	咽頭発赤	咽頭痛	F斑	発疹	T型別
1	38.9	++	+			T1
2	37.6	+	+		+	T3
3	37.8	++			+	T4
4	微熱	++	+	+		TB3264 TB3264
	微熱		+	++		
5	(-)		+	+		*出血斑 T12
	(-)		+			
6	37.3	++	+	+		T1
7	38.1	+	+			TB3264
	39.3	++	+		+	
8	39.1	++			+	T4
9	39.6	+	+			T4
10	36.7	++	+			TB3264
11	37.5	++	+	+		TB3264
12	38	++	+	+		TB3264 TB3264
	38	++				
13	38.3	+				TB3264
14	39	++	+	+		TB3264
15	38.1	+				TB3264
16	38.8	++	+	+		TB3264

表13 薬剤感受性判定区分

K-B法 (Kirby-Bauer法)

Spyogenes

	化療略号	ディスク略号	ディスク名	R 耐性	I 中間	S 感性	ディスク含量	
①	MINO	MI30	ミノサイクリン	14	15~18	19	30	テトラサイクリン系
②	AMPC	AMX25	アモキシシリン	14	15~20	21	25	ペニシリン系
③	CFDN	CDR5	セフジニル	16	17~19	20	5	セフェム系
④	CDTR	CDN5	セフジトレン	12	13~18	19	5	セフェム系
⑤	CAN	CLR15	クラリスロマイシン	16	27~20	21	15	マクロライド系

2018年須崎市とその周辺を中心にみられた百日咳の流行について

もりはた小児科 森 畑 東洋一

はじめに

百日咳は2017年12月31日まで5類感染症把握対象疾患として、小児科定点から主に臨床症状を中心に報告されており、定点以外や成人例の百日咳流行の全体像がつかめていなかった。百日咳患者の流行は保育園児から学童期を中心にみられ、幸い重症化することなく軽快しているが、予防接種未接種の乳児への感染による重症化の報告もみられる。

より正確な流行状況を把握するため、2018年1月1日から百日咳は5類全数把握・届け出報告対象と変更され、診断基準も臨床症状に、原則として百日咳菌の分離、百日咳遺伝子の検出、各種抗体検査により百日咳の検査診断がなされたものが届け出の対象となった。

2018年1月（第2週）から8月（33週）の間に、百日咳LAMP法陽性に基づき確定診断された109例の百日咳患者の流行を須崎市とその周辺を中心に経験した。この間に百日咳を疑い、結果LAMP法陰性例が258例あり、109例の臨床症状、年齢分布、予防接種歴と共にまとめてみた。

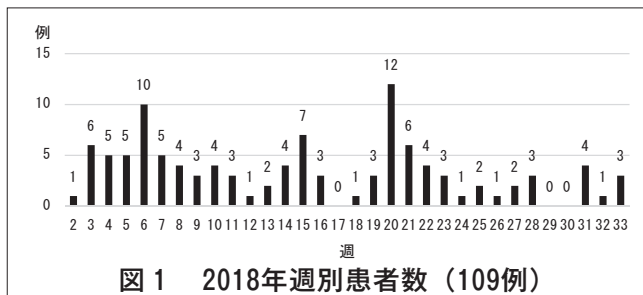
予防接種歴については母子手帳と当院の予防接種記録に基づき製造メーカー・ロットNo.接種月日を確認した。

なお、週は保健所への報告日をもってした。

1. 週別患者発生状況

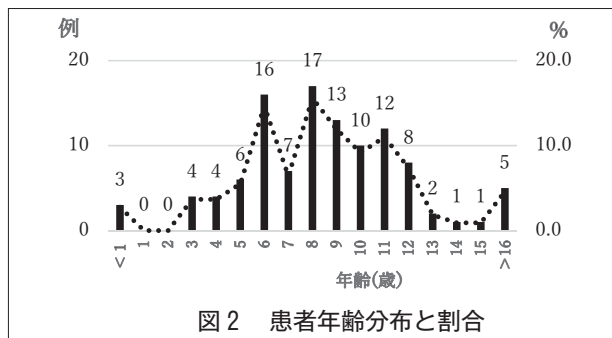
図1は2週から33週における患者発生数を示す。

2週の最初の症例に続き3週以降は毎週5例前後の発生がみられ、6週、15週、20週に小さなピークがみられ、29週夏休みになって終息に向かい33週以降発生を見なくなる。



2. 患者年齢分布,所属別分布

図2は患者の年齢分布とその割合を示す。



6歳から発生数が増加し13歳中学生になり減少。1歳未満の3例は3か月未満ワクチン未接種2例、2回接種9か月児1例で、感染源は1例は母親、2例は兄弟が疑われた。16歳以上の成人は子どもからが3例、不明が2例である。

全患者109例の中、13組、計32例、全体の30%を占める兄弟例がみられた。

図3は109例患者が所属する集団における数と割合を示す。今回の流行は保育園と小学生を中心に流行がみられ全体の87%を占める。中学校での流行はみられなかった。

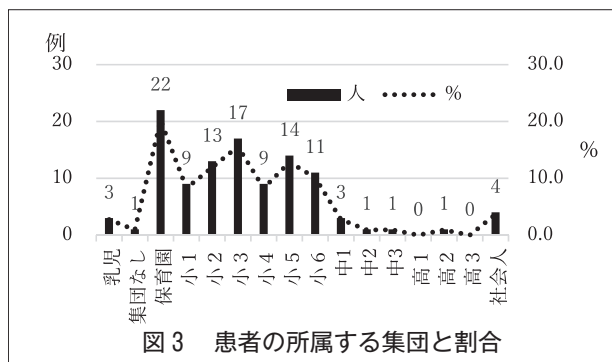


図4に2012年に須崎市を中心に百日咳流行があり、LAMP陽性で診断した患者が103例の年齢分布を示す。13歳以上の患者割合をみると2012年は28/103例(27.2%)、2018年は9/109例(8.3%)と園児から小学生を中心とした流行であった。今回2012年の罹患者からの再感染者はなく、2012年LAMP陰性者245例から当時5歳児であった2例の感染がみられた。

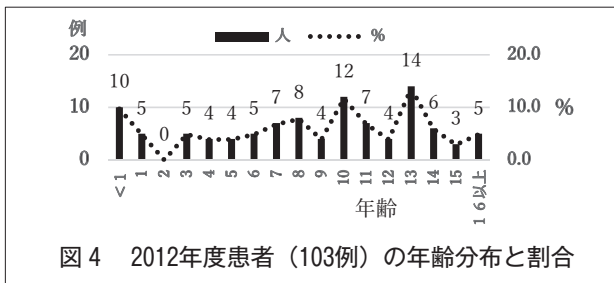


図4 2012年度患者(103例)の年齢分布と割合

図5に12年と18年における罹患者の年齢別割合を示す。6年前の流行が今回の罹患者年齢が若年化したことに影響を及ぼしたのか興味のあるところである

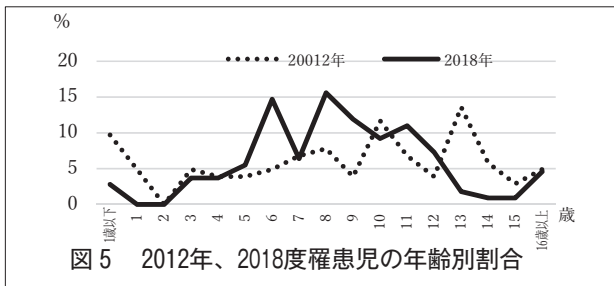


図5 2012年、2018年度罹患者の年齢別割合

3. 週別地域別患者数

図6は週別の患者発生数を地域別に示す。流行は〇小学校を中心とする多ノ郷地区から始まり患者数58例、11週頃から上分地区に拡大し19例、19週から津野地区で12例、葉山地区で12例とまとまてみられたが須崎地区、久礼地区は散発発生で両地区合わせ7例とまとまった発生はみられなかった。

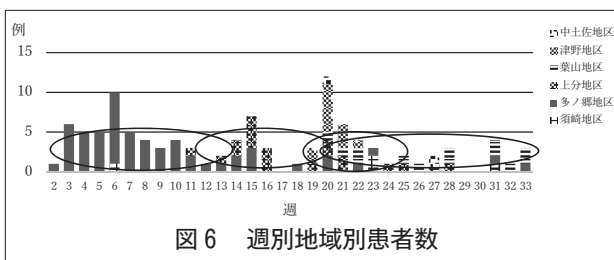


図6 週別地域別患者数

4. LAMP検査結果の検討

LAMP検査陽性者109例と陰性者258例について年齢割合、年齢別ワクチン接種回数・割合、ワクチン4回接種の確認できた陽性者86例について、最終接種から今回の感染までの期間について検討する。

1) LAMP陽性・陰性年齢割合

図7はLAMP法検査対象となった各年齢の陽性・陰性の割合を示す。

性・陰性の割合を示す。

3から5歳は検査対象のほぼ20%が陽性に対し5歳以降は陽性率が6歳の40%、8歳の50%を最高に各年齢は30%以上と陽性率が上昇する傾向にある。

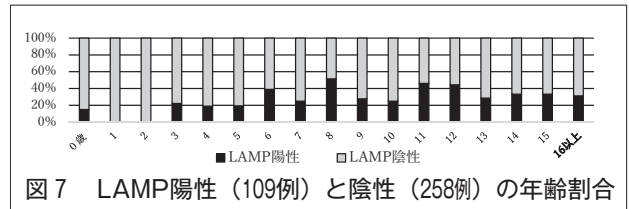


図7 LAMP陽性(109例)と陰性(258例)の年齢割合

2) ワクチン接種回数

図8、9はLAMP検査陰性258例のDTP(DTP・IPV)ワクチンの年齢別接種回数、割合を示す。予防接種の回数は母子手帳、当院の予防接種台帳で確認済み。

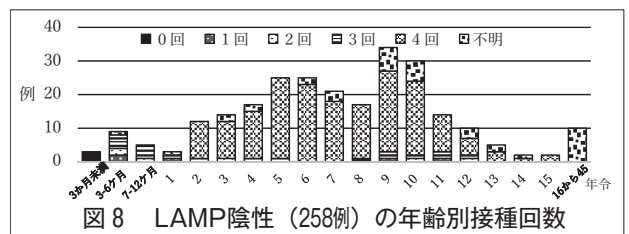


図8 LAMP陰性(258例)の年齢別接種回数

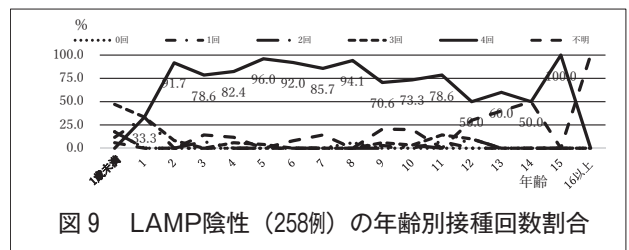


図9 LAMP陰性(258例)の年齢別接種回数割合

4回接種は2歳以降は90%をほぼ超えているが90%に達していない年齢は問診のみで4回済は不明とした結果である。

図10、図11はLAMP陽性(109例)の年齢別接種回数と割合を示す。

1歳未満の0回は3か月未満2例、9か月児2回が同胞や母親から感染したものである。

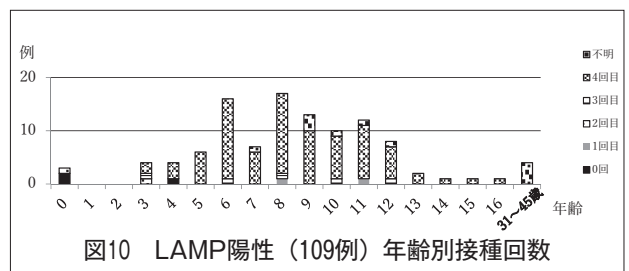


図10 LAMP陽性(109例)年齢別接種回数

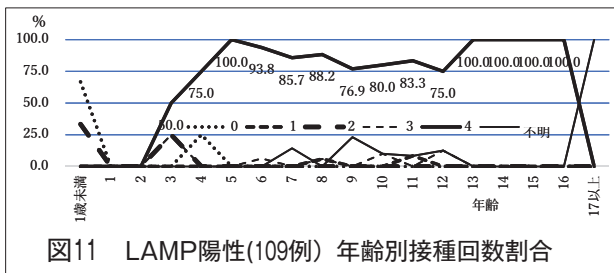


図11 LAMP陽性(109例) 年齢別接種回数割合

LAMP陽性で4回接種の確認されたのは3歳で50、4歳、5歳で各々75.100%と接種率は上昇し5歳以上では80%以上が4回の接種を受けている。

今回の流行で109例中13組32例の同胞例がみられた。

3) ワクチン4回接種から罹患までの期間

LAMP陽性109例中ワクチン4回接種の確認できた86例について、4回目の接種から今回の感染までの期間を図12に示す。

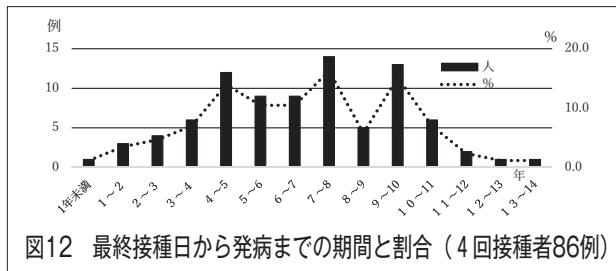


図12 最終接種日から発病までの期間と割合 (4回接種者86例)

接種後4年未満罹患者は同胞7組14例あり、1年未満の1例は同胞が罹患し遅れていた4回目を急いでするも罹患する(1か月以内に)。

今回の流行では最終接種後4、5年経過したところから罹患の割合が増加する傾向がみられ、集団では保育園年長児から学童期4、5年生までの罹患率が高かった。

5. 臨床症状

LAMP陽性109例と陰性258例の臨床症状について表に示す。

症状はLAMP検査実施時(主に初診時)における状態を示す。陽性群、陰性群共、咳症状で7日以上を長引く咳とした。陽性群で咳込みが陰性群を大きく上回ったのが特徴的で、罹患年齢で乳児が少なかったこともあり、無呼吸や肺炎といった重篤な呼吸器症状を呈した例がなかったことは幸いであった。

臨床症状	LAMP 陽性 (109例)		LAMP 陰性 (258例)	
	例	%	例	%
咳	4	3.7	56	21.7
長引く咳	36	33.0	125	48.4
咳込み	91	83.5	118	45.7
スタカット	2	1.8	1	0.4
うーぷ	1	0.9	2	0.8
嘔吐	3	2.8	14	5.4
腹痛	0	0	2	0.8
胸痛	0	0	8	3.1
無呼吸	0	0	0	0
肺炎	0	0	0	0
家族に百日咳	32 (13家族)	29.3 (11.9)	12	4.7

検査に関しては流行のみられる集団(学校・保育園)からの咳を主訴とした受診者・兄弟例は積極的にLAMP検査を行った(感染初期から陽性になる)。今回は診断のために菌の培養分離及び血清学的診断はおこなわなかった。

まとめ

2018年1月から百日咳は成人も含め全数把握疾患となり、届け出基準も菌培養検査、遺伝子検査(PCR、LAMP法)の結果が診断のため重視されるようになった。

この度18年1月(第1週)から8月(第33週)の間にLAMP法により確定診断された百日咳の流行を須崎市(多ノ郷地区、上分地区)津野町(葉山地区、東津野地区)の保育園・小学校を中心に109例の発症を経験した。流行は多ノ郷地区→上分地区→東津野地区→葉山地区と拡大した。109例のうち兄弟例が13組32例、3か月未満1例に母子感染があり幸い大事にならなかったが、母子のみでなく患児が乳児と接触する機会の有無にも注意を払う必要がある。12年にも103人(LAMP陽性)の流行があったが今回の流行の年齢分布は小さい方によっている(図5)。6年前の流行の影響があるのだろうか。

百日咳の感染に関して、予防接種を予定通り済ませていても罹患するケースが多いことが問題になっており、ワクチンの有効性や特に追加接種の必要性が議論されている。

予防接種歴については、陽性群、陰性群とも4回接種が確認されたものに限ればほぼ同じような接種状況であった。陽性群109例のうち4回接種が確認された86例について最終接種から罹患までの期間をみれば4から5年経過したところから罹患率が増加するようである。この時期が追加接種の一つの目安になるのではないかとと思われる。

流行拡大の予防については、年齢が大きく、発熱もなく、咳が続いていても臨床症状も軽いため登園・登校が普段通りなされて困難であったが、幸いLAMP検査の結果が2、3日で判るため、その間家族の理解を得て登園・登校停止の協力と学校の方にも登校停止扱いとして頂いた。また、今回3か月未満ワクチン未接種の2例を経験したが幸い重症化することなく経過したが、母子・同胞だけでなく患児の周辺の乳児（特にワクチン未接種）の存在にも注意が必要であり、乳児のワクチン効果は高いことから未接種の乳児へのワクチン接種の推奨をすることも重要な予防策である。

2017/18 シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討

ふないキッズクリニック 船井 守

2015/16シーズンからインフルエンザワクチン株が従来のA型2種類とB型がビクトリア系統株、山形系統株のどちらか1種類の3価からB型2種類に変更になり4価になった。これによりB型の発症が抑制されることが期待された。しかし、2015/16シーズンにB型が流行し、2016/17シーズンはB型は流行しなかったが、2017/18シーズンは再びB型が流行した。前回の報告は2015/16シーズンのインフルエンザの15歳以下の患児の臨床的検討を行ったが、今回、2017/18シーズンに当院を受診した15歳以下の患児について再度、臨床的検討を行った。

結果

1. 患者数

平成29年12月11日から平成30年4月25日までにインフルエンザ迅速診断検査キットでインフルエンザと診断した15歳以下の当院受診患児は延べ509例であった。A型は148例、B型は361例であった。このうち別の日にA型、B型両方感染例は14例であった。

2. 発症年齢 (図1)

発症年齢はA型は0歳から15歳までみられ、4~6歳と10~12歳多かった。B型は0歳から15歳までみられ5~9歳にピークがあった。

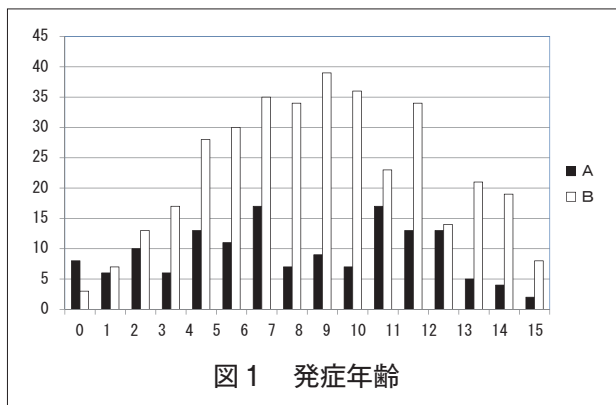


図1 発症年齢

3. 発症時期 (図2)

週別の発症時期ですがA型は平成29年12月11日(第50週)から平成30年4月25日(第17週)までみられた。B型は平成29年12月25日(第52週)から平成30年3月10日(第10週)までみられた。第11週以降はA型のみ流行した。

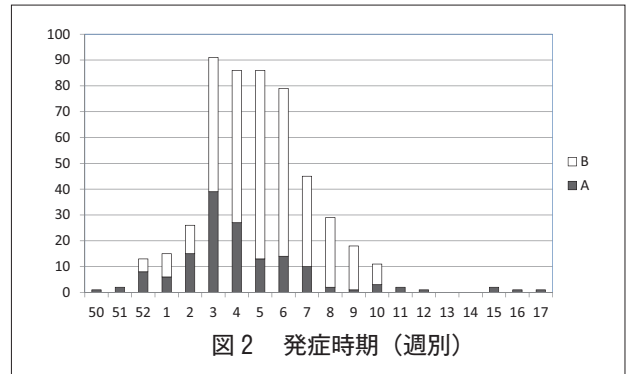


図2 発症時期 (週別)

4. B型インフルエンザ患児の年齢別ワクチン接種回数 (図3)

B型は361例のうち未接種が252例、1回接種が32例、2回接種が77例であるが、13歳以上は1回接種で効果があるとされているので、規定通り予防接種を受けたのは、90例(24.9%)であった。

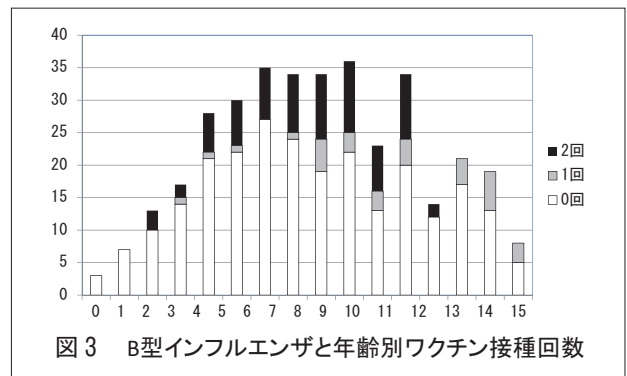
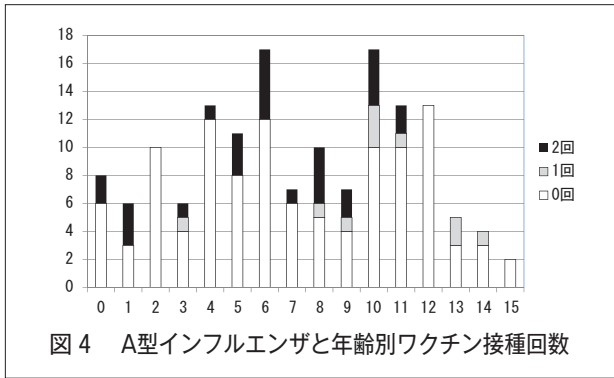


図3 B型インフルエンザと年齢別ワクチン接種回数

5. A型インフルエンザ患児の年齢別ワクチン接種回数 (図4)

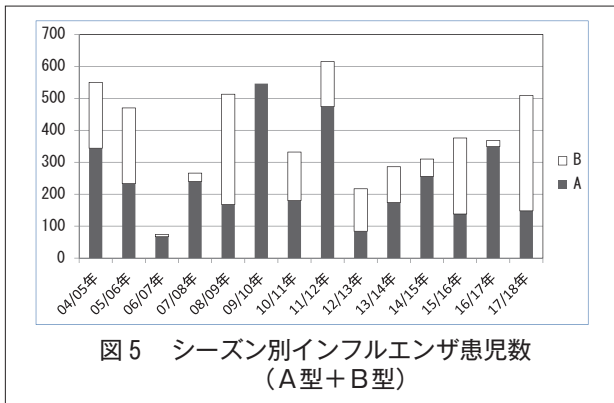
A型は148例のうち未接種が117例、1回接種が10例、2回接種が28例である。13歳以上の1回接種は3例で、規定通り予防接種を受けたのは31例(20.9%)である。1歳は6例中3例(50.5%)、8歳は9例中4例(44.4%)が2回接種を受けていた。



16シーズンも同学会報告では22~40%の有効率であった。2017/18シーズンはワクチンの供給が十分でなく、接種率が低かったことがB型の流行した可能性も考えられる。今後、B型ワクチンの効果についてはさらなる検討が必要である。

6. 過去14シーズンのA型、B型インフルエンザの流行 (図5)

過去14シーズンでAH1N1pdmが流行した2009/10シーズン以外はB型は流行しているが、2017/18シーズンは一番多かった。A型よりB型が多かったシーズンは2005/06シーズン、2008/09シーズン、2012/13シーズン、2015/16シーズン、2017/18シーズンの5シーズンであった。



考察

2015/16シーズンからB型インフルエンザのビクトリア系統株、山形系統株の2株が予防接種に加わったことから、B型インフルエンザの予防効果が期待されていた。しかし、一般的にB型インフルエンザの流行が少なかった翌シーズンはB型インフルエンザが流行すると言われている。前シーズンの2016/17シーズンにB型流行が少なく（当院ではA型349例、B型19例）、2017/18シーズンはB型が流行することが予想されていた。高知県衛生研究所の報告では平成29年12月から平成30年4月まではビクトリア系統8例、山形系統37例がウイルス分離されている。今回の検討では前回の報告した2015/16シーズン以上にB型が流行し、4価ワクチンが従来の3価ワクチンに比して流行阻止するまでの効果があったとは言い難い。しかし、2017/18シーズンのtest-negative case-control designを対照とした平成30年11月の第50回小児感染症学会での3報告では38~51%の有効率があったとされている。2015/

2017年、2018年に経験した感染性腸炎の発生状況

けら小児科アレルギー科 森 澤 豊

【はじめに】

当科では腹痛，下痢，発熱（37.5℃以上）の三症状を認めた症例には原則として便培養検査を行っている。今回2017年，2018年の便培養実施状況を中心に報告する。

【培養検査提出状況】

2017年：202人に便培養を実施しカンピロバクター，サルモネラ，病原性大腸菌病原菌のうち1種類以上が検出されたのは114人（検出率56%）であった（図1-a）

2018年：239人に便培養を実施し上記細菌のうち1種類以上が検出されたのは106人（検出率44%）であった（図1-b）

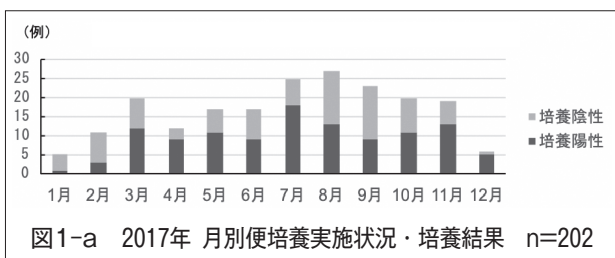


図1-a 2017年 月別便培養実施状況・培養結果 n=202

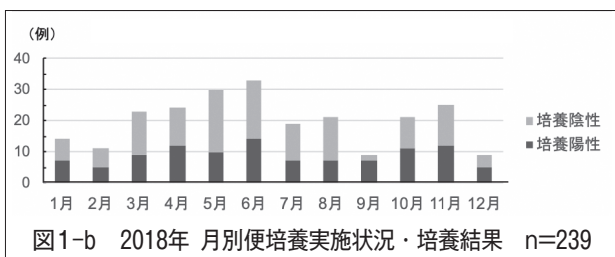


図1-b 2018年 月別便培養実施状況・培養結果 n=239

【2017年培養結果】

1. カンピロバクター

53例（単独例32，病原性大腸菌との重複例21）検出された。月別分布は図2-a，年代別分布は図3-aに示す結果であった。入院例はなく全例合併症なく軽快した。

2. サルモネラ

13例（単独例4，病原性大腸菌との重複例9）検出された。サルモネラ菌の血清型分布はO-9群10例，O-7群2例，O-4群1例であった。月別分布は図2-a，年代別分布は図3-aに示す結果であった。入院例は2例あり，いずれも70代（O-9群単独，O-9群+病原性大腸菌O-1）で前者は血液培養でも同じ

菌が検出された。

3. 病原性大腸菌

78例（単独例48，カンピロバクターもしくはサルモネラとの重複例30）検出された。ペロ毒素陽性例はなかった，血清型分布はO-1 21例，O-25 19例，O-15，18，86a各5例，O-8 4例，O-26 3例，O-6，20，125，135，145，153が各2例，O-33，63，126，144が各1例であった（図4-a）。複数の病原性大腸菌が同時に検出された例はなかった。全例外来で軽快した。

【2018年培養結果】

1. カンピロバクター

44例（単独例28，病原性大腸菌との重複例16）検出された。月別分布は図2-b，年代別分布は図3-bに示す結果であった。全例合併症なく外来で軽快した。

2. サルモネラ

6例（単独例4，病原性大腸菌との重複例2）検出され，サルモネラ菌の血清型分布はO-9群4例，O-4群2例であった。月別分布は図2-b，年代別分布は図3-bに示す結果であった。全例外来で軽快した。

3. 病原性大腸菌

74例（単独例56，カンピロバクターもしくはサルモネラとの重複例18）検出された。ペロ毒素陽性例はなかった，血清型分布はO-1 25例，O-25 24例，O-6 6例，O-18，86a各3例，O-8，20，111各2例，O-28a，55，115，125，128，153，166各1例であった（図4-b）。複数の病原性大腸菌が同時に検出された例はなかった。全例外来で軽快した。

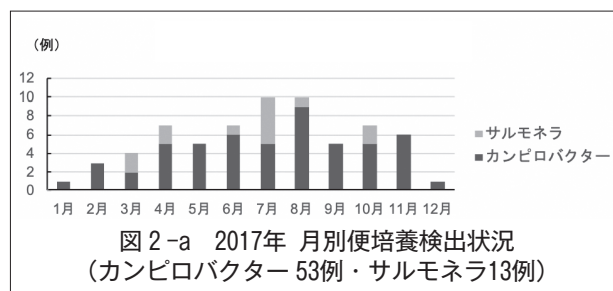
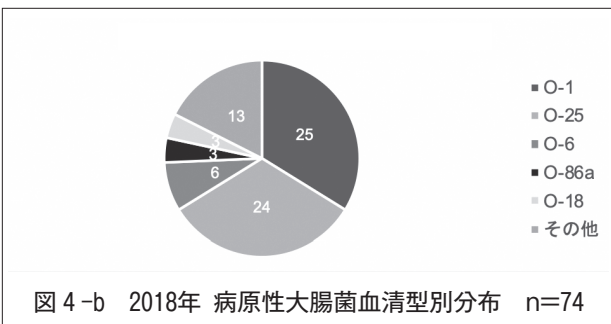
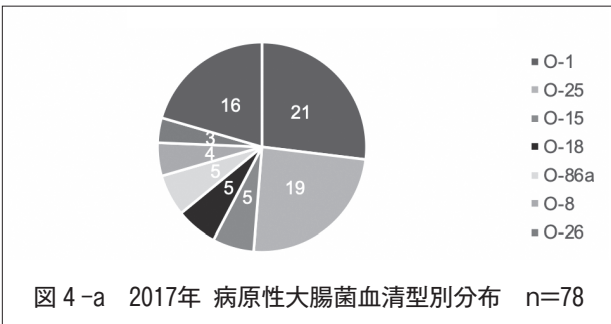
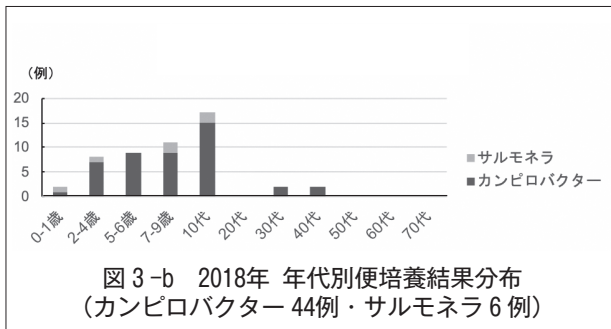
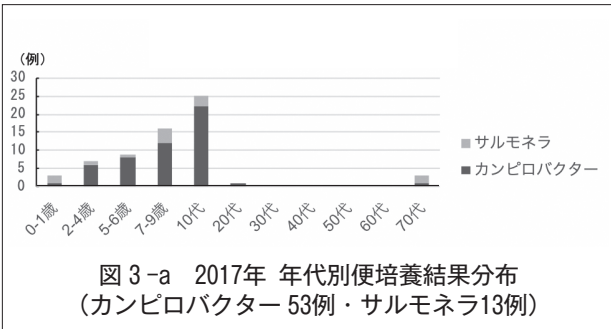
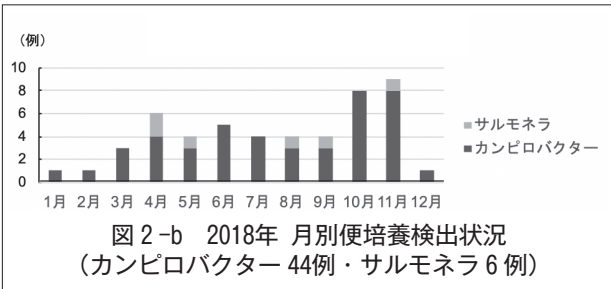
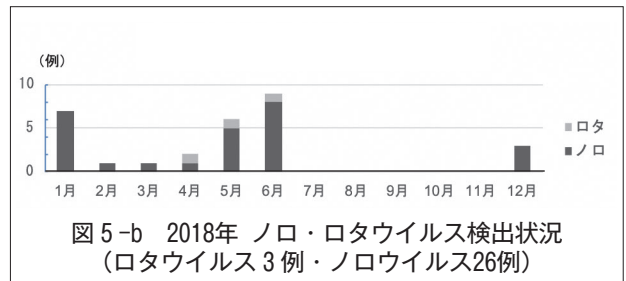
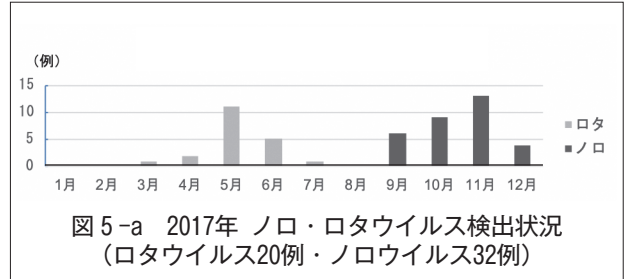


図2-a 2017年 月別便培養検出状況
(カンピロバクター 53例・サルモネラ13例)



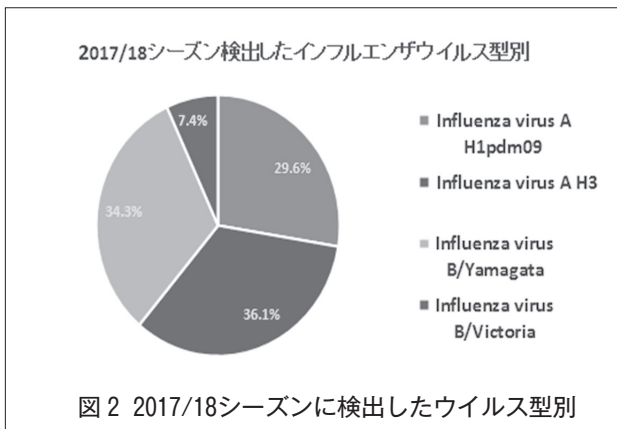
【追記：ノロウイルス・ロタウイルスの検出状況】(図5)

今回、繰り返す嘔吐・下痢（主に水様便）で受診した例のうち患者の通っている施設内で上記症状の患者が複数存在する場合、適宜ノロ・ロタウイルスの迅速診断検査を行った。細菌培養検査例と異なり検査実施に一定の基準を設けておらず、検査件数も少ないが、月別の流行傾向が確認できたので報告する。



【検出したウイルス亜型について】

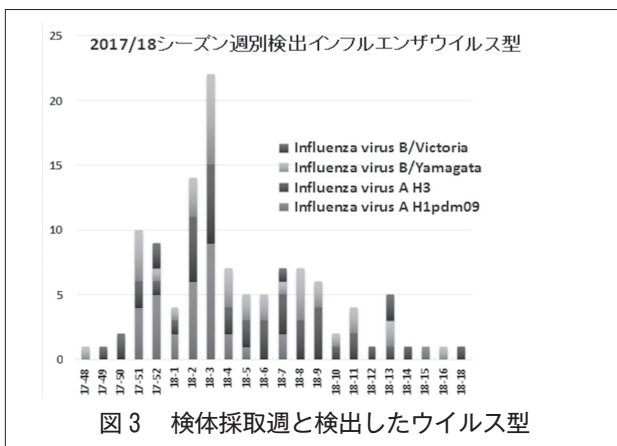
2017/18シーズンを通して検出された型別の内訳は、A H3 36.1%（全国30%）、A H1pdm09 29.6%（同24%）、B/Yamagata 34.3% B/Victoria 7.4%（同B 46%）だった。



2012/13シーズン以降はA H1pdm09亜型とA H3亜型が交互に主流となっており（前シーズンはA H3亜型が主流でシーズン全体の85%）、A H1pdm09亜型が流行するシーズンはB型が検出される割合も多い傾向が見られていた（全国）。

2017/18シーズン中、高知県においても図3のように多種のウイルス型が同時に検出された週が多かった。

定点あたりの患者報告数がピークとなった第3週、第5、6週の前後でみるとA H3、A H1pdm09、B/Yamagata、が同時期に検出されており、この3型が同時に県内に流行していたと推測できる。また、このことが患者数を押し上げた要因と思われる。



【抗体保有率】

衛生研究所では、国、都道府県及び各地方衛生研究所が協力して毎年実施している感染症流行予測調査事業のひとつであるインフルエンザ感受性調査事業に参加し、県民の検診や健康調査時にこの調査事業に同意が

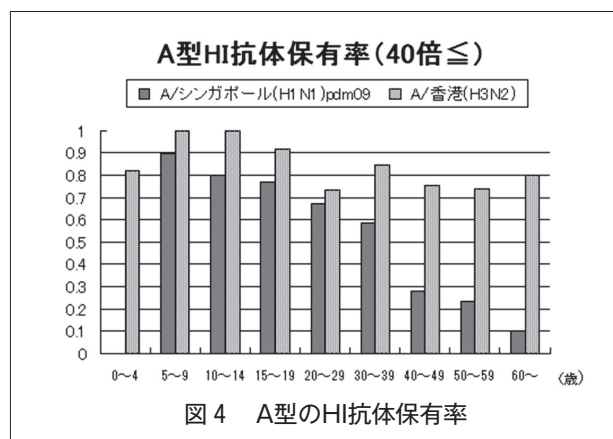
得られた方を対象として抗体測定を実施している。

2017年度は2017/18シーズンのワクチン株であるA/シンガポール/GP1908/2015 [A (H1N1) pdm09亜型]、A/香港/4801/2014 [A (H3N2) 亜型]、B/プーケット/3073/2013 [B型（山形系統）]、B/テキサス/02/2013 [B（ビクトリア系統）]の4種を調査株として赤血球凝集抑制試験（HI法）による抗体測定を実施した。

HI抗体価1：40以上の抗体保有率（感染リスクを50%に抑える目安）についてみると、

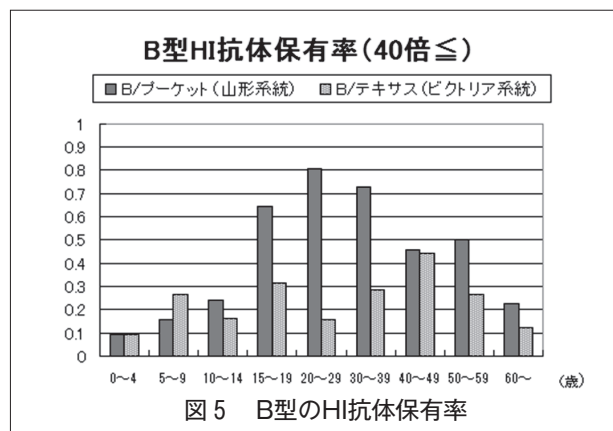
A (H1N1) pdm09亜型の抗体保有率は、5～9歳群が89.5%と最も高く、0～4歳群を除き、年齢が高くなるほど抗体保有率は低くなっていた。

A (H3N2) 亜型の抗体保有率は、5～14歳の2群が100.0%と最も高く、どの年齢群でも70%以上の抗体保有率であった。



B（山形系統）の抗体保有率は、20～29歳群が80.7%と最も高かった。この群をピークに年齢が離れるほど抗体保有率は低くなっていた。

B（ビクトリア系統）の抗体保有率は、今回の調査株の中で25.4%と最も低く、最も高い40～49歳群でも44.3%であった。



【各型・亜型流行株の抗原性解析】抜粋

国立感染症研究所では地方衛生研究所において臨床検体から分離したウイルス株（感染症サーベイランスで分離した株）の一部と海外で分離された株について遺伝子解析と抗原性解析（その年の国内ワクチン株との比較）を行っています。

平成30年6月15日厚生労働省結核感染症課から出された「今冬のインフルエンザについて（2017/18シーズン）」から抜粋して抗原性解析結果について報告します。

A H1pdm09亜型ウイルス（HI試験）

解析した国内外の流行株すべてが国内ワクチン株A／シンガポール／GP1908／2015 [A (H1N1) pdm09] と類似していた。

A (H3N2) 亜型ウイルス（中和試験）

国内外の流行株については、約半数の株が今シーズンのワクチン株と抗原的に類似していた。鶏卵馴化による抗原変化により、流行株と乖離する傾向が見られた。

B型ウイルス（山形系統）（HI試験）

国内外の流行株のほとんどが2017/18シーズンの山形系統ワクチン株B／プーケット／3073／2013に抗原性が類似していた。

B型ウイルス（ビクトリア系統）（HI試験）

流行株全て、ワクチン株B／テキサス／02／2013に抗原性が類似していた。

2アミノ酸欠損及び3アミノ酸欠損した海外ウイルス株とワクチン株は抗原性が大きく異なっていた。

（注）HI試験や中和試験に基づく抗原性解析によって得られるワクチン製造株と市中流行株に係る抗原性の一致度とワクチンの有効性とは一致するとの報告もありますが、一致しないとの報告もあります。

【最後に】

2017/18シーズンインフルエンザはワクチン製造株の3～4亜型が同時に流行したことが、例年より患者数を押し上げた要因となったものと思われま

す。2019年1月現在（第3週）、高知県では今シーズン（2018/19シーズン）は2019年第1週には、定点あたりの報告数が過去10年間では最速で警報値30を超え、またA H3, A H1pdm09の2種の亜型を同じ週（第52, 1週）に採取した検体から検出しており、今期も患者報告数等を注視していく必要があります。

最後に、インフルエンザ定点医療機関と感染症流行

予測調査事業にご協力をいただきました県民の皆様に深謝します。

IV 高知県感染症情報（月報）

高知県感染症情報月報 2017年1月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	275	867	1,812	483	222	812	4,471	727	405
小児科	咽頭結膜熱		4	6		1	3	14	58	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	22	76	18	31	13	161	278	263
	感染性胃腸炎	65	186	316	91	45	132	835	1,079	1,079
	水痘	1	24	25	12	1	9	72	155	42
	手足口病			9	1			10	16	2
	伝染性紅斑		6	8	2		5	21	36	27
	突発性発疹	1	8	12	3	2	3	29	42	36
	百日咳			1	2	1		4	7	9
	ヘルパンギーナ								10	
	流行性耳下腺炎		11	13	1	3	5	33	80	82
	RSウイルス感染症	4	14	38		1	25	82	172	150
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			4				4	2	1
STD	性器クラミジア感染症			2				2		1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		1					1		
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎			1				1		
	無菌性髄膜炎									2
	マイコプラズマ肺炎		3	17				20	28	25
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	4	9
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	1			1	3	3	30
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	3	3			3	13	20	23
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		351	1,150	2,346	613	307	1,011	5,778	2,717	2,196
前月		77	457	1,193	264	231	495			
前年同月		88	402	1,025	157	149	375			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2017年1月

全国情報（1月2日～1月29日）

第1週（1月2日～）から第4週（～1月29日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における1月の上位6疾患の合計は133.31で12月の4週間換算110.01に比べて増加した。増加の主因は12月に流行が始まり、本格的な流行期に入ったインフルエンザの増加である。1位はインフルエンザで93.90と12月2位4週換算値22.19に比べて約4.2倍に増加した。2位が感染性胃腸炎で25.15（同1位67.70）と減少した。3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.67（同3位9.27）と減少した。4位が流行性耳下腺炎で2.86（同5位3.69）、5位がマイコプラズマ肺炎で2.52（同4位3.96）と減少した。6位は流行性角結膜炎で2.21（同7位2.66）と横ばいだった。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	インフルエンザ		10.58	15.25	28.66	39.41	93.90
2	感染性胃腸炎		5.31	6.48	7.00	6.36	25.15
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.06	1.45	1.99	2.17	6.67
4	流行性耳下腺炎		0.83	0.85	0.59	0.59	2.86
5	マイコプラズマ肺炎		0.67	0.72	0.62	0.51	2.52
6	流行性角結膜炎		0.58	0.59	0.55	0.49	2.21

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の12月の上位6疾患の合計は133.98と12月の4週間換算59.85に比べ約2.2倍に増加し、全国と同水準となった（表2）。増加の主たる原因はインフルエンザの増加である。今季は本県でA香港H3が26件、AH1pdm09が3件検出されており、全国の流行株の比率と同様である。

1位はインフルエンザで93.15と12月の2位4週間換算12.12と比べて7.7倍に増加し、本県は全国よりも始まりが遅かったが全国と同等となり、本格的な流行になった。2位は感染性胃腸炎で27.83（同1位28.78）と横ばいであり、全国と同等であった。3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.36（同3位7.42）と減少し、全国よりも少なかった。4位はRSウイルス感染症で2.73（同4位4.58）と減少したが、全国よりも多かった。5位はマイコプラズマ肺炎で2.51（同6位2.82）とわずかに減少し、全国と同様であった。6位は水痘で2.40（同5位4.14）と減少し全国よりも多かった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	インフルエンザ		10.21	14.25	28.75	39.94	93.15
2	感染性胃腸炎		4.47	7.23	8.70	7.43	27.83
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.83	1.50	1.60	1.43	5.36
4	RSウイルス感染症		0.80	0.77	0.83	0.33	2.73
5	マイコプラズマ肺炎		0.63	0.75	0.63	0.50	2.51
6	水痘		0.97	0.67	0.33	0.43	2.40

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 4,471名（12月 727名）。全国では前年第34週以降に報告が増加し、本県での流行開始は遅れたものの11月になってまとまった報告があり、12月には著しく増加し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミック（新型インフルエンザ）として記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。1月は、過去10年間では同時期として5番目の報告数であり、きわだって多い数とは言えない。広い年齢層で報告され、20歳未満が63.1%であった。県下全域で警報基準（定点当たり30以上）を超え、特に、高知市、幡多で多く定点当たり100を超えていた。ウイルスはA香港H3が18件、AH1pdm09が2件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 14名（12月 58名）。幡多、中央東、高知市、須崎から、表記の順に多く報告された。同時期は過去10年で50までの報告数で推移しており例年とおりの報告数である。咽頭結膜熱の患者からAdenovirus 1が1件検出された。その他の患者検体からAdenovirus 1と3が各1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 161名（12月 278名）。2014年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平年並み、6月は再び増加した。7月以降減少に転じたものの9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月-1月は平年並みの数となった。県下全域から報告があり、特に須崎、高知市、中央西からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 835名（12月 1,079名）。県下全域で警報基準値20を超えた報告があり、安芸、中央西、高知市、中央東、幡多、須崎の順に多く報告された。

病原体としてはNorovirus GⅡが5件、Rotavirus AG9が2件、Sapovirusが1件検出された。特に強い感染力をもつNorovirusの流行が11月から続いており注意が必要である。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1~3名と減少している。本県でのワクチン接種率は乳児の4割程度で、全国よりも低いと推測されている。

5) 水痘

報告数 72名(12月 155名)。県下全域から報告があり、中央西、中央東、高知市、幡多からの報告が多い。2015年からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、12月は大幅に増加した。2014年10月から始まったワクチン定期化の恩恵を受けていない5歳以上が34名(47%)を占めていた。ワクチンの効果が期待される過去2年間では前月に次いで多い報告数だった。

6) 手足口病

報告数 10名(12月 16名)。初夏に流行が始まる感染症で、例年通りの立ち上がりで、7月以降減少していたが、10月に再び増加に転じたが11月減少し終息に向かっている。高知市と中央西から報告された。ウイルスは検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 21名(12月 36名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。幡多、中央東、高知市、中央西から報告があり、表記の順に多かった。Parvovirus B19は検出されていない。軽症のことが多く、医療機関を訪れる機会も少なく流行状況の正確な把握が難しい側面がある。流行が続けば、成人の関節炎、貧血発作(Aplastic crisis)、流産、胎児水腫といった合併症が増加する可能性があり、注意を要する。

8) 突発性発疹

報告数 29名(12月 42名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 4名(12月 7名)。中央西、須崎、高知市から報告があった。細菌は*Bordetella pertussis*のゲノムが2件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 0名(12月 10名)。例年6~7月から流行がみられるが、今季は、通常の流行の立ち上がり、規模ともに小さかったが、だらだらと報告が続いたが、ようやく終息した。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 33名(12月 80名)。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し、流行が危惧されたが、7月は半減し、以後は例年の流行レベルとなった。安芸以外から報告があり、中央東、須崎、高知市、幡多、中央西で多い。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 82名(12月 172名)。中央西以外から報告があり、幡多、高知市、中央東、安芸、須崎の順に多かった。病原体としてはRS virus Bが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 4名(12月 2名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(12月 0名)。30歳代の1例が高知市から報告された。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(12月 0名)。昨年はEchovirus 6が6例検出されており、今年の動向に注意を要する。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 20名(12月 28名)。高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 13名(12月 20名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(12月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年1月）

類型	病名	報告年																												総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29										
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	131	122	5	1447									
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	131	122	5	1447									
3	コレラ	1					1					1									3									
	バラチフス	2																			2									
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												25									
	腸チフス		1						1										1		3									
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191									
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34		224									
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3							3	1	32									
	Q熱	1	1	2				1													5									
	オウム病			1		1															2									
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1	75									
	マラリア							2						1							3									
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3		51									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13		143									
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1								6									
	レプトスピラ症										1			4	2	1					8									
	E型肝炎												1	1							2									
	デング熱												1			3	2	1			7									
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7		24									
		計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	1	358								
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			7	3	2		36									
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1				54									
	カルバペム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	1	48									
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3			2					28									
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						7									
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1						1								1			3									
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		17									
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1	1	1	3		1		3		13									
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9		59									
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	1	10									
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	2	35									
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3									
	播種性クリプトコックス症																		1		1									
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1									
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3		29									
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	12	12	2	137									
	麻疹										5										5									
風しん										1	1				4	9	1			16										
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	64	72	6	502									
新型	新型インフルエンザ										34										34									
	計										34										34									
動物	鳥インフルエンザ													1							1									
	計													1							1									
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	213	256	12	2,566									

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

平成29年1月はウイルス91件，細菌14件の搬入があり，そのうちウイルス41件，細菌2件の病原体を検出し，また，平成28年12月に搬入された検体でウイルス4件，11月に搬入された検体でウイルス1件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 2件，Adenovirus 2 1件，Adenovirus 3 1件，Coxsackievirus A2 1件，Coxsackievirus B1 1件，Cytomegalovirus 2件，Enterovirus NT 1件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 3件，Influenza virus A H1pdm09 2件，Influenza virus A H3 NT 18件，Norovirus GII NT 5件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 3件，Rotavirus group A G9 2件，Sapovirus genogroup unknown 1件であった。また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 2件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	男	手足口病	39℃，発疹，	ふん便	11. 18	Enterovirus NT
2	11ヶ月	男	ヘルパンギーナ	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	12. 12	Human herpes virus 6
3	9ヶ月	男	腸重積症	嘔吐，嘔気，腹痛，咳嗽，	ふん便	12. 14	Adenovirus 3
4	0ヶ月	女	急性咽頭炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	12. 14	Coxsackievirus B1
5	5ヶ月	女	口内炎，発疹（水泡）	38℃，水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	12. 19	Cytomegalovirus
6	1	男	—	39℃，咳嗽，上気道炎，気管支炎， 肝機能，	ふん便	12. 19	Adenovirus 2
7	1	女	—	40℃，下気道炎，	鼻汁吸引	12. 20	Rhinovirus
8	3	女	呼吸器疾患	咳嗽，上気道炎，	鼻咽腔ぬぐい液	12. 21	Rhinovirus
9	3ヶ月	女	百日咳		ぬぐい液	12. 21	<i>Bordetella pertussis</i>
10	14	女	インフルエンザ	39℃，咳嗽，関節痛，	ぬぐい液	12. 24	Influenza virus A H3 NT
11	7	男	インフルエンザ	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	12. 24	Influenza virus A H1pdm09
12	1	男	不明発疹症	37℃，嘔吐，発疹，	ぬぐい液	12. 24	Coxsackievirus A2
13	1	男	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	12. 24	Influenza virus A H3 NT
14	1	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	12. 24	Norovirus GII NT
15	4	女	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	12. 26	Influenza virus A H3 NT
16	66	女	インフルエンザ		ぬぐい液	12. 26	Influenza virus A H3 NT
17	9	女	インフルエンザ	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	12. 27	Influenza virus A H3 NT
18	9	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12. 27	Influenza virus A H3 NT
19	8ヶ月	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	12. 27	Norovirus GII NT
20	4	女	—	咳嗽，	鼻腔	12. 27	Respiratory syncytial virus B
21	29	女	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	1. 2	Influenza virus A H3 NT
22	5	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，腹痛，咳嗽，上気道炎，	ふん便	1. 2	Rhinovirus
23	1	男	咽頭結膜熱	41℃，	ぬぐい液	1. 3	Adenovirus 1
24	1	男	—	咳嗽，	ぬぐい液	1. 4	Adenovirus 1
25	1	女	—	40℃，発疹，	鼻咽腔ぬぐい液	1. 5	Cytomegalovirus
26	1	女	—	発疹，	ぬぐい液	1. 5	Epstein-Barr virus
27	2	女	インフルエンザ	39℃，下痢，	ぬぐい液	1. 6	Influenza virus A H3 NT
28	26	女	インフルエンザ		ぬぐい液	1. 7	Influenza virus A H3 NT
29	3	男	インフルエンザ	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	1. 10	Influenza virus A H3 NT
30	14	女	インフルエンザ	39℃，咳嗽，	ぬぐい液	1. 10	Influenza virus A H3 NT
31	6	男	百日咳	咳嗽，	ぬぐい液	1. 11	<i>Bordetella pertussis</i>
32	5	男	口内炎（ウイルス性？）	37℃，口内炎，	ぬぐい液	1. 11	Human herpes virus 7
33	50	女	インフルエンザ	39℃，関節痛，	ぬぐい液	1. 12	Influenza virus A H1pdm09
34	4	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	1. 12	Influenza virus A H3 NT
35	9	男	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	1. 14	Influenza virus A H3 NT
36	9	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛， 肝機能，	ふん便	1. 15	Rotavirus group A G9

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
37	12	女	インフルエンザ	40℃, 関節痛,	ぬぐい液	1. 16	Influenza virus A H3 NT
38	6	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 17	Norovirus GII NT
39	52	男	インフルエンザ	37℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 17	Influenza virus A H3 NT
40	1	男	感染性胃腸炎	39℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 17	Norovirus GII NT
41	13	女	インフルエンザ	40℃, 腹痛, 関節痛,	ぬぐい液	1. 18	Influenza virus A H3 NT
42	1	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 18	Sapovirus genogroup unknown
43	13	女	伝染性紅斑の疑い	39℃, 発疹,	ぬぐい液	1. 19	Human herpes virus 7
44	2	男	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛, 咳漱,	ふん便	1. 20	Norovirus GII NT
45	8	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	1. 23	Human herpes virus 7
46	10	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	1. 23	Influenza virus A H3 NT
47	2	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	1. 23	Rotavirus group A G9
48	13	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1. 24	Influenza virus A H3 NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2016年												2016年 総計	2017年 総計	2017年	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>													1			
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1	1				1								2			
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4	1				2								3			
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					1								1			
	Epstein-Barr virus													1			
計	3				4								5				
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT													1			
	Influenza virus A H1pdm09	7	45	10	2								8	9	18	2	18
	Influenza virus B /Victoria	2	3		1	1							1	65			
	Influenza virus B Yamagata	1	12	8	9	1								7			
	Coxsackievirus A4							1		1				31			
	Echovirus 6				1									1			
	Human herpes virus 6								1					1			
	Human herpes virus 7									1				1			
	Respiratory syncytial virus B									1				1			
計	11	60	19	12	2	3	1			1		9	117	20		20	
咽頭結膜炎	Adenovirus 1													1			
	Coxsackievirus A4													1			
	Human herpes virus 6													1			
	Human herpes virus 7													1			
計													4				
感染性胃腸炎	Adenovirus 2													2			
	Adenovirus 4													1			
	Adenovirus 5													1			
	Adenovirus 41													1			
	Adenovirus NT													1			
	Astrovirus NT													1			
	Coxsackievirus A2													2			
	Coxsackievirus A4													1			
	Coxsackievirus A9													2			
	Coxsackievirus A14													1			
	Coxsackievirus B4													1			
	Echovirus 6													1			
	Echovirus 30													1			
	Epstein-Barr virus													1			
	Human herpes virus 6													1			
	Norovirus GII NT													1			
	Parechovirus 3													1			
	Rhinovirus													1			
	Rotavirus group A G2													1			
	Rotavirus group AG3													1			
	Rotavirus group AG8													1			
	Rotavirus group AG9													1			
	Rotavirus group A NT													1			
Sapovirus genogroup unknown													1				
<i>Salmonella</i> Enteritidis													6	3	14	1	
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i>													1				
<i>Enterosaxitina Escherichia coli</i> O126:H27 <i>aggR</i>													1				
計	11	5	14	7	1	5	5	5	2	2	16	14	87	9		9	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 41													1			
	Coxsackievirus A2													1			
	Coxsackievirus A4													1			
	Coxsackievirus A5													1			
	Coxsackievirus A10													1			
	Human herpes virus 6													1			
	Human metapneumovirus													1			
計													7				
手足口病	Adenovirus 3													1			
	Coxsackievirus A6													1			
	Coxsackievirus A14													1			
	Cytomegalovirus													1			
	Enterovirus NT													1			
	Human herpes virus 6													1			
	Human herpes virus 7													1			
	Parechovirus 3													1			
	Rhinovirus													1			
	計													10			
流行性角結膜炎	Adenovirus 2												1				
計													1				
伝染性紅斑	Human herpes virus 7													1			
	human parvovirus B19 virus													1			
	Parechovirus 3													1			
	Respiratory syncytial virus A													1			
計													3				
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>													1			
	<i>Bordetella pertussis</i>													1			
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>													1			
計													3				
流行性耳下腺炎	Mumps virus													1			
	計													1			
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B3													1			
	Cytomegalovirus													1			
	Echovirus 6													1			
	Echovirus 30													1			
	Human herpes virus 7													1			
	Mumps virus													1			
	Parechovirus 3													1			
	Parainfluenza virus 3													1			
	Rhinovirus													1			
	Respiratory syncytial virus A													1			
計													10				
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>													1			
	計													1			
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A													1			
	Respiratory syncytial virus B													1			
計													2				
水痘	計													2			
	計													2			
突発性発疹	Coxsackievirus A4													1			
	Cytomegalovirus													1			
	Human herpes virus 6													1			
計													3				
その他	Adenovirus 1													1			
	Adenovirus 2													1			
	Adenovirus 3													1			
	Adenovirus 41													1			
	<i>Bordetella pertussis</i>													1			
	Coxsackievirus A2													1			
	Coxsackievirus A4													1			
	Coxsackievirus A14													1			
	Coxsackievirus A16													1			
	Coxsackievirus B1													1			
	Cytomegalovirus													1			
	Echovirus 6													1			
	Echovirus 18													1			
	Enterovirus NT													1			
	Epstein-Barr virus													1			
	Herpes simplex virus 1													1			
	Human herpes virus 6													1			
	Human herpes virus 7													1			
	Human metapneumovirus													1			
	human parvovirus B19													1			
	Mumps virus													1			
	Norovirus GII NT													1			
	Parainfluenza virus 1													1			
	Parainfluenza virus 3													1			
	Respiratory syncytial virus A													1			
	Respiratory syncytial virus B													1			
	Rhinovirus													1			
Rotavirus group A G2													1				
Sapovirus genogroup unknown													1				
計	20	10	12	7	8	14	8	11	6	7	9	5	117	10		10	
総計	49	89	49	32	26	42	35	26	25	26	37	34	470	43		43	

高知県感染症情報月報 2017年2月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	299	1,314	2,995	951	613	1,024	7,196	4,471	5,741
小児科	咽頭結膜熱		1	12			19	32	14	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	23	157	25	7	88	302	161	372
	感染性胃腸炎	62	181	249	71	27	157	747	835	685
	水痘		6	13	5		6	30	72	22
	手足口病			4				4	10	5
	伝染性紅斑		3	9			4	16	21	26
	突発性発疹		3	17	4	3	3	30	29	35
	百日咳			3				3	4	12
	ヘルパンギーナ			1				1		2
	流行性耳下腺炎	2	5	8		13	2	30	33	66
	RSウイルス感染症	2	8	20	20	1	10	61	82	209
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1	4	2
STD	性器クラミジア感染症								2	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									1
	尖圭コンジローマ								1	
	淋菌感染症									1
基幹	細菌性髄膜炎								1	
	無菌性髄膜炎			2				2		
	マイコプラズマ肺炎		3	4			3	10	20	21
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								2	7
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	2				3	3	49
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1		9			1	11	13	33
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		368	1,548	3,506	1,076	664	1,317	8,479	5,778	7,300
前月		351	1,150	2,346	613	307	1,011			
前年同月		156	1,528	3,132	765	720	999			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2017年2月

全国情報（1月30日～2月26日）

第5週（1月30日～）から第8週（～2月26日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における2月の上位6疾患の合計は144.36で1月の133.31に比べて増加した。増加の主因は12月に流行が始まり、本格的な流行期に入ったインフルエンザの増加である。1位はインフルエンザで107.50と1月の93.90と比べて増加した。2位が感染性胃腸炎で21.53（同2位25.15）と減少した。3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.45（同3位6.67）と増加した。4位が流行性耳下腺炎で2.46（同4位2.86）とわずかに減少、5位が流行性角結膜炎で1.76（同6位2.21）、6位がマイコプラズマ肺炎で1.66（同5位2.52）と減少した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ		38.14	28.57	23.92	16.87	107.50
2	感染性胃腸炎		5.80	5.01	5.42	5.30	21.53
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.32	2.17	2.50	2.46	9.45
4	流行性耳下腺炎		0.66	0.53	0.64	0.63	2.46
5	流行性角結膜炎		0.47	0.41	0.44	0.44	1.76
6	マイコプラズマ肺炎		0.49	0.42	0.38	0.37	1.66

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の2月の上位6疾患の合計は189.25と1月の133.98と比べ増加し、全国よりも多かった（表2）。増加の主たる原因はインフルエンザの増加である。2016/17シーズンは本県でA香港H3が44件、AH1pdm09が5件検出されており、全国の流行株の比率と同様である。1月以降にB/Victoriaが3件、B/Yamagataが1件検出され、今後は春先にかけて、これらB型の増加がみこまれる。

1位はインフルエンザで149.92と1月の93.15と比べて、1.6倍に増加し、本県は全国よりも始まりが遅かったが全国を上回り、本格的で大きな流行になった。2月は、インフルエンザは多い数字で推移したものの、第5週から第8週にかけて週ごとに徐々に減少し、A型インフルエンザはピーク期を過ぎたと思われる。2位は感染性胃腸炎で24.91（同2位27.83）と減少したが、全国よりも多かった。3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で10.07（同3位5.36）と増加し、全国と同等だった。4位はRSウイルス感染症で2.03（同4位2.73）と減少したが、全国よりも多かった。5位はマイコプラズマ肺炎で1.26（同5位2.51）と減少し、全国よりも少なかった。6位

は咽頭結膜熱で1.06（同11位0.48）と増加したが、全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ		50.60	41.63	33.67	24.02	149.92
2	感染性胃腸炎		7.17	6.77	6.27	4.70	24.91
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.33	2.47	3.07	2.20	10.07
4	RSウイルス感染症		0.67	0.53	0.53	0.30	2.03
5	マイコプラズマ肺炎		0.25	0.63	0.13	0.25	1.26
6	咽頭結膜熱		0.23	0.27	0.33	0.23	1.06

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 7,196名（1月 4,471名）。全国では前年第34週以降に報告が増加した。本県での流行開始は遅れたものの11月になってまとまった報告があり、12月には著しく増加し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミック（新型インフルエンザ）として記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。1月は、過去10年間では同時期として5番目の報告数であり、きわだって多い数とは言えなかった。2月としては、今年が過去10年間で最多の報告となり、また1か月間として、2015年1月、2016年3月、2009年11月に次ぐ報告数であることに加え、流行期間も長いことから大きな流行になりそうである。都道府県別でも高知県は最多の報告数であった。

広い年齢層で報告され、20歳未満が68.5%を占めていた。1月に続いて2月も県下全域で警報基準（定点当たり30以上）を超え、特に、中央西、高知市、須崎、幡多、中央東で表記の順に多く定点当たり100を超えていた。ウイルスはA香港H3が14件、AH1pdm09が2件、B/Victoriaが2件、B/Yamagataが1件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 32名（1月 14名）。幡多、高知市、中央東から、表記の順に多く報告された。きわだって多い報告数ではないが、同時期としては過去10年で2011年に次いで2番目に多い報告数である。ウイルスは1件も検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 302名（1月 161名）。2014年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月はほぼ平年並み、6月は再び増加した。7月以降減少に転じたものの9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移

し、11月-1月は平年並みの数となっていた。2月は再増加し、同時期としては過去10年間で2016年に次ぐ2番目に多い報告数となった。県下全域から報告があり、特に幡多、高知市、中央西からの報告が多い。細菌はT1とUntypableが各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 747名(1月 835名)。須崎を除く県下全域で、警報基準値20を超えた報告があり、幡多、安芸、中央東、中央西、高知市、須崎の順に多く報告された。病原体としてはNorovirus GⅡ、Astrovirusが各1件検出された。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1~3名と減少している。本県でのワクチン接種率は乳児の4割程度で、全国よりも低いと推測されている。

5) 水痘

報告数 30名(1月 72名)。中央西、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。2015年からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加したが、1月72名、2月30名と減少した。2014年10月から始まったワクチン定期化の恩恵を受けていない5歳以上が13名(43.3%)を占めていた。ウイルスは水痘患者からの検出はないが、帯状疱疹性髄膜炎の髄液からVaricella-Zoster virusが1件検出されている。

6) 手足口病

報告数 4名(1月 10名)。初夏に流行が始まる感染症で、2016年は例年通りの立ち上がりで、7月以降減少していたが、10月に再び増加に転じたが11月減少し終息に向かっている。高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 16名(1月 21名)。2015年以降、全国的に例年に比べて多い傾向で推移している。高知市、幡多、中央東から報告があり、表記の順に多かった。Parvovirus B19は検出されていない。軽症のことが多く、医療機関を訪れる機会も少なく流行状況の正確な把握が難しい側面がある。流行が続けば、成人の関節炎、貧血発作(Aplastic crisis)、流産、胎児水腫といった合併症が増加する可能性があり、注意を要する。

8) 突発性発疹

報告数 30名(1月 29名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 3名(1月 4名)。高知市から報告があった。細菌は*Bordetella pertussis*のゲノムが1件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 1名(1月 0名)。例年6-7月から流行がみられるが、今季は、通常の流行の立ち上がり、規模ともに小さい一方で、ただらと報告が続いたがようやく終息した。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 30名(1月 33名)。全国的にも増加が報告され注目されている。高知県でも6月に倍増し、流行が危惧されたが、7月は半減し、以後は例年の流行レベルとなった。中央西以外から報告があり、特に須崎で多い。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 61名(1月 82名)。県下全域から報告があり、特に中央西で多い。ウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(1月 4名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(1月 1名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 2名(1月 0名)。昨年はEchovirus 6が6例検出されており、今年の動向に注意を要する。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 10名(1月 20名)。幡多、中央東、高知市から報告された。百日咳と臨床診断された患者から2件細菌ゲノムが検出された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 11名(1月 13名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(1月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県における月別全数報告疾患（平成29年2月）

類型	病名	報告年																		総計		
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		29	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	12	1,452	
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	12	1,452	
3	コレラ	1					1					1									3	
	パラチフス	2																			2	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												25	
	腸チフス		1						1										1		3	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191	
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34		224		
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3						3	1	32	
	Q熱	1	1					1													5	
	オウム病			1		1															2	
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1	75
	マラリア									2					1						3	
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	1	52	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13		143	
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1								6	
	レプトスピラ症											1		4	2	1					8	
	E型肝炎												1		1						2	
	デング熱												1				3	2	1		7	
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	24	
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	2	359	
	5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2		36
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1			54	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																		7	19	21	1	48
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				28	
ジアルジア症			1	2	1						1			1	1						7	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1							1								1		3	
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1			1	1	1	17	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1		1	3		1			3	13	
後天性免疫不全症候群		2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	1	60	
侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	5	3	1	10	
侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	16	4	37	
水痘（入院例に限る）																		2	1		3	
播種性クリプトコックス症																				1	1	
髄膜炎菌性髄膜炎											1										1	
破傷風			3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3		29	
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	3	137	
麻しん											5										5	
風しん										1	1			4	9	1				16		
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	10	505		
新型	新型インフルエンザ										34										34	
計											34										34	
動物	鳥インフルエンザ												1								1	
計													1								1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	24	2,575	

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

2月はウイルス57件，細菌11件の搬入があり，そのうちウイルス27件，細菌5件の病原体を検出し，また，平成29年1月に搬入された検体でウイルス11件，細菌2件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Astro virus NT 1件，Cytomegalo virus 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 2件，human metapneumovirus 1件，Influenza virus A H1pdm09 2件，Influenza virus A H3 NT 18件，Influenza virus B/Victoria 3件，Influenza virus B/Yamagata 1件，Norovirus GII NT 6件，Respiratory syncytial virus A 1件，Varicella-zoster virus 1件，また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 1件，*Mycoplasma pneumoniae* 4件，*Streptococcus pyogenes* T1 1件，*Streptococcus pyogenes* Untypable 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	10ヶ月	男	不明発疹症	41℃，嘔吐，咳漱，	ぬぐい液	1.12	Cytomegalovirus Human herpes virus 6
2	10	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	1.25	Influenza virus A H3 NT
3	8	女	インフルエンザ	-	ぬぐい液	1.27	Influenza virus A H3 NT Influenza virus B/Victoria
4	14	男	感染性胃腸炎	41℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	1.27	Norovirus GII NT
5	6	女	感染性胃腸炎	40℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	1.28	Norovirus GII NT
6	4	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	1.28	Norovirus GII NT
7	2	女	-	38℃，発疹，	ぬぐい液	1.30	Human herpes virus 7
8	31	女	インフルエンザ	41℃，肺炎，	鼻咽腔ぬぐい液	1.30	Influenza virus A H3 NT
9	64	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	1.30	Influenza virus A H3 NT
10	10	女	インフルエンザ	39℃，下痢，腹痛，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	1.30	Influenza virus A H3 NT
11	8	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	1.30	Norovirus GII NT
12	3	女	百日咳	37℃，咳漱，	ぬぐい液	1.30	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
13	12	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	1.31	Influenza virus A H3 NT
14	3	男	感染性胃腸炎	下痢，腹痛，	ふん便	1.31	Astrovirus NT
15	5	男	百日咳	38℃，咳漱，	ぬぐい液	1.31	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
16	4	女	インフルエンザ	40℃，咳漱，関節痛，	ぬぐい液	2.1	Influenza virus A H1pdm09
17	54	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	2.1	Influenza virus A H3 NT
18	18	男	無菌性髄膜炎	39℃，嘔吐，嘔気，	髄液	2.1	Varicella-zoster virus
19	10	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，	ふん便	2.2	Norovirus GII NT
20	10	男	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2.3	Influenza virus A H3 NT
21	9	女	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2.6	Influenza virus A H3 NT
22	4	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	2.7	Influenza virus B/Victoria
23	5	女	インフルエンザ様疾患	38℃，咳漱，	ぬぐい液	2.7	Influenza virus A H1pdm09
24	3	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	2.8	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable
25	9	女	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	2.8	<i>Bordetella pertussis</i>
26	44	女	インフルエンザ	37℃，上気道炎，	ぬぐい液	2.9	Influenza virus A H3 NT
27	6	女	インフルエンザ	41℃，	ぬぐい液	2.9	Influenza virus A H3 NT
28	4	女	急性扁桃炎	40℃，嘔吐，嘔気，腹痛，咳漱， 上気道炎，	ぬぐい液	2.10	Human metapneumovirus
29	2	男	消化器疾患	38℃，下痢，	ふん便	2.12	Norovirus GII NT
30	3	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40℃，	ぬぐい液	2.13	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
31	6	女	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2.13	Influenza virus A H3 NT
32	14	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	2.13	Influenza virus A H3 NT
33	14	女	インフルエンザ	40℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	2.14	Influenza virus A H3 NT
34	14	男	インフルエンザ	39℃，関節痛，	ぬぐい液	2.14	Influenza virus A H3 NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
35	7	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus A H3 NT
36	9	女	インフルエンザ	39℃, 筋肉痛,	ぬぐい液	2.15	Influenza virus B/Yamagata
37	5	男	伝染性紅斑疑い	37℃, 発疹,	ぬぐい液	2.15	Human herpes virus 7
38	52	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus A H3 NT
39	8	男	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	2.16	Influenza virus B/Victoria
40	10	男	肺炎	39℃, 下気道炎, 肺炎,	鼻汁	2.20	Respiratory syncytial virus A
41	3	女	インフルエンザ	40℃, 関節痛,	ぬぐい液	2.20	Influenza virus A H3 NT
42	9	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	2.20	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
43	6	男	百日咳	咳漱,	ぬぐい液	2.21	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

高知県感染症情報月報 2017年3月

(64定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	57	465	828	266	169	660	2,445	7,196	7,619
小児科	咽頭結膜熱		3	10	1		9	23	32	12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	13	140	23	20	139	340	302	357
	感染性胃腸炎	44	184	236	25	21	134	644	747	927
	水痘	6	12	19		1	2	40	30	34
	手足口病		1	1				2	4	
	伝染性紅斑		4	6			4	14	16	26
	突発性発疹	1	11	27	3	2	10	54	30	30
	百日咳		1	4			1	6	3	7
	ヘルパンギーナ						1	1	1	1
	流行性耳下腺炎	1		7	1	16	2	27	30	62
	RSウイルス感染症	1	10	13	6		5	35	61	126
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1	1	
STD	性器クラミジア感染症									
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									1
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎			1				1	2	
	マイコプラズマ肺炎		4	8				12	10	11
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			3				3	3	5
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)						3	3	3	101
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	2	15			3	21	11	9
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1				1		
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		116	710	1,320	325	229	973	3,673	8,479	9,328
前月		368	1,548	3,506	1,076	664	1,317			
前年同月		328	2,423	3,281	960	632	1,704			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2017年3月

全国情報（2月27日～4月2日）

第9週（2月27日～）から第13週（～4月2日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における3月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると76.98で2月の144.36に比べて減少した。減少の原因は12月から流行していたインフルエンザの減少である。1位はかわらずインフルエンザで4週換算値39.57と2月の107.50に比べて減少した。2位が感染性胃腸炎で21.74（同2位21.53）、3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.36（同3位9.45）、4位が流行性耳下腺炎で2.42（同4位2.46）と変動をみとめなかった。5位に登場したロタウイルス胃腸炎は2.00（同11位0.60）と増加した。ロタウイルスは近年4～5月に流行がみられるが、2011年以降、任意の予防接種が実施されるようになって減少していたので、動向が注目される。6位が流行性角結膜炎で1.88（同5位1.76）とほぼ横ばいだった。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ		13.55	11.09	10.33	7.71	6.78	49.46
2	感染性胃腸炎		5.40	5.59	5.80	5.01	5.38	27.18
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.43	2.61	2.60	2.08	1.98	11.70
4	流行性耳下腺炎		0.61	0.65	0.62	0.57	0.58	3.03
5	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		0.32	0.39	0.59	0.59	0.61	2.50
6	流行性角結膜炎		0.46	0.45	0.46	0.45	0.53	2.35

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の3月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると70.71で、2月の189.25と比べ減少し、全国よりも少なかった（表2）。減少の主たる原因はインフルエンザの減少である。2016/17シーズンは本県でA香港H3が54件、AH1pdm09が5件検出されており、全国の流行株の比率と同様である。1月以降にB/Victoriaが4件、B/Yamagataが1件検出され、春先にかけて、B型の増加がみこまれる。

1位はインフルエンザで4週換算では40.75と2月の149.92に比べて大幅に減少した。高知県は全国よりも流行開始が遅かったが全国を上回り、本格的で大きな流行になった。2月は、インフルエンザは多い数字で推移したものの、第5週以降は週ごとに徐々に減少し、インフルエンザはピーク期を過ぎたと思われる。2位は感染性胃腸炎で17.18（同2位24.91）と減少し、全国よりも少なかった。3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.06（同3位10.07）と減少し、全国と同等だった。4位は突発性発疹で1.45

（同7位1.01）と増加したが全国よりも少なかった。5位はマイコプラズマ肺炎で1.21（同5位1.26）と増減なく、全国よりも少なかった。6位は水痘で1.06（同9位0.99）とわずかに増加したが、全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ		14.73	10.00	11.31	8.13	6.77	50.94
2	感染性胃腸炎		5.37	4.47	4.50	3.53	3.60	21.47
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.23	2.93	2.37	1.73	2.07	11.33
4	突発性発疹		0.47	0.33	0.27	0.37	0.37	1.81
5	マイコプラズマ肺炎		0.75	0.25	0.25	0.13	0.13	1.51
6	水痘		0.20	0.23	0.20	0.23	0.47	1.33

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2,445名（2月 7,196名）。全国では前年第34週以降に報告が増加した。本県での流行開始は遅れたが、11月からまとまった報告があり、12月には著増し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミック（新型インフルエンザ）として記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。1月は、過去10年間では同時期として5番目の報告数だった。しかし、2月は、同時期として、過去10年間で最大の報告となり、都道府県別での最多を記録し、1か月間として、2015年1月、2016年3月、2009年11月に次ぐ報告数であった。3月は平年並みの数に落ち着いてきたが、今季は、流行期間も長いことから大きな流行になりそうである。

広い年齢層で報告され、20歳未満が54.8%で2月の68.5%よりも減少し、成人患者の割合が高くなったことを意味している。春休みの影響もあろうが、成人患者が多いことは今季流行のひとつの特徴かもしれない。1・2月に続いて3月も安芸を除く県下全域で警報基準（定点当たり30以上）を超え、特に、幡多、中央西、高知市、中央東、須崎の順に多かった。ウイルスはA香港H3が5件、B/Victoriaが1件が検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 23名（2月 32名）。幡多、高知市、中央東、中央西から、表記の順に多く報告された。きわだって多い報告数ではないが、同時期としては多めで推移している。ウイルスはAdenovirus 2型、3型が各1件、加えて、感染性胃腸炎から2型が2件検出されている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 340名(2月 302名)。2014年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月以降にいったん沈静化した。9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月-1月は平年並みの数となっていた。2月は再増加し、3月も多い数字で推移している。県下全域から報告があり、特に幡多、高知市、須崎からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 644名(2月 747名)。中央西と須崎を除く地域で、警報基準値20を超える報告があり、幡多、中央東、安芸、高知市の順に多く報告された。病原体としてはNorovirus GII NTが3件、Adenovirus 2型が2件、Sapovirus、Coxsackievirus B1、*Staphylococcus aureus* Vが各1件検出された。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、2016年は3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1~3名と減少していた。全国で流行が始まっているが、本県でのワクチン接種率は乳児の4割程度で、全国よりも低いと推測されているので、今後の動向が注目される。

5) 水痘

報告数 40名(2月 30名)。安芸、高知市=中央東(定点当たり同数1.72)、須崎、幡多から表記の順に多く報告された。2015年からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加、1月72名、2月30名、3月40名と減少している。2014年10月から始まったワクチン定期化の恩恵を受けていない5歳以上と乳児が20名(50%)を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 2名(2月 4名)。初夏に流行が始まる感染症で、2016年は例年通りの立ち上がりで、7月以降は減少、10月に再び増加したが11月以降は減少し終息に向かっている。中央東と高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 14名(2月 16名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移している。幡多、中央東、高知市から報告があり、表記の順に多かった。Parvovirus B19は検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 54名(2月 30名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 6名(2月 3名)。高知市、幡多、中央東から報告があった。重症化する0歳児例が3例報告されている。細菌は*Bordetella pertussis*のゲノムが2件検出された。高知県では百日咳の入院例に限定した全数調査が2016年から開始されている(厚生労働省班会議研究の拠点調査)。

10) ヘルパンギーナ

報告数 1名(2月 1名)。例年6-7月から流行がみられるが、今季は、通常の流行の立ち上がり、規模ともに小さい一方で、だらだらと報告が続いたが終息した。今年はまだウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 27名(2月 30名)。須崎、高知市、安芸、幡多、中央西から、表記の順位多く報告された。2月に続き須崎で流行がある。全国的にも増加が報告され注目されているが、今後、高知県でも流行すると予想されている。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 35名(2月 61名)。須崎を除く地域から報告があり、中央西、中央東、高知市、幡多で多い。ウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(2月 1名)。高知市で報告された。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(2月 0名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(2月 2名)。高知市から1名報告があったがウイルスは検出されていない。昨年はEchovirus 6が6例検出されており、今年の動向に注意したい。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 12名(2月 10名)。高知市、中央東から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名(2月 11名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
 報告数 1名(2月 0名)、2014年は計4例、
 2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
 前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患(平成29年3月)

類型	病名	報告年																		総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		29
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	22	1,462
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	22	1,462
3	コレラ	1					1						1								3
	バラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												25
	腸チフス		1						1										1		3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34		224
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2					1												5
	オウム病			1		1															2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1	75
	マラリア								2						1						3
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	52
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13		143
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症												1		4	2	1				8
	E型肝炎													1		1					2
	デング熱													1			3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	24
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	2	359
	5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	2
ウイルス性肝炎		11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			1	55
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	2	49
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				28
ジアルジア症			1	2	1							1			1	1					7
バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1								1						1			3
急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		17
劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1		1	3		1		3		13
後天性免疫不全症候群		2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	1	60
侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	5	3	2	11
侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	16	7	40
水痘(入院例に限る)																		2	1		3
播種性クリプトコックス症																				1	1
髄膜炎菌性髄膜炎										1											1
破傷風			3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3		29
梅毒		2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	4	138
麻しん											5										5
風しん											1	1			4	9	1				16
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	20	515	
新型	新型インフルエンザ												34							34	
	計												34							34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	44	2,595

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

3月はウイルス32件，細菌5件の搬入があり，そのうちウイルス20件，細菌3件の病原体を検出し，また，平成29年2月に搬入された検体でウイルス9件，細菌2件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 3件，Adenovirus 3 1件，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus B1 1件，Echovirus 3 1件，Echovirus 9 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 1件，Influenza virus A H3 NT 10件，Influenza virus B/Victoria 1件，Norovirus GII NT 5件，Rhinovirus 2件，Sapovirus genogroup unknown 1件，また，細菌の内訳は，*Bordetella pertussis* 2件，*Staphylococcus aureus* V 1件，*Streptococcus agalactiae* 1件，*Streptococcus pyogenes* Untypable 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	3	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃，発疹，	ぬぐい液	2.15	<i>Streptococcus agalactiae</i>
2	4	女	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	2.15	Astrovirus NT
3	8	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	2.16	Norovirus GII NT
4	11	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	2.20	Norovirus GII NT
5	47	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，筋肉痛，	ぬぐい液	2.21	Influenza virus A H3 NT
6	4ヶ月	男	感染性胃腸炎	39℃，	ふん便	2.21	Coxsackievirus B1
7	8	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃，	ぬぐい液	2.22	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable
8	1	女	咽頭結膜熱	40℃，肺炎，	ぬぐい液	2.22	Adenovirus 2 Echovirus 9
9	7ヶ月	女	不明発疹症	37℃，発疹，	ぬぐい液	2.22	Rhinovirus
10	10	男	インフルエンザ	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	2.23	Influenza virus A H3 NT
11	3	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2.24	Influenza virus A H3 NT
12	6	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	2.27	Influenza virus A H3 NT
13	2	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	2.27	Influenza virus A H3 NT
14	1ヶ月	女	ウイルス性敗血症	40℃，	ふん便，鼻汁	2.27	Echovirus 3
15	3	女	咽頭結膜熱	40℃，下痢，咳漱，発疹，結膜炎，	鼻咽頭	2.27	Human herpes virus 6
16	1	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	2.28	Human herpes virus 7
17	1	女	急性咽頭炎	40℃，	ぬぐい液	3. 1	Rhinovirus
18	1	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 2	Norovirus GII NT
19	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 2	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
20	9ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	3. 3	Adenovirus 2 Norovirus GII NT
21	93	女	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 4	Influenza virus A H3 NT
22	6	男	咽頭結膜熱	39℃，下気道炎，	鼻汁吸引液	3. 6	Adenovirus 3
23	6	女	インフルエンザ	39℃，関節痛，	ぬぐい液	3. 8	Influenza virus A H3 NT
24	7ヶ月	男	感染性胃腸炎，心肺停止	嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	3. 8	Adenovirus 2
25	91	女	インフルエンザ	37℃，咳漱，	ぬぐい液	3.10	Influenza virus A H3 NT
26	1	女	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	3.10	<i>Staphylococcus aureus</i> V
27	5	男	インフルエンザ	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	3.13	Influenza virus B/Victoria
28	1	男	百日咳	咳漱，	ぬぐい液	3.13	<i>Bordetella pertussis</i>
29	7	男	インフルエンザ	40℃，腹痛，関節痛，	ぬぐい液	3.14	Influenza virus A H3 NT
30	81	女	インフルエンザ	37℃，咳漱，	ぬぐい液	3.17	Influenza virus A H3 NT
31	2ヶ月	男	百日咳 疑い	咳漱，上気道炎，下気道炎，	鼻咽頭ぬぐい液	-	<i>Bordetella pertussis</i>

高知県感染症情報月報 2017年4月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ	14	62	149	66	36	57	384	2,445	1,009
小児科	咽頭結膜熱		2	5	2		1	10	23	16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	23	140	9	31	37	244	340	242
	感染性胃腸炎	16	98	167	4	13	31	329	644	579
	水痘	7	13	31	5		1	57	40	13
	手足口病								2	4
	伝染性紅斑		4	4	1		3	12	14	22
	突発性発疹	5	13	17	4	3	6	48	54	42
	百日咳			1				1	6	8
	ヘルパンギーナ		1					1	1	8
	流行性耳下腺炎		5	7	1	14	1	28	27	59
	RSウイルス感染症	1	1	23		2	7	34	35	68
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎								1	2
STD	性器クラミジア感染症			2				2		2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ			1				1		
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎								1	1
	マイコプラズマ肺炎		1	3			5	9	12	13
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1	3	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			12			1	13	3	36
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	3	15			3	22	21	20
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								1	1
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		48	226	578	92	99	153	1,196	3,673	2,147
前月		116	710	1,320	325	229	973			
前年同月		106	455	809	210	171	396			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2017年4月

全国情報（4月3日～4月30日）

第14週（4月3日～）から第17週（～4月30日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における4月の上位6疾患の合計は58.22で3月の4週換算値76.98に比べて減少した。減少の原因は12月から流行していたインフルエンザの減少である。1位は感染性胃腸炎で24.90（3月2位4週換算で21.74）とわずかに増加した。2位がインフルエンザで16.23（同1位39.57）と減少した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.46（同3位9.36）と横ばいで、4位がロタウイルス性胃腸炎で3.24（同5位2.00）と増加した。5位は流行性角結膜炎で2.22（同6位1.88）とわずかに増加し、6位は流行性耳下腺炎で2.17（同4位2.42）とわずかに減少した。

県外で麻疹が流行している。2017年第1～14週に診断された麻疹患者数は114例で、2016年同時期の6例を大きく上回っている。うち、検査診断例が109例（96%）で、そのうち51例が修飾麻疹である。多い地域は、山形県35例、三重県20例、東京都13例、広島県11例、注目されるのは香川県の5例で第5位に名を連ねた。推定感染地域は国内が93例、国外が21例である。未だ高知県での発生はないが、香川県の事例にくわえて、最近では海外からの大型客船寄港の機会も増えており、要注意である。1歳児（I期）と就学前の1年間（II期）の定期予防接種の徹底がきわめて重要である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		5.63	6.02	6.65	6.60	24.90
2	インフルエンザ		5.06	3.98	4.06	3.13	16.23
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.92	2.20	2.65	2.69	9.46
4	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		0.77	0.79	0.84	0.84	3.24
5	流行性角結膜炎		0.55	0.53	0.58	0.56	2.22
6	流行性耳下腺炎		0.57	0.58	0.49	0.53	2.17

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の4月の上位6疾患の合計は32.23で3月の4週間換算値70.71と比べて減少し、全国よりも少なかった（表2）。減少の主たる原因はインフルエンザの減少である。2016/17シーズンは本県でA香港H3が61件、AH1pdm09が7件検出されており、全国の流行株の比率と同様である。1月以降にB/Victoriaが4件、B/Yamagataが2件検出された。1位は感染性胃腸炎で10.97と、3月の2位から順位

を上げたものの4週間換算値17.18に比べて減少した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.13（3月3位9.06）と比べわずかに減少した。3位がインフルエンザで8.00（同1位40.75）と大幅に減少した。高知県は全国よりも流行開始が遅かったが、全国を上回り、本格的な大きな流行になった。2月は、インフルエンザは多い数字で推移したものの、第5週以降は週ごとに徐々に減少し、流行収束に向かっている。4位は水痘で1.90（同6位1.06）、5位はロタウイルス胃腸炎で1.63（同11位0.30）といずれも増加した。6位は突発性発疹で1.60（同4位1.45）と横ばいだった。県内の報告は、水痘のみ全国よりも多く、他の上位5疾患は全国よりも少なかった。

県衛生研究所移転作業で、検体受け入れを制限した影響で、4月のウイルス・細菌の検出は少なく限られたものとなった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎		2.67	2.80	3.17	2.33	10.97
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.67	1.90	2.23	2.33	8.13
3	インフルエンザ		3.52	1.88	1.58	1.02	8.00
4	水痘		0.47	0.50	0.33	0.60	1.90
5	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		0.50	0.13	0.75	0.25	1.63
6	突発性発疹		0.20	0.43	0.57	0.40	1.60

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 384名（3月 2,445名）。全国では前年第34週以降に報告が増加した。本県での流行開始は遅れたが、11月からまとまった報告があり、12月には著増し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミックとして記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。1月は、過去10年間では同時期として5番目の報告数だった。しかし、2月は、同時期として過去10年間で最大の報告となり、都道府県別での最多を記録し、1か月間として、2015年1月、2016年3月、2009年11月に次ぐ報告数であった。3月以降は平年並みの数に落ち着いてきたが、今季は、流行期間も長いことから大きな流行になった。

広い年齢層で報告され、20歳未満が52.1%と3月の54.8%よりも減少し、成人患者の割合が高くなったことを意味している。成人患者が多いことは今季流行のひとつの特徴であった。中央西、高知市、須崎、幡多、中央東、安芸の順に多かったが、県下全域で警報基準（定点当たり30以上）を下回っ

た。ウイルスはA香港H3が5件、Aソ連H1pdm09が1件、B/Yamagataが1件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 10名(3月 23名)。中央西、高知市、中央東、幡多から、表記の順に多く報告された。同時期として平年なみの報告数となった。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 244名(3月 340名)。2014年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月以降にいったん沈静化した。9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月-1月は平年並みの数となっていた。2月に再び増加し、3月4月と多い数字で推移している。県下全域から報告があり、特に須崎、高知市、幡多からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 329名(3月 644名)。高知市全域で警報基準値20を下回ったが、高知市、中央東で多く報告された。病原体は検出されていない。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、2016年は3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1~3名と減少していた。2017年も3月から全国で流行が始まっている。4月は高知市で12名、幡多で1名、合計13名の報告があった。本県でのワクチン接種率は乳児の4割程度で、全国よりも低いと推測されているので、今後の動向が注目される。

5) 水痘

報告数 57名(3月 40名)。安芸、高知市、中央東、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。2015年からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加、1月72名、2月30名、3月40名と減少したが、4月は57名と増加した。2014年10月から始まったワクチン定期化の開始前よりは少ない報告数で推移している。定期予防接種の恩恵を受けていない5歳以上と乳児が20名(35%)を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 0名(3月 2名)。初夏に流行が始まる感染症で、報告はなかった。

7) 伝染性紅斑

報告数 12名(3月 14名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移している。幡多、中央東、高知市、中央西から報告があり、表記の順に多かった。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 48名(3月 54名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 1名(3月 6名)。高知市から1名3歳児例が報告された。3月末に採取された検体から*Bordetella pertussis*が1件検出されている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 1名(3月 1名)。例年6-7月から流行がみられる。今年はまだウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 28名(3月 27名)。須崎、中央東、高知市、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。2月以降に須崎で流行がある。全国的にも増加が報告され注目されているが、今後、高知県でも流行すると予想されている。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 34名(3月 35名)。中央西を除く地域から報告があり、高知市、幡多、須崎で報告が多い。RSウイルスBが1件検出されている。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(3月 1名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(3月 0名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(3月 1名)。昨年はEchovirus 6が6例検出されており、今年の動向に注意したい。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 9名(3月 12名)。幡多、中央東、高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 22名(3月 21名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

4月はウイルス22件、細菌7件の搬入があり、そのうちウイルス8件、細菌1件の病原体を検出した。また、平成29年3月に搬入された検体でウイルス3件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Influenza virus A H3 NT 7件、Influenza virus A H1pdm09 2件、Influenza virus B/Yamagata 1件、Respiratory syncytial virus B 1件、また、細菌の内訳は、*Bordetella pertussis* 1件であった。

なお、衛生研究所が設置されている高知県保健衛生総合庁舎の改築工事に伴う機器等の移設作業の影響で3月16日（木）～4月16日（日）まで病原体の検査を中止させていただいておりました。但し、インフルエンザ定点については中止期間中の検体についても受け入れています。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	6	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3.17	Influenza virus A H3 NT
2	2	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3.21	Influenza virus A H3 NT
3	4	女	百日咳	39℃, 肺炎,	ぬぐい液	3.24	<i>Bordetella pertussis</i>
4	9	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	3.27	Influenza virus A H1pdm09
5	15	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	3.28	Influenza virus A H3 NT
6	6	女	インフルエンザ	38℃, 咳漱,	ぬぐい液	4. 5	Influenza virus B/Yamagata
7	1	男	不明発疹症	39℃, 咳漱, 発疹,	ぬぐい液	4.15	Respiratory syncytial virus B
8	57	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	4.16	Influenza virus A H3 NT
9	6	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱, 筋肉痛,	ぬぐい液	4.17	Influenza virus A H1pdm09
10	4	男	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	4.21	Influenza virus A H3 NT
11	10	男	インフルエンザ	38℃, 咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	-	Influenza virus A H3 NT
12	67	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	-	Influenza virus A H3 NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年				2017年 総計
		1	2	3	4	
A群溶血性 連鎖球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2			2
	計		4			4
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	5	53
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1	6
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1		4
	Influenza virus B Yamagata		1		1	2
	計	25	24	9	7	65
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1				1
	Adenovirus 2			1		1
	Adenovirus 3			1		1
	Echovirus 9			1		1
	Human herpes virus 6			1		1
	計	1		4		5
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			2		2
	Astrovirus NT		2			2
	Coxsackievirus B1			1		1
	Norovirus GII NT	9	3	3		15
	Rhinovirus	1				1
	Rotavirus group AG9	2				2
	Sapovirus genogroup unknown	1		1		2
	<i>Staphylococcus aureus</i> V			1		1
計	13	5	8		26	
伝染性紅斑	Human herpes virus 7	1	1			2
	計	1	1			2
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>					
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	6
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2			4
	計	4	3	2	1	10
流行性耳下腺炎	Mumps virus					
	計					
無菌性髄膜炎	Varicella-zoster virus		1			1
	計		1			1
その他	Adenovirus 1	1				1
	Adenovirus 3	1				1
	Coxsackievirus A2	1				1
	Cytomegalo virus	3				3
	Echovirus 3			1		1
	Epstein-Barr virus	1				1
	Human herpes virus 6	1				1
	Human herpes virus 7	2	1	1		4
	Human metapneumovirus			1		1
	Norovirus GII NT			1		1
	Respiratory syncytial virus A			1		1
	Respiratory syncytial virus B	1			1	2
	Rhinovirus	1	1	1		3
	計	12	5	3	1	21
総計	56	43	26	9	134	

高知県感染症情報月報 2017年 5月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月	
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ	3	18	31	23	6	41	122	384	60	
小児科	咽頭結膜熱		4	40	1	5	16	66	10	31	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	31	105	13	13	49	214	244	197	
	感染性胃腸炎	47	115	217	14	9	43	445	329	482	
	水痘	2	17	35	9	3	7	73	57	34	
	手足口病		8	26	1	25	1	61		12	
	伝染性紅斑		3	7			1	11	12	39	
	突発性発疹	2	15	28	3	5	6	59	48	40	
	百日咳			1				1	1	9	
	ヘルパンギーナ		5	1	1		3	10	1	16	
	流行性耳下腺炎		3	5			6	2	16	28	72
	RSウイルス感染症				9			1	10	34	21
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			3				3		6	
STD	性器クラミジア感染症			1				1	2		
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ								1		
	淋菌感染症		1					1			
基幹	細菌性髄膜炎									1	
	無菌性髄膜炎									3	
	マイコプラズマ肺炎			8				8	9	35	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								1	1	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			30			2	32	13	13	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	5	13			1	20	22	24	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		58	225	560	65	72	173	1,153	1,196	1,096	
前月		48	226	578	92	99	153				
前年同月		60	246	464	117	51	158				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2017年5月

全国情報（5月1日～5月28日）

第18週（5月1日～）から第21週（～5月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における4月の上位6疾患の合計は52.03で4月の58.22に比べて減少した。減少の原因は12月から流行していたインフルエンザの減少である。1位は感染性胃腸炎で26.91（4月1位24.90）とわずかに増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で11.38（同3位9.46）と増加した。3位がインフルエンザで5.13（同2位16.23）と減少した。4位は流行性角結膜炎で3.17（同5位2.22）、5位は手足口病で2.79（同10位1.21）、6位は咽頭結膜炎で2.65（同8位1.53）と、夏季の感染症がいずれも増加した。

県外で麻疹が流行している。2017年第1～19週に診断された麻疹患者数は151例で、2016年同時期を大きく上回っている。うち、検査診断例が74例で、68例が修飾麻疹である。多い地域は、山形県44例、三重県21例、東京都17例、広島県11例、大阪府9例、注目されるのは香川県の5例で第6位だった。未だ高知県での発生はないが、要注意である。1歳児（Ⅰ期）と就学前の1年間（Ⅱ期）の定期予防接種の徹底がきわめて重要である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	18週	19週	20週	21週	計
1	感染性胃腸炎	5.15	7.23	7.30	7.23	26.91
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.01	2.94	3.17	3.26	11.38
3	インフルエンザ	2.03	1.37	1.05	0.68	5.13
4	流行性角結膜炎	0.57	0.91	0.82	0.87	3.17
5	手足口病	0.44	0.52	0.86	0.97	2.79
6	咽頭結膜炎	0.43	0.66	0.65	0.91	2.65

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の5月の上位6疾患の合計は33.18で4月の32.23と比べて横ばいだった（表2）。インフルエンザが減少したが、感染性胃腸炎、ロタウイルス胃腸炎、咽頭結膜炎が増加した。1位は感染性胃腸炎で14.84（4月1位10.97）と増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.14（同2位8.13）とわずかに減少した。3位はロタウイルス胃腸炎で4.01（同5位1.63）と増加した。4位がインフルエンザで2.55（同3位8.00）と減少、5位が水痘で2.44（同4位1.90）と増加、6位が咽頭結膜炎で2.20（同11位0.33）と増加した。ロタウイルスと水痘は全国よりも多く、その他4疾患は全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	18週	19週	20週	21週	計
1	感染性胃腸炎	2.37	4.10	3.80	4.57	14.84
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.17	1.97	1.80	2.20	7.14
3	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.38	0.50	1.50	1.63	4.01
4	インフルエンザ	1.15	0.71	0.25	0.44	2.55
5	水痘	0.57	0.67	0.60	0.60	2.44
6	咽頭結膜炎	0.67	0.87	0.33	0.33	2.20

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 122名（4月 384名）。全国では前年第34週以降に報告が増加した。本県での流行開始は遅れたが、11月からまとまった報告があり、12月には著増し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミックとして記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。1月は、過去10年間では同時期として5番目の報告数だった。しかし、2月は、同時期として過去10年間で最大の報告となり、都道府県別での最多を記録し、1か月間として、2015年1月、2016年3月、2009年11月に次ぐ報告数であった。3月以降は平年並みの数に落ち着いてきたが、今季は、流行期間も長いことから大きな流行になった。成人患者が多いことは今季流行のひとつの特徴であった。

5月は幡多、中央西、高知市、中央東、須崎、安芸の順に多かった。ウイルスはB/Yamagataが1件検出された。

2) 咽頭結膜炎

報告数 66名（4月 10名）。急速に増加し、この時期としては過去10年間で最も多かった。高知市、幡多、須崎、中央東、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 214名（4月 244名）。14年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月以降にいったん沈静化した。9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月～1月は平年並みの数となっていた。2月に再び増加し、3月以降も多い数字で推移している。県下全域から報告があり、特に幡多、高知市、須崎からの報告が多い。*Streptococcus pyogenes* Untypableが1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 445名（4月 329名）。安芸市でのみ

警報基準値20を上回り、次いで高知市、中央東で多く報告された。病原体はAdenovirus 41が検出された。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、2016年は3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数（101名）が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1～3名と減少していた。2017年も3月から全国で流行が始まり、5月は高知市で30名、幡多で2名、合計32名と4月13名よりも多い数の報告があった。

5) 水痘

報告数 73名（4月 57名）。高知市、中央西、中央東、須崎、幡多、安芸から表記の順に多く報告された。2014年からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加、1月72名、2月30名、3月40名と減少したが、4月57名、5月73名と増加した。2014年10月から始まったワクチン定期化の開始前よりは少ない報告数で推移している。定期予防接種の恩恵を受けていない5歳以上と乳児が35名（48%）を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 61名（4月 0名）。初夏に流行が始まる感染症で、今季はやや早い流行開始となった。須崎、高知市、中央東、中央西、幡多から表記の順で多く報告された。ウイルスは検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 11名（4月 12名）。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移している。高知市、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 59名（4月 48名）。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 1名（4月 1名）。高知市から1名

5歳児例が報告された。*Bordetella pertussis*が1件検出されている。

10) ヘルパンギーナ

報告数 10名（4月 1名）。例年6～7月から流行がみられ、流行が開始したと推測される。今年はまだウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 16名（4月 28名）。須崎、高知市、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。全国的にも増加が報告され注目されているが、今後、高知県でも流行すると予想されている。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 10名（4月 34名）。高知市、幡多から報告された。ウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 3名（4月 0名）。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（4月 0名）。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（4月 0名）。昨年はEchovirus 6が6例検出されており、今年の動向に注意したい。

16) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 8名（4月 9名）。高知市から報告があった。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 20名（4月 22名）。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（4月 0名）。2017年は3月に1例報告されている。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会

高知県における月別全数報告疾患（平成29年5月）

類型	病名	報告年																		総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		29
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	35	1,475
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	35	1,475
3	コレラ	1					1						1								3
	パラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												25
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34		224	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1															2
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1	75
	マラリア								2					1							3
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	1	52
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	2	145
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1								6
	レプトスピラ症											1		4	2	1					8
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	24
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	4	361
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	4	40
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	6	53
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				28
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1			3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3		13
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	4	63
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	3	12
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	13	46
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3
	播種性クリプトコックス症																		1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3		29
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	9	143
	麻しん										5										5
風しん										1	1			4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	43	538	
新型	新型インフルエンザ											34								34	
	計											34								34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	82	2,633

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

5月はウイルス70件，細菌5件の搬入があり，そのうちウイルス6件，細菌2件の病原体を検出した。また，平成29年4月に搬入された検体でウイルス12件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 41 1件，Cytomegalovirus 3件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 4件，Human herpes virus 7 2件，Influenza virus A H3 NT 1件，Influenza virus B/Victoria 1件，Influenza virus B/Yamagata 1件，Parainfluenza virus 3 2件，Rhinovirus 1件，Rotavirus group A NT 1件，また，細菌の内訳はBordetella pertussis 1件，Streptococcus pyogenes Untypable 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	男	上気道炎	40℃，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	4.25	Cytomegalovirus
2	1	女	突発性発しん	39℃，発疹，	ぬぐい液	4.25	Human herpes virus 6
3	2ヶ月	女	-	39℃，発疹，	鼻咽腔ぬぐい液	4.26	Human herpes virus 6
4	6ヶ月	女	インフルエンザ様疾患	38℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	4.26	Rhinovirus
5	14	男	-	39℃，	ぬぐい液	5.9	Human herpes virus 7
6	10	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，	ぬぐい液	5.9	Streptococcus pyogenes Untypable
7	28	男	インフルエンザ	38℃，咳漱，	ぬぐい液	5.9	Influenza virus A H3 NT
8	9	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	5.9	Influenza virus B/Victoria
9	11ヶ月	男	喘息様気管支炎，感染性胃腸炎	40℃，嘔吐，嘔気，下気道炎，	ふん便	5.9	Adenovirus 41
10	1	女	感染性胃腸炎	40℃，発疹，結膜炎，	ふん便	5.9	Human herpes virus 6
11	3	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，	ふん便	5.9	Rotavirus group A NT
12	1	男	急性気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，下気道炎，	ぬぐい液	5.9	Parainfluenza virus 3
13	1	男	不明熱（EB疑い）	39℃，下痢，	ぬぐい液	5.9	Cytomegalovirus Epstein-Barr virus
14	7ヶ月	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	5.9	Cytomegalovirus
15	12	男	無菌性髄膜炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	5.9	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
16	4	女	百日咳	咳漱，	鼻咽腔	5.17	Bordetella pertussis
17	7ヶ月	男	急性気管支炎	39℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	5.23	Parainfluenza virus 3
18	7	男	インフルエンザ	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	5.24	Influenza virus B/Yamagata

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年					2017年 総計
		1	2	3	4	5	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2			1	3
	計		4			1	5
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6		54
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1		6
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1		5
	Influenza virus B Yamagata		1		1	1	3
	計	25	24	9	9	1	68
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1					1
	Adenovirus 2			1			1
	Adenovirus 3			1			1
	Echovirus 9			1			1
	Human herpes virus 6			1			1
計	1		4			5	
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			2			2
	Adenovirus 41					1	1
	Astrovirus NT		2				2
	Coxsackievirus B1			1			1
	Human herpes virus 6					1	1
	Norovirus GII NT	9	3	3			15
	Rhinovirus	1					1
	Rotavirus group AG9	2					2
	Rotavirus group A NT				1		1
	Sapovirus genogroup unknown	1		1			2
	<i>Staphylococcus aureus</i> V			1			1
	計	13	5	8	1	2	29
伝染性紅斑	Human herpes virus 7	1	1				2
	計	1	1				2
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1	7
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2				4
	計	4	3	2	1	1	11
無菌性髄膜炎	Human herpes virus 6				1		1
	Human herpes virus 7				1		1
	Varicella-zoster virus		1				1
	計		1		2		3
突発性発疹	Human herpes virus 6				1		1
計				1		1	
その他	Adenovirus 1	1					1
	Adenovirus 3	1					1
	Coxsackievirus A2	1					1
	Cytomegalo virus	3			2	1	6
	Echovirus 3			1			1
	Epstein-Barr virus	1				1	2
	Human herpes virus 6	1			1		2
	Human herpes virus 7	2	1	1	1		5
	Human metapneumovirus		1				1
	Norovirus GII NT		1				1
	Parainfluenza virus 3				1	1	2
	Respiratory syncytial virus A		1				1
	Respiratory syncytial virus B	1			1		2
	Rhinovirus	1	1	1	1		4
	計	12	5	3	7	3	30
総計	56	43	26	21	8	154	

高知県感染症情報月報 2017年6月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ			3	2	4		2	11	122	1
小児科	咽頭結膜熱			6	30	1	1	15	53	66	48
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			59	210	18	9	42	338	214	247
	感染性胃腸炎	39		101	224	12	15	69	460	445	471
	水痘			15	51	2	9		77	73	37
	手足口病	16		252	636	126	118	87	1,235	61	115
	伝染性紅斑			5	4	1	2	1	13	11	46
	突発性発疹			10	38	7	3	7	65	59	69
	百日咳				1				1	1	15
	ヘルパンギーナ	2		29	60	20	3	62	176	10	176
	流行性耳下腺炎			3	8	1	2	4	18	16	141
	RSウイルス感染症					1			1	2	10
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				1				1	3	
STD	性器クラミジア感染症				1				1	1	4
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ			1					1		
	淋菌感染症									1	
基幹	細菌性髄膜炎				1				1		1
	無菌性髄膜炎				1				1		9
	マイコプラズマ肺炎				5			2	7	8	19
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			4	25			2	31	32	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1		2	9			3	15	20	11
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計			58	490	1,308	192	162	297	2,507	1,153	1,421
前月			58	225	560	65	72	173			
前年同月			51	354	630	155	27	204			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2017年6月

全国情報（5月29日～7月2日）

第22週（5月29日～）から第26週（～7月2日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における6月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると58.22で5月の52.03に比べて増加した。増加の原因は夏に流行する手足口病、ヘルパンギーナとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の増加である。1位は感染性胃腸炎で4週換算で26.51（5月1位26.91）と横ばいだった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で13.48（同2位11.38）と増加した。3位が手足口病で8.75（同5位2.79）、4位が咽頭結膜熱で3.84（同6位2.65）と増加した。5位は流行性角結膜炎で3.30（同4位3.17）と横ばいだった。6位はヘルパンギーナで2.34（同13位0.58）と増加した。

県外で麻疹が流行している。2017年第1～24週に診断された麻疹患者数は163例で、2016年同時期を大きく上回っている。うち、検査診断例が80例で、76例が修飾麻疹である。多い地域は、山形県53例、三重県22例、東京都17例、広島県11例、大阪府10例、注目されるのは香川県の5例で第6位だった。未だ高知県での発生はないが、要注意である。1歳児（Ⅰ期）と就学前の1年間（Ⅱ期）の定期予防接種の徹底がきわめて重要である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	22週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		6.74	6.58	7.08	6.69	6.05	33.14
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.33	3.45	3.59	3.45	3.03	16.85
3	手足口病		1.34	1.59	2.07	2.41	3.53	10.94
4	咽頭結膜熱		0.95	0.97	0.97	0.98	0.93	4.80
5	流行性角結膜炎		0.85	0.87	0.84	0.77	0.79	4.12
6	ヘルパンギーナ		0.35	0.43	0.56	0.66	0.93	2.93

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の6月の上位6疾患の合計は4週間換算で64.06と5月の33.18と比べて大幅に増加し、全国よりも多かった（表2）。増加の原因は夏に流行する手足口病、ヘルパンギーナとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の増加である。1位は手足口病で4週換算で32.93（5月7位2.03）と16倍に増加し、全国よりはるかに多かった。2位は感染性胃腸炎で12.26（同1位14.84）と減少し、全国よりも少なかった。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.02（同2位7.14）と増加したが全国よりも少なかった。4位はヘルパンギーナで4.69（同14位0.33）と著増し、全国よりも多かった。5位はロタウイルス胃腸炎で3.10（同3

位4.01）と減少したが全国よりも多かった。6位は水痘で2.06（同5位2.44）と減少し全国と同等だった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	22週	23週	24週	25週	26週	計
1	手足口病		2.60	4.00	7.73	11.70	15.13	41.16
2	感染性胃腸炎		3.57	2.90	3.33	3.33	2.20	15.33
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.77	2.57	2.50	2.17	1.27	11.28
4	ヘルパンギーナ		0.23	0.47	1.03	1.13	3.00	5.86
5	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		1.00	1.00	0.50	0.75	0.63	3.88
6	水痘		0.77	0.27	0.53	0.33	0.67	2.57

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 11名（5月 122名）。流行の終息を迎えた。全国では前年第34週以降に報告が増加した。本県での流行開始は遅れたが、11月からまとまった報告があり、12月には著増し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミックとして記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。1月は、過去10年間では同時期として5番目の報告数だった。しかし、2月は、同時期として過去10年間で最多の報告となり、都道府県別での最多を記録し、1か月間として、2015年1月、2016年3月、2009年11月に次ぐ報告数であった。3月以降は平年並みの数に落ち着き、6月に終息したが、今季は、流行期間も長いことから大きな流行になった。成人患者が多いことは今季流行のひとつの特徴であった。

6月は中央西、中央東、幡多、高知市から表記の順に多かった。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 53名（5月 66名）。この時期としては平年並みの数である。幡多、高知市、中央東、須崎、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 338名（5月 214名）。14年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月以降にいったん沈静化したが、9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月-1月は平年並みの数となっていた。2月に再び増加し、3月以降も多い数字で推移している。この時期としては過去10年では2011年に次いで多い報告数だった。安芸を除く地域から報告があり、特に高知市、中央東、幡多からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 460名(5月 445名)。この時期としてはほぼ例年通りの報告数で、県下全域から報告があり、特に高知市、安芸、中央東、幡多からの報告が多く、高知市では警報値である定点当たり20を超えている。病原体はRotavirus group AG3とSalmonella Thompsonが各1件検出された。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、2016年は3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数(101名)が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1~3名と減少していた。2017年も3月から全国で流行が始まり、6月は高知市で25名、中央東で4名、幡多で2名、合計31名と5月32名に並ぶ数の報告があった。

5) 水痘

報告数 77名(5月 73名)。高知市、須崎、中央東、中央西から表記の順に多く報告された。高知市、須崎では注意報値4を超えている。

2014年10月からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加、1月72名、2月30名、3月40名と減少したが、4月57名、5月73名、6月77名と増加した。定期予防接種の恩恵を受けていない5歳以上と乳児が42名(55%)を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 1,235名(5月 61名)。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からとやや早い流行開始となった。6月は同時期として過去10年間で最多、1か月間の報告数として2010年7月の1,621名に次ぐ2番目の多い報告数だった。定点当たりの報告数が高知県は全国で1位の多い数字であった。高知県全域で警報値5を大きく超え、須崎、高知市、中央西、中央東、幡多、安芸から表記の順で多く報告された。ウイルスはCoxsackie A6が4件検出されており、今季の流行株である。

7) 伝染性紅斑

報告数 13名(5月 11名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、6月は同時期として平年並の報告数である。須崎、中央東、高知市、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスはhuman parvovirus B19が1件検出された。

8) 突発性発疹

報告数 65名(5月 59名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 1名(5月 1名)。高知市から1名10歳代前半の小児例が報告された。細菌は検出されていない。

10) ヘルパンギーナ

報告数 176名(5月 10名)。同時期としては平年並みの報告数だった。例年6-7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月は著増した。高知県全域から報告があり、幡多と中央西では警報値6を超え、高知市、高知東では注意報値の2を超えた。今年はまだウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 18名(5月 16名)。須崎、幡多、高知市、中央東、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 2名(5月 10名)。幡多と高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(5月 3名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(5月 0名)。高知市から40歳代が1名報告された。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(5月 0名)。高知市から60歳代が1名報告された。今年、ウイルスは1件も検出されていない。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 7名(5月 8名)。幡多と高知市から報告があった。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 15名(5月 20名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(5月 0名)。2017年は3月に1例報告されている。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年6月）

類型	病名	報告年																			総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	46	1,486
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	46	1,486
3	コレラ	1					1						1								3
	バラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												25
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34		224	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1														1	3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	75
	マラリア								2					1							3
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	52
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	2	145
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症											1			4	2	1				8
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	26
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	7	364
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	41
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	11	58
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				28
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1			3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3	1	14
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	5	64
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	3	12
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	14	47
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3
	播種性クリプトコックス症																		1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3		29
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	11	145
	麻しん									5											5
風しん									1	1				4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	54	549	
新型	新型インフルエンザ										34									34	
計											34									34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	107	2,658

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

6月はウイルス58件，細菌5件の搬入があり，そのうちウイルス8件，細菌1件の病原体を検出し，また，平成29年5月に搬入された検体でウイルス28件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 2件，Coxsackievirus A6 15件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 7 5件，Human herpes virus 6 2件，Human parvovirus B19 1件，Parainfluenza virus 3 3件，Rhinovirus 3件，Rotavirus group A G3 1件，Sapovirus genogroup unknown 1件，また，細菌の内訳はSalmonella Thompson 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，咳漱，	ふん便	5.12	Adenovirus 1
2	2	男	-	37℃，発疹，	ぬぐい液	5.13	Coxsackievirus A6
3	1	男	喘息性気管支炎	38℃，咳漱，	鼻汁	5.14	Rhinovirus
4	2	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	5.15	Coxsackievirus A6
5	11ヶ月	男	手足口病	-	ぬぐい液	5.15	Coxsackievirus A6
6	7ヶ月	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	5.15	Coxsackievirus A6
7	11ヶ月	女	手足口病？	37℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	5.15	Coxsackievirus A6
8	1	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	5.16	Adenovirus 2
9	2	女	手足口病	40℃，	ぬぐい液	5.17	Coxsackievirus A6
10	1	男	消化器感染症	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.17	Sapovirus genogroup unknown
11	3	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	5.17	Echovirus 7
12	1	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	5.17	Echovirus 7
13	1	男	咽頭結膜熱	39℃，	ぬぐい液	5.18	Adenovirus 2
14	1	女	手足口病	39℃，	ぬぐい液	5.20	Coxsackievirus A6
15	2	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	5.22	Echovirus 7
16	1	女	手足口病？	39℃，発疹，	ぬぐい液	5.22	Echovirus 7
17	2ヶ月	男	上気道炎	38℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	5.23	Parainfluenza virus 3
18	1	女	-	39℃，咳漱，	ぬぐい液	5.23	Rhinovirus
19	1	女	急性上気道炎	39℃，発疹，	ぬぐい液	5.23	Human herpes virus 6
20	3	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	5.23	Human herpes virus 6
21	1	女	手足口病	-	ぬぐい液	5.23	Echovirus 7
22	1	女	突発性発疹	39℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	5.24	Cytomegalovirus
23	1ヶ月	男	急性上気道炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	5.25	Rhinovirus
24	1	男	呼吸器感染症	40℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	5.26	Coxsackievirus A6
25	1	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	5.26	Coxsackievirus A6
26	1	女	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	5.26	Cytomegalovirus
27	9ヶ月	女	不明熱	40℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	5.30	Coxsackievirus A6
28	2	男	手足口病	39℃，手足口病症状，	ぬぐい液	5.30	Coxsackievirus A6
29	11ヶ月	女	手足口病	38℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	5.31	Coxsackievirus A6
30	1	女	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	5.31	Coxsackievirus A6
31	14	女	伝染性紅斑	下痢，発疹，	ぬぐい液	6. 2	human parvovirus B19
32	2	女	インフルエンザ様疾患	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	6. 5	Parainfluenza virus 3
33	1	女	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	6. 5	Coxsackievirus A6
34	3	女	手足口病	39℃，水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	6. 5	Coxsackievirus A6
35	2	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6. 9	Salmonella Thompson
36	2ヶ月	男	-	気管支炎，	ぬぐい液	6.12	Parainfluenza virus 3
37	5	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.12	Rotavirus group A G3

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年						2017年 総計
		1	2	3	4	5	6	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1					1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1					1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2			1		3
	計		4			1		5
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6			54
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1			6
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1			5
	Influenza virus B Yamagata		1		1	1		3
	計	25	24	9	9	1		68
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1						1
	Adenovirus 2			1		1		2
	Adenovirus 3			1				1
	Echovirus 9			1				1
	Human herpes virus 6			1				1
	計	1		4		1		6
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1		1
	Adenovirus 2			2				2
	Adenovirus 41					1		1
	Astrovirus NT		2					2
	Coxsackievirus B1			1				1
	Human herpes virus 6					1		1
	Norovirus GII NT	9	3	3				15
	Rhinovirus	1						1
	Rotavirus group AG3						1	1
	Rotavirus group AG9	2						2
	Rotavirus group A NT				1			1
	Sapovirus genogroup unknown	1		1				2
	<i>Staphylococcus aureus</i> V			1				1
	<i>Salmonella</i> Thompson						1	1
計	13	5	8	1	3	2	32	
手足口病	Adenovirus 2					1		1
	Coxsackievirus A6					8	4	12
	Cytomegalovirus					1		1
	Echovirus 7					2		2
	計					12	4	16
伝染性紅斑	Human herpes virus 7	1	1					2
	human parvovirus B19						1	1
	計	1	1				1	3
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1		7
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2					4
	計	4	3	2	1	1		11
無菌性髄膜炎	Human herpes virus 6				1			1
	Human herpes virus 7				1			1
	Varicella-zoster virus		1					1
	計		1		2			3
突発性発疹	Cytomegalovirus					1		1
	Human herpes virus 6				1			1
	計				1	1		2
その他	Adenovirus 1	1						1
	Adenovirus 3	1						1
	Coxsackievirus A2	1						1
	Coxsackievirus A6					3		3
	Cytomegalo virus	3			2	1		6
	Echovirus 3			1				1
	Echovirus 7					3		3
	Epstein-Barr virus	1				1		2
	Human herpes virus 6	1			1	2		4
	Human herpes virus 7	2		1	1			5
	Human metapneumovirus		1					1
	Norovirus GII NT		1					1
	Parainfluenza virus 3				1	2	2	5
	Respiratory syncytial virus A		1					1
	Respiratory syncytial virus B	1			1			2
	Rhinovirus	1	1	1	1	3		7
	Sapovirus genogroup unknown					1		1
	計	12	5	3	7	16	2	45
総計	56	43	26	21	36	9	191	

高知県感染症情報月報 2017年7月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ				1	1			2	11	
小児科	咽頭結膜熱				16	3	3	22	44	53	70
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	20	93	6	4	27		151	338	128
	感染性胃腸炎	22	98	121			8	12	261	460	263
	水痘		5	37			4		46	77	29
	手足口病	51	259	655	147	107	258		1,477	1,235	79
	伝染性紅斑	1	10	3			1		15	13	28
	突発性発疹		11	24	6	7	7		55	65	47
	百日咳			3	1				4	1	15
	ヘルパンギーナ	13	25	58	26	5	85		212	176	354
	流行性耳下腺炎		2	4	1	1	2		10	18	78
	RSウイルス感染症		1	24					25	2	7
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1					1	1	
STD	性器クラミジア感染症			3					3	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症										3
	尖圭コンジローマ			1				2	3	1	1
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎									1	2
	無菌性髄膜炎							3	3	1	10
	マイコプラズマ肺炎			3					3	7	24
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1						1	31	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	3	16				3	25	15	16
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		91	435	1,063	191	140	421	2,341	2,507	1,158	
前月		58	490	1,308	192	162	297				
前年同月		42	236	516	140	56	168				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2017年7月

全国情報（7月3日～7月30日）

第27週（7月3日～）から第30週（～7月30日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における7月の上位6疾患の合計は74.43で6月の4週間換算値58.22に比べて増加した。増加の原因は、手足口病とヘルパンギーナの増加である。1位は手足口病で32.76（6月3位4週間換算で8.75）と増加した。2位が感染性胃腸炎で17.84（同1位26.51）と減少した。3位はヘルパンギーナで8.59（同6位2.34）と増加した。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.52（同2位13.48）と減少し、5位が流行性角結膜炎で3.48（同3.30）と横ばいで会った。6位は咽頭結膜熱で3.24（同4位3.84）で少し減少した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	手足口病		5.74	8.27	8.93	9.82	32.76
2	感染性胃腸炎		5.26	4.87	3.77	3.94	17.84
3	ヘルパンギーナ		1.50	2.24	2.23	2.62	8.59
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.68	2.37	1.75	1.72	8.52
5	流行性角結膜炎		0.82	0.88	0.82	0.96	3.48
6	咽頭結膜熱		0.93	0.83	0.71	0.77	3.24

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の7月の上位6疾患の合計は73.37で6月の4週間換算値64.06と比べて増加し、全国と同等だった（表2）。増加の原因は全国と同じく手足口病、ヘルパンギーナの増加である。1位は手足口病で49.23（6月1位4週間換算値32.93）と増加し、全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で8.70（同2位12.26）と減少し、全国よりも少なかった。3位はヘルパンギーナで7.06（同4位4.69）と増加したが全国よりも少なかった。4位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.02（同3位9.02）と減少し、全国よりも少なかった。5位は突発性発疹で1.83（同7位1.74）と横ばいで、全国よりも少なかった。6位は水痘で1.53（同6位2.06）と減少したが、全国よりも多かった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	手足口病		19.10	16.47	8.43	5.23	49.23
2	感染性胃腸炎		2.43	2.73	1.57	1.97	8.70
3	ヘルパンギーナ		2.63	2.67	1.13	0.63	7.06
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.23	1.53	1.23	1.03	5.02
5	突発性発疹		0.50	0.60	0.53	0.20	1.83
6	水痘		0.47	0.40	0.43	0.23	1.53

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2名（6月 11名）。さらに減少し流行は終息している。全国では前年第34週以降に報告が増加した。本県での流行開始は遅れたが、11月からまとまった報告があり、12月には著増し流行期に入った。12月としては、過去10年間のうちで、パンデミックとして記憶に新しい2009年に次ぐ多い報告数であった。1月は、過去10年間では同時期として5番目の報告数だった。しかし、2月は、同時期として過去10年間で最多の報告となり、都道府県別での最多を記録し、1か月間として、2015年1月、2016年3月、2009年11月に次ぐ報告数であった。3月以降は平年並みの数に落ち着き、6月に終息したが、今季は、流行期間も長いことから大きな流行になった。成人患者が多いことは今季流行のひとつの特徴であった。ウイルスは検出されなかった。

2) 咽頭結膜熱

報告数 44名（6月 53名）。この時期としては平年並みの数である。幡多、須崎、高知市、中央西から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱からウイルスは検出されていないが、不明発疹症の男児からアデノウイルス2型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 151名（6月 338名）。14年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月以降にいったん沈静化した。9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月-1月は平年並みの数となっていた。2月に再び増加し、3月以降も多い数字で推移している。県下全域から報告があり、特に高知市、幡多からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 261名（6月 460名）。この時期とし

てほぼ例年通りの報告数で、中央西を除く県下全域から報告があり、特に中央東、高知市、安芸からの報告が多い。病原体は検出されていない。

ロタウイルスは2011年11月に任意ワクチンが導入されて2013年11月からサーベイランス調査が開始された。ロタウイルス胃腸炎は、2016年は3月に増加し、2013年11月以降では最多の患者数（101名）が報告されたが、4月は36名、5月は13名、6月以降は1～3名と減少していた。2017年も3月から全国で流行が始まり、5月32名、6月31名と多めで推移したが7月は1名に減少した。

5) 水痘

報告数 46名（6月 77名）。高知市、須崎、中央東から表記の順に多く報告された。2014年10月からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加、1月72名、2月30名、3月40名と減少したが、4月57名、5月73名、6月77名と増加したが7月は減少した。定期予防接種の恩恵を受けていない5歳以上と乳児が21名（46%）を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 1,477名（6月 1,235名）。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からとやや早い流行開始となり、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数だった。高知県全域で警報値5を大きく超え、高知市、須崎、幡多、中央西、中央東、安芸の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に2件検出されており、今季の流行株である。

7) 伝染性紅斑

報告数 15名（6月 13名）。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、6月は同時期として平年並の報告数である。中央東、安芸、須崎、高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 55名（6月 65名）。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 4名（6月 1名）。乳児1名を含む計4例が、高知市と中央西から報告された。細菌は検出されなかった。

10) ヘルパンギーナ

報告数 212名（6月 176名）。同時期としては平年並みの報告数だった。例年6～7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月は著増し7月にさらに増加した。高知県全域で注意報値2を超える報告があり、とりわけ幡多、中央西、安芸では警報値6を超えている。ウイルスはCoxsackievirus A6が6月に4件、7月に1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 10名（6月 18名）。須崎、幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 25名（6月 2名）。前月に比べ著しく増加し、高知市と中央東から報告された。同時期としては過去10年間で2015年に次ぐ2番目の報告数であった。このまま、流行開始となるのかどうか注目される。ウイルスはRespiratory syncytial virus Bが1件検出された。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名（6月 1名）。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（6月 1名）。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 3名（6月 1名）。幡多から3名の学童例が報告された。今年、ウイルスは1件も検出されていない。

16) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 3名（6月 7名）。高知市から報告があった。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 25名（6月 15名）。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（6月 0名）。2017年は3月に1例報告されている。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年7月）

類型	病名	報告年																			総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	52	1,492
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	52	1,492
3	コレラ	1					1						1								3
	バラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												25
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34		224	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1														1	3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1
	マラリア									2					1						3
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	3
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	5	148
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症												1		4	2	1				8
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	3
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	13	370
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	12
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2			28
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1					7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							1		1
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3	1	14
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	3	12
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	15	48
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3
	播種性クリプトコックス症																		1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3		29
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	11	145
	麻しん										5										5
風しん										1	1			4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	58	553	
新型	新型インフルエンザ											34								34	
計												34								34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	123	2,674

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

7月はウイルス73件，細菌1件の搬入があり，そのうちウイルス12件の病原体を検出し，また，平成29年6月に搬入された検体でウイルス29件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adeno virus 2 2件，Coxsackie virus A6 21件，Echo virus 25 1件，Echo virus 7 7件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 1件，Parainfluenza virus 3 3件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 1件，Rotavirus group A G3 1件，Sapovirus genogroup unknown 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	女	手足口病	40℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	6. 7	Coxsackievirus A6
2	2	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6. 9	Sapovirus genogroup unknown
3	1	女	手足口病？	40℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	6. 9	Coxsackievirus A6
4	5ヶ月	女	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	6.10	Coxsackievirus A6
5	1	女	ヘルパンギーナ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	6.12	Coxsackievirus A6
6	5	男	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.12	Echovirus 25
7	1	男	手足口病	38℃，水疱，口内炎，	ぬぐい液	6.12	Coxsackievirus A6
8	11ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃，	ぬぐい液	6.13	Coxsackievirus A6
9	2	男	呼吸器感染症	40℃，咳漱，気管支炎，	鼻咽腔ぬぐい液	6.13	Parainfluenza virus 3
10	17	男	ヘルパンギーナ	口内炎，	ぬぐい液	6.14	Human herpes virus 7
11	1	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.14	Echovirus 7
12	1	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.15	Rotavirus group A G3
13	1	男	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	6.15	Coxsackievirus A6
14	1	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	6.16	Coxsackievirus A6
15	1	男	不明熱	40℃，咳漱，	ぬぐい液	6.16	Parainfluenza virus 3
16	2ヶ月	男	急性上気道炎	39℃，咳漱，上気道炎，	鼻咽腔ぬぐい液	6.18	Echovirus 7
17	3	女	ヘルパンギーナ	40℃，	ぬぐい液	6.19	Coxsackievirus A6
18	1	女	手足口病	40℃，発疹，	ぬぐい液	6.19	Coxsackievirus A6
19	1	女	手足口病	39℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	6.19	Coxsackievirus A6
20	2	男	手足口病	40℃，発疹，	ぬぐい液	6.19	Coxsackievirus A6
21	1	女	手足口病？	37℃，発疹，	ぬぐい液	6.21	Human herpes virus 6
22	2	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.22	Echovirus 7
23	2	女	不明発疹症（HFMD？）	発疹，	ぬぐい液	6.22	Echovirus 7
24	1	女	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	6.23	Coxsackievirus A6
25	2	女	ヘルパンギーナ	39℃，口内炎，	-	6.24	Coxsackievirus A6
26	2	男	急性発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	6.26	Echovirus 7
27	11ヶ月	男	手足口病	39℃，口内炎，	ぬぐい液	6.26	Coxsackievirus A6
28	1	男	手足口病	39℃，	ぬぐい液	6.26	Coxsackievirus A6
29	2	男	不明発疹症	36℃，発疹，	ぬぐい液	6.26	Echovirus 7
30	10	女	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	6.27	Echovirus 7
31	1	男	ヘルパンギーナ，手足口病	40℃，	ぬぐい液	6.29	Adenovirus 2
32	6	女	手足口病	40℃，発疹，	ぬぐい液	6.30	Coxsackievirus A6
33	2	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	6.30	Epstein-Barr virus
34	1	男	手足口病	40℃，発疹，	ぬぐい液	7. 1	Coxsackievirus A6
35	3	男	ヘルパンギーナ	40℃，口内炎，	ぬぐい液	7. 3	Coxsackievirus A6
36	11ヶ月	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7. 3	Adenovirus 2
37	1	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	7. 3	Coxsackievirus A6
38	2ヶ月	男	気管支炎	38℃，咳漱，気管支炎，	鼻腔	7. 5	Parainfluenza virus 3
39	3	男	喘息性気管支炎	39℃，咳漱，下気道炎，気管支炎，	ぬぐい液	7. 5	Rhinovirus
40	11	女	不明発疹症	39℃，水疱，発疹，	ぬぐい液	7. 5	Coxsackievirus A6
41	1	男	R Sウイルス感染症 二相性急性脳症	39℃，咳漱，上気道炎，気管支炎，	ぬぐい液	7.12	Respiratory syncytial virus B

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年							2017年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1						1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1						1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2				1		3
	計		4				1		5
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6				54
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1				6
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1				5
	Influenza virus B Yamagata		1	1	1	1			3
	計	25	24	9	9	1			68
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1							1
	Adenovirus 2			1		1			2
	Adenovirus 3			1					1
	Echovirus 9			1					1
	Human herpes virus 6			1					1
計	1		4		1			6	
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1			1
	Adenovirus 2			2					2
	Adenovirus 41					1			1
	Astrovirus NT		2						2
	Echovirus 25						1		1
	Coxsackievirus B1			1					1
	Human herpes virus 6					1			1
	Norovirus GII NT	9	3	3					15
	Rhinovirus	1							1
	Rotavirus group AG3						2		2
	Rotavirus group AG9	2							2
	Rotavirus group A NT				1				1
	Sapovirus genogroup unknown	1		1			1		3
	<i>Staphylococcus aureus</i> V			1					1
<i>Salmonella</i> Thompson						1		1	
計	13	5	8	1	3	5		35	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2							1	1
	Coxsackievirus A6						4	1	5
	Human herpes virus 7						1		1
	計						5	2	7
手足口病	Adenovirus 2					1			1
	Coxsackievirus A6					8	16	2	26
	Cytomegalovirus					1			1
	Echovirus 7					2			2
	Human herpes virus 6						1		1
計					12	17	2	31	
流行性角結膜炎	Adenovirus 2								
伝染性紅斑	Human herpes virus 7	1	1						2
	human parvovirus B19						1		1
	計	1	1				1		3
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>								
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1			7
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2						4
計	4	3	2	1	1			11	
流行性耳下腺炎	Mumps virus								
無菌性髄膜炎	Human herpes virus 6				1				1
	Human herpes virus 7				1				1
	Varicella-zoster virus		1						1
	計		1		2				3
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>								
RS ウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A								
	Respiratory syncytial virus B							1	1
	計							1	
水痘	計								
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1			1
	Cytomegalovirus								
	Human herpes virus 6				1	1			2
その他	Adenovirus 1	1							1
	Adenovirus 2							1	1
	Adenovirus 3	1							1
	Coxsackievirus A2	1							1
	Coxsackievirus A6					3		2	5
	Cytomegalo virus	3			2	1			6
	Echovirus 3			1					1
	Echovirus 7					3	6	1	10
	Epstein-Barr virus	1				1		1	3
	Human herpes virus 6	1			1	2			4
	Human herpes virus 7	2	1	1					5
	Human metapneumovirus		1						1
	Norovirus GII NT		1						1
	Parainfluenza virus 3				1	2	4	1	8
	Respiratory syncytial virus A		1						1
	Respiratory syncytial virus B	1			1				2
	Rhinovirus	1	1	1	1	3		1	8
Sapovirus genogroup unknown					1			1	
計	12	5	3	7	16	10	7	60	
総計	56	43	26	21	36	38	12	231	

高知県感染症情報月報 2017年 8 月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ			2	11	4			17	2	1
小児科	咽頭結膜熱			2	13	2	2	30	49	44	82
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		10	98	9	3	28	149	151	82
	感染性胃腸炎	33		143	171	7	24	11	389	261	232
	水痘	3		6	19	4		2	34	46	41
	手足口病	7		28	66	31	14	62	208	1,477	30
	伝染性紅斑			5	1				6	15	23
	突発性発疹	3		4	21	2	2	5	37	55	40
	百日咳							1	1	4	4
	ヘルパンギーナ			8	17	8	5	27	65	212	114
	流行性耳下腺炎			1	5	1		2	9	10	60
	RSウイルス感染症	6		40	171	10	8	35	270	25	35
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				1				1	1	1
STD	性器クラミジア感染症				1				1	3	3
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ			1					1	3	
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										2
	無菌性髄膜炎									3	5
	マイコプラズマ肺炎				2				2	3	30
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				1				1		
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									1	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3		3	19			6	31	25	27
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		56	253	617	78	58	209	1,271	2,341	814	
前月		91	435	1,063	191	140	421				
前年同月		30	115	410	102	13	144				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2017年8月

全国情報（7月31日～9月3日）

第31週（7月31日～）から第35週（～9月3日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における8月の上位6疾患の合計は、4週間に換算すると62.96で7月の74.43に比べて減少した。減少の原因は、夏の感染症である手足口病とヘルパンギーナの減少に加えて、感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の減少である。一方で、冬に流行することが多いRSウイルスの流行が早々とみられている。1位は手足口病で4週間換算値が26.90（7月1位32.76）と減少した。2位が感染性胃腸炎で12.79（同2位17.84）と減少した。3位はRSウイルス感染症で8.26と7月の7位2.70から大幅に増加した。4位はヘルパンギーナで6.62（同3位8.59）、5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.67（同4位8.52）とそれぞれ減少した。6位は流行性角結膜炎で3.73（同5位3.48）と横ばいであった。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	35週	計
1	手足口病		9.51	7.12	5.54	5.87	5.58	33.62
2	感染性胃腸炎		3.76	2.87	2.71	3.28	3.37	15.99
3	RSウイルス感染症		1.56	1.66	1.76	2.11	3.23	10.32
4	ヘルパンギーナ		2.43	1.70	1.19	1.54	1.41	8.27
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.50	1.05	0.93	1.14	1.22	5.84
6	流行性角結膜炎		0.99	0.75	0.85	1.07	1.00	4.66

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の8月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると30.13で、7月の73.37と比べて著しく減少し、全国よりも少なかった（表2）。減少の原因は全国と同じく手足口病、ヘルパンギーナの減少である。1位は感染性胃腸炎で4週間換算値が10.37（7月2位8.70）と少し増加した。2位がRSウイルス感染症で7.21（同8位0.84）と全国と同じく著増した。3位が手足口病で5.54（同1位49.23）と減少、4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で3.98（同4位5.02）と少し減少した。5位はヘルパンギーナで1.73（同3位7.06）と著明に減少した。6位が咽頭結膜熱で1.30（同7位1.46）とわずかに減少した。高知県の上位6疾患すべてが全国の数値を下回っていた。

県下でRSウイルスに加えてノロウイルスの流行開始の兆しがある。感染性胃腸炎の0～4歳の小児例の便からNorovirus GIIが計9件検出されており注意が必要である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	35週	計
1	感染性胃腸炎		2.50	2.43	2.83	2.93	2.27	12.96
2	RSウイルス感染症		0.67	0.87	1.03	2.47	3.97	9.01
3	手足口病		2.83	1.20	1.17	1.13	0.60	6.93
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.23	1.17	0.83	0.87	0.87	4.97
5	ヘルパンギーナ		0.53	0.33	0.37	0.33	0.60	2.16
6	咽頭結膜熱		0.43	0.23	0.30	0.37	0.30	1.63

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 17名（7月 2名）。高知市、中央西、中央東で表記の順に多くインフルエンザA型が報告された。ウイルスはA型 H3 NTが4件検出された。まとまった数が報告されたが、週毎に増加する傾向はなく、夏季休暇の人の移動に伴う一時的な散発発症にとどまりそうである。

2) 咽頭結膜熱

報告数 49名（7月 44名）。この時期としては平年並みの数である。幡多、高知市、須崎、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱からウイルスは検出されていないが、感染性胃腸炎の5歳児からアデノウイルス 41型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 149名（7月 151名）。2014年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月以降にいったん沈静化したのが、9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月～1月は平年並みの数となっていた。2月に再び増加し、3月以降も多い数字で推移している。県下全域から報告があり、高知市、幡多、中央西からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 389名（7月 261名）。この時期としてはほぼ例年通りの報告数で、県下全域から報告があり、とくに中央東、安芸、高知市、須崎からの報告が多い。病原体として0歳から4歳の小児例の便からNorovirus GIIが9件検出され、はやくも流行の兆しとして注目される。ほかに、Echovirus 9型が2件、Coxsackievirus B4とAdenovirus 41型が各1件検出された。

5) 水痘

報告数 34名（7月 46名）。高知市、安芸、中央西、中央東、幡多から表記の順に多く報告さ

れた。2014年10月からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加、1月72名、2月30名、3月40名と減少したが、4～6月と増加し7月8月は減少した。定期予防接種の恩恵を受けていない5歳以上と乳児が18名(53%)を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 208名(7月 1,477名)。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からやや早い流行開始となり、過去10年で最大の大流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数だった。7月は高知県全域で警報値5を大きく超えたが、8月は大きく減少したが、幡多、中央西、須崎、高知市では、まだ警報値を超えている。ウイルスはCoxsackie A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月に2件検出されており、今季の流行株である。ほかに、Echovirus 9型が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 6名(7月 15名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、6月以降は同時期として平年並の報告数である。中央東、高知市から報告された。Parvovirus B19は検出されていないが、伝染性紅斑の臨床診断の患者からEchovirus 9型が1件検出されている。

8) 突発性発疹

報告数 37名(7月 55名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 1名(7月 4名)。幡多から0歳2カ月で確定診断された入院例が1例報告されたが、感染源は不明であった。細菌は、*Bordetella pertussis*が1件検出された。

10) ヘルパンギーナ

報告数 65名(7月 212名)。同時期としては平年並みの報告数だった。例年6～7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月に著増、7月にさらに増加したが、8月は減少した。安芸以外で報告があり、とくに幡多、中央西、須崎の順に多く、注意報値2を超えていた。8月

に有意なウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 9名(7月 10名)。高知市、幡多、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 270名(7月 25名)。7月に増加しはじめ、8月は著しく上昇し、全国同様に夏のRSウイルス流行となった。高知県全域から報告され、中でも高知市、幡多、中央東で多く報告された。夏季の流行は数年に1回経験されるものの、同時期としては過去10年間で最大の報告数であった。ウイルスは各施設で抗原診断されて確定しているが、高知県の衛生研究所ではウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名(7月 1名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(7月 0名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(7月 3名)。8月は報告がなく減少したが、今季は無菌性髄膜炎の患児から、Echovirus 9型が4件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 2名(7月 3名)。高知市から報告があった。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 31名(7月 25名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(7月 0名) 2017年は3月に1例報告されている。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年 8月）

類型	病名	報告年																			総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	66	1,506
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	66	1,506
3	コレラ	1					1						1								3
	バラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												25
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34		224	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1														1	3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1
	マラリア									2					1						3
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	3
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	5	148
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症												1		4	2	1			1	9
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	4
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	15	372
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	14
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2		1	29
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1					7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							1	1	4
	急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1		1	3		1		3	1
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	3	12
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	17	50
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3
	播種性クリプトコックス症																		1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎										1										1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1	30
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	13	147
	麻しん										5										5
風しん										1	1			4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	66	561	
新型	新型インフルエンザ											34								34	
計												34								34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	147	2,698

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

8月はウイルス72件，細菌7件の搬入があり，そのうちウイルス38件，細菌1件の病原体を検出した。また，平成29年6月に搬入された検体でウイルス5件，7月に搬入された検体でウイルス35件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 1件，Adenovirus 4 1件，Adenovirus 41 1件，Coxsackievirus A6 12件，Coxsackievirus B4 2件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 9 31件，Human herpes virus 6 6件，Human herpes virus 7 4件，Human metapneumovirus 1件，Influenza virus A H3 NT 4件，Norovirus GII NT 9件，Rhinovirus 2件，Varicella-zoster virus 2件，また，細菌の内訳は*Bordetella pertussis* 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	男	-	発疹，	ぬぐい液	6.12	Echovirus 9
2	1	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.14	Echovirus 9
3	9	男	急性咽頭炎	39℃， 咳漱，	ぬぐい液	6.16	Echovirus 9
4	2	男	手足口病？	発疹，	ぬぐい液	6.22	Echovirus 9
5	8	男	無菌性髄膜炎	39℃，	ぬぐい液	6.27	Varicella-zoster virus
6	2	女	ヘルパンギーナ	40℃， 水疱， 中枢神経系障害，	ぬぐい液	6.28	Coxsackievirus A6
7	8	男	手足口病	37℃， 発疹，	ぬぐい液	6.28	Echovirus 9
8	14	男	インフルエンザ様疾患	40℃，	ぬぐい液	6.30	Echovirus 9
9	3	女	急性発疹症	36℃， 発疹，	ぬぐい液	7. 1	Echovirus 9
10	1	男	手足口病	39℃， 発疹，	ぬぐい液	7. 3	Echovirus 9
11	11ヶ月	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7. 3	Echovirus 9
12	1	男	不明発疹症	39℃， 発疹，	ぬぐい液	7. 3	Echovirus 9
13	11ヶ月	女	不明発疹症	39℃， 発疹，	ぬぐい液	7. 3	Human herpes virus 6
14	8ヶ月	女	手足口病	40℃， 手足口病症状， 中枢神経系障害，	ぬぐい液	7. 4	Coxsackievirus A6
15	7ヶ月	男	手足口病	39℃， 発疹， 口内炎，	ぬぐい液	7. 5	Coxsackievirus A6
16	3	女	不明発疹症	36℃， 発疹，	ぬぐい液	7. 5	Echovirus 9
17	8	女	無菌性髄膜炎	39℃， 嘔吐， 嘔気，	ぬぐい液	7. 5	Human herpes virus 7
18	7	男	無菌性髄膜炎	39℃， 嘔吐， 嘔気，	ふん便， 髄液	7. 5	Echovirus 9
19	1	男	手足口病	発疹， 口内炎，	ぬぐい液	7. 6	Coxsackievirus A6
20	9	男	無菌性髄膜炎	39℃， 嘔吐， 嘔気，	髄液	7. 6	Echovirus 9
21	1	男	急性咽頭炎	40℃， 咳漱， 中枢神経系障害，	ぬぐい液	7. 7	Cytomegalovirus
22	7	男	無菌性髄膜炎	39℃，	ぬぐい液	7. 7	Human herpes virus 7
23	9	女	無菌性髄膜炎	下痢， 嘔吐， 嘔気，	髄液	7. 9	Human herpes virus 7
24	2	女	手足口病	39℃， 下痢， 発疹，	ぬぐい液	7.10	Coxsackievirus A6
25	1	男	複雑型熱性痙攣	39℃，	ぬぐい液， 髄液	7.10	Coxsackievirus A6
26	1	女	突発性発しん	41℃， 発疹，	ぬぐい液	7.11	Human herpes virus 6
27	2	男	手足口病	39℃， 手足口病症状， 中枢神経系障害，	ぬぐい液	7.12	Coxsackievirus A6
28	1	男	突発性発疹症， 痙攣重積型脳症， HHV-6脳症	39℃， 上気道炎， 発疹， 中枢神経系障害，	ぬぐい液， 髄液	7.12	Human herpes virus 6
29	4ヶ月	女	手足口病	39℃， 咳漱， 水疱， 発疹，	ぬぐい液	7.13	Coxsackievirus A6
30	3ヶ月	女	呼吸器感染症	40℃， 上気道炎，	鼻腔	7.13	Rhinovirus
31	14	女	髄膜炎	39℃， 嘔吐， 嘔気， 発疹，	髄液	7.14	Varicella-zoster virus
32	1	男	RSウイルス感染症， 二相性急性脳症	39℃， 咳漱， 上気道炎， 気管支炎，	ふん便	7.14	Coxsackievirus B4
33	1	女	-	37℃， 発疹，	ぬぐい液	7.17	Adenovirus 2
34	8ヶ月	男	手足口病	水疱， 発疹， 口内炎，	ぬぐい液	7.18	Coxsackievirus A6
35	1	男	不明発疹症	39℃， 発疹，	ぬぐい液	7.18	Echovirus 9
36	1	男	不明発疹症	39℃， 発疹，	ぬぐい液	7.18	Echovirus 9

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
37	2	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎?	39℃, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	7.19	Echovirus 9
38	1	女	手足口病	39℃, 水疱, 発疹,	ぬぐい液	7.19	Coxsackievirus A6
39	2	男	手足口病?	発疹,	ぬぐい液	7.19	Cytomegalovirus
40	2	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.19	Echovirus 9
41	1	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.25	Echovirus 9
42	1	男	不明発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	7.25	Echovirus 9
43	7	男	感染性胃腸炎, 無菌性髄膜炎	39℃, 腹痛,	ふん便	7.26	Echovirus 9
44	3	女	-	39℃,	ぬぐい液	7.26	Adenovirus 4
45	1	男	不明発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	7.27	Echovirus 9
46	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	7.27	Echovirus 9
47	6	女	伝染性紅斑	40℃, 発疹,	ぬぐい液	7.28	Echovirus 9
48	0ヶ月	男	-	38℃, 発疹,	ふん便	7.28	Echovirus 9
49	1	男	不明発疹症 手足口病?	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.29	Echovirus 9
50	1	男	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.31	Echovirus 9
51	3	男	手足口病	発疹, 口内炎,	ぬぐい液	8. 3	Coxsackievirus A6
52	3	男	不明発疹症(顔面四肢型)	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 3	Echovirus 9
53	0ヶ月	女	無菌性髄膜炎	39℃,	ぬぐい液, 髄液, ふん便	8. 3	Echovirus 9
54	1	女	手足口病	39℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 7	Coxsackievirus A6
55	4	女	単純疱疹(口唇)	36℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 7	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
56	11	女	不明発疹症	38℃, 腹痛, 発疹,	ぬぐい液	8. 7	Echovirus 9
57	13	女	インフルエンザ	40℃,	上咽頭	8. 8	Influenza virus A H3 NT
58	5	女	感染性胃腸炎	37℃, 下痢,	ふん便	8. 8	Adenovirus 41
59	3	男	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	8. 9	Influenza virus A H3 NT
60	4	女	インフルエンザ	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	8. 9	Influenza virus A H3 NT
61	7ヶ月	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	8. 9	Echovirus 9
62	8	女	インフルエンザ	40℃, 咳漱,	ぬぐい液	8.10	Influenza virus A H3 NT
63	7	男	インフルエンザ様疾患	39℃, 下痢,	ぬぐい液	8.12	Echovirus 9
64	2	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.12	Norovirus GII NT
65	11ヶ月	男	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.12	Coxsackievirus B4 Norovirus GII NT
66	1	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.12	Norovirus GII NT
67	4	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.12	Norovirus GII NT
68	2ヶ月	女	百日咳	咳漱, 上気道炎,	鼻咽腔ぬぐい液	8.13	<i>Bordetella pertussis</i>
69	1	女	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.14	Norovirus GII NT
70	1ヶ月	女	急性肺炎	38℃, 肺炎,	喀痰	8.16	Rhinovirus
71	1	女	急性咽頭炎	40℃, 中枢神経系障害,	髄液	8.18	Human metapneumovirus
72	2	女	ヘルペス性菌肉口内炎?ヘルパンギーナ?	39℃, 口内炎,	ぬぐい液	8.19	Human herpes virus 6
73	2	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.19	Norovirus GII NT
74	1	男	感染性胃腸炎	37℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.21	Norovirus GII NT
75	2	男	手足口病	口内炎,	ぬぐい液	8.24	Human herpes virus 6
76	7ヶ月	女	感染性胃腸炎	37℃, 下痢,	ふん便	8.28	Norovirus GII NT
77	1	男	感染性胃腸炎	37℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.28	Norovirus GII NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年								2017年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8		
A群溶血性 レン球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1								1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1								1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2			1					3
	Echovirus 9							1			1
	計		4			1			1		6
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6					4	58
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1						6
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1						5
	Influenza virus B Yamagata		1		1	1					3
	計	25	24	9	9	1				4	72
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1				1					1
	Adenovirus 2			1							2
	Adenovirus 3			1							1
	Echovirus 9			1							1
	Human herpes virus 6			1							1
	計	1		4		1					6
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1					1
	Adenovirus 2			2							2
	Adenovirus 41					1			1		2
	Astrovirus NT		2								2
	Coxsackievirus B1			1							1
	Coxsackievirus B4								1		1
	Echovirus 9								2		2
	Echovirus 25										1
	Human herpes virus 6					1					1
	Norovirus GII NT	9	3	3					9		24
	Rhinovirus	1									1
	Rotavirus group AG3						2				2
	Rotavirus group AG9	2									2
	Rotavirus group A NT				1						1
	Sapovirus genogroup unknown	1		1			1				3
	<i>Staphylococcus aureus</i> V			1							1
<i>Salmonella</i> Thompson						1				1	
計	13	5	8	1	3	5		13		48	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2							1			1
	Coxsackievirus A6						4	2			6
	Human herpes virus 6								1		1
	Human herpes virus 7								1		1
	計						5	3	1		9
手足口病	Adenovirus 2					1					1
	Coxsackievirus A6					8	16	10	2		36
	Cytomegalovirus					1		1			2
	Echovirus 7					2					2
	Echovirus 9						1	2	1		4
	Human herpes virus 6						1		1		2
	計					12	18	13	4		47
流行性角結膜炎	Adenovirus 2										
伝染性紅斑	Echovirus 9								1		1
	Human herpes virus 7	1	1								2
	human parvovirus B19						1				1
計	1	1				1		1		4	
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>										
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1			1		8
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2								4
計	4	3	2	1	1			1		12	
流行性耳下腺炎	Mumps virus										
無菌性髄膜炎	Echovirus 9							2			4
	Human herpes virus 6				1						1
	Human herpes virus 7				1			3			4
	Varicella-zoster virus		1				1		5	2	11
計		1		2		1		5	2	11	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>										
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A										
	Respiratory syncytial virus B							1			1
	Coxsackievirus B4							1			1
	計							2			2
水痘	計										
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1					1
	Cytomegalovirus										3
	Human herpes virus 6				1	1		2			4
	計				1	1		2			4
その他	Adenovirus 1	1									1
	Adenovirus 2							2			2
	Adenovirus 3	1							1		1
	Adenovirus 4									1	1
	Coxsackievirus A2	1									1
	Coxsackievirus A6					3		3			6
	Cytomegalo virus	3			2	1		1			7
	Echovirus 3			1							1
	Echovirus 7					3	5	1			9
	Echovirus 9						3	8	8		19
	Epstein-Barr virus	1				1		1			3
	Human herpes virus 6	1			1	2		1	1		6
	Human herpes virus 7	2	1	1	1				1		6
	Human metapneumovirus		1						1		2
	Norovirus GII NT		1								1
	Parainfluenza virus 3				1	2	4	1			8
	Respiratory syncytial virus A		1								1
	Respiratory syncytial virus B	1			1						2
	Rhinovirus	1	1	1	1	3		2	1		10
	Sapovirus genogroup unknown					1					1
Varicella-zoster virus							1			1	
計	12	5	3	7	16	12	21	13		89	
総計	56	43	26	21	36	42	47	39		310	

高知県感染症情報月報 2017年9月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ			1				1	17	
小児科	咽頭結膜熱	5	4	20		3	16	48	49	153
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	10	67	6	3	15	103	149	117
	感染性胃腸炎	31	82	208	12	35	8	376	389	378
	水痘		2	14	4	3	2	25	34	60
	手足口病		17	33	13	2	24	89	208	27
	伝染性紅斑			1				1	6	36
	突発性発疹	1	9	23	3	2	3	41	37	62
	百日咳								1	20
	ヘルパンギーナ		2	15	1	1	17	36	65	50
	流行性耳下腺炎		2	6				8	9	85
	RSウイルス感染症	4	51	295	36	33	241	660	270	87
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎								1	5
STD	性器クラミジア感染症			3				3	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								1	
	淋菌感染症									1
基幹	細菌性髄膜炎									4
	無菌性髄膜炎									3
	マイコプラズマ肺炎			3				3	2	45
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	1	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8	2	19			6	35	31	15
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		51	182	709	75	82	332	1,431	1,271	1,154
前月		56	253	617	78	58	209			
前年同月		52	201	596	97	72	136			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2017年9月

全国情報（9月4日～10月1日）

第36週（9月4日～）から第39週（～10月1日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における9月の上位6疾患の合計は49.46で8月の4週間換算値62.96に比べて減少した。減少の原因は、夏の感染症である手足口病とヘルパンギーナの先月に続いた減少である。一方で、注目されるのは、冬に流行することが多いRSウイルスの早い流行である。1位は手足口病で13.08（8月1位4週換算値26.90）と半減した。2位が感染性胃腸炎で12.29（同2位12.79）と横ばいだった。3位がRSウイルス感染症で11.32（同3位8.26）と増加した。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.72（同5位4.67）と増加、5位は流行性角結膜炎で3.88（同6位3.73）と横ばいだった。6位がヘルパンギーナで3.17（同4位6.62）と半減した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	手足口病		4.17	3.88	2.67	2.36	13.08
2	感染性胃腸炎		3.32	3.29	2.60	3.08	12.29
3	RSウイルス感染症		3.21	3.34	2.49	2.28	11.32
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.45	1.54	1.20	1.53	5.72
5	流行性角結膜炎		0.98	1.00	0.85	1.05	3.88
6	ヘルパンギーナ		1.06	0.97	0.56	0.58	3.17

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の9月の上位6疾患の合計は43.90で8月の4週間換算値30.13と比べて増加したが、全国より少なかった（表2）。増加の原因はRSウイルス感染症の爆発的流行である。RSウイルスは季節外れの流行であるのに過去10年間で月間報告数が最多であった。都道府県別では定点当たりで、徳島県、熊本県、宮崎県、島根県、福井県、山形県に次いで7番目に多い報告であった。全国的に特筆すべき大流行となっている。

1位はRSウイルス感染症で22.00（8月2位4週間換算で7.21）と3倍に増加し全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で12.53（同1位10.37）と増加し全国と同等だった。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で3.44（同4位3.98）と少し減少し全国よりも少なかった。4位は手足口病で2.97（同3位5.54）と減少し全国よりも少なかった。5位は咽頭結膜熱で1.60（同6位1.30）、6位は突発性発疹で1.36（同7位0.98）といずれも少し増加で、全国よりも少し少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	RSウイルス感染症		4.07	6.20	6.73	5.00	22.00
2	感染性胃腸炎		3.63	3.63	2.50	2.77	12.53
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.70	0.90	0.97	0.87	3.44
4	手足口病		0.67	1.20	0.67	0.43	2.97
5	咽頭結膜熱		0.13	0.50	0.57	0.40	1.60
6	突発性発疹		0.30	0.20	0.43	0.43	1.36

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1名（8月 17名）。8月にはA型H3 NTが4件検出され、まとまった数が報告されたが、流行は拡大せず、夏季休暇の人の移動に伴う一時的な散発発症にとどまった。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 48名（8月 49名）。この時期としては平年並みの数である。幡多、安芸、高知市、須崎、中央東から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱からウイルスは検出されていないが、感染性胃腸炎の1歳児からアデノウイルス2型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 103名（8月 149名）。2014年10月以降多い報告数が続き、2015年12月以降は2016年3月に至るまで、同時期として過去10年間では最大の流行となった。2016年5月以降にいったん沈静化したのが、9月以降には再びゆるやかに増加し100台で推移し、11月～1月は平年並みの数となっていた。2月に再び増加し、3月以降も多い数字で推移している。県下全域から報告があり、高知市、幡多、中央西からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 376名（8月 389名）。この時期としてほぼ例年通りの報告数で、県下全域から報告があり、とくに高知市、須崎、安芸、中央東からの報告が多い。病原体として、先月につづきNorovirus GIIが4件検出され、ほかにCoxsackievirus B4が2件、Adenovirus 2型が1件検出された。

5) 水痘

報告数 25名（8月 34名）。須崎、中央西、高知市、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。2014年10月からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は

155名と大幅に増加，以後は減少，増減はあるが7月以降は減少している。定期予防接種の恩恵を受けていない5歳以上が10名（40%）を占めている。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 89名（8月 208名）。初夏に流行が始まる感染症で，今季は5月からとやや早い流行開始となり，過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で，高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月，9月と減少したが，幡多，中央西，高知市，中央東では，まだ注意報値を超えている。ウイルスはCoxsackie A6が5月に8件，6月に16件，7月に10件，8月，9月に各2件検出されており，今季の流行株である。9月は，加えてCoxsackie A16が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 1名（8月 6名）。2015年以降，全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが，6月以降は同時期として平年並の報告数である。中央東から1件報告された。Parvovirus B19は検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 41名（8月 37名）。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 0名（8月 1名）。9月は報告が1例もなかった。

10) ヘルパンギーナ

報告数 36名（8月 65名）。同時期としては平年並みの報告数だった。例年6-7月から流行がみられるが，今季は5月から流行が開始し，6月に著増，7月にさらに増加したが，8月から減少に転じた。安芸以外で報告があり，とくに幡多，高知市の順に多かった。9月にウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 8名（8月 9名）。高知市と中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 660名（8月 270名）。8月よりもさらに増加し，爆発的な流行となった。やや季節外

れの流行であるにも関わらず，過去10年間で月間報告数が最多であった。都道府県別では定点当たりで，徳島県，熊本県，宮崎県，島根県，福井県，山形県に次いで7番目に多い報告である。全国的に特筆すべき大流行となっている。筆者の医療施設では過去7年間で最大の月間小児科入院数を記録し，その半数以上がRSウイルス感染症だった。

県下全域から報告されたが，特に幡多，高知市，須崎，中央西の順に多く報告された。ウイルスは，高熱，咳嗽を伴う気道感染症の1歳児と下痢と咳嗽を伴う不明発疹症の2歳児，高熱，咳嗽を伴う気道感染症の2歳児から，それぞれRSウイルスAが検出されている。7月にはRSウイルスBが検出されていたが，このたびの大流行の主たるRSウイルス株はAの可能性が高い。夏季に流行が起きても冬季に再度流行する年が多いので，今後も注目していく必要がある。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名（8月 1名）。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 0名）。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 0名）。8月に続いて報告がなかった。今季は無菌性髄膜炎の患児から，Echovirus 9型が4件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 3名（8月 2名）。高知市から報告があった。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 35名（8月 31名）。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（8月 0名）。2017年は3月に1例報告されている。2014年は計4例，2015年，2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年9月）

類型	病名	報告年																			総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	83	1,523
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	83	1,523
3	コレラ	1					1						1								3
	パラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2	27
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34		191
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	2	226	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1														1	3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1
	マラリア									2					1						3
	レジオネラ症			2		1		1					9	7	3	6	9	2	4	4	3
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	149
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症												1		4	2	1			1	9
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	4
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	16	373
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	41
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	16	63
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			1	29
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1					7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1						1		1	4
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3	1	14
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	13
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	17	50
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3
	播種性クリプトコックス症																		1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1	30
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	13	147
	麻しん										5										5
風しん										1	1			4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	69	564	
新型	新型インフルエンザ											34								34	
計												34								34	
動物	鳥インフルエンザ														1					1	
	計														1					1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	170	2,721

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

9月はウイルス44件、細菌4件の搬入があり、そのうちウイルス22件、細菌1件の病原体を検出し、また、平成29年8月に搬入された検体でウイルス7件、7月に搬入された検体で1件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 2 1件、Adenovirus 3 1件、Coxsackievirus A6 2件、Coxsackievirus A16 1件、Coxsackievirus B4 2件、Cytomegalovirus 1件、Echovirus 3 1件、Echovirus 9 1件、Enterovirus NT 3件、Herpes simplex virus 1 1件、Human herpes virus 6 4件、Human herpes virus 7 2件、Norovirus GII NT 4件、Parainfluenza virus 2 1件、Parainfluenza virus 3 1件、Parechovirus 1 1件、Respiratory syncytial virus A 3件、また、細菌の内訳は*Bordetella pertussis* 1件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	熱性痙攣	40℃、咳嗽、上気道炎、	ふん便	7.11	Human herpes virus 6
2	2	女	ヘルペス性歯肉口内炎？ヘルパンギーナ？	39℃、口内炎、	ぬぐい液	8.19	Herpes simplex virus 1
3	11ヶ月	女	不明発疹症	39℃、発疹、	ぬぐい液	8.21	Echovirus 9
4	2	男	手足口病	口内炎、	ぬぐい液	8.24	Cytomegalovirus
5	1	女	胃腸炎	40℃、下痢、嘔吐、嘔気、咳嗽、上気道炎、発疹、	ふん便	8.27	Echovirus 3 Parechovirus 1
6	2	女	不明発疹症	37℃、発疹、	ぬぐい液	8.28	Human herpes virus 6
7	1	男	感染性胃腸炎	38℃、下痢、咳嗽、上気道炎、	ふん便	8.29	Adenovirus 3
8	11ヶ月	男	手足口病	39℃、発疹、口内炎、	ぬぐい液	8.30	Coxsackievirus A6
9	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、	ふん便	8.31	Coxsackievirus B4
10	6ヶ月	男	不明熱	38℃、下痢、	ぬぐい液	9. 1	Enterovirus NT
11	4	女	感染性胃腸炎	37℃、下痢、嘔吐、嘔気、腹痛、	ふん便	9. 2	Norovirus GII NT
12	1	女	不明熱	41℃、	ぬぐい液	9. 2	Enterovirus NT
13	1	男	不明発疹症	37℃、咳嗽、発疹、	ぬぐい液	9. 2	Human herpes virus 6
14	7ヶ月	男	不明発疹症	39℃、下痢、発疹、	ぬぐい液	9. 2	Human herpes virus 6
15	1	男	不明発疹症	37℃、咳嗽、発疹、	ぬぐい液	9. 2	Parainfluenza virus 3
16	1	女	感染性胃腸炎、扁桃炎	39℃、下痢、腹痛、	ふん便 ぬぐい液	8.31 9. 4	Adenovirus 2
17	1	女	感染性胃腸炎	下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	9. 4	Norovirus GII NT
18	1	男	呼吸器感染症	40℃、咳嗽、肺炎、	ぬぐい液	9. 4	Respiratory syncytial virus A
19	4	女	不明発疹症	38℃、発疹、	ぬぐい液	9. 4	Human herpes virus 7
20	3ヶ月	男	-	40℃、咳嗽、	後鼻腔ぬぐい液	9. 5	Parainfluenza virus 2
21	2	男	感染性胃腸炎	38℃、下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	9. 6	Norovirus GII NT
22	1	男	感染性胃腸炎	39℃、下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	9. 6	Norovirus GII NT
23	4	男	呼吸器感染症	上気道炎、	鼻咽腔ぬぐい液	9. 7	Enterovirus NT
24	2	女	感染性胃腸炎	41℃、	ふん便	9.11	Coxsackievirus B4
25	3ヶ月	男	手足口病	38℃、発疹、	ぬぐい液	9.11	Coxsackievirus A6
26	6	女	不明発疹症	36℃、発疹、	ぬぐい液	9.11	Human herpes virus 7
27	2	男	不明発疹症	下痢、咳嗽、発疹、	ぬぐい液	9.12	Respiratory syncytial virus A
28	12	男	百日咳 疑い	咳嗽、	ぬぐい液	9.13	<i>Bordetella pertussis</i>
29	2	男	手足口病	38℃、口内炎、	ぬぐい液	9.16	Coxsackievirus A16
30	2	女	気管支炎	39℃、咳嗽、気管支炎、	ぬぐい液	9.22	Respiratory syncytial virus A

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年									2017年 総計		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9			
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1									1	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1									1	
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2				1					3	
	Echovirus 9								1			1	
	計		4			1			1			6	
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6					4		58	
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1							6	
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1							5	
	Influenza virus B Yamagata		1		1							3	
	計	25	24	9	9	1				4		72	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1										1	
	Adenovirus 2			1		1						2	
	Adenovirus 3			1								1	
	Echovirus 9			1								1	
	Human herpes virus 6			1								1	
	計	1		4		1						6	
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1					1	1	
	Adenovirus 2			2								3	
	Adenovirus 3											1	
	Adenovirus 41					1			1			2	
	Astrovirus NT		2									2	
	Coxsackievirus B1			1								1	
	Coxsackievirus B4								1	2		3	
	Echovirus 9								2			2	
	Echovirus 25											1	
	Human herpes virus 6					1	1					1	
	Norovirus GI NT		3	3						9	4	28	
	Rhinovirus	1										1	
	Rotavirus group AG3							2				2	
	Rotavirus group AG9	2										2	
	Rotavirus group A NT				1							1	
	Sapovirus genogroup unknown	1		1			1					3	
<i>Staphylococcus aureus</i> V			1								1		
<i>Salmonella</i> Thompson							1				1		
	計	13	5	8	1	3	5		14	7		56	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2							1				1	
	Coxsackievirus A6						4	2				6	
	Coxsackievirus A10												
	Human herpes virus 6								1			1	
	Human herpes virus 7						1					1	
Human metapneumovirus													
	計						5	3	1			9	
手足口病	Adenovirus 2					1						1	
	Coxsackievirus A6					8	16	10	2	2		38	
	Coxsackievirus A16									1		1	
	Cytomegalovirus					1		1	1			3	
	Enterovirus NT												
	Echovirus 7					2						2	
	Echovirus 9						1	2	1			4	
	Human herpes virus 6						1		1			2	
Human herpes virus 7													
	計					12	18	13	5	3		51	
流行性角結膜炎	Adenovirus 2												
	計												
伝染性紅斑	Echovirus 9								1			1	
	Human herpes virus 7	1	1									2	
	human parvovirus B19						1					1	
	計	1	1				1		1			4	
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>												
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1			1	1		9	
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2									4	
	計	4	3	2	1	1			1	1		13	
流行性耳下腺炎	Mumps virus												
	計												
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B3												
	Cytomegalovirus												
	Echovirus 6												
	Echovirus 9							2	2			4	
	Echovirus 30												
	Human herpes virus 6				1							1	
	Human herpes virus 7				1			3				4	
	Mumps virus												
	Parechovirus 3												
Parainfluenza virus 3													
Varicella-zoster virus		1				1					2		
	計		1		2		1	5	2			11	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>												
	計												
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A												
	Respiratory syncytial virus B								1			1	
	Coxsackievirus B4								1			1	
	計							2				2	
水痘													
	計												
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1						1	
	Cytomegalovirus						1					3	
	Human herpes virus 6				1	1			2			4	
	計				1	1		2				4	
その他	Adenovirus 1	1										1	
	Adenovirus 2								2			2	
	Adenovirus 3	1										1	
	Adenovirus 4										1	1	
	Coxsackievirus A2	1								1		1	
	Coxsackievirus A6						3		3			6	
	Cytomegalovirus	3			2	1		1	1			7	
	Echovirus 3			1						1		2	
	Echovirus 7						3	5	1	1		9	
	Echovirus 9							3	8	9		20	
	Enterovirus NT										3	3	
	Epstein-Barr virus	1					1		1			3	
	Herpes simplex virus 1									1		1	
	Human herpes virus 6	1			1	2			2	2	2	10	
	Human herpes virus 7	2	1	1	1				1	1	2	8	
	Human metapneumovirus		1							1		2	
	Norovirus GI NT											1	
	Parainfluenza virus 2										1	1	
	Parainfluenza virus 3				1	2	4	1			1	9	
	Parechovirus 1											1	
	Respiratory syncytial virus A		1								3	4	
	Respiratory syncytial virus B	1			1							2	
	Rhinovirus	1	1	1	1	3			2	1		10	
	Sapovirus genogroup unknown					1						1	
	Varicella-zoster virus								1			1	
		計	12	5	3	7	16	12	22	18	12		107
		総計	56	43	26	21	36	42	48	46	23		341

高知県感染症情報月報 2017年10月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ			3					3	1	
小児科	咽頭結膜熱			3	12	1	2	6	24	48	128
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	8	115	5	18	14	164	103	108
	感染性胃腸炎		26	66	166	14	12	60	344	376	420
	水痘		1	5	15	8	11	2	42	25	39
	手足口病			12	58	3		21	94	89	52
	伝染性紅斑									1	27
	突発性発疹		1	13	17	5		6	42	41	47
	百日咳				3				3		9
	ヘルパンギーナ		4	8	29	2		1	44	36	29
	流行性耳下腺炎				5			1	6	8	99
	RSウイルス感染症		2	83	191	21	24	61	382	660	183
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				2				2		
STD	性器クラミジア感染症				1			1	2	3	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										1
	淋菌感染症							1	1		
基幹	細菌性髄膜炎			1					1		
	無菌性髄膜炎										1
	マイコプラズマ肺炎				3			2	5	3	39
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2	2	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)				1				1		1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		12	1	12			4	29	35	23
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		50	203	632	59	67	180	1,191	1,431	1,206	
前月		51	182	709	75	82	332				
前年同月		51	301	615	76	43	120				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2017年10月

全国情報 (10月2日～10月29日)

第40週 (10月2日～) から第43週 (～10月29日) までの4週間に報告が多かった疾患は表1のとおりである。全国における10月の上位6疾患の合計は38.67で9月の49.46に比べて減少した。減少の原因は、手足口病とRSウイルス感染症の減少である。時期の早い大流行がみられたRSウイルスは減少した。1位は感染性胃腸炎で13.00 (9月2位12.29) と横ばいだった。2位は手足口病で7.83 (同1位13.08) と減少、3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.88 (同4位5.72) と少し増加した。4位はRSウイルス感染症で5.96 (同3位11.32) と減少、5位は流行性角結膜炎で3.20 (同5位3.88) と減少し、6位は咽頭結膜熱で1.80 (同7位1.76) と横ばいだった。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	感染性胃腸炎		3.15	2.86	3.36	3.63	13.00
2	手足口病		2.12	1.86	1.78	2.07	7.83
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.67	1.44	1.80	1.97	6.88
4	RSウイルス感染症		1.95	1.46	1.26	1.29	5.96
5	流行性角結膜炎		0.85	0.79	0.82	0.74	3.20
6	咽頭結膜熱		0.44	0.39	0.44	0.53	1.80

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の10月の上位6疾患の合計は35.69で9月の43.90と比べて減少し、全国よりも少なかった (表2)。減少の原因は、先月爆発的流行がみられたRSウイルス感染症の減少である。RSウイルスは季節外れの流行であるのに、9月は過去10年間で月間報告数が最多であった。

1位はRSウイルス感染症で12.73 (9月1位22.00) と減少し全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で11.47 (同2位12.53) と横ばいで全国より少し少なかった。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.47 (同3位3.44) と少し増加、4位は手足口病で3.14 (同4位2.97) と横ばい、5位はヘルパンギーナで1.47 (同7位1.19) と増加、6位は突発性発疹で1.41 (同6位1.36) と横ばいで、いずれも全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	RSウイルス感染症		4.10	2.50	2.80	3.33	12.73
2	感染性胃腸炎		2.87	2.53	2.60	3.47	11.47
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.80	1.00	1.27	1.40	5.47
4	手足口病		0.57	0.60	1.00	0.97	3.14
5	ヘルパンギーナ		0.27	0.20	0.57	0.43	1.47
6	突発性発疹		0.37	0.20	0.27	0.57	1.41

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3名 (9月 1名)。中央東から3件報告があった。8月にはA型 H3 NTが4件検出され、まとまった数が報告されたが、流行は拡大せず、夏季休暇の人の移動に伴う一時的な散发発症にとどまった。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 24名 (9月 48名)。この時期としては平年並みの数である。幡多、高知市、須崎、中央東、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 164名 (9月 103名)。平年並みの報告数に落ち着いている。県下全域から報告があり、高知市、須崎からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 344名 (9月 376名)。この時期としてはほぼ例年通りの報告数で、県下全域から報告があり、とくに高知市、安芸、幡多からの報告が多い。病原体として、先月につづきNorovirus G IIが1件検出され、ほかにParecho virusが1件、Sapovirusが1件検出された。

5) 水痘

報告数 42名 (9月 25名)。県下全域から報告があり、須崎、中央西、高知市から多く報告された。2014年10月からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していたが、昨年12月は155名と大幅に増加したが、その後減少し変動しながら推移している。定期予防接種の恩恵を受けていない0歳児と5歳以上が23名 (55%) を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 94名 (9月 89名)。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からとやや早い流行開始となり、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目

に多い報告数で、高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月以降は徐々に減少したが10月に下げ止まりとなった。高知市では5.28とまだ注意報値を超えている。高知市、幡多、中央東、中央西の順で多く報告された。ウイルスはCoxsackie A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackie A16が1件、10月はEnterovirus 71が2件検出された。Enterovirus 71は脳幹脳炎を起こすことがあり、今後このウイルスによる手足口病が増加しないか、注意深く見守る必要がある。

7) 伝染性紅斑

報告数 0名(9月 1名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、6月以降は同時期として平年並の報告数で、1カ月の報告が1例もなかったのは8年ぶりである。

8) 突発性発疹

報告数 42名(9月 41名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 3名(9月 0名)。高知市から7～14歳の小児例が3例報告された。

10) ヘルパンギーナ

報告数 44名(9月 36名)。例年6～7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月7月と増加、8月から減少に転じていたが10月に再び増加に転じた。須崎以外で報告があり、とくに高知市、安芸が多かった。10月にCoxsackievirus A10が1件検出されている。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 6名(9月 8名)。高知市と幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 382名(9月 660名)。8～9月と季

節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じた。県下全域から報告されたが、特に高知市、幡多、須崎、中央東の順に多く報告された。ウイルスは、RSウイルスA、Bが各1件検出されている。7月以降に検出されたウイルスを集計するとRSウイルスAが4件、Bが2件であった。夏季に流行が起きても冬季に再度流行する年が多いので、今後も注目していく必要がある。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名(9月 0名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(9月 0名)。中央東から50歳代前半の例が報告された。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(9月 0名)。8月以降は報告がない。今季は無菌性髄膜炎の患児から、Echovirus 9型が4件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 5名(9月 3名)。幡多と高知市から報告があった。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 29名(9月 35名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(9月 0名)。2017年は3月に1例報告されている。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年10月）

類型	病名	報告年																		総計	
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		29
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	99	1,539
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	99	1,539
3	コレラ	1					1						1								3
	バラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2	27
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	193
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	228	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1														1	3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	1
	マラリア									2					1						3
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	4
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	149
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症												1		4	2	1			1	9
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	4
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	17	374
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1		2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	16
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2		2	30
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1					7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							1	1	4
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3	2	15
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	13
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	17	50
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3
	播種性クリプトコックス症																		1	2	3
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1	30
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	19	153
	麻しん										5										5
風しん										1	1			4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	77	572	
新型	新型インフルエンザ											34								34	
計												34								34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	197	2,748

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

10月はウイルス32件，細菌5件の搬入があり，そのうちウイルス14件の病原体を検出し，また，平成29年9月に搬入された検体でウイルス3件，8月に搬入された検体で1件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 1件，Adenovirus B 1件，Coxsackievirus A2 1件，Coxsackievirus A10 1件，Cytomegalovirus 1件，Enterovirus 71 3件，Human herpes virus 6 4件，Norovirus GII NT 2件，Parecho virus 1 1件，Respiratory syncytial virus A 1件，Respiratory syncytial virus B 1件，Sapovirus genogroup unknown 1件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	6	男	ウイルス性出血性膀胱炎	血尿	尿	8.28	Adenovirus B
2	2	女	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	9.19	Norovirus GII NT
3	3	女	不明熱	41℃，	ぬぐい液	9.19	Adenovirus 2
4	6	男	手足口病	-	ぬぐい液	9.22	Enterovirus 71
5	1	女	急性気管支炎	38℃，咳漱，上気道炎，下気道炎， 気管支炎，	ぬぐい液	9.25	Coxsackievirus A2
6	3	男	不明熱（ヘルペス？）	41℃，口内炎，	ぬぐい液	9.27	Cytomegalovirus
7	2	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	10. 3	Enterovirus 71
8	8ヶ月	女	ヘルパンギーナ	38℃，上気道炎，口内炎，	ぬぐい液	10. 4	Coxsackievirus A10
9	1	男	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	10. 4	Human herpes virus 6
10	1	男	手足口病	39℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	10. 5	Human herpes virus 6
11	10ヶ月	男	手足口病疑い	38℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	10. 5	Human herpes virus 6
12	1	男	不明発疹症	39℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	10.12	Human herpes virus 6 Respiratory syncytial virus A
13	1	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	10.13	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
14	4ヶ月	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	10.13	Parecho virus 1
15	0ヶ月	男	手足口病	39℃，	ふん便	10.16	Enterovirus 71
16	1	男	インフルエンザ様疾患	39℃，気管支炎，	鼻汁	10.23	Respiratory syncytial virus B

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年										2017年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1										1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1										1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2				1						3
	Echovirus 9							1					1
	計		4						1				6
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6								58
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1								6
	Influenza virus B (Victoria)	1	2	1	1					4			5
	Influenza virus B Yamagata		1		1								3
	計	25	24	9	9	1				4			72
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1											1
	Adenovirus 2					1							2
	Adenovirus 3			1									1
	Echovirus 9			1									1
	Human herpes virus 6			1									1
	計	1		4		1							6
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1							1
	Adenovirus 2												3
	Adenovirus 3			2					1		1		1
	Adenovirus 41					1			1				2
	Astrovirus NT		2						1				2
	Coxsackievirus B1			1									1
	Coxsackievirus B4								1		2		3
	Echovirus 9								2				2
	Echovirus 25												1
	Human herpes virus 6					1							1
	Norovirus GII NT	9	3	3						9	5	1	30
	Parecho virus 1											1	1
	Rhinovirus	1											1
	Rotavirus group AG3								2				2
	Rotavirus group AG9	2											2
	Rotavirus group A NT				1								1
Sapovirus genogroup unknown	1		1					1			1	4	
<i>Staphylococcus aureus</i> V			1									1	
<i>Salmonella</i> Thompson								1				1	
	計	13	5	8	1	3	5		14	8	3		60
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2								1				1
	Coxsackievirus A6							4	2				6
	Coxsackievirus A10										1		1
	Human herpes virus 6									1			1
	Human herpes virus 7							1					1
Human metapneumovirus												1	
	計						5	3	1				10
手足口病	Adenovirus 2					1							1
	Coxsackievirus A6					8		16	10	2	2		38
	Coxsackievirus A16									1			1
	Cytomegalovirus					1			1	1			3
	Enterovirus 71										1	2	3
	Enterovirus NT												2
	Echovirus 7					2							4
	Echovirus 9								1	2	1		4
	Human herpes virus 6								1			1	3
Human herpes virus 7												3	
	計					12		18	13	5	4	3	55
流行性角結膜炎	Adenovirus 2												
	計												
伝染性紅斑	Echovirus 9									1			1
	Human herpes virus 7	1	1										2
	human parvovirus B19							1					1
	計	1	1					1		1			4
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>												
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1				1	1		9
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2										4
	計	4	3	2	1	1				1	1		13
流行性耳下腺炎	Mumps virus												
	計												
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B3												
	Cytomegalovirus												
	Echovirus 6												
	Echovirus 9								2	2			4
	Echovirus 30												
	Human herpes virus 6					1							1
	Human herpes virus 7					1				3			4
	Mumps virus												
	Parechovirus 3												
Parainfluenza virus 3													
Varicella-zoster virus		1						1				2	
	計		1			2		1	5	2			11
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>												
	計												
RS ウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A									1			1
	Respiratory syncytial virus B									1			1
	Coxsackievirus B4									2			2
	計									2			2
水痘													
	計												
突発性発疹	Coxsackievirus A4												1
	Cytomegalovirus						1						3
	Human herpes virus 6												4
	計					1							4
その他	Adenovirus 1	1											1
	Adenovirus 2												1
	Adenovirus 3	1											1
	Adenovirus 4												1
	Adenovirus B								1				1
	Coxsackievirus A2												2
	Coxsackievirus A6	1					3		3			1	6
	Cytomegalovirus	3				2	1		1			1	8
	Echovirus 3			1						1			2
	Echovirus 7						3		5				9
	Echovirus 9								3				3
	Enterovirus NT								1				20
	Epstein-Barr virus										3		3
	Herpes simplex virus 1	1					1		1				1
	Human herpes virus 6	1				1	2		2	2		3	13
	Human herpes virus 7	2	1	1		1			1	2			8
	Human metapneumovirus			1						1			2
	Norovirus GII NT		1										1
	Parainfluenza virus 2										1		1
	Parainfluenza virus 3					1	2	4	1		1		9
Parechovirus 1												1	
Respiratory syncytial virus A		1							1		3	1	
Respiratory syncytial virus B	1				1						1	3	
Rhinovirus	1	1	1		1	3		2	1			10	
Sapovirus genogroup unknown						1						1	
Varicella-zoster virus									1			1	
	計	12	5	3	7	16	12	22	19	13	7		116
	総計	56	43	26	21	36	42	48	47	26	14		359

高知県感染症情報月報 2017年11月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名									
内科・小児科	インフルエンザ		3	5	3		3	14	3	31
	咽頭結膜熱			12		2	2	16	24	97
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	23	113	4	7	32	194	164	146
	感染性胃腸炎	47	118	201	15	15	147	543	344	594
	水痘		7	29	12	14	3	65	42	68
	手足口病	6	23	80	3		2	114	94	17
	伝染性紅斑			3			2	5		23
	突発性発疹	1	9	28	4	2	2	46	42	37
	百日咳					1		1	3	9
	ヘルパンギーナ	8	8	34	1			51	44	32
	流行性耳下腺炎		1	4	1		1	7	6	80
	RSウイルス感染症	2	32	85	14	14	24	171	382	107
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				3				3	2	2
STD	性器クラミジア感染症			1				1	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		1					1		
	淋菌感染症								1	
基幹	細菌性髄膜炎		2	1				3	1	
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			6				6	5	34
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1	2	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1					1	1	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16	4	13			4	37	29	16
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1				1		
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		95	232	620	57	55	222	1,281	1,191	1,299
前月		50	203	632	59	67	180			
前年同月		48	357	610	112	82	90			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2017年11月

全国情報 (10月30日～12月3日)

第44週 (10月30日～) から第48週 (～12月3日) までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における11月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると45.78と10月の38.67に比べて増加した。増加の原因は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の増加である。1位は感染性胃腸炎で4週間換算で20.04と13.00 (10月1位) に比べて増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.51 (同3位6.88) と増加した。3位は手足口病で5.18 (同2位7.83) と減少した。4位にインフルエンザが登場し、4.66 (同12位0.98) と増加した。5位がRSウイルス感染症で3.23 (同4位5.96) と減少し、6位は流行性角結膜炎で3.14 (同5位3.20) と横ばいだった。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		3.47	4.27	4.89	5.48	6.94	25.05
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.88	2.19	2.50	2.44	2.88	11.89
3	手足口病		1.62	1.41	1.28	1.23	0.94	6.48
4	インフルエンザ		0.49	0.52	0.77	1.47	2.58	5.83
5	RSウイルス感染症		0.96	0.88	0.76	0.71	0.73	4.04
6	流行性角結膜炎		0.70	0.85	0.83	0.71	0.84	3.93

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の11月の上位6疾患の合計は4週間換算で30.34で、10月の35.69と比べて減少し、全国よりも少なかった (表2)。減少の原因は、8-9月に爆発的流行がみられたRSウイルス感染症がさらに減ったことである。全国で流行がはじまったと報じられたインフルエンザは、県下では4週換算で12位0.23で10月の16位0.06に比べて増加してはいるが、流行期に入っていない。1位は感染性胃腸炎で4週間換算で14.47 (10月2位11.47) と増加したが、全国よりも少なかった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.18 (同3位5.47) と横ばいで、全国よりも少なかった。3位はRSウイルス感染症で4.56 (同1位12.73) と減少したが、全国よりも多かった。4位は手足口病で3.04 (同4位3.14) と横ばいで全国よりも少なかった。5位は水痘で1.74 (同7位1.40) と少し増加したが全国よりも少なかった。6位はヘルパンギーナで1.36 (同5位1.47) と横ばいで全国よりも多かった。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	44週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎		2.23	3.83	3.80	4.43	3.80	18.09
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.27	1.50	1.30	1.07	1.33	6.47
3	RSウイルス感染症		1.60	1.23	1.17	0.87	0.83	5.70
4	手足口病		0.90	0.70	0.67	1.00	0.53	3.80
5	水痘		0.43	0.27	0.27	0.63	0.57	2.17
6	ヘルパンギーナ		0.30	0.50	0.33	0.47	0.10	1.70

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 14名 (10月 3名)。中央西、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。高知県は定点当たりの報告数は0.29で全国で最も少なかった。報告が多いのは沖縄県22.73、長崎県17.8、宮崎県12.11、福井県10.46、福岡県10.33、愛媛県10.12、新潟県10.10、宮城県10.00などで、本県でも流行開始は時間の問題である。今季、ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 16名 (10月 24名)。高知市、須崎、幡多から表記の順に多く報告された。この時期としては平年並みの数である。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 194名 (10月 164名)。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、高知市、安芸、幡多からの報告が多い。細菌は *Streptococcus pyogenes* T4が1件検出されている。

4) 感染性胃腸炎

報告数 543名 (10月 344名)。この時期としてはほぼ例年通りの報告数で、県下全域から報告があり、とくに幡多、安芸、高知市、中央東からの報告が多い。病原体として、先月につづき Norovirus GIIが1件、Echovirus 3型が1件検出された。

5) 水痘

報告数 65名 (10月 42名)。2014年10月からの水痘ワクチン定期化の効果で、少ない数字で推移していた。昨年12月は155名と大幅に増加したが、その後減少し変動しながら推移している。須崎、中央西、高知市、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。定期予防接種の恩恵を受けていない0歳児と5歳以上が30名で46%を占めていた。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 114名(10月 94名)。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からとやや早い流行開始となり、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月以降は徐々に減少したが10月に下げ止まり、11月は再び増加した。高知市では7.28とまだ注意報値を超えている。高知市、中央東、安芸、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackievirus A16が1件、Enterovirus 71が1件、10月はEnterovirus 71が4件、11月はEnterovirus 71が1件、Cytomegalovirusが1件検出された。今季は3種類の原因ウイルスが流行した。終盤の流行を形成したと推測されるEnterovirus 71は脳幹脳炎を起こすことがあり、今後このウイルスによる手足口病が増加しないか、そして脳炎が発生しないか、注意深く見守る必要がある。

7) 伝染性紅斑

報告数 5名(10月 0名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、6月以降は同時期として平年並の報告数である。幡多、高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 46名(10月 42名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 1名(10月 3名)。須崎から10歳代後半の1名が報告された。細菌は検出されていない。

10) ヘルパンギーナ

報告数 51名(10月 44名)。例年6-7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月7月と増加、8月から減少に転じていたが、10月に続き11月も増加した。安芸、高知市、中央東、中央西から表記の順に多く報告された。Coxsackievirus A10とCoxsackievirus B5が各1件検出されている。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 7名(10月 6名)。高知市、中央西、

幡多、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 171名(10月 382名)。8-9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月も半減した。県下全域から報告されたが、特に高知市、須崎、幡多、中央西、中央東で多く報告された。11月にウイルスは検出されていない。7月以降に検出されたウイルスを集計するとRSウイルスAが5件、Bが3件であった。夏季に流行が起きても冬季に再度流行する年が多いので、今後も注目していく必要がある。

13) 流行性角結膜炎

報告数 3名(10月 2名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 3名(10月 1名)。50歳代が2名、70歳以上が1名報告された。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(10月 0名)。8月以降は報告がない。今季は無菌性髄膜炎の患児から、Echovirus 9型が4件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 6名(10月 5名)。高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 37名(10月 29名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 1名(10月 0名)。2017年は3月の1例以来2例目の報告である。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年11月）

類型	病名	報告年																			総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	104	1,544
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	104	1,544
3	コレラ	1					1						1								3
	パラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2	27
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	193
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	228	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1														1	3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	82
	マラリア									2					1						3
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	149
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症												1		4	2	1			1	9
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	27	384
5	アメーバ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1		2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	19
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3					2		2	30
	ジアルジア症		1	2	1							1			1	1					7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1							1		4
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1	18
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3	3	16
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	13
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	51
	水痘（入院例に限る）																	2	1		3
	播種性クリプトコックス症																		1	3	4
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1	30
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	21	155
	麻しん										5										5
風しん										1	1			4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	86	581	
新型	新型インフルエンザ											34								34	
	計											34								34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	221	2,772

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

11月はウイルス53件，細菌3件の搬入があり，そのうちウイルス19件，細菌1件の病原体を検出し，また，平成29年10月に搬入された検体でウイルス8件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Coxsackievirus A10 2件，Coxsackievirus B1 1件，Coxsackievirus B5 1件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 3 1件，Enterovirus 71 3件，Herpes simplex virus 1 4件，Human herpes virus 6 4件，Human herpes virus 7 5件，Norovirus GII NT 1件，Parechovirus 1 1件，Respiratory syncytial virus A 1件，Respiratory syncytial virus B 1件であった．また，細菌の内訳は，*Streptococcus pyogenes* T4 1件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	5	女	手足口病	38℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	10.10	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
2	1ヶ月	男	上気道炎	咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	10.25	Respiratory syncytial virus A
3	8	男	下気道炎	38℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	10.26	Respiratory syncytial virus B
4	1	男	不明熱	41℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	ぬぐい液	10.26	Parechovirus 1
5	2	男	手足口病	発疹，口内炎，	ぬぐい液	10.27	Enterovirus 71
6	1	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	10.27	Human herpes virus 7
7	1	女	けいれん群発	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	10.28	Human herpes virus 6
8	1	男	手足口病	発疹，口内炎，	ぬぐい液	10.30	Enterovirus 71
9	3ヶ月	女	インフルエンザ様疾患、急性咽頭炎	39℃，上気道炎，	うがい液	11. 2	Coxsackievirus A10
10	1	男	呼吸器感染症	41℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	11. 4	Cytomegalovirus Human herpes virus 6
11	11ヶ月	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，	ふん便	11. 6	Norovirus GII NT
12	2	女	ヘルペス歯肉口内炎の疑い	40℃，口内炎，	ぬぐい液	11. 7	Herpes simplex virus 1
13	2	男	手足口病	39℃，	ぬぐい液	11. 7	Cytomegalovirus
14	2	女	結膜炎	40℃，咳漱，発疹，結膜炎，	鼻汁	11. 8	Human herpes virus 7
15	2	男	手足口病	38℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	11. 8	Enterovirus 71
16	0ヶ月	女	-	39℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	11. 9	Herpes simplex virus 1
17	6	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	11. 9	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4
18	2	女	ヘルパンギーナ	40℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	11.10	Coxsackievirus A10
19	11ヶ月	女	不明熱	38℃，	ぬぐい液	11.10	Coxsackievirus B1
20	3	女	気管支炎	38℃，咳漱，気管支炎，発疹，	ぬぐい液	11.13	Herpes simplex virus 1 Human herpes virus 7
21	2	女	呼吸器感染症	39℃，	髄液	11.13	Herpes simplex virus 1
					鼻咽腔ぬぐい液	11.13	Human herpes virus 7
22	3ヶ月	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	11.14	Echovirus 3
23	1	男	-	40℃，下痢，発疹，	ふん便	11.17	Human herpes virus 6
24	1	女	ヘルパンギーナ	38℃，咳漱，気管支炎，口内炎，	吸引鼻汁	11.21	Coxsackievirus B5

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年											2017年 総計		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1												1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1												1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4														1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2				1								3
	Echovirus 9								1						1
	計		4			1			1					7	
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6					4					58
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1										6
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1										5
	Influenza virus B Yamagata	1	1	1	1	1									5
	計	25	24	9	9	1				4					72
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1													1
	Adenovirus 2					1									2
	Adenovirus 3			1											1
	Echovirus 9			1											1
	Human herpes virus 6			1											1
計	1		4		1									6	
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1									1
	Adenovirus 2									1					3
	Adenovirus 3			2											1
	Adenovirus 41					1			1						2
	Astrovirus NT		2												2
	Coxsackievirus B1			1											1
	Coxsackievirus B4									1	2				3
	Echovirus 3											1			1
	Echovirus 9									2			1		2
	Echovirus 25						1								1
	Human herpes virus 6					1									1
	Norovirus GI NT	9	3	3						9	5	1	1		31
	Parecho virus 1											1			1
	Rhinovirus	1													1
	Rotavirus group AG3							2							2
	Rotavirus group AG9	2													2
	Rotavirus group A NT				1										1
Sapovirus genogroup unknown	1		1			1					1			4	
<i>Staphylococcus aureus</i> V			1											1	
<i>Salmonella</i> Thompson						1								1	
計	13	5	8	1	3	5		14	8	3	2			62	
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2							1							1
	Coxsackievirus A6						4	2							6
	Coxsackievirus A10										1	1			2
	Coxsackievirus B5														1
	Human herpes virus 6								1						1
	Human herpes virus 7					1									1
Human metapneumovirus						5	3	1		1	2			12	
計						12	18	13	5	4	8	2		62	
手足口病	Adenovirus 2					1									1
	Coxsackievirus A6					8	16	10	2	2					38
	Coxsackievirus A16								1	1					1
	Cytomegalovirus					1		1	1			1			4
	Enterovirus 71									1	4	1			6
	Echovirus 7					2									2
	Echovirus 9						1	2	1						4
	Human herpes virus 6						1		1			2			4
	Human herpes virus 7											2			2
	計					12	18	13	5	4	8	2			62
流行性角結膜炎	Adenovirus 2														
計															
伝染性紅斑	Echovirus 9								1						1
	Human herpes virus 7	1	1												2
	human parvovirus B19							1							1
計	1	1					1		1					4	
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>	2	1	2	1	1			1	1					9
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	2												4
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4	3	2	1	1				1	1				13
計															
流行性耳下腺炎	Mumps virus														
計															
無菌性髄膜炎	Echovirus 9							2	2						4
	Human herpes virus 6				1										1
	Human herpes virus 7				1				3						4
	Varicella-zoster virus		1				1		3						4
計		1		2		1		5	2					11	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>														
計															
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A								1						1
	Respiratory syncytial virus B								1						1
	Coxsackievirus B4								2						2
計															
水痘	計														
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1									1
	Cytomegalovirus														3
	Human herpes virus 6				1	1			2						4
	計				1	1			2						4
その他	Adenovirus 1	1													1
	Adenovirus 2								2		1				3
	Adenovirus 3	1													1
	Adenovirus 4									1					1
	Adenovirus B									1					1
	Coxsackievirus A2	1									1				2
	Coxsackievirus A6						3		3						6
	Coxsackievirus A10												1		1
	Coxsackievirus B1												1		1
	Cytomegalo virus	3			2	1		1	1		1		1		9
	Echovirus 3			1						1					2
	Echovirus 7					3	5	1	1						9
	Echovirus 9						3	8	9						20
	Enterovirus NT										3				3
	Epstein-Barr virus	1				1		1							3
	Herpes simplex virus 1									1					5
	Human herpes virus 6	1			1		2		2	2	2	3	4		16
	Human herpes virus 7	2	1	1	1				2	1	2	3	3		11
	Human metapneumovirus		1							1					2
	Norovirus GI NT		1												1
	Parainfluenza virus 2										1				1
	Parainfluenza virus 3					1	2	4	1		1				9
	Parechovirus 1											1			2
	Respiratory syncytial virus A		1								3				6
	Respiratory syncytial virus B	1			1							2			4
	Rhinovirus	1	1	1	1	3			2	1		2			10
	Sapovirus genogroup unknown					1									1
Varicella-zoster virus									1					1	
計	12	5	3	7	16	12	22	19	13	10	13	13		132	
総計	56	43	26	21	36	42	48	47	26	22	20			387	

高知県感染症情報月報 2017年12月

(65定点医療機関)

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月	
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ	24	98	382	131	64	185	884	14	727	
小児科	咽頭結膜熱			21	2	4	3	30	16	58	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	22	96	7	1	60	220	194	278	
	感染性胃腸炎	38	65	125	26	20	99	373	543	1,079	
	水痘	3	7	38	8	1	1	58	65	155	
	手足口病	1	17	27	6			51	114	16	
	伝染性紅斑		1					1	5	36	
	突発性発疹	2	8	20	3	2	9	44	46	42	
	百日咳		1	1	1	1		4	1	7	
	ヘルパンギーナ			5				2	7	51	10
	流行性耳下腺炎		1	4			1	6	7	80	
	RSウイルス感染症	1	23	37	5	4	12	82	171	172	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎								3	2	
STD	性器クラミジア感染症			1				1	1		
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ			1				1	1		
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎								3		
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎		1	6				7	6	28	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	1	4	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)								1	3	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	3	10			3	21	37	20	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								1		
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		108	247	776	189	98	374	1,792	1,281	2,717	
前月		95	232	620	57	55	222				
前年同月		77	457	1,193	264	231	495				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

2017年12月

全国情報 (12月4日～12月31日)

第49週 (12月4日～) から第52週 (～12月31日) までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における12月の上位6疾患の合計は95.25で11月の4週間換算値45.78に比べて著しく増加した。増加の原因の第一はインフルエンザの流行だが、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も増加している。1位はインフルエンザで42.21 (11月4位、4週間換算で4.66) と9倍に増加し、前月に始まった流行が拡大した。今季の流行株は、2017年47～51週の全国集計では、AH1pdm 09が最多で59.3%、次いでB/Yamagataが26.4%、A香港H3が13.0%B (系統不明) が0.9%、B/Victoriaが0.4%の順である。2位は感染性胃腸炎で32.14 (同1位20.04)、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で11.68 (同2位9.51) といずれも増加した。4位は流行性角結膜炎で3.28 (同6位3.14) で横ばい、5位は咽頭結膜熱で3.01 (同7位2.66) と増加した。6位はRSウイルス感染症で2.93 (同5位3.23) とわずかに減少した。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	計
1	インフルエンザ		4.06	7.40	12.87	17.88	42.21
2	感染性胃腸炎		7.81	8.65	8.39	7.29	32.14
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.07	3.20	2.97	2.44	11.68
4	流行性角結膜炎		0.85	0.85	0.83	0.75	3.28
5	咽頭結膜熱		0.82	0.85	0.71	0.63	3.01
6	RSウイルス感染症		0.78	0.72	0.73	0.70	2.93

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の12月の上位6疾患の合計は44.55で11月の4週間換算値30.34に比べて増加したが、全国よりも少なかった (表2)。増加の主因は、インフルエンザの流行開始である。今季の流行の特徴はインフルエンザB型の検出率が流行開始当初から多い点で、B型の検出率が第52週は45.5%を、今年の第1週は40.3%を占めた。例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的である。1位はインフルエンザで18.42 (同12位0.23) と首位に躍り出たが、全国よりも少なかった。2位は感染性胃腸炎で12.43 (同1位14.47) と減少し、全国よりも少なかった。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.33 (同2位5.18) と増加したが、全国よりも少なかった。4位はRSウイルス感染症で2.73 (同3位4.56) と減少、5位は水痘で1.94 (同5位1.74)

とわずかに増加し、ともに全国と同等であった。6位は手足口病で1.70 (同4位3.04) と減少し、全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	計
1	インフルエンザ		0.90	1.33	4.38	11.81	18.42
2	感染性胃腸炎		3.43	3.30	3.07	2.63	12.43
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.03	1.90	1.87	1.53	7.33
4	RSウイルス感染症		0.73	0.73	0.50	0.77	2.73
5	水痘		0.47	0.60	0.37	0.50	1.94
6	手足口病		0.77	0.43	0.30	0.20	1.70

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 884名 (11月 14名)。全国よりも遅れて流行期に突入した。2018年の第1週に幡多地域は警報レベルの35.5に上り、高知県全体として18.79と注意報レベルとなった。過去10年間で、12月としてはパンデミックの流行時 (2009年) に次いで多い報告数だった。このことは早い流行となったことを意味するが、流行規模の大小については今後の推移を見守る必要がある。宮崎、長崎、大分、岡山県では、定点当たり70を超え、大きな流行となっている。県下全域から報告があるが、特に多いのは中央西、高知市、幡多、須崎の順である。

今季の流行の特徴はインフルエンザB型の検出率が流行開始時から多い点である。例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的である。ウイルスはB/Yamagata、B/Victoriaが各2株、A/H3 NTが1株検出された。

一般的に、B型インフルエンザはA型に比べて、発熱の程度はやや軽い、消化器症状を伴いやすく、ワクチンおよび抗ウイルス薬の効果が劣るとされている。

2) 咽頭結膜熱

報告数 30名 (11月 16名)。この時期としては平年並みの数である。須崎、高知市、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱と感染性胃腸炎、感染性胃腸炎疑いの患者から各1件Adenovirus 2型が検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 220名 (11月 194名)。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、安芸、幡多、高知市からの報告が多い。細菌は*Streptococcus pyogenes* T4が1件、Untypeableが2件検出され

ている。

4) 感染性胃腸炎

報告数 373名(11月 543名)。この時期としては過去10年間で最も少ない報告数で、県下全域から報告があり、とくに幡多、安芸からの報告が多い。病原体として、Norovirus GⅡが4件、Adenovirus 2型が1件検出された。

5) 水痘

報告数 58名(11月 65名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で、減少している。2016年12月に一時増加したものの、その後減少して推移している。県下全域から報告はあるが、高知市、中央西が特に多かった。Varicella-zoster virusが1件、水痘の4歳児から検出されている。

6) 手足口病

報告数 51名(11月 114名)。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からとやや早い流行開始となり、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月以降は徐々に減少したが10月に下げ止まり、11月は再び増加したが12月は減少に転じた。中央東、高知市、中央西、安芸から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackievirus A16が1件、Enterovirus 71が1件、10月はEnterovirus 71が4件、11月はEnterovirus 71が2件とCytomegalovirusが1件、12月はEnterovirus 71が1件とCytomegalovirusが1件それぞれ検出された。今季は3種類の原因ウイルスが流行し、9～12月の流行を形成したのはEnterovirus 71であったが、危惧される脳幹脳炎の報告はされていないようである。

7) 伝染性紅斑

報告数 1名(11月 5名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、2017年の後半以降は同時期として平年並の報告数である。中央東から1名報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 44名(11月 46名)。想定内の変動で推移している。

9) 百日咳

報告数 4名(11月 1名)。中央東、高知市、中央西、須崎から各1名報告された。内訳は0歳6カ月が1名、10歳代が3名であった。細菌は検出されていない。

10) ヘルパンギーナ

報告数 7名(11月 51名)。例年6～7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月7月と増加、8月から減少に転じ、10月11月と再び増加していたが、12月は減少した。高知市、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 6名(11月 7名)。須崎、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 82名(11月 171名)。8～9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11・12月と半減した。県下全域から報告されたが、特に高知市、中央東、幡多、須崎、中央西で多く報告された。12月にウイルスは検出されていない。7月以降に検出されたウイルスを集計するとRSウイルスAが5件、Bが3件であった。夏季に流行が起きても冬季に再度流行する年が多いので、今後も注目していく必要がある。

13) 流行性角結膜炎

報告数 0名(11月 3名)。ここ3年間は一桁で推移している。

14) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(11月 3名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

15) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(11月 0名)。8月以降は報告がない。今季は無菌性髄膜炎の患児から、Echovirus 9型が4件検出された。

16) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 7名(11月 6名)。高知市と中央東から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名(11月 37名)。例年並みの数で推移している。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(11月 1名)2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成29年12月）

類型	病名	報告年																			総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	1,550
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	1,550
3	コレラ	1					1					1									3
	パラチフス	2																			2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2	27
	腸チフス		1						1									1			3
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	193
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	228	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1		32
	Q熱	1	1	2				1													5
	オウム病			1		1														1	3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11
	マラリア								2					1							3
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	149
	日本脳炎	1	1	1					1				1	1							6
	レプトスピラ症												1		4	2	1			1	9
	E型肝炎												1		1						2
	デング熱												1				3	2	1		7
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	387
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	41
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	56
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	69
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	30
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						7
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1		1	4
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1	18
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3	5	18
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	13
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	51
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	4
	播種性クリプトコックス症																		1	3	4
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1	30
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	157
	麻しん										5										5
風しん										1	1			4	9	1				16	
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	589	
新型	新型インフルエンザ											34								34	
	計											34								34	
動物	鳥インフルエンザ													1						1	
	計													1						1	
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	2,789

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

12月はウイルス42件、細菌5件の搬入があり、そのうちウイルス24件、細菌3件の病原体を検出し、また、平成29年11月に搬入された検体でウイルス8件、細菌1件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 1 1件、Adenovirus 2 5件、Cytomegalovirus 2件、Echovirus 3 2件、Echovirus 18 1件、Enterovirus 71 2件、Herpes simplex virus 1 2件、Human herpes virus 6 1件、Human herpes virus 7 2件、Human metapneumovirus 2件、Influenza virus A H3 NT 1件、Influenza virus B/Victoria 2件、Influenza virus B/Yamagata 2件、Norovirus GII NT 6件、Varicella-zoster virus 1件であった。また、細菌の内訳は、*Campylobacter jejuni* 1件、*Streptococcus pyogenes* T4 1件、*Streptococcus pyogenes* Untypable 2件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	4	女	上気道炎	39℃、咳漱、上気道炎、	ぬぐい液	11. 8	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
2	0ヶ月	女	-	39℃、発疹、口内炎、	ふん便	11. 9	Herpes simplex virus 1
3	11ヶ月	女	呼吸器感染症	気管支炎、発疹、	鼻咽腔ぬぐい液	11.16	Herpes simplex virus 1
4	9ヶ月	男	不明発疹症	39℃、発疹、	ぬぐい液	11.18	Adenovirus 1
5	2	女	感染性胃腸炎	39℃、下痢、腹痛、	ふん便	11.21	<i>Campylobacter jejuni</i>
6	4	男	手足口病	発疹、口内炎、	ぬぐい液	11.24	Enterovirus 71
7	7ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	11.26	Adenovirus 2 Norovirus GII NT
8	1	女	-	39℃、下痢、	ふん便	11.29	Adenovirus 2
9	1	女	-	下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	11.30	Norovirus GII NT
10	6	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃、咳漱、	ぬぐい液	11.30	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4
11	9ヶ月	女	不明発疹症	38℃、嘔吐、嘔気、咳漱、	ぬぐい液	12. 1	Echovirus 18
12	6	女	インフルエンザ	38℃、腹痛、咳漱、	ぬぐい液	12. 2	Influenza virus B/Yamagata
13	1ヶ月	女	-	40℃、	ふん便	12. 4	Echovirus 3
14	1	男	-	38℃、	ぬぐい液	12. 5	Echovirus 3
15	7	男	インフルエンザ	39℃、上気道炎、	ぬぐい液	12. 6	Influenza virus B/Victoria
16	2	女	咽頭結膜熱	40℃、結膜炎、	ぬぐい液	12. 6	Adenovirus 2
17	12	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃、上気道炎、	ぬぐい液	12. 7	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable
18	2	男	感染性胃腸炎	36℃、下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	12. 7	Norovirus GII NT
19	1	男	感染性胃腸炎	嘔吐、嘔気、咳漱、上気道炎、	ふん便	12. 7	Norovirus GII NT
20	1	女	感染性胃腸炎疑い、腸重積症	嘔吐、嘔気、腹痛、	ふん便	12. 8	Adenovirus 2
21	4	男	水痘	38℃、水疱、発疹、	ぬぐい液	12. 8	Varicella-zoster virus
22	8	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃、上気道炎、発疹、	ぬぐい液	12.11	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable
23	5	女	インフルエンザ様疾患	40℃、嘔吐、嘔気、気管支炎、	ぬぐい液	12.11	Human metapneumovirus
24	3	男	感染性胃腸炎	38℃、下痢、嘔吐、嘔気、	ふん便	12.11	Norovirus GII NT
25	1	女	感染性胃腸炎	38℃、嘔吐、嘔気、	ふん便	12.11	Norovirus GII NT
26	14	女	不明発疹症	38℃、発疹、関節痛、	ぬぐい液	12.11	Human herpes virus 7
27	1	男	不明発疹症	40℃、発疹、	ぬぐい液	12.12	Cytomegalovirus
28	5	男	インフルエンザ	39℃、嘔吐、嘔気、	ぬぐい液	12.13	Influenza virus B/Victoria
29	1	男	感染性胃腸炎	39℃、下痢、嘔吐、嘔気、肝機能、	ふん便	12.14	Adenovirus 2
30	35	女	インフルエンザ	38℃、	ぬぐい液	12.18	Influenza virus A H3 NT
31	15	男	インフルエンザ	39℃、咳漱、上気道炎、	ぬぐい液	12.18	Influenza virus B/Yamagata
32	1	男	手足口病	38℃、口内炎、	ぬぐい液	12.18	Cytomegalovirus Enterovirus 71
33	2	男	肺炎	41℃、咳漱、下気道炎、肺炎、	鼻汁	12.19	Human metapneumovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年												2017年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1											1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1											1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4													1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2				1							2
	Echovirus 9							1						1
	計		4			1			1				3	10
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6					4				59
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1									6
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1									7
	Influenza virus B Yamagata	1	1	1	1	1								5
	計	25	24	9	9	1				4			5	77
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1												1
	Adenovirus 2			1		1							1	3
	Adenovirus 3			1										1
	Echovirus 9			1										1
	Human herpes virus 6			1										1
	計	1		4		1							1	7
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1								1
	Adenovirus 2			2										5
	Adenovirus 3													1
	Adenovirus 41					1								2
	Astrovirus NT		2						1					2
	Coxsackievirus B1			1										1
	Coxsackievirus B4								1	2				3
	Echovirus 3											1		1
	Echovirus 9								2					2
	Echovirus 25							1						1
	Human herpes virus 6					1								1
	Norovirus GII NT	9	3	3					9	5	1	2	4	36
	Parecho virus 1										1			1
	Rhinovirus	1												1
	Rotavirus group AG3							2						2
	Rotavirus group AG9	2												2
	Rotavirus group A NT				1									1
Sapovirus genogroup unknown	1		1				1				1		4	
<i>Campylobacter jejuni</i>												1	1	
<i>Staphylococcus aureus</i> V			1										1	
<i>Salmonella</i> Thompson							1						1	
	計	13	5	8	1	3	5		14	8	3	5	5	70
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2							4	2					6
	Coxsackievirus A6													2
	Coxsackievirus A10										1			1
	Coxsackievirus B5											1		1
	Human herpes virus 6							1						1
	Human herpes virus 7													1
Human metapneumovirus													1	
	計						5	3	1		1	2		12
手足口病	Adenovirus 2					1								1
	Coxsackievirus A6					8	16	10	2	2				38
	Coxsackievirus A16									1				1
	Cytomegalovirus					1		1	1			1	1	5
	Enterovirus 71										4	2	1	8
	Echovirus 7					2								2
	Echovirus 9						1	2	1					4
	Human herpes virus 6						1		1			2		4
	Human herpes virus 7										2	2		2
	計					12	18	13	5	4	8	3	2	65
流行性角結膜炎	Adenovirus 2													
	計													
伝染性紅斑	Echovirus 9								1					1
	Human herpes virus 7	1	1											2
	human parvovirus B19							1						1
	計	1	1					1						4
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>													
	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1			1	1				9
	<i>Mycoblasma pneumoniae</i>	2	2											4
	計	4	3	2	1	1			1	1				13
流行性耳下腺炎	Mumps virus													
	計													
無菌性髄膜炎	Echovirus 9							2	2					4
	Human herpes virus 6				1									1
	Human herpes virus 7				1				3					4
	Varicella-zoster virus	1						1						2
	計	1			2			5	2					11
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>													
	計													
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A													
	Respiratory syncytial virus B								1					1
	Coxsackievirus B4								1					1
	計								2					2
水痘	Varicella-zoster virus												1	1
	計												1	1
突発性発疹	Coxsackievirus A4					1								1
	Cytomegalovirus						1							3
	Human herpes virus 6								2					4
	計					1	1		2					4
その他	Adenovirus 1	1												2
	Adenovirus 2								2					5
	Adenovirus 3	1											2	1
	Adenovirus 4													1
	Adenovirus B								1					1
	Coxsackievirus A2	1									1			2
	Coxsackievirus A6						3		3					6
	Coxsackievirus A10													1
	Coxsackievirus B1											1		1
	Cytomegalovirus	3			2	1					1	1		10
	Echovirus 3			1					1				1	4
	Echovirus 7					3			1				2	9
	Echovirus 9						5	3	8	9				20
	Echovirus 18													1
	Enterovirus NT										3			3
	Epstein-Barr virus	1				1			1					3
	Herpes simplex virus 1													7
	Herpes simplex virus 6	1			1	2			1	2	2	3	6	17
	Human herpes virus 7	2	1	1	1				1	2	2	3	4	13
	Human metapneumovirus		1						1					4
	Norovirus GII NT		1										1	2
	Parainfluenza virus 2										1			1
	Parainfluenza virus 3										1			1
	Parechovirus 1				1	2	4	1	1		1			9
	Respiratory syncytial virus A													2
	Respiratory syncytial virus B	1	1		1					3		2		6
	Rhinovirus	1	1	1	1	3		2	1			2		4
	Sapovirus genogroup unknown					1								1
	Varicella-zoster virus								1					1
	計	12	5	3	7	16	12	22	19	13	10	18	10	147
総計		56	43	26	21	36	42	48	47	26	22	29	27	423

高知県感染症情報月報 2018年1月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	321	1,410	3,126	1,082	678	1,459	8,076	884	4,471
小児科	咽頭結膜熱			11		1		12	30	14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	10	91	7	3	35	162	220	161
	感染性胃腸炎	27	102	135	15	18	59	356	373	835
	水痘	4	2	12			6	24	58	72
	手足口病	7	15	26	6		3	57	51	10
	伝染性紅斑		2	2		1		5	1	21
	突発性発疹	2	8	11	5	3		29	44	29
	ヘルパンギーナ						1	1	7	
	流行性耳下腺炎			1				1	6	33
	RSウイルス感染症	4	6	24	3		10	47	82	82
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2			1	3		4
STD	性器クラミジア感染症			3				3	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								1	1
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									1
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			7				7	7	20
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			3				3	2	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									3
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	1	13			3	20	21	13
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		384	1,556	3,467	1,118	704	1,577	8,806	1,792	5,778
前月		108	247	776	189	98	374			
前年同月		351	1,150	2,346	613	307	1,011			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年1月

全国情報（1月1日～1月28日）

第1週（1月1日～）から第4週（～1月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における1月の上位6疾患の合計は181.1で12月の95.25に比べて著しく増加した。増加の第一かつ唯一の原因はインフルエンザの爆発的流行である。1位はインフルエンザで147.03（12月1位42.21）で3.5倍に増加し11月に始まった流行は規模拡大の一途にある。今季の流行株は、2017年47～51週の全国集計では、AH1pdm09が最多で59.3%、次いでB/Yamagataが26.4%、A香港H3が13.0%、B（系統不明）が0.9%、B/Victoriaが0.4%の順であった。52週～2018年4週の全国集計では、勢力が入れ替わり、B/Yamagataが44.8%と最多となり、次いでAH1pdm09が28.3%、次いでA香港H3が23.3%と増加し、B/Victoriaが2.4%、B（系統不明）が1.2%の順となった。2位は感染性胃腸炎で19.95（同2位32.14）、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.14（同3位11.68）、4位は流行性角結膜炎で2.73（同4位3.28）といずれも減少した。5位はRSウイルス感染症で1.85（同6位2.93）、6位は水痘で1.40（同8位2.19）で、2位～6位の疾患はいずれも減少した。

2018年1月から百日咳は定点把握から全数把握疾患となったので、この順位表にはデータが現れない疾患となった。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	インフルエンザ		16.31	26.44	51.93	52.35	147.03
2	感染性胃腸炎		3.36	5.29	6.18	5.12	19.95
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.09	1.88	2.65	2.52	8.14
4	流行性角結膜炎		0.61	0.82	0.73	0.57	2.73
5	RSウイルス感染症		0.44	0.45	0.47	0.49	1.85
6	水痘		0.45	0.38	0.28	0.29	1.40

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の1月の上位6疾患の合計は189.96で12月の44.55に比べて著明に増加し、全国を上回った（表2）。増加の主因は、インフルエンザの爆発的な大流行である。今季の流行の特徴はインフルエンザB型の検出率が流行開始当初から多い点で、B型の検出率が2018年の第1週は40.3%であったのが第5週には72%を占めるまでに増加した。例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的である。1位はインフルエンザで168.25（同1位18.42）と前月の9.1倍に増え全国

を上回った。2位は感染性胃腸炎で11.86（同2位12.43）、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.40（同3位7.33）といずれも減少し、全国よりも少なかった。4位は手足口病で1.90（同6位1.70）と増加し、全国よりも多かった。5位はRSウイルス感染症で1.56（同4位2.73）と減少、6位は流行性角結膜炎で0.99（同15位0.00）と増加し、いずれも全国よりも少なかった。

2018年1月から百日咳は定点把握から全数把握疾患となったので、県下から報告された患者の集計を巻末に掲載した。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	インフルエンザ		18.79	31.73	64.08	53.65	168.25
2	感染性胃腸炎		1.63	3.00	3.70	3.53	11.86
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.97	1.13	1.83	1.47	5.40
4	手足口病		0.23	0.47	0.70	0.50	1.90
5	RSウイルス感染症		0.53	0.43	0.33	0.27	1.56
6	流行性角結膜炎		0.33	0.00	0.33	0.33	0.99

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 8,076名（12月 884名）。全国よりも遅れて流行期に突入した。2018年の第1週に幡多地域は警報レベルの35.5に上り、高知県全体として第1週に31.73と警報レベルを超えた。過去10年の全ての月別統計のなかで2015年1月の9,139人に次いで2番目に多い報告数であった。12月はパンデミックの流行時（2009年）に次いで多い報告数であり、このことは早い流行となったことを意味していたが、流行規模も大きなものとなる可能性が高くなった。定点当たり報告数の都道府県別集計で高知県は168.25と高い値を示したが、宮崎、福岡、大分、鹿児島県では200を超える高値であった。県下全域で警報値を大幅に超えており、特に多いのは中央西、高知市、幡多、須崎の順である。

今季の流行の特徴はインフルエンザB型の検出率が流行開始時から多い点である。例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的である。ウイルスはAH1pdm09が28件、B/Yamagataが21件、AH3 NTが17件、B/Victoriaが3件検出された。今季は複数回インフルエンザに罹る者が多く出る可能性が示唆される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 12名（12月 30名）。この時期としては平年並みの数である。高知市、須崎から表記の順に多く報告された。Adenovirus 1型と2型が

- 各1件検出された。
- 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
報告数 162名(12月 220名)。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、高知市、安芸、幡多からの報告が多い。細菌は検出されていない。
- 4) 感染性胃腸炎
報告数 356名(12月 373名)。前月に引き続いて、この時期として過去10年間で最も少ない報告数で、県下全域から報告があり、とくに中央東、安芸、高知市、幡多からの報告が多い。病原体として、Norovirus GⅡ NTが3件、Sapovirus が1件検出された。
- 5) 水痘
報告数 24名(12月 58名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で減少している。2016年12月に一時増加したものの、その後減少して推移している。安芸、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。
- 6) 手足口病
報告数 57名(12月 51名)。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からとやや早い流行開始となり、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月以降は徐々に減少したが10月に下げ止まり、11月は再び増加したが12月以降は減少に転じ1月は横ばいだった。安芸、高知市、中央東、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackievirus A16が1件、Enterovirus 71が1件、10月はEnterovirus 71が4件、11月はEnterovirus 71が2件とCytomegalovirusが1件、12月はEnterovirus 71が1件とCytomegalovirusが1件、1月はEnterovirus 71が1件とEpstein-Barr virusが1件それぞれ検出された。今季は3種類の原因ウイルスが流行し、9～1月の流行を形成したのはEnterovirus 71であったが、危惧される脳幹脳炎の報告はされていないようである。
- 7) 伝染性紅斑
報告数 5名(12月 1名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、2017年の後半以降は同時期として平年並の報告数である。須崎、中央東、高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。
- 8) 突発性発疹
報告数 29名(12月 44名)。想定内の変動で推移している。

- 9) ヘルパンギーナ
報告数 1名(12月 7名)。例年6～7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月7月と増加、8月から減少に転じ、10月11月と再び増加していたが、12月に減少し終息した。幡多から1例のみ報告された。ウイルスは検出されていない。
- 10) 流行性耳下腺炎
報告数 1名(12月 6名)。高知市から1名報告されたが、ウイルスは検出されていない。
- 11) RSウイルス感染症
報告数 47名(12月 82名)。8～9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減をつづけている。須崎を除く全域から報告されたが、特に高知市、安芸、幡多で多かった。12月にウイルスは検出されていない。7月以降に検出されたウイルスを集計するとRSウイルスAが5件、Bが3件であった。夏季に流行が起きても冬季に再度流行する年が多いので、今後も注目していく必要がある。
- 12) 流行性角結膜炎
報告数 3名(12月 0名)。ここ3年間は一桁で推移している。ウイルスは検出されていない。
- 13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 0名(12月 0名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。
- 14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 0名(12月 0名)。8月以降は報告がない。2017年は無菌性髄膜炎の患児から、Echovirus 9型が4件検出された。
- 15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 7名(12月 7名)。高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

- 16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 20名(12月 21名)。例年並みの数で推移している。
- 17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 0名(12月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

1月はウイルス130件，細菌1件の搬入があり，そのうちウイルス89件の病原体を検出し，また，平成29年12月に搬入された検体でウイルス1件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 2件，Coxsackievirus B4 1件，Cytomegalovirus 1件，Enterovirus 71 1件，Epstein-Barr virus 2件，Herpes simplex virus 1 1件，Human herpes virus 6 3件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 1件，Influenza virus A H1pdm09 29件，Influenza virus A H3 NT 17件，Influenza virus B/Victoria 3件，Influenza virus B/Yamagata 21件，Norovirus GII NT 4件，Sapovirus genogroup unknown 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	1	女	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	12.12	Human herpes virus 7
2	5	男	インフルエンザ	39℃，上気道炎，関節痛，	ぬぐい液	12.16	Influenza virus B/Victoria
3	59	男	インフルエンザ様疾患	39℃，上気道炎，口内炎，	ぬぐい液	12.16	Herpes simplex virus 1
4	6	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12.18	Influenza virus A H1pdm09
5	82	男	インフルエンザ	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	12.20	Influenza virus A H3 NT
6	15	女	インフルエンザ	38℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12.21	Influenza virus B/Yamagata
7	23	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，関節痛，	ぬぐい液	12.21	Influenza virus B/Yamagata
8	15	男	インフルエンザ	38℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12.21	Influenza virus B/Yamagata
9	1ヶ月	男	呼吸器感染症、無菌性髄膜炎	38℃，上気道炎，	鼻咽腔ぬぐい液、髄液	12.21	Coxsackievirus B4
10	7	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	12.22	Influenza virus A H1pdm09
11	7	女	インフルエンザ	40℃，	ぬぐい液	12.22	Influenza virus A H1pdm09
12	12	女	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	12.22	Influenza virus A H1pdm09
13	5	女	インフルエンザ様疾患	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，上気道炎，	ぬぐい液	12.22	Adenovirus 2
14	11	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	12.25	Influenza virus A H1pdm09
15	1	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12.25	Influenza virus A H1pdm09
16	5	男	インフルエンザ	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	12.25	Influenza virus A H3 NT
17	5	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，	ぬぐい液	12.25	Influenza virus B/Victoria
18	5	女	インフルエンザ	39℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ぬぐい液	12.25	Influenza virus B/Victoria
19	9	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12.25	Influenza virus B/Yamagata
20	1	男	咽頭結膜熱	40℃，上気道炎，結膜炎，	ぬぐい液	12.25	Adenovirus 1
21	1	男	手足口病	咳嗽，下気道炎，口内炎，	ぬぐい液	12.25	Enterovirus 71
22	11ヶ月	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	12.26	Influenza virus A H1pdm09
23	8	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，	ぬぐい液	12.26	Influenza virus A H1pdm09
24	8ヶ月	女	インフルエンザ	40℃，上気道炎，	鼻汁	12.26	Influenza virus A H1pdm09
25	0ヶ月	男	-	発疹，肝機能，	ぬぐい液、ふん便	12.27	Cytomegalovirus
26	3	女	咽頭結膜熱	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	12.29	Adenovirus 2
27	4	男	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	12.29	Norovirus GII NT
28	6ヶ月	女	突発性発しん	40℃，咳嗽，気管支炎，発疹，	ぬぐい液	1. 1	Human herpes virus 6
29	3	男	インフルエンザ	40℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	1. 3	Influenza virus A H1pdm09
30	3	女	インフルエンザ	41℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	1. 5	Influenza virus A H1pdm09
31	26	男	インフルエンザ	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	1. 5	Influenza virus A H3 NT
32	5	女	インフルエンザ	40℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	1. 5	Influenza virus B/Yamagata
33	2	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	1. 7	Norovirus GII NT
34	4	女	インフルエンザ	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	1. 9	Influenza virus A H1pdm09
35	2	女	不明発疹症	40℃，下痢，咳嗽，発疹，	ぬぐい液	1. 9	Human herpes virus 6
36	1ヶ月	男	上気道炎	38℃，上気道炎，	鼻咽腔ぬぐい液	1.10	Human metapneumovirus
37	12	女	インフルエンザ	39℃，咳嗽，関節痛，	ぬぐい液	1.10	Influenza virus A H1pdm09
38	12	女	インフルエンザ	40℃，咳嗽，関節痛，	ぬぐい液	1.10	Influenza virus A H1pdm09
39	5	女	インフルエンザ	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	1.10	Influenza virus B/Yamagata
40	7	女	インフルエンザ	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	1.11	Influenza virus A H1pdm09

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
41	5	男	インフルエンザ	39℃, 嘔吐, 嘔気, 咳嗽,	ぬぐい液	1.11	Influenza virus A H1pdm09
42	14	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.11	Influenza virus B/Yamagata
43	5	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1.11	Sapovirus genogroup unknown
44	13	男	インフルエンザ	40℃, 咳嗽, 筋肉痛,	ぬぐい液	1.12	Influenza virus A H1pdm09
45	3	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1.12	Influenza virus A H3 NT
46	9	男	インフルエンザ	38℃, 咳嗽, 発疹, 関節痛,	ぬぐい液	1.12	Influenza virus A H3 NT
47	4	男	手足口病	水疱, 口内炎,	ぬぐい液	1.12	Epstein-Barr virus
48	9	女	インフルエンザ	40℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳嗽,	ぬぐい液	1.13	Influenza virus A H3 NT
49	5	女	インフルエンザ	40℃, 下痢,	ぬぐい液	1.13	Influenza virus A H3 NT
50	4	男	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.13	Influenza virus A H3 NT
51	7	男	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	1.13	Influenza virus B/Yamagata
52	3	女	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H1pdm09
53	44	男	インフルエンザ	38℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H1pdm09
54	5	男	インフルエンザ	40℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H3 NT
55	4	男	インフルエンザ	-	ぬぐい液	1.15	Influenza virus A H3 NT Influenza virus B/Yamagata
56	14	女	インフルエンザ	39℃, 咳嗽, 上気道炎,	ぬぐい液	1.15	Influenza virus B/Yamagata
57	13	男	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.16	Influenza virus A H1pdm09
58	15	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	1.16	Influenza virus A H3 NT
59	11	女	インフルエンザ	40℃, 咳嗽, 上気道炎,	ぬぐい液	1.17	Influenza virus A H1pdm09
60	6	女	インフルエンザ	40℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	1.17	Influenza virus B/Yamagata
61	6	女	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H1pdm09
62	6ヶ月	女	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H1pdm09
63	8	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H1pdm09
64	11	女	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H1pdm09 Influenza virus B/Yamagata
65	12	男	インフルエンザ	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛, 上気道炎,	ぬぐい液	1.18	Influenza virus A H3 NT
66	1	女	不明熱	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.18	Human herpes virus 7
67	1	女	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	鼻汁	1.19	Influenza virus A H3 NT
68	11	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus B/Yamagata
69	6	男	インフルエンザ	40℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus B/Yamagata
70	6	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus B/Yamagata
71	7	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	1.19	Influenza virus B/Yamagata
72	1	女	不明発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	1.19	Human herpes virus 6
73	5	男	インフルエンザ	40℃, 嘔吐, 嘔気,	ぬぐい液	1.20	Influenza virus A H1pdm09
74	8	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1.20	Influenza virus A H3 NT
75	8	女	インフルエンザ	38℃,	ぬぐい液	1.20	Influenza virus B/Yamagata
76	8	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1.20	Influenza virus B/Yamagata
77	20	女	急性胃腸炎	嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1.20	Norovirus GII NT
78	76	男	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.22	Influenza virus B/Yamagata
79	4	男	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.22	Influenza virus A H1pdm09
80	6	女	インフルエンザ	38℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1.22	Influenza virus B/Yamagata
81	4	男	インフルエンザ様疾患	41℃, 下気道炎,	鼻汁	1.22	Influenza virus A H1pdm09
82	6	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	1.22	Norovirus GII NT
83	2	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	1.22	Epstein-Barr virus
84	1	男	インフルエンザ	40℃,	ぬぐい液	1.25	Influenza virus A H3 NT
85	16	女	インフルエンザ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	1.25	Influenza virus A H3 NT
86	7	女	インフルエンザ	40℃, 咳嗽, 上気道炎,	ぬぐい液	1.26	Influenza virus B/Yamagata
87	6	女	インフルエンザ	40℃, 上気道炎,	鼻汁	1.29	Influenza virus A H3 NT
88	2	女	インフルエンザ?	38℃,	ぬぐい液	1.29	Influenza virus A H1pdm09

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年												2017年 総計	2018年 1	2018年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1															
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1		1														
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4											1	1				
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable		2			1						2	5				
	Echovirus 9							1									
計		4			1		1				1	3	10				
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6					4			1	59	17	17	
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1								6	28	28	28	
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1								2	7	3	3	
	Influenza virus B Yamagata		1	1	1	1							2	5	21	21	
	計	25	24	9	9	1			4				5	77	69	69	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1											1	1	1	1	
	Adenovirus 2				1								1	3	1	1	
	Adenovirus 3				1								1	1	1	1	
	Echovirus 9				1								1	1	1	1	
	Human herpes virus 6				1								1	1	1	1	
計	1		4	1								1	7	2	2		
感染性胃腸炎	Adenovirus 1				2					1			1	5			
	Adenovirus 2												1	1			
	Adenovirus 3								1					2			
	Adenovirus 41					1								2			
	Astrovirus NT		2											1			
	Coxsackievirus B1				1									1			
	Coxsackievirus B4								1	2				3			
	Echovirus 3												1	1			
	Echovirus 9								2					2			
	Echovirus 25													1			
	Human herpes virus 6					1		1						1			
	Norovirus GII NT	9	3	3					9	5	1	2	4	36	3	3	
	Parecho virus 1										1			1			
	Rhinovirus	1												1			
	Rotavirus group AG3							2						2			
	Rotavirus group AG9	2												2			
	Rotavirus group A NT				1									1			
Sapovirus genogroup unknown	1		1			1				1			4	1	1		
<i>Campylobacter jejuni</i>											1		1				
<i>Staphylococcus aureus</i> V			1										1				
<i>Salmonella</i> Thompson						1							1				
計	13	5	8	1	3	5		14	8	3	5	5	70	4	4		
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2							4	1				1	6			
	Coxsackievirus A6								2				2				
	Coxsackievirus A10										1		1	1			
	Coxsackievirus B5												1	1			
	Human herpes virus 6								1					1			
	Human herpes virus 7						1			1				1			
計						5	3	1		1	2		12				
手足口病	Adenovirus 2					1							1	1			
	Coxsackievirus A6					8	16	10	2	2			38				
	Coxsackievirus A16							1	1	1			3				
	Cytomegalovirus					1		1	1				3		1	1	
	Enterovirus 71									1	4	2	1	8			
	Echovirus 7					2							2				
	Echovirus 9						1	2	1				4		1	1	
	Epstein-Barr virus																
	Human herpes virus 6						1		1			2		4			
Human herpes virus 7										2		1	3				
計					12	18	13	5	4	8	3	3	66	2	2		
流行性角結膜炎	Adenovirus 2																
計																	
伝染性紅斑	Echovirus 9									1			1				
	Human herpes virus 7	1	1										2				
	human parvovirus B19						1						1				
計	1	1				1			1			4					
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1				1	1		9				
	<i>Mycoblasma pneumoniae</i>	2	2										4				
	計	4	3	2	1	1				1	1		13				
流行性耳下腺炎	Mumps virus																
計																	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4								2	2			4	1	1		
	Echovirus 9												1				
	Human herpes virus 6				1								4				
	Human herpes virus 7				1				3				4				
Varicella-zoster virus												2					
計	1			2		1	5	2				11	1	1	1		
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoblasma pneumoniae</i>																
計																	
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A									1			1				
	Respiratory syncytial virus B									1			1				
	Coxsackievirus B4									2			2				
計										2		2					
水痘	Varicella-zoster virus												1	1			
計													1	1			
突発性発疹	Cytomegalovirus					1							1				
	Human herpes virus 6				1				2				3	1	1		
計				1	1			2				4	1	1			
その他	Adenovirus 1	1							2		1		2	5	1	1	
	Adenovirus 2													1			
	Adenovirus 3	1												1			
	Adenovirus 4										1			1			
	Adenovirus B													1			
	Coxsackievirus A2	1												2			
	Coxsackievirus A6						3		3					6			
	Coxsackievirus A10												1	1			
	Coxsackievirus B1												1	1			
	Cytomegalovirus	3				2	1		1	1		1	1	10	1	1	
	Echovirus 3			1									2	4			
	Echovirus 7					3		5	1					9			
	Echovirus 9							3	8	9				20			
	Echovirus 18													1			
	Enterovirus NT										3			3			
	Epstein-Barr virus	1				1			1					3	1	1	
	Herpes simplex virus 1									1				7			
	Human herpes virus 6	1			1	2			2	2	2	3		17	2	2	
	Human herpes virus 7	2		1	1				2	1	2			13	1	1	
	Human metapneumovirus			1						1				4			
	Influenza virus A H1pdm09													1			
	Norovirus GII NT			1										2			
	Parainfluenza virus 2													1			
	Parainfluenza virus 3													9			
	Parechovirus 1					1	2		4	1		1		2			
	Respiratory syncytial virus A			1							1			6			
	Respiratory syncytial virus B	1												4			
Rhinovirus	1	1	1	1	3			2	1			2	10				
Sapovirus genogroup unknown					1								1				
Varicella-zoster virus													1				
計	12	5	3	7	16	12	22	19	13	10	18	10	147	10	10		
総計	56	43	26	21	36	42	48	47	26	22	29	28	424	89	89		

高知県感染症情報月報 2018年2月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	358	1,878	3,555	1,313	908	2,161	10,173	8,076	7,196
小児科	咽頭結膜熱		4	12		1		17	12	32
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	9	129	6	4	29	187	162	302
	感染性胃腸炎	36	122	135	23	16	57	389	356	747
	水痘	6	2	7	4		1	20	24	30
	手足口病	5	5	17	3		4	34	57	4
	伝染性紅斑		2	1	1			4	5	16
	突発性発疹	1	1	19	2	2	2	27	29	30
	ヘルパンギーナ				1		1	2	1	1
	流行性耳下腺炎			1				1	1	30
	RSウイルス感染症		7	28	6	4	6	51	47	61
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2	3	1
STD	性器クラミジア感染症			1				1	3	
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎			1				1		
	無菌性髄膜炎			1				1		2
	マイコプラズマ肺炎			5			1	6	7	10
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1	3	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	3			2	6		3
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	1	14				20	20	11
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		421	2,032	3,932	1,359	935	2,264	10,943	8,806	8,479
前月		384	1,556	3,467	1,118	704	1,577			
前年同月		368	1,548	3,506	1,076	664	1,317			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年2月

全国情報（1月29日～2月25日）

第5週（1月29日～）から第8週（～2月25日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国における2月の上位6疾患の合計は185.80で1月の181.1と比べ横ばいであった。インフルエンザの流行は1月と同じ勢いで2月も続いた。1位はインフルエンザで152.00（1月1位147.03）で横ばいだった。今季の流行株は、2017年47～51週の全国集計では、AH1pdm09が最多で59.3%、次いでB/Yamagataが26.4%、A香港H3が13.0%、B（系統不明）が0.9%、B/Victoriaが0.4%の順であった。52週～2018年4週の全国集計では、勢力が入れ替わり、B/Yamagataが44.8%と最多となり、次いでAH1pdm09が28.3%、次いでA香港H3が23.3%と増加し、B/Victoriaが2.4%、B（系統不明）が1.2%の順となった。5週～9週は、B/Yamagataが63.6%とさらに増え、次いでAH3が26.1%、AH1pdm09が8.1%とA型の順位が入れ替わり、次いでB/Victoriaが1.7%、B（系統不明）が0.6%の順であった。優勢のウイルス株が目まぐるしく変動するのも今季流行の特徴のようである。

2位は感染性胃腸炎で18.69（同2位19.95）と横ばい、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.99（同3位8.14）とわずかに増加し、4位は流行性角結膜炎で2.34（同4位2.73）とわずかに減少した。5位はRSウイルス感染症で1.57（同5位1.85）と微減、6位は突発性発疹で1.21（同8位1.23）と横ばいだった。

2018年1月から百日咳は定点把握から全数把握疾患となったので、この順位表にはデータが現れない疾患となったかわりに報告例を巻末に掲載した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ		54.33	45.38	29.65	22.64	152.00
2	感染性胃腸炎		5.11	4.72	4.05	4.81	18.69
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.61	2.63	2.10	2.65	9.99
4	流行性角結膜炎		0.64	0.59	0.51	0.60	2.34
5	RSウイルス感染症		0.45	0.40	0.36	0.36	1.57
6	突発性発疹		0.30	0.30	0.29	0.32	1.21

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の2月の上位6疾患の合計は234.87で1月の189.96に比べて増加し、全国を上回った（表2）。増加の主因は、インフルエンザの大規模かつ爆発的

な流行である。2017/18シーズン全体として大きな流行となり、パンデミックの2009/1010シーズンを上回る見込みである。定点当たり報告数の都道府県別集計で、高知県は211.94という高い値を示し、2月は全国第一位の流行であった。今季の流行の特徴は、インフルエンザB型の検出率が流行開始当初から多い点で、2018年の第1週は40.3%であったのが、第5週には72%、第9週も66.9%と2/3を占めていた。例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的である。

1位はインフルエンザで211.94（同1位168.25）とさらに増加し全国都道府県別で最多であった。2位は感染性胃腸炎で12.97（同2位11.86）と横ばい、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.24（同3位5.40）と微増し、全国よりも少なかった。4位はRSウイルス感染症で1.69（同5位1.56）と横ばいで全国と同等であった。5位は手足口病で1.14（同4位1.90）と減少したが全国よりも多かった。6位は突発性発疹で0.89（同7位0.97）と横ばいで全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	5週	6週	7週	8週	計
1	インフルエンザ		66.19	67.67	45.81	32.27	211.94
2	感染性胃腸炎		3.07	2.87	3.20	3.83	12.97
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.67	1.87	1.20	1.50	6.24
4	RSウイルス感染症		0.53	0.40	0.33	0.43	1.69
5	手足口病		0.23	0.37	0.27	0.27	1.14
6	突発性発疹		0.30	0.33	0.13	0.13	0.89

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 10,173名（1月 8,076名）。今季は全国よりも遅れて流行期に突入した。高知県全体として2018年の第2週に31.73と警報レベルを超えた。12月はパンデミックの流行時（2009年）に次いで多い報告数であり、このことは早い流行となったことを意味していた。1月は過去10年の全ての月別統計のなかで2015年1月の9,139人に次いで2番目に多い報告数であった。2月はさらに増加し、月別で最多の記録をぬり替えた。2017/18シーズン全体としての流行規模も大きなものとなり、驚くべきことにパンデミックの2009/1010シーズンを上回る見込みである。定点当たり報告数の都道府県別集計で、高知県は211.94という高い値を示し、2月は全国第一位の数字となった。週毎にみると5週66.19、6週67.67、7週45.81、8週が32.27なので、流行のピー

ク期を越えつつあるようだ。県下全域で警報値30をはるかに超えており、特に多いのは幡多，中央西，須崎，高知市の順である。

今季の流行の特徴はインフルエンザB型の検出率が流行開始時から多い点である。例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的である。ウイルスはAH3 NTが12件（1月17件）、B/Yamagataが9件（同21件）、AH1pdm09が3件（同28件）、B/Victoriaが1件（同3件）検出された。今季は複数回インフルエンザに罹患する者が多く出る可能性が示唆され、実際にA型→B型、B型→B型というふうに関今季2回インフルエンザに罹患する患者を多く診るようになっている（A型→A型の例は、筆者はまだ耳にしていない）。全国情報の項に記載したように、優勢のウイルス株が目まぐるしく変動するのも今季流行の特徴かもしれない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 17名（1月 12名）。この時期としては平年並みの数である。高知市，中央東，須崎から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 187名（1月 162名）。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、高知市，幡多，安芸からの報告が多い。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 389名（1月 356名）。前月に引き続いて、この時期として過去10年間で最も少ない報告数で、県下全域から報告があり、とくに安芸，中央東，高知市，幡多からの報告が多い。病原体は、1月搬入検体からNorovirus G II NTが2件、Sapovirus が1件検出された。

5) 水痘

報告数 20名（1月 24名）。2014年10月からの予防接種定期化の効果で減少している。2016年12月に一時増加したものの、その後減少して推移している。安芸，中央西，高知市，中央東，幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 34名（1月 57名）。初夏に流行が始まる感染症で、今季は5月からとやや早い流行開始となり、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月以降は徐々に減少したが10月に

下げ止まり、11月は再び増加したが12月以降は減少に転じ1月は横ばい、2月は減少した。安芸，高知市，中央西，中央東，幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackievirus A16が1件、Enterovirus 71が1件、10月はEnterovirus 71が4件、11月はEnterovirus 71が2件とCytomegalovirusが1件、12月はEnterovirus 71が1件とCytomegalovirusが1件、1月はEnterovirus 71が2件とEpstein-Barr virusが1件それぞれ検出された。2月はウイルスは検出されなかった。今季は3種類の原因ウイルスが流行し、9～1月の流行を形成したのはEnterovirus 71であったが、危惧される脳幹脳炎の報告はされていないようである。

7) 伝染性紅斑

報告数 4名（1月 5名）。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、2017年の後半以降は同時期として平年並の報告数である。中央西，中央東，高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 27名（1月 29名）。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 2名（1月 1名）。例年6～7月から流行がみられるが、今季は5月から流行が開始し、6月7月と増加、8月から減少に転じ、10月11月と再び増加していたが、12月に減少し終息した。中央西と幡多から1例ずつ報告された。ウイルスは検出されていない。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 1名（1月 1名）。高知市から1名報告されたが、ウイルスは検出されていない。

12) RSウイルス感染症

報告数 51名（1月 47名）。8～9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減が続いた。1月2月は横ばいであった。安芸を除く全域から報告されたが、特に高知市，中央西，須崎が多かった。2月にウイルスは検出されていない。7月以降に検出されたウイルスを集計するとRSウイルスAが6件、Bが3件であった。夏季に流行が起きても冬季に再度流行する年が多く注意をようするものの、今のところ報告数の増加はみとめられていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 2名（1月 3名）。ここ3年間は一

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

2月はウイルス43件の搬入があり，そのうちウイルス28件の病原体を検出し，また，平成30年1月に搬入された検体でウイルス8件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Enterovirus 71 1件，Epstein-Barr virus 1件，Human herpes virus 6 1件，human metapneumovirus 3件，Influenza virus A H1pdm09 3件，Influenza virus A H3 NT 12件，Influenza virus B/Victoria 1件，Influenza virus B/Yamagata 9件，Norovirus GII NT 2件，Parainfluenza virus 2 1件，Respiratory syncytial virus A 1件，Sapovirus genogroup unknown 1件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	4	男	手足口病	水疱，口内炎，	ぬぐい液	1. 12	Enterovirus 71
2	1	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	1. 17	Norovirus GII NT
3	9ヶ月	男	R Sウイルス感染症	39℃，咳嗽，気管支炎，	鼻腔	1. 22	Respiratory syncytial virus A
4	2	男	気管支炎	38℃，咳嗽，気管支炎，	ぬぐい液	1. 23	Human metapneumovirus
5	2	女	不明熱	39℃，咳嗽，	ぬぐい液	1. 23	Parainfluenza virus 2
6	13	女	感染性胃腸炎	腹痛，	ふん便	1. 24	Sapovirus genogroup unknown
7	2	女	下気道炎	40℃，下気道炎，	ぬぐい液	1. 25	Human metapneumovirus
8	4	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	1. 27	Norovirus GII NT
9	59	女	インフルエンザ	—	ぬぐい液	1. 30	Influenza virus A H3 NT
10	11	女	上気道炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	2. 1	Influenza virus B/Yamagata
11	1	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	2. 1	Influenza virus B/Yamagata
12	14	男	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	2. 2	Influenza virus A H3 NT
13	13	女	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	2. 5	Influenza virus A H3 NT
14	4	女	インフルエンザ？	39℃，下痢，咳嗽，	ぬぐい液	2. 6	Influenza virus B/Yamagata
15	1	男	肺炎	40℃，肺炎，	鼻汁	2. 7	Human metapneumovirus
16	8	男	インフルエンザ	—	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H1pdm09 Influenza virus B/Yamagata
17	4	男	インフルエンザ	40℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	2. 7	Influenza virus A H3 NT
18	4	女	インフルエンザ様疾患	41℃，肝機能，	鼻咽頭	2. 10	Epstein-Barr virus
19	1	男	インフルエンザ	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	2. 13	Influenza virus A H1pdm09
20	15	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2. 13	Influenza virus A H3 NT
21	6	男	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	2. 13	Influenza virus B/Victoria
22	4	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2. 14	Influenza virus A H1pdm09
23	6	女	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	2. 14	Influenza virus A H3 NT
24	10	女	インフルエンザ	38℃，嘔吐，嘔気，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	2. 16	Influenza virus B/Yamagata
25	76	男	インフルエンザ	38℃，	ぬぐい液	2. 17	Influenza virus A H3 NT
26	5	男	突発性発しん疑い，中枢神経感染症疑い	—	髄液	2. 17	Human herpes virus 6
27	5	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2. 19	Influenza virus A H3 NT
28	9	男	インフルエンザ	40℃，嘔吐，嘔気，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	2. 19	Influenza virus B/Yamagata
29	11	女	インフルエンザ	38℃，咳嗽，下気道炎，	ぬぐい液	2. 19	Influenza virus B/Yamagata
30	6	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	2. 20	Influenza virus A H3 NT
31	4	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，	ぬぐい液	2. 21	Influenza virus A H3 NT
32	5	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	2. 23	Influenza virus B/Yamagata
33	3	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，肺炎，	吸引鼻汁	2. 26	Influenza virus B/Yamagata
34	50	女	インフルエンザ	37℃，	ぬぐい液	2. 26	Influenza virus A H3 NT
35	2	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	2. 26	Influenza virus A H3 NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2017年												2017年 総計	2018年		2018年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		1	2		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus agalactiae</i>		1											1				
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1													1				
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4													1				
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable			2		1								2				
	Echovirus 9							1						1				
計		4			1		1					1	3	10				
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	22	19	7	6				4				1	59	17	12	29	
	Influenza virus A H1pdm09	2	2	1	1								6	28	3	31		
	Influenza virus B /Victoria	1	2	1	1								2	7	3	4		
	Influenza virus B Yamagata	1	1		1	1							2	5	21	7	28	
	計	25	24	9	9	1			4				5	77	69	23	92	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1											1	1	1	1		
	Adenovirus 2				1								1	3	1		1	
	Adenovirus 3				1								1	1				
	Echovirus 9				1								1	1				
	Human herpes virus 6				1								1	1				
計	1		4	1	1							1	7	2		2		
感染性胃腸炎	Adenovirus 1					1							1	1				
	Adenovirus 2			2									1	5				
	Adenovirus 3								1				1	1				
	Adenovirus 41					1			1				2	2				
	Astrovirus NT		2										1	1				
	Coxsackievirus B1			1						1	2			1				
	Coxsackievirus B4													3				
	Echovirus 3												1	1				
	Echovirus 9								2				2	2				
	Echovirus 25						1						1	1				
	Human herpes virus 6					1							1	1				
	Norovirus GII NT	9	3	3					9	5	1	2	4	36	5		5	
	Parecho virus 1										1			1				
	Rhinovirus	1												1				
	Rotavirus group AG3						2							2				
	Rotavirus group AG9	2												2				
	Rotavirus group A NT				1									1				
	Sapovirus genogroup unknown	1		1			1				1			4	2		2	
	<i>Campylobacter jejuni</i>											1		1				
<i>Staphylococcus aureus</i> V			1										1					
<i>Salmonella</i> Thompson						1							1					
計	13	5	8	1	3	5		14	8	3	5	5	70	7		7		
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2						4	1					1	1				
	Coxsackievirus A6							2					6					
	Coxsackievirus A10										1		2					
	Coxsackievirus B5											1	1	1				
	Human herpes virus 6								1				1	1				
	Human herpes virus 7						1						1	1				
計						5	3	1		1	2	12						
手足口病	Adenovirus 2					1							1					
	Coxsackievirus A6					8	16	10	2	2			38					
	Coxsackievirus A16								1	1			1	5				
	Cytomegalovirus					1		1	1				1	5				
	Enterovirus 71									1	4	2	1	8	2		2	
	Echovirus 7					2							2	4				
	Echovirus 9						1	2	1				4					
	Epstein-Barr virus														1		1	
	Human herpes virus 6						1		1				2	4				
Human herpes virus 7											2	1	3					
計					12	18	13	5	4	8	3	3	66	3		3		
流行性角結膜炎	Adenovirus 2																	
計																		
伝染性紅斑	Echovirus 9								1				1					
	Human herpes virus 7	1	1										2					
	human parvovirus B19						1						1					
計	1	1				1		1				4						
百日咳	<i>Bordetella pertussis</i>	2	1	2	1	1				1			9					
	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	2										4					
	計	4	3	2	1	1				1	1		13					
流行性耳下腺炎	Mumps virus																	
計																		
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4							2	2				4	1			1	
	Echovirus 9												1					
	Human herpes virus 6				1								4					
	Human herpes virus 7				1				3				4					
Varicella-zoster virus		1				1						2						
計	1		2			1	5	2				11	1			1		
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>																	
計																		
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A								1				1		1		1	
	Respiratory syncytial virus B								1				1					
	Coxsackievirus B4												2		1		1	
計								2				2		1		1		
水痘	Varicella-zoster virus												1	1				
	計												1	1				
突発性発疹	Cytomegalovirus					1							1					
	Human herpes virus 6							2					3	1			1	
	計					1		2					4	1			1	
その他	Adenovirus 1	1											2					
	Adenovirus 2							2		1			2	5	1		1	
	Adenovirus 3	1								1			1					
	Adenovirus 4								1				1					
	Adenovirus B								1				1					
	Coxsackievirus A2	1								1			2	6				
	Coxsackievirus A6						3		3				1	1				
	Coxsackievirus A10												1	1				
	Coxsackievirus B1												1	1				
	Cytomegalovirus	3							1		1		1	10	1		1	
	Echovirus 3			1									2	4				
	Echovirus 7					3		5	1				9	9				
	Echovirus 9							3	8	9				20				
	Echovirus 18								3				1	1				
	Enterovirus NT									3				3				
	Epstein-Barr virus	1				1			1				3	3			2	
	Herpes simplex virus 1								1				7	7	1		1	
	Human herpes virus 6	1			1	2			2		2	3	4	17	2	1	3	
	Human herpes virus 7	2	1	1					2		1		4	13	1		1	
	Human metapneumovirus												4	4			4	
	Influenza virus A H1pdm09												2	4			1	
	Influenza virus B Yamagata													1		2		2
	Norovirus GII NT		1											2	1			1
	Parainfluenza virus 2													1				1
	Parainfluenza virus 3													9				
	Parechovirus 1					1	2	4	1		1			2				
	Respiratory syncytial virus A		1								3			6				
	Respiratory syncytial virus B													4				
	Rhinovirus	1	1	1	1	3			2	1				10				
	Sapovirus genogroup unknown					1								1				
	Varicella-zoster virus													1				
	計	12	5	3	7	16	12	22	19	13	10	18	10	147	13	5	18	
	総計	56	43	26	21	36	42	48	47	26	22	29	28	424	97	28	125	

高知県感染症情報月報 2018年3月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	140	417	873	382	238	426	2,476	10,173	2,445
小児科	咽頭結膜熱			18	1	4	1	24	17	23
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	11	127	13	14	21	192	187	340
	感染性胃腸炎	45	188	244	46	39	40	602	389	644
	水痘	7	1	3				11	20	40
	手足口病		4	10	2		22	38	34	2
	伝染性紅斑		3	1				4	4	14
	突発性発疹	1	8	18	2	4	1	34	27	54
	ヘルパンギーナ						1	1	2	1
	流行性耳下腺炎		1	3			2	6	1	27
	RSウイルス感染症	2	1	39	2	2	1	47	51	35
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2	2	1
STD	性器クラミジア感染症		1					1	1	
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎		1					1	1	
	無菌性髄膜炎								1	1
	マイコプラズマ肺炎			7				7	6	12
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			4				4	1	3
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			3				3	6	3
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	2	13				19	20	21
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									1
薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		205	638	1,365	448	301	515	3,472	10,943	3,673
前月		421	2,032	3,932	1,359	935	2,264			
前年同月		116	710	1,320	325	229	973			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年3月

全国情報（2月26日～4月1日）

第9週（2月26日～）から第13週（～4月1日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国における3月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると71.63で2月の185.80と比べて減少した。これは、インフルエンザが減少したことを反映している。

1位はインフルエンザで4週換算値が37.49（2月1位152.00）と著しく減少した。2位は感染性胃腸炎で19.02（同2位18.69）、3位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.81（同3位9.99）、4位は流行性角結膜炎で2.26（同4位2.34）、5位はRSウイルス感染症で1.58（同5位1.57）と全て横ばいだった。6位はロタウイルス胃腸炎で1.48（同10位0.58）と増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ		17.42	12.05	8.65	5.35	3.39	46.86
2	感染性胃腸炎		4.84	5.00	5.01	4.43	4.50	23.78
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.60	2.64	2.69	2.27	2.06	12.26
4	流行性角結膜炎		0.59	0.53	0.54	0.53	0.63	2.82
5	RSウイルス感染症		0.38	0.41	0.44	0.38	0.36	1.97
6	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		0.31	0.28	0.41	0.43	0.42	1.85

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の3月の上位6疾患の合計は4週換算すると65.58で、2月の234.87と比べてきわだって減少し、全国よりも少なくなった（表2）。減少の原因は、インフルエンザの減少である。今季（2017/18）は、全国的にパンデミックの2009/1010シーズンを上回る大きな流行になった。とくに高知県は、都道府県別定点当たり報告数が、2月に全国第一位の流行であった。今季の流行の特徴は、インフルエンザB型の流行開始が早く大規模だったこと、B型としてYamagataとVictoriaが、A型としてAH3 NT、AH1pdm09の合計4亜型のウイルスが流行を形成し、インフルエンザに2回罹患する者も多くみられた。

1位はインフルエンザで4週換算値が41.26（同1位211.94）と減少したが全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で16.05（同2位12.97）と増加したが全国よりも少なかった。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.11（同3位6.24）と減少し、全国よりも少なかった。4位はRSウイルス感染症で1.25（同4位1.69）と減少し全国よりも少なかった。5位は手足内病で1.01（同5位1.14）と減少したが全国よ

りも多かった。6位は突発性発疹で0.90（同6位0.89）と横ばいで全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	13週	計
1	インフルエンザ		23.23	13.60	8.00	4.46	2.29	51.58
2	感染性胃腸炎		3.33	3.13	5.50	4.30	3.80	20.06
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.43	1.33	1.33	1.33	0.97	6.39
4	RSウイルス感染症		0.33	0.20	0.40	0.40	0.23	1.56
5	手足口病		0.20	0.27	0.43	0.13	0.23	1.26
6	突発性発疹		0.13	0.30	0.27	0.23	0.20	1.13

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2,476名（2月 10,173名）。今季は全国よりも遅れて流行期に突入した。高知県全体として2018年の第2週に31.73と警報レベルを超えた。12月はパンデミックの流行時（2009年）に次いで多い報告数であり、このことは早い流行となったことを意味していた。1月は過去10年の全ての月別統計のなかで2015年1月に次いで2番目に多い報告数であった。2月はさらに増加し、月毎の最多記録をぬり替えた。2017/18シーズン全体としての流行規模も大きなものとなり、パンデミックの2009/1010シーズンを上回り、過去10年で最大の流行になった。定点当たり報告数の都道府県別集計で、2月に高知県は211.94という高い値を示し、全国第一位だった。週毎にみると6週67.67をピークに以後は減少を続けており、流行終息に向かっているようだ。しかし、3月の集計は県下全域でまだ警報値30を超えており、多いのは中央西、須崎、高知市、幡多、中央東、安芸の順である。ウイルスとして、AH3 NTが7件、B Yamagataが4件検出された。

今季の流行の特徴は、1) 過去10年間で最大の報告数を記録したこと、2) インフルエンザB型の検出率が流行開始時から多かったこと（例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的）、3) 4つの異なる亜型のウイルス株が流行し、しかも優勢のウイルス株が目まぐるしく変動したこと、である。今季、県下で12月以降に検出されたウイルスを集計すると、AH3 NTが37件、B/Yamagataが34件、AH1pdm09が31件、B/Victoriaが6件検出された。複数回インフルエンザに罹患する者も多くみとめられ、A型→B型、B型→B型というふうに短期間に2回インフルエンザに罹患する者も少なかった。

2) 咽頭結膜熱

報告数 24名(2月 17名)。この時期としては平年並みの数である。須崎、高知市、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 192名(2月 187名)。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、高知市、須崎からの報告が多い。細菌は*Streptococcus pyogenes* T1, T3を各1件検出した。

4) 感染性胃腸炎

報告数 602名(2月 389名)。前月より増加したものの、本年1月以降3カ月連続で、この時期として過去10年間で最も少ない報告数で推移している。県下全域から報告があり、とくに中央東、安芸、高知市、須崎からの報告が多い。病原体は、Norovirus G II NTが1件、Astrovirus NTが1件検出された。

5) 水痘

報告数 11名(2月 20名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で減少している。2016年12月に一時増加したものの、その後減少して推移している。安芸、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 38名(2月 34名)。初夏に流行が始まる感染症で、昨年5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月以降は徐々に減少したが10月に下げ止まり、11月は再び増加したが12月以降は減少し以後は増減が波打っている。幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackievirus A16が1件、Enterovirus 71が1件、その後はEnterovirus 71が10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件検出された。2月3月はウイルスは検出されなかった。前年5月以降は3種類の原因ウイルスが流行し、9～1月の流行を形成したのはEnterovirus 71であったが、危惧される脳幹脳炎の報告はされていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 4名(2月 4名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、2017年の後半以降は同時期として平年並みの報告数である。中央東、高知市から報告された。Human parvovirus B19は検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 34名(2月 27名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 1名(2月 2名)。例年6～7月から流行がみられる。幡多から1例報告された。ウイルスは検出されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 6名(2月 1名)。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。昨年夏以降は、過去10年で最も少ない数字で推移しているが、増加しており今後注目したい。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 47名(2月 51名)。前年8～9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減、1月以降は横ばいで推移している。県下全域から報告されたが、特に高知市、安芸、須崎で多かった。3月にウイルスは検出されていない。7月以降に検出されたウイルスを集計するとRSウイルスAが6件、Bが3件であった。

12) 流行性角結膜炎

報告数 2名(2月 2名)。ここ3年間は一桁で推移している。ウイルスは検出されていない。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(2月 1名)。中央東から50歳代前半の例が報告された。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれら原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(2月 1名)。前年から少ない報告数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 7名(2月 6名)。すべて高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 19名(2月 20名)。例年並みの数で推移している。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(2月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

3月はウイルス56件，細菌2件の搬入があり，そのうちウイルス19件，細菌2件の病原体を検出し，また，平成30年2月に搬入された検体でウイルス2件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 1件，Astrovirus NT 1件，Cytomegalovirus 1件，Human herpes virus 6 1件，Human metapneumovirus 4件，Influenza virus A H3 NT 7件，Influenza virus B/Yamagata 4件，Norovirus GII NT 2件，また，細菌の内訳は，*Streptococcus pyogenes* T1 1件，*Streptococcus pyogenes* T3 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	男	感染性胃腸炎	37℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	2. 6	Norovirus GII NT
2	11ヶ月	男	咽頭結膜熱	39℃，下痢，	ぬぐい液	2.10	Adenovirus 2
3	1	女	EB疑い	39℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	2.27	Cytomegalovirus
4	9	女	呼吸器感染症	39℃，咳漱，気管支炎，	鼻咽腔ぬぐい液	2.28	Human metapneumovirus
5	11	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	3. 1	Influenza virus A H3 NT
6	38	女	インフルエンザ	39℃，関節痛，	ぬぐい液	3. 1	Influenza virus B/Yamagata
7	2	女	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	3. 2	Influenza virus A H3 NT
8	2	男	-	40℃，腹痛，発疹，	ぬぐい液	3. 3	Human herpes virus 6
9	4	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	3. 6	Influenza virus A H3 NT
10	76	女	インフルエンザ	37℃，咳漱，	ぬぐい液	3. 6	Influenza virus B/Yamagata
11	12	女	インフルエンザ	39℃，下気道炎，	ぬぐい液	3.12	Influenza virus A H3 NT
12	3	女	インフルエンザ	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	3.12	Influenza virus A H3 NT
13	3	女	インフルエンザ	38℃，下気道炎，	ぬぐい液	3.12	Influenza virus B/Yamagata
14	7	女	感染性胃腸炎	嘔吐，嘔気，	ふん便	3.12	Norovirus GII NT
15	1	男	呼吸器感染症	39℃，嘔吐，嘔気，咳漱，	鼻咽腔ぬぐい液	3.12	Human metapneumovirus
16	19	女	伝染性紅斑	40℃，上気道炎，発疹，結膜炎，	鼻咽腔ぬぐい液	3.12	Human metapneumovirus
17	9	女	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	3.14	Influenza virus B/Yamagata
18	4	女	ヒトメタニューモ	40℃，下気道炎，	ぬぐい液	3.19	Human metapneumovirus
19	5	女	インフルエンザ	39℃，咳漱，下気道炎，	ぬぐい液	3.19	Influenza virus A H3 NT
20	8	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	3.22	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3
21	4	男	感染性胃腸炎	40℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，咳漱，	ふん便	3.22	Astrovirus NT
22	9	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	3.26	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
23	2	男	インフルエンザ	39℃，咳漱，	ぬぐい液	3.28	Influenza virus A H3 NT

高知県感染症情報月報 2018年4月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	5	22	55	11	9	1	103	2,476	384
小児科	咽頭結膜熱			6		3	10	19	24	10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	9	75	11	12	19	141	192	244
	感染性胃腸炎	52	136	243	39	19	75	564	602	329
	水痘	3	4	6	4		1	18	11	57
	手足口病		3	10	2		18	33	38	
	伝染性紅斑		1	2	1			4	4	12
	突発性発疹	1	5	17	3	7	7	40	34	48
	ヘルパンギーナ						3	3	1	1
	流行性耳下腺炎		2	3			1	6	6	28
	RSウイルス感染症	3	2	17			4	26	47	34
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			4				4	2	
STD	性器クラミジア感染症						1	1	1	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									1
	淋菌感染症			1			1	2		
基幹	細菌性髄膜炎								1	
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			6				6	7	9
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	4	1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)		1	4			5	10	3	13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1		13			2	16	19	22
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		80	185	464	71	50	148	998	3,472	1,196
前月		205	638	1,365	448	301	515			
前年同月		48	226	578	92	99	153			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年4月

全国情報（4月2日～4月29日）

第14週（4月2日～）から第17週（～4月29日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。

全国における4月の上位6疾患の合計は45.47で3月の4週間換算値71.63と比べて減少した。これは、インフルエンザが減少したことを反映している。

1位は感染性胃腸炎で22.26（3月2位19.02）で少し増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.63（3位9.81）と横ばい、3位がインフルエンザで6.65（同1位37.49）と著しく減少した。4位は流行性角結膜炎で3.12（同4位2.26）、5位は突発性発疹で2.07（同7位1.44）と6位ロタウイルス胃腸炎で1.74（同6位1.48）といずれも少し増加した。

麻疹が流行している。2018年は第15週までに67例発生しており、うち53例（79%）が検査診断例である。患者年齢の中央値は32歳（範囲0～55歳）で、麻疹ワクチン接種歴0回が16例（24%）、1回が7例（10%）、2回が6例（9%）、不明が38例（57%）である。最多は沖縄県で46例、埼玉県・東京都で各5例、愛知県で2例が報告されている。沖縄県では、2018年3月20日に海外からの旅行者1名が麻疹と診断され、これを発端に2次、3次感染と拡大している。ゴールデンウィークの人の往来で麻疹の全国への感染拡大する危険性が指摘されている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎	4.29	5.00	6.21	6.76	22.26
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.87	2.19	2.66	2.91	9.63
3	インフルエンザ	2.00	1.66	1.76	1.23	6.65
4	流行性角結膜炎	0.72	0.72	0.79	0.89	3.12
5	突発性発疹	0.42	0.49	0.54	0.62	2.07
6	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.42	0.41	0.52	0.39	1.74

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の4月の上位6疾患の合計は29.56で3月の4週換算値65.58と比べて減少し、全国よりも少なかった（表2）。減少の原因は、インフルエンザの減少である。今季（2017/18）は、全国的にパンデミックの2009/2010シーズンを上回る大きな流行になった。とくに高知県は、都道府県別定点当たり報告数が、2月に全国第一位の報告数であった。今季の流行の特徴は、インフルエンザB型の流行開始が早く大規模だったこと、B型としてYamagataとVictoriaが、A型としてAH3 NT、AH1pdm09の合計4亜型

のウイルスが流行を形成し、インフルエンザに2回罹患する者も多くみられた。問題になっている麻疹は、高知県ではまだ発生していない。

1位は感染性胃腸炎で18.79（3月2位16.05）とわずかに増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.70（同3位5.11）と横ばい、3位がインフルエンザで2.15（同1位41.26）と激減した。4位は流行性角結膜炎で1.34（同9位0.53）、5位は突発性発疹で1.33（同6位0.90）、6位はロタウイルス胃腸炎で1.25（同11位0.31）といずれも増加した。上位6疾患はいずれも全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	14週	15週	16週	17週	計
1	感染性胃腸炎	3.43	5.23	4.70	5.43	18.79
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.67	1.10	1.20	1.73	4.70
3	インフルエンザ	0.85	0.67	0.50	0.13	2.15
4	流行性角結膜炎	0.00	0.00	0.67	0.67	1.34
5	突発性発疹	0.30	0.23	0.37	0.43	1.33
6	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）	0.25	0.50	0.25	0.25	1.25

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 103名（3月 2,476名）。今季は全国よりも遅れて流行期に突入し、2018年の第2週に31.73と警報レベルを超えた。12月はパンデミックの流行時（2009年）に次いで多い報告数であり、このことは早い流行を意味していた。1月は過去10年の全ての月別統計のなかで2015年1月に次いで2番目に多い報告数であった。2月はさらに増加し、月毎の最多記録をぬり替えた。2017/18シーズン全体としての流行規模も大きなものとなり、パンデミックの2009/2010シーズンを上回り、過去10年で最大の流行になった。定点当たり報告数の都道府県別集計で、2月に高知県は211.94という高い値を示し、全国第一位だった。週毎にみると6週67.67をピークに以後は減少を続けており、流行の終息を迎えそうである。多いのは高知市、須崎、中央西、中央東、安芸、幡多の順である。ウイルスとして、B/Yamagataが3件、B/Victoriaが2件、AH3 NT、AH1pdm09が各1件検出された。

今季の流行の特徴は、1) 過去10年間で最大の報告数を記録したこと、2) インフルエンザB型の検出率が流行開始時から多かったこと（例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的）、3) 4つの異なる亜型のウイルス株が流行し、しかも優勢のウイルス

株が目まぐるしく変動したこと、である。今季、県下で12月以降に検出されたウイルスを集計すると、AH3 NTが38件、B/Yamagataが37件、AH1pdm09が32件、B/Victoriaが8件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 19名(3月 24名)。この時期としては平年並みの数である。幡多、須崎、高知市から表記の順に多く報告された。Adenovirus2型が2件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 141名(3月 192名)。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、安芸、高知市、須崎からの報告が多い。細菌は *Streptococcus pyogenes* T4が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 564名(3月 602名)。この時期として過去10年間で比較すると少ない報告数で推移している。県下全域から報告があり、とくに安芸、高知市、中央東からの報告が多い。病原体は、Norovirus GII NTが2件、Norovirus GI NT、Sapovirus genogroup unknown、Adenovirus 40/41が各1件検出された。

5) 水痘

報告数 18名(3月 11名)。2014年10月に開始された予防接種定期化の効果で減少している。2016年12月に一時増加したものの、その後減少して推移している。安芸、中央西、中央東、高知市、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 33名(3月 38名)。初夏に流行が始まる感染症で、昨年5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、高知県全域で警報値5を大きく超えていた。8月以降は徐々に減少したが10月に下げ止まり、11月は再び増加したが12月以降は減少し以後は増減が波打っている。幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackievirus A16が1件、Enterovirus 71が1件、その後はEnterovirus 71が10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件、2月1件、4月に1件検出された。前年5月以降は3種類の原因ウイルスが流行し、9～1月の流行を形成したのはEnterovirus 71であったが、危惧される脳幹脳炎の報告はされていない。

4月は、Enterovirus 71 1件に加え、Echovirus 7型が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 4名(3月 4名)。2015年以降、全国的に例年に比べてやや多い数で推移していたが、2017年の後半以降は同時期として平年並の報告数である。中央西、高知市、中央東から報告された。Human parvovirus B19は検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 40名(3月 34名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 3名(3月 1名)。例年6～7月から流行がみられる。幡多から3例報告された。ウイルスは検出されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 6名(3月 6名)。中央東、高知市、幡多から表記の順に多く報告された。昨年夏以降は、過去10年で最も少ない数字で推移している。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 26名(3月 47名)。前年8～9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減、1月以降は徐々に減少して推移している。高知市、安芸、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。7月以降に検出されたウイルスを集計するとRSウイルスAが6件、Bが3件であった。

12) 流行性角結膜炎

報告数 4名(3月 2名)。ここ3年間は一桁で推移している。ウイルスは検出されていない。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(3月 1名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(3月 0名)。前年から少ない報告数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 6名(3月 7名)。すべて高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名(3月 19名)。例年並みの数で

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

4月はウイルス65件，細菌1件の搬入があり，そのうちウイルス21件，細菌1件の病原体を検出した．また，平成30年2月に搬入された検体でウイルス3件，3月に搬入された検体でウイルス7件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 4件，Adenovirus 40/41 1件，Adenovirus 41 1件，Adenovirus 5 1件，Coxsackievirus B4 2件，Echovirus 7 1件，Enterovirus 71 2件，Herpes simplex virus 1 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 2件，Human metapneumovirus 1件，Influenza virus A H3 NT 1件，Influenza virus A H1pdm09 1件，Influenza virus B/Victoria 2件，Influenza virus B/Yamagata 3件，Norovirus GI NT 1件，Norovirus GII NT 2件，Parainfluenza virus 3 1件，Rhinovirus 2件，Sapovirus genogroup unknown 1件，また，細菌の内訳は，*Streptococcus pyogenes* T4 1件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	5	男	突発性発しん疑い、中枢神経感染症疑い	-	髄液	2.17	Herpes simplex virus 1
2	1	女	手足口病	39℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	2.19	Enterovirus 71
3	3	男	インフルエンザ様疾患	39℃，咳嗽，肺炎，	吸引鼻汁	2.22	Coxsackievirus B4
4	11ヶ月	男	不明熱	39℃，	ぬぐい液	3.15	Adenovirus 2
5	1	男	感染性胃腸炎	-	ふん便	3.16	Adenovirus 2
6	5	女	不明発疹症	37℃，発疹，	ぬぐい液	3.16	Coxsackievirus B4
7	1	男	下気道炎	39℃，咳嗽，下気道炎，	ぬぐい液	3.19	Adenovirus 5
8	11ヶ月	女	不明熱	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	3.20	Human metapneumovirus
9	8ヶ月	男	-	38℃，下痢，	ふん便	3.25	Adenovirus 41
10	1	女	咽頭結膜熱	38℃，発疹，	ぬぐい液	3.25	Rhinovirus
11	1ヶ月	男	上気道炎	39℃，上気道炎，	鼻腔	3.27	Rhinovirus
12	6	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.27	Norovirus GII NT
13	5	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	3.28	Norovirus GII NT
14	14	男	インフルエンザ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	3.29	Influenza virus B/Yamagata
15	2	女	インフルエンザ	39℃，気管支炎，	ぬぐい液	3.30	Influenza virus B/Victoria
16	44	女	インフルエンザ	39℃，上気道炎，関節痛，	ぬぐい液	3.30	Influenza virus B/Yamagata
17	9	女	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	3.31	Influenza virus B/Victoria
18	8	女	手足口病？	37℃，発疹，	ぬぐい液	3.31	Human herpes virus 7
19	15	女	インフルエンザ	40℃，咳嗽，気管支炎，	ぬぐい液	4. 2	Influenza virus A H3 NT
20	1	女	肺炎	40℃，肺炎，	ぬぐい液	4. 4	Parainfluenza virus 3
21	2	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 6	Norovirus GI NT
22	2	女	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	4. 7	Human herpes virus 6
23	1	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 9	Sapovirus genogroup unknown
24	3ヶ月	女	手足口病	39℃，上気道炎，発疹，	ふん便	4.10	Echovirus 7
25	1	男	手足口病	水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	4.11	Enterovirus 71
26	3	女	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	4.12	Influenza virus A H1pdm09
27	1	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4.13	Adenovirus 40/41
28	11	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	4.14	Human herpes virus 7
29	2	男	咽頭結膜熱	40℃，	ぬぐい液	4.16	Adenovirus 2
30	9ヶ月	女	咽頭結膜熱	40℃，	ぬぐい液	4.17	Adenovirus 2
31	13	女	インフルエンザ	39℃，下痢，咳嗽，	ぬぐい液	4.18	Influenza virus B/Yamagata
32	4	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，咳嗽，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	4.23	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年				2018年 総計
		1	2	3	4	
A群溶血性レンサ球菌咽 頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1	1
	計			2	1	3
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	37
	Influenza virus A H1pdm09	28	3		1	32
	Influenza virus B /Victoria	3	1		2	6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3	35
	計	69	23	11	7	110
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1				1
	Adenovirus 2	1	1		2	4
	Rhinovirus			1		1
	計	2	1	1	2	6
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1		1
	Adenovirus 40/41				1	1
	Astrovirus NT			1		1
	Norovirus GI NT				1	1
	Norovirus GII NT	5	1	1	2	9
	Sapovirus genogroup unknown	2			1	3
	計	7	1	3	5	16
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2					
	Coxsackievirus A6					
	Coxsackievirus A10					
	Coxsackievirus B5					
	Human herpes virus 6					
	Human herpes virus 7					
	計					
手足口病	Enterovirus 71	2	1		1	4
	Echovirus 7				1	1
	Epstein-Barr virus	1				1
	計	3	1		2	6
流行性角結膜炎	Adenovirus 2					
	計					
伝染性紅斑	Human metapneumovirus			1		1
	human parvovirus B19					
計			1		1	
流行性耳下腺炎	Mumps virus					
	計					
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1				1
	計	1				1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>					
計						
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A	1				1
	計	1				1
水痘	Varicella-zoster virus					
	計					
突発性発疹	Human herpes virus 6	1				1
	計	1				1
その他	Adenovirus 2	1		1		2
	Adenovirus 5			1		1
	Adenovirus 41			1		1
	Coxsackievirus B4		1	1		2
	Cytomegalo virus	1		1		2
	Epstein-Barr virus	1	1			2
	Herpes simplex virus 1	1	1			2
	Human herpes virus 6	2	1	1	1	5
	Human herpes virus 7	1			2	3
	Human metapneumovirus	3	1	4		8
	Influenza virus A H1pdm09	1				1
	Influenza virus B Yamagata		2			2
	Norovirus GII NT	1				1
	Parainfluenza virus 2	1				1
	Parainfluenza virus 3				1	1
	Rhinovirus				1	1
	計	13	7	10	5	35
総計	97	33	28	22	180	

高知県感染症情報月報 2018年5月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ		7	14	7	3	1	32	103	122
小児科	咽頭結膜熱		2	20		11	25	58	19	66
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	28	167	9	28	43	285	141	214
	感染性胃腸炎	61	282	267	60	22	48	740	564	445
	水痘	1	4	19	3	4	8	39	18	73
	手足口病		13	27	10	3	13	66	33	61
	伝染性紅斑		3	8				11	4	11
	突発性発疹	5	19	40	6	11	6	87	40	59
	ヘルパンギーナ			3	1		1	5	3	10
	流行性耳下腺炎		1	5		2	2	10	6	16
	RSウイルス感染症		8	3			6	17	26	10
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			4			1	5	4	3
STD	性器クラミジア感染症								1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症								2	1
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			11				11	6	8
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2	2	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			4			1	5	10	32
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	3	10			1	16	16	20
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		79	370	604	96	84	156	1,389	998	1,153
前月		80	185	464	71	50	148			
前年同月		58	225	560	65	72	173			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年5月

全国情報（4月30日～6月3日）

第18週（4月30日～）から第22週（～6月3日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における5月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると47.98で、4月の45.47と比べて横ばいであった。

1位は感染性胃腸炎で4週間換算値が25.85（4月1位22.26）で少し増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で10.86（同2位9.63）、3位が流行性角結膜炎で3.86（同4位3.12）、4位は咽頭結膜熱で2.62（同9位1.28）、5位は手足口病で2.58（同10位0.95）といずれも増加した。6位は突発性発疹で2.21（同5位2.07）と横ばいであった。

麻疹が流行している。沖縄県では、2018年3月20日に海外からの旅行者1名が麻疹と診断され、これを発端に2次、3次感染と続いている。ゴールデンウィークの人の往来で、全国に感染拡大し、加えて新たな輸入感染例が増加した。2018年は第20週までに161例発生し、うち145例（90%）が検査診断例である。患者年齢の中央値は29歳（範囲0～58歳）で、麻疹ワクチン接種歴0回が35例（22%）、1回が34例（21%）、2回が17例（11%）、不明が75例（47%）である。29例から検出された麻疹ウイルス株について分析され、D8型が25例から、B3型が4例から検出された。渡航歴の記載がある12例の渡航先は、D8型検出例はタイが8例、ネパール1例、B3型検出例はフィリピン2例、バングラデシュ1例であった。都道府県別患者発生数の最多は沖縄県で88例、次いで愛知県で25例、福岡県17例、東京都で11例、埼玉県で6例が報告されている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎		3.70	6.74	7.38	7.23	7.26	32.31
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.45	2.85	3.13	3.02	3.12	13.57
3	流行性角結膜炎		0.53	1.17	1.10	0.94	1.09	4.83
4	咽頭結膜熱		0.33	0.62	0.64	0.85	0.83	3.27
5	手足口病		0.29	0.43	0.76	0.79	0.96	3.23
6	突発性発疹		0.35	0.64	0.58	0.61	0.58	2.76

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の5月の上位6疾患の合計は4週換算値で34.30と4月の29.56と比べて増加したが、全国よりも少なかった（表2）。猛威をふるったインフルエンザの流行は終息し、初夏の感染症である手足口病と咽頭結膜熱（プール熱）が上位に名を連ねた。問

題になっている麻疹は、四国4県ではまだ発生していない。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値が19.73（4月1位18.79）と横ばいであった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.61（4月2位4.70）、3位が突発性発疹で2.32（同5位1.33）、4位は手足口病で1.76（同7位1.10）、5位は咽頭結膜熱で1.54（同10位0.64）とそれぞれ増加した。6位は流行性角結膜炎で1.34（同4位1.34）と横ばいだった。上位疾患は、突発性発疹を除いた5疾患が全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎		4.07	4.93	5.20	5.13	5.33	24.66
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.37	1.67	2.07	2.00	2.40	9.51
3	突発性発疹		0.47	0.63	0.43	0.70	0.67	2.90
4	手足口病		0.20	0.23	0.67	0.43	0.67	2.20
5	咽頭結膜熱		0.00	0.23	0.20	0.80	0.70	1.93
6	流行性角結膜炎		0.00	0.33	0.00	0.67	0.67	1.67

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 32名（4月 103名）。2017年12月はパンデミックの流行時（2009年）に次いで多い報告数であり、このことは早い流行を意味していた。高知県は全国よりも遅れて流行期に突入し、2018年の第2週に31.73と警報レベルを超えた。1月は過去10年の全ての月別統計のなかで2015年1月に次いで2番目に多い報告数であった。2月はさらに増加し、月毎の最多記録をぬり替えた。2017/18シーズン全体としての流行規模も大きなものとなり、パンデミックの2009/2010シーズンを上回り、過去10年で最大の流行になった。定点当たり報告数の都道府県別集計で、2月に高知県は211.94という高い値を示し、全国第1位だった。週毎にみると6週67.67をピークに以後は減少を続け流行の終息を迎えた。5月は、中央西、高知市、須崎、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスは、AH3 NTが1件検出された。

今季の流行の特徴は、1) 過去10年間で最大の報告数を記録したこと、2) インフルエンザB型の検出率が流行開始時から多かったこと（例年はA型の流行が先行し、遅れて春先にB型が流行することが多いのと対照的）、3) 4つの異なる亜型のウイルス株が流行し、しかも優勢のウイルス株が目まぐるしく変動したこと、である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 58名（4月 19名）。この時期として

は平年並みの数である。須崎、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。咽頭結膜熱からCytomegalovirusが1件検出された。アデノウイルスとしては、Adenovirus2型が3件、5型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 285名(4月 141名)。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、高知市、須崎、幡多からの報告が多い。細菌は*Streptococcus pyogenes* TB3264が2件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 740名(4月 564名)。同じ時期として過去10年間で比較すると少ない報告数で推移していたが平年並みになってきた。県下全域から報告があり、とくに中央東、安芸、高知市、中央西からの報告が多い。病原体は、Sapovirus genogroup unknownが4件、Norovirus GII NTが2件、*Salmonella* Enteritidisが1件検出された。

5) 水痘

報告数 39名(4月 18名)。前月に比べ倍増したとはいえ、2014年10月に開始された予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。県下全域から報告があり、須崎、高知市、幡多から多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 66名(4月 33名)。初夏に流行が始まる感染症で、2017年は5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、8月以降は徐々に減少したが、11月は再増加したが12月以降は減少し、2018年に入っても増減が波打っていた。5月に倍増したことは再び流行期に突入することを示唆しているかもしれない。中央西、幡多、高知市、中央東、須崎から表記の順に多く報告された。ウイルスはCoxsackievirus A6が5月に8件、6月に16件、7月に10件、8月、9月に各2件検出され、9月はCoxsackievirus A16が1件、Enterovirus 71が1件、その後はEnterovirus 71が10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件、2月1件、4月に2件検出された。前年5月以降は3種類の原因ウイルスが流行し、9月～4月の流行を形成したのはEnterovirus 71であったが、危惧される脳幹脳炎の報告はされていない。

5月は、手足口病の原因と推測されるウイルスは検出されていない。

7) 伝染性紅斑

報告数 11名(4月 4名)。平年並みの推移である。高知市、中央東から報告された。Human parvovirus B19は検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 87名(4月 40名)。4月から増加するのは例年みられる傾向で、新年度の集団保育開始に起因するのかもしれない。総じて想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 5名(4月 3名)。例年6-7月から流行がみられる。中央西、高知市、幡多から報告された。ヘルパンギーナの病因と解釈されるウイルスは検出されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 10名(4月 6名)。須崎、高知市、幡多、中央東から報告された。昨年夏以降は、過去10年で最も少ない数字で推移している。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 17名(4月 26名)。1997年8-9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減、1月以降は徐々に減少して推移している。幡多、中央東、高知市から表記の順に多く報告された。ウイルスはRSウイルスB型が1件検出された。過去1年間(7月以降)に検出されたウイルスを集計すると、RSウイルスA型が6件、B型が4件であった。

12) 流行性角結膜炎

報告数 5名(4月 4名)。ここ3年間は一桁で推移している。ウイルスは検出されていない。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(4月 0名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(4月 0名)。前年から少ない報告数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 11名(4月 6名)。すべて高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 16名(4月 16名)。例年並みの数で推移している。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

5月はウイルス72件，細菌3件の搬入があり，そのうちウイルス31件，細菌3件の病原体を検出した．また，平成30年3月に搬入された検体でウイルス1件，4月に搬入された検体でウイルスを16件検出した．検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 4件，Adenovirus 41 2件，Adenovirus 5 1件，Adenovirus 8 1件，Astrovirus NT 1件，Cytomegalovirus 5件，Enterovirus 71 1件，Herpes simplex virus 1 5件，Human herpes virus 6 6件，Human herpes virus 7 3件，Human metapneumovirus 2件，Influenza virus A H3 NT 1件，Norovirus GII NT 4件，Parainfluenza virus 3 1件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 3件，Rotavirus group A G9 1件，Sapovirus genogroup unknown 5件，また，細菌の内訳は*Salmonella* Enteritidis 1件，*Streptococcus pyogenes* TB3264 2件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	4ヶ月	男	カポジ水痘様発疹症	39℃，水疱，発疹，	水疱浸出液	3.24	Herpes simplex virus 1
2	1	女	上気道炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	3.28	Adenovirus 2
3	1	女	-	40℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 2	Adenovirus 41
4	1	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4. 8	Adenovirus 41
5	3ヶ月	男	-	39℃，	ぬぐい液	4. 9	Herpes simplex virus 1
6	3ヶ月	女	手足口病	39℃，上気道炎，発疹，	ふん便	4.10	Adenovirus 1
7	4	女	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	4.15	Rotavirus group A G9
8	7	女	-	39℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	4.17	Herpes simplex virus 1
9	1	女	突発性発しん（不明発疹症）	40℃，発疹，	ぬぐい液	4.17	Human herpes virus 6
10	4	男	感染性胃腸炎	39℃，下痢，	ふん便	4.18	Norovirus GII NT
11	2	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	4.18	Sapovirus genogroup unknown
12	6ヶ月	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	4.19	Human herpes virus 6
13	1	男	-	41℃，口内炎，	ぬぐい液	4.20	Adenovirus 8
14	2	女	手足口病	38℃，水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	4.20	Herpes simplex virus 1
15	6	女	-	発疹，	ぬぐい液	4.23	Human herpes virus 7
16	1	男	上気道炎	40℃，上気道炎，結膜炎，	ぬぐい液	4.23	Human metapneumovirus
17	3	男	手足口病	37℃，	ぬぐい液	4.23	Enterovirus 71
18	4ヶ月	男	気管支炎	39℃，咳嗽，気管支炎，	ぬぐい液	4.24	Adenovirus 2
19	1	男	気管支炎	39℃，気管支炎，発疹，	ぬぐい液	4.25	Parainfluenza virus 3
20	7	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	4.26	Norovirus GII NT
21	1	女	不明熱	39℃，	ぬぐい液	4.28	Rhinovirus
22	2	男	-	40℃，	ぬぐい液	5. 1	Adenovirus 5
23	4	男	-	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	5. 1	Norovirus GII NT
24	14	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	上気道炎，	ぬぐい液	5. 1	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
25	53	男	インフルエンザ	37℃，	ぬぐい液	5. 1	Influenza virus A H3 NT
26	1	男	伝染性紅斑	40℃，発疹，	鼻咽頭ぬぐい液	5. 1	Cytomegalovirus
27	3	女	不明熱	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	5. 1	Rhinovirus
28	9ヶ月	男	-	37℃，	鼻汁	5. 2	Rhinovirus
29	1	女	突発性発しん	40℃，発疹，	ぬぐい液	5. 2	Cytomegalovirus
30	1	男	突発性発しん	40℃，下痢，肺炎，発疹，	ぬぐい液	5. 4	Cytomegalovirus
31	5	女	-	-	ふん便	5. 7	Astrovirus NT
32	9ヶ月	女	気管支炎	40℃，嘔吐，嘔気，咳嗽，上気道炎，気管支炎，発疹，	ぬぐい液	5. 7	Human herpes virus 6
33	7	女	不明発疹症	42℃，下痢，腹痛，発疹，	ぬぐい液	5. 7	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
34	1	男	咽頭結膜熱	40℃，上気道炎，発疹，結膜炎，	鼻咽頭ぬぐい液	5. 8	Cytomegalovirus

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
35	1	女	上気道炎	咳嗽, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	5. 9	Adenovirus 2
36	2	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	5.12	Sapovirus genogroup unknown
37	9	女	手足口病	-	ぬぐい液	5.12	Herpes simplex virus 1
38	2	男	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	5.14	Sapovirus genogroup unknown
39	3	女	手足口病?	39℃, 発疹,	ぬぐい液	5.14	Adenovirus 2
40	3	女	下気道炎	39℃, 下気道炎,	鼻汁	5.15	Human metapneumovirus
41	5ヶ月	男	R S ウイルス感染症	38℃, 下気道炎,	鼻汁	5.15	Respiratory syncytial virus B
42	11	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	5.16	Human herpes virus 7
43	1	男	上気道炎	39℃, 腹痛, 咳嗽, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	5.17	Human herpes virus 6
44	14	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	上気道炎,	ぬぐい液	5.18	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>
45	8ヶ月	女	手足口病	発疹,	ぬぐい液	5.18	Human herpes virus 6
46	1	女	ヘルパンギーナ	40℃,	ぬぐい液	5.19	Cytomegalovirus
47	11	男	感染性胃腸炎	-	ふん便	5.23	<i>Salmonella</i> Enteritidis
48	1	女	感染性胃腸炎	-	ふん便	5.25	Norovirus GII NT
49	3	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	5.25	Sapovirus genogroup unknown
50	1	女	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	5.26	Sapovirus genogroup unknown

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年					2018年 総計
		1	2	3	4	5	
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1			1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					2	2
	計			2	1	2	5
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	1	38
	Influenza virus A H1pdm09	28	3		1		32
	Influenza virus B /Victoria	3	1		2		6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3		35
	計	69	23	11	7	1	111
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1					1
	Adenovirus 2	1	1		2		4
	Cytomegalovirus					1	1
	Rhinovirus			1			1
	計	2	1	1	2	1	7
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1			1
	Adenovirus 40/41				1		1
	Adenovirus 41				1		1
	Astrovirus NT			1			1
	Norovirus GI NT				1		1
	Norovirus GII NT	5	1	1	3	2	12
	Rotavirus group AG9				1		1
	Sapovirus genogroup unknown	2			2	4	8
	<i>Salmonella</i> Enteritidis					1	1
	計	7	1	3	9	7	27
ヘルパンギーナ	Cytomegalovirus					1	1
	計					1	1
手足口病	Adenovirus 1				1		1
	Enterovirus 71	2	1		2		5
	Echovirus 7				1		1
	Epstein-Barr virus	1					1
	Human herpes virus 6					1	1
	Herpes simplex virus 1				1	1	2
	計	3	1		5	2	11
流行性角結膜炎	Adenovirus 2						
	計						
伝染性紅斑	Cytomegalovirus					1	1
	Human metapneumovirus			1			1
	計			1		1	2
流行性耳下腺炎	Mumps virus						
	計						
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1					1
	計	1					1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>						
RS ウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A	1					1
	Respiratory syncytial virus B					1	1
	計	1				1	2
水痘	Varicella-zoster virus						
	計						
突発性発疹	Cytomegalovirus					2	2
	Human herpes virus 6	1			1		2
	計	1			1	2	4
その他	Adenovirus 2	1		1	1	3	6
	Adenovirus 5			1		1	2
	Adenovirus 8				1		1
	Adenovirus 41			1	1		2
	Astrovirus NT					1	1
	Coxsackievirus B4		1	1			2
	Cytomegalo virus	1		1			2
	Epstein-Barr virus	1	1				2
	Herpes simplex virus 1	1	1	1	2		5
	Human herpes virus 6	2	1	1	2	3	9
	Human herpes virus 7	1			3	2	6
	Human metapneumovirus	3	1	4	1	1	10
	Influenza virus A H1pdm09	1					1
	Influenza virus B Yamagata		2				2
	Norovirus GII NT	1				1	2
	Parainfluenza virus 2	1					1
	Parainfluenza virus 3				1	1	2
	Rhinovirus				1	3	4
	計	13	7	11	13	16	60
	総計	97	33	29	38	34	231

高知県感染症情報月報 2018年6月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ			1		1			2	32	11
小児科	咽頭結膜熱		1	5	23	8	9	11	57	58	53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	29	109	12	14	23	193	285	338
	感染性胃腸炎		32	135	201	26	22	55	471	740	460
	水痘		2	2	14		8	3	29	39	77
	手足口病		4	24	59	3	5	10	105	66	1,235
	伝染性紅斑			6	6	2			14	11	13
	突発性発疹		4	15	33	2	2	1	57	87	65
	ヘルパンギーナ		1		9	1	1	2	14	5	176
	流行性耳下腺炎			1	5			1	7	10	18
	RSウイルス感染症			2	4				6	17	2
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎		2		2				4	5	1
STD	性器クラミジア感染症										1
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										1
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎			1					1		1
	無菌性髄膜炎										1
	マイコプラズマ肺炎				6				6	11	7
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									2	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1	1			2	4	5	31
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	3	20			1	26	16	15
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				1				1		
薬剤耐性緑膿菌感染症											
計			54	225	493	55	61	109	997	1,389	2,507
前月			79	370	604	96	84	156			
前年同月			58	490	1,308	192	162	297			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2018年6月

全国情報（6月4日～7月1日）

第23週（6月4日～）から第26週（～7月1日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における6月の上位6疾患の合計は51.43で、5月の4週間換算値47.98と比べて横ばいであった。

1位は感染性胃腸炎で25.14（5月1位4週間換算値が25.85）、2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で11.49（同2位10.86）と横ばいだった、3位が手足口病で5.18（同5位2.58）と増加した。4位は流行性角結膜炎で3.91（同4位3.86）と横ばい、6位にヘルパンギーナが登場し2.41（同14位0.39）と増加した。

沖縄県、愛知県などで輸入例を発端に麻疹が流行していたが、新たな報告は続いてはいるが減少し、流行拡大は失速した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		6.94	6.40	6.07	5.73	25.14
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3.08	2.88	2.89	2.64	11.49
3	手足口病		1.11	1.23	1.24	1.60	5.18
4	流行性角結膜炎		1.03	1.00	0.93	0.95	3.91
5	咽頭結膜熱		0.92	0.83	0.79	0.76	3.30
6	ヘルパンギーナ		0.28	0.49	0.64	1.00	2.41

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の6月の上位6疾患の合計は30.75と5月の4週換算値で34.30と比べてわずかに減少したが、全国よりも少なかった（表2）。猛威をふるったインフルエンザの流行は終息し、初夏の感染症である手足口病と咽頭結膜熱（プール熱）が上位に名を連ねた。麻疹は、四国4県では発生していない。

1位は感染性胃腸炎で15.70（5月1位で4週換算値が19.73）と減少した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.43（同2位7.61）と減少、3位は手足口病で3.50（同4位1.76）と増加した。4位は咽頭結膜熱で1.90（同5位1.54）と少し増加、5位は突発性発疹で1.89（同3位2.32）とわずかに減少した。6位は流行性角結膜炎で1.33（同6位1.34）と横ばいであった。上位6疾患は全て全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	23週	24週	25週	26週	計
1	感染性胃腸炎		4.50	3.63	3.60	3.97	15.70
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.43	1.53	1.87	1.60	6.43
3	手足口病		0.87	0.73	0.73	1.17	3.50
4	咽頭結膜熱		0.63	0.57	0.30	0.40	1.90
5	突発性発疹		0.43	0.43	0.40	0.63	1.89
6	流行性角結膜炎		0.00	0.00	0.33	1.00	1.33

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2名（5月 32名）。流行は終息した。中央西と中央東から各1例報告された。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 57名（5月 58名）。この時期としては平年並みの数である。県下全域から報告があり、とくに須崎、中央西、幡多、高知市で多かった。咽頭結膜熱からAdenovirus 1型が2件検出された。アデノウイルスとしては、Adenovirus 2型、41型が各1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 193名（5月 285名）。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、とくに高知市、須崎で多かった。細菌は*Streptococcus pyogenes* T1, T4, T12が各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 471名（5月 740名）。平年並の報告数である。県下全域から報告があり、とくに中央東、高知市、安芸からの報告が多い。病原体は、Norovirus GII NTが2件、Rotavirus group A G9, Sapovirus genogroup unknown, Adenovirus 41型, Astrovirus NTが各1件検出された。その他の診断の患者から、Rotavirus group A G1, Rotavirus group A G3, Sapovirus genogroup unknownが各1件検出されている。

5) 水痘

報告数 29名（5月 39名）。2014年10月に開始された予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。須崎、高知市、安芸、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 105名（5月 66名）。初夏に流行が始まる感染症で、2017年は5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告

数で、8月以降は徐々に減少したが、11月に再増加したが12月以降は減少し、2018年に入っても増減が波打っていた。5月、6月と倍増し再び流行期に突入したようであるが、まだ流行規模は大きくない。高知市、中央東、須崎、安芸、幡多、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスはEnterovirus 71が昨年10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件、2月1件、4月に2件、5月に2件（うち感染性胃腸炎と診断された患者から1件）、6月は5件（うち突発性発疹、その他と診断された患者から各1件ずつ）検出された。今季の手足口病の病原ウイルスはEnterovirus 71であり、脳幹脳炎合併に気をつけたい。手足口病の患者からRhinovirusが3件、HHV7が2件検出されている。

7) 伝染性紅斑

報告数 14名（5月 11名）。平年並の推移である。中央東、中央西、高知市から報告された。Human parvovirus B19は検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 57名（5月 87名）。4月から増加するのは例年みられる傾向で、新年度の集団保育開始に起因するのかもしれない。総じて想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 14名（5月 5名）。例年6-7月から流行がみられるが、6月は増加はゆるやかである。中央東をのぞく県下全域から報告された。ヘルパンギーナの病因と解釈されるウイルスは検出されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 7名（5月 10名）。高知市、中央東、幡多から報告された。昨年夏以降は、過去10年で最も少ない数字で推移している。ウイルスは検出

されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 6名（5月 17名）。2017年8-9月と季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減、1月以降は徐々に減少して推移している。高知市、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) 流行性角結膜炎

報告数 4名（5月 5名）。ここ3年間は一桁で推移している。Rhinovirusが1件検出された。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 1名（5月 0名）。50歳代の患者が1名報告された。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（5月 0名）。前年から少ない報告数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 6名（5月 11名）。すべて高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 26名（5月 16名）。増加したが例年並みの変動の範囲である。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 1名（5月 0名）。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成30年6月）

類型	病名	報告年																														総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30											
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	55	1,605										
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	55	1,605										
3	コレラ	1					1					1										3										
	パラチフス	2																				2										
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2		27										
	腸チフス		1						1									1				3										
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2		193										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	0	228											
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			32										
	Q熱	1	1	2				1														5										
	オウム病			1		1														1		3										
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	85										
	マラリア								2					1								3										
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	1	58										
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	8	157										
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1									6										
	レプトスピラ症											1		4	2	1				1		9										
	E型肝炎												1		1							2										
	デング熱												1				3	2	1			7										
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5										
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	14	401										
5	アเมอร์バ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	1	42										
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2		56										
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	3	72										
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3			2				2	1	31										
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1							8										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1		1		4										
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		18										
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	4	22										
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	8	73										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	4	17										
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	12	63										
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1		4										
	播種性クリプトコックス症																		1	3	3	7										
	髄膜炎菌性髄膜炎									1												1										
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		30										
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	11	168										
	百日咳																				115	115										
	麻疹										5											5										
風しん										1	1			4	9	1					16											
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	163	752											
新型	新型インフルエンザ											34									34											
	計											34									34											
動物	鳥インフルエンザ													1							1											
	計													1							1											
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	232	3,021										

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

6月はウイルス61件，細菌4件の搬入があり，そのうちウイルス40件，細菌3件の病原体を検出し，また，平成4月に搬入された検体でウイルス1件，5月に搬入された検体でウイルス14件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 3件，Adenovirus 2 5件，Adenovirus 41 3件，Astrovirus NT 1件，Coxsackievirus A9 2件，Cytomegalovirus 2件，Enterovirus 71 7件，Herpes simplex virus 1 4件，Human herpes virus 6 2件，Human herpes virus 7 3件，Human metapneumovirus 2件，Norovirus GII NT 2件，Parainfluenza virus 3 5件，Rhinovirus 9件，Rotavirus group A G1 1件，Rotavirus group A G3 1件，Rotavirus group A G9 1件，Sapovirus genogroup unknown 2件，また，細菌の内訳は Streptococcus pyogenes T1 1件，Streptococcus pyogenes T4 1件，Streptococcus pyogenes T12 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	男	気管支炎	39℃，気管支炎，	ぬぐい液	4.13	Human metapneumovirus
2	1	女	下気道炎	38℃，下気道炎，	ぬぐい液	5.7	Rhinovirus
3	11ヶ月	男	RSウイルス感染症	38℃，下痢，咳嗽，下気道炎，	ふん便	5.10	Rhinovirus
4	5ヶ月	男	急性気管支炎	咳嗽，上気道炎，気管支炎，	ぬぐい液	5.16	Rhinovirus
5	2	男	手足口病	38℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	5.17	Enterovirus 71
6	8ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	5.20	Adenovirus 41
7	1	男	咽頭結膜炎	40℃，	ぬぐい液	5.21	Adenovirus 2
8	1	女	不明熱	40℃，	ぬぐい液	5.21	Adenovirus 1
9	1	男	-	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	5.22	Adenovirus 2
10	1	男	-	40℃，咳嗽，	鼻腔	5.22	Adenovirus 2
11	2	男	手足口病	39℃，嘔吐，嘔気，咳嗽，上気道炎，水疱，発疹，	ぬぐい液	5.23	Herpes simplex virus 1
12	1	女	肺炎	40℃，肺炎，	鼻汁	5.25	Human metapneumovirus
13	1	女	感染性胃腸炎	-	ふん便	5.25	Adenovirus 41
14	1ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，上気道炎，	ふん便	5.25	Enterovirus 71
15	1	女	感染性胃腸炎	37℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	5.26	Adenovirus 2
16	11ヶ月	女	咽頭結膜熱	39℃，	ぬぐい液	5.30	Adenovirus 1
17	2	男	-	40℃，	ふん便	6.1	Rotavirus group A G3
18	1	男	手足口病	発疹，	ぬぐい液	6.1	Enterovirus 71
19	5	男	不明発疹症	39℃，	ぬぐい液	6.1	Herpes simplex virus 1
20	4	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	上気道炎，	ぬぐい液	6.2	Streptococcus pyogenes T12
21	4	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	6.4	Enterovirus 71
22	6	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	6.5	Rotavirus group A G9
23	4	男	手足口病	36℃，発疹，	ぬぐい液	6.5	Human herpes virus 7
24	15	男	流行性筋痛症の疑い	筋肉痛，	ぬぐい液	6.5	Rhinovirus
25	9	男	伝染性紅斑（疑）	40℃，	ぬぐい液	6.6	Human herpes virus 7
26	1	女	肺炎	40℃，咳嗽，	ぬぐい液	6.6	Parainfluenza virus 3
27	7ヶ月	男	流行性角結膜炎	39℃，	ぬぐい液	6.6	Rhinovirus
28	2	女	咽頭結膜熱	40℃，	ぬぐい液	6.7	Adenovirus 1
29	5	女	手足口病	発疹，口内炎，	ぬぐい液	6.7	Enterovirus 71
30	1	男	手足口病	水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	6.7	Rhinovirus
31	14	女	-	39℃，	ぬぐい液	6.8	Herpes simplex virus 1
32	1	男	-	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.8	Sapovirus genogroup unknown
33	2	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.8	Sapovirus genogroup unknown
34	9ヶ月	男	不明熱	39℃，下痢，	ぬぐい液	6.8	Cytomegalovirus Herpes simplex virus 1

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
35	7	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃, 上気道炎,	ぬぐい液	6.11	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
36	1	女	不明発疹症	40℃, 咳嗽, 発疹,	ぬぐい液	6.11	Coxsackievirus A9
37	1	男	-	40℃, 咳嗽,	ふん便	6.12	Adenovirus 2 Enterovirus 71
38	2	女	-	39℃, 咳嗽, 発疹,	ふん便	6.12	Human herpes virus 6
39	1	女	手足口病	39℃, 下気道炎,	鼻汁	6.14	Rhinovirus
40	1	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	6.15	Adenovirus 41 Astrovirus NT
41	4	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	6.15	Coxsackievirus A9
42	5	男	-	嘔吐, 嘔気,	ふん便	6.18	Rotavirus group A G1
43	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃, 咳嗽, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	6.18	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4
44	3	女	手足口病	39℃, 発疹,	ぬぐい液	6.18	Human herpes virus 7
45	6ヶ月	男	突発性発しん	39℃, 咳嗽, 発疹,	ぬぐい液	6.18	Enterovirus 71
46	5	男	不明発疹症	下痢, 発疹,	ぬぐい液	6.18	Cytomegalovirus
47	1	男	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	6.18	Human herpes virus 6
48	1	男	呼吸器感染	38℃, 下痢, 咳嗽, 上気道炎,	鼻腔	6.19	Parainfluenza virus 3
49	2	女	-	38℃, 咳嗽,	鼻腔	6.21	Parainfluenza virus 3
50	1	女	気管支炎	40℃, 咳嗽, 気管支炎,	ぬぐい液	6.21	Parainfluenza virus 3
51	8	男	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	6.21	Norovirus GII NT
52	2	男	手足口病	発疹,	ぬぐい液	6.21	Rhinovirus
53	11ヶ月	女	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	6.22	Norovirus GII NT
54	1	女	急性発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	6.23	Rhinovirus
55	1	女	気管支炎	40℃, 咳嗽, 気管支炎,	ぬぐい液	6.24	Parainfluenza virus 3

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年						2018年 総計
		1	2	3	4	5	6	
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1			1	2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1		1	2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12						1	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					2		2
	計			2	1	2	3	8
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	1		38
	Influenza virus A H1pdm09	28	3		1			32
	Influenza virus B /Victoria	3	1		2			6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3			35
	計	69	23	11	7	1		111
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1					2	3
	Adenovirus 2	1	1		2	1		5
	Cytomegalovirus					1		1
	Rhinovirus			1				1
	計	2	1	1	2	2	2	10
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1		1		2
	Adenovirus 40/41				1			1
	Adenovirus 41				1	2	1	4
	Astrovirus NT			1			1	2
	Enterovirus 71					1		1
	Norovirus GI NT				1			1
	Norovirus GII NT	5	1	1	3	2	2	14
	Rotavirus group AG9				1		1	2
	Sapovirus genogroup unknown	2			2	4	1	9
	<i>Salmonella</i> Enteritidis					1		1
計	7	1	3	9	11	6	37	
ヘルパンギーナ	Cytomegalovirus					1		1
	計					1		1
手足口病	Adenovirus 1				1			1
	Enterovirus 71	2	1		2	1	3	9
	Echovirus 7				1			1
	Epstein-Barr virus	1						1
	Human herpes virus 6					1		1
	Human herpes virus 7						2	2
	Herpes simplex virus 1				1	2		3
	Rhinovirus						3	3
計	3	1		5	4	8	21	
流行性角結膜炎	Adenovirus 2							
	Rhinovirus						1	1
	計						1	1
伝染性紅斑	Cytomegalovirus					1		1
	Human metapneumovirus			1				1
	計			1		1		2
流行性耳下腺炎	Mumps virus							
	計							
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1						1
	計	1						1
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>							
	計							
RS ウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A	1						1
	Respiratory syncytial virus B					1		1
	Rhinovirus					1		1
	計	1				2		3
水痘	Varicella-zoster virus							
	計							
突発性発疹	Cytomegalovirus					2		2
	Enterovirus 71						1	1
	Human herpes virus 6	1			1			2
	計	1			1	2	1	5
その他	Adenovirus 1					1		1
	Adenovirus 2	1			1	5	1	9
	Adenovirus 5			1		1		2
	Adenovirus 8				1			1
	Adenovirus 41			1	1			2
	Astrovirus NT					1		1
	Coxsackievirus A9						2	2
	Coxsackievirus B4		1	1				2
	Cytomegalo virus	1		1			2	4
	Enterovirus 71						1	1
	Epstein-Barr virus	1	1					2
	Herpes simplex virus 1	1	1	1	2		3	8
	Human herpes virus 6	2	1	1	2	3	2	11
	Human herpes virus 7	1			3	2	1	7
	Human metapneumovirus	3	1	4	2	2		12
	Influenza virus A H1pdm09	1						1
	Influenza virus B Yamagata		2					2
	Norovirus GII NT	1				1		2
	Parainfluenza virus 2	1						1
	Parainfluenza virus 3						5	7
	Rhinovirus				1	5	2	8
	Rotavirus group AG1						1	1
	Rotavirus group AG3						1	1
Sapovirus genogroup unknown						1	1	
計	13	7	11	14	22	22	89	
総計	97	33	29	39	48	43	289	

高知県感染症情報月報 2018年7月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								2	2
小児科	咽頭結膜熱		1	20	8	7	41	77	57	44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	9	76	2	13	10	112	193	151
	感染性胃腸炎	27	79	144	5	3	75	333	471	261
	水痘	1		13	2	1		17	29	46
	手足口病	48	28	85	14	15	13	203	105	1,477
	伝染性紅斑	1	3	15	3	6	1	29	14	15
	突発性発疹	4	8	22	3	4	12	53	57	55
	ヘルパンギーナ	1	1	7	8		5	22	14	212
	流行性耳下腺炎		1	6	1		3	11	7	10
	RSウイルス感染症		2	2			3	7	6	25
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎	3		11				14	4	1
STD	性器クラミジア感染症			1				1		3
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									3
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎								1	
	無菌性髄膜炎									3
	マイコプラズマ肺炎		1	4				5	6	3
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1				1	4	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1	14			2	17	26	25
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								1	
薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		87	134	421	46	49	165	902	997	2,341
前月		79	370	604	96	84	156			
前年同月		58	490	1,308	192	162	297			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年7月

全国情報（7月2日～7月29日）

第27週（7月2日～）から第30週（～7月29日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における7月の上位6疾患の合計は48.67で6月の51.43と比べて横ばいであった。

1位は感染性胃腸炎で17.58（6月1位25.14）と減少した。2位はヘルパンギーナで9.47（同6位2.41）と増加した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.67（同2位11.49）と減少した。4位が手足口病で7.45（同3位5.18）と増加した。5位は流行性角結膜炎で3.61（同4位3.91）と横ばい、6位に早くもRSウイルス感染症が登場し2.89（同9位1.39）と増加した。

沖縄県、愛知県などで輸入例を発端に麻疹が流行していたが、新たな報告は減少し、流行拡大は失速した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	感染性胃腸炎		5.00	4.71	3.84	4.03	17.58
2	ヘルパンギーナ		1.47	2.42	2.49	3.09	9.47
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.31	2.22	1.57	1.57	7.67
4	手足口病		1.69	2.09	1.87	1.80	7.45
5	流行性角結膜炎		0.93	0.92	0.81	0.95	3.61
6	RSウイルス感染症		0.46	0.70	0.76	0.97	2.89

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の7月の上位6疾患の合計は30.59と6月の30.75と比べて横ばいであり、全国よりも少なかった（表2）。夏の感染症である手足口病と咽頭結膜熱（プール熱）が上位に名を連ねた。麻疹は、四国4県では発生していない。

1位は感染性胃腸炎で11.10（6月1位15.70）と減少した。2位は手足口病で6.76（同3位3.50）、3位は流行性角結膜炎で4.66（同6位1.33）といずれも増加した。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で3.74（同2位6.43）と減少した。5位は咽頭結膜熱で2.56（同4位1.90）と増加した。6位は突発性発疹で1.77（同5位1.89）とわずかに減少した。上位6疾患のうち全国よりも多かったのは、流行性角結膜炎だけで、他は全国より少ないか同等であった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	感染性胃腸炎		3.03	2.93	2.57	2.57	11.10
2	手足口病		1.53	2.03	1.93	1.27	6.76
3	流行性角結膜炎		0.33	1.00	1.00	2.33	4.66
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.97	1.30	0.87	0.60	3.74
5	咽頭結膜熱		0.30	0.70	0.63	0.93	2.56
6	突発性発疹		0.37	0.37	0.50	0.53	1.77

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名（6月 2名）。流行は終息した。沖縄県では毎年夏の流行が報告されるが、高知県では同様の現象はまだ確認されない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 77名（6月 57名）。この時期としては例年よりもやや多めの数である。安芸をのぞく県下全域から報告があり、とくに幡多、須崎、中央西、高知市の順に多かった。咽頭結膜熱からAdenovirus 2型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 112名（6月 193名）。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、とくに高知市、須崎で多かった。細菌は*Streptococcus pyogenes* TB3264 が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 333名（6月 471名）。平年並の報告数である。県下全域から報告があり、とくに幡多、安芸、高知市、中央東からの報告が多い。病原体は、Norovirus G II NT, Sapovirus genogroup unknown, Echovirus 7型, human metapneumovirus, *Salmonella* Enteritidisが各1件検出された。さらに、「その他」の診断の患者から、Norovirus G II NTが1件検出された。

5) 水痘

報告数 17名（6月 29名）。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。高知市、中央西、安芸＝須崎から多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 203名（6月 105名）。初夏に流行が始まる感染症で、2017年は5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、8月以降は徐々に減少したが、11月に再増加したが12月以降は減少し、2018年に入っても増減が波打っていた。5月以降は倍増し再び流

行期に突入したが、昨年7月の1,477名に比べると流行規模は小さく平年並みである。県下全域から報告があり安芸、高知市、須崎、中央西、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。ウイルスはEnterovirus 71が昨年10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件、2月1件、4月に2件、5月に2件（うち感染性胃腸炎と診断された患者から1件）、6月は5件（うち突発性発疹、「その他」と診断された患者から各1件ずつ）、7月は6件（うち「その他」と診断された患者から1件）検出された。今季の手足口病の病原ウイルスはEnterovirus 71であり、脳炎合併に気がつきたい。今季は手足口病の発疹が非定型的な例が多いせいもあってか、手足口病と診断された患者からRhinovirusが3件、Adenovirus 1型、HSV1型が各1件検出されている。

7) 伝染性紅斑

報告数 29名（6月 14名）。平年並の推移である。県下全域から報告があり、とくに、須崎、高知市、中央西から多く報告された。当該診断の患者からCoxsackievirus A9が1件検出されたが、6歳の不明発疹症患者からHuman parvovirus B19が1件検出されている。

8) 突発性発疹

報告数 53名（6月 57名）。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 22名（6月 14名）。例年6-7月から流行がみられるが、6月は増加がゆるやかである。須崎をのぞく県下全域から報告された。ウイルスはCoxsackievirus A9が1件検出された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 11名（6月 7名）。幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。昨年夏以降は、過去10年で最も少ない数字で推移している。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 7名（6月 6名）。2017年の8-9

月は季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減、1月以降は徐々に減少して推移していた。幡多、中央東、高知市から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。全国のデータでは6位に登場し増加しており、昨年に続き早い流行にならないか注意が必要である。

12) 流行性角結膜炎

報告数 14名（6月 4名）。ここ3年間は一桁で推移していたが7月は増加した。高知市、安芸から報告された。Astrovirusが1件検出された。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（6月 1名）。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（6月 0名）。前年から少ない報告数で推移している。7月は報告はないが、無菌性髄膜炎と診断された患者からParechovirus 3, HSV 1型, HHV6が各1件ずつ検出された。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 5名（6月 6名）。中央東と高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 17名（6月 26名）。増加したが例年並みの変動の範囲である。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（6月 1名）2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

7月はウイルス79件，細菌3件の搬入があり，そのうちウイルス52件，細菌2件の病原体を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adeno virus 1 1件，Adeno virus 2 1件，Astrovirus NT 1件，Coxsackie virus A9 12件，Coxsackievirus B2 1件，Cytomagalovirus 3件，Echovirus 7 1件，Enterovirus 71 6件，Epstein-Barr virus 1件，Herpes simplex virus 1 4件，Human herpes virus 6 2件，Human herpes virus 7 4件，Human metapneumovirus 1件，Human parvovirus B19 1件，Norovirus GII NT 2件，Parainfluenza virus 3 2件，Parechovirus 3 1件，Rhinovirus 7件，Sapovirus genogroup unknown 1件，また，細菌の内訳は，*Salmonella* Enteritidis 1件，*Streptococcus pyogenes* TB3264 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	0ヶ月	女	-	39℃，	ぬぐい液	6.26	Enterovirus 71
2	2	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	6.26	Sapovirus genogroup unknown
3	2	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.26	Rhinovirus
4	4ヶ月	男	流行性角結膜炎	40℃，結膜炎，	ふん便	6.27	Astrovirus NT
5	13	男	無菌性髄膜炎，感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	6.28	Herpes simplex virus 1 Human herpes virus 7
6	4	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	6.28	Coxsackievirus A9
7	8	女	気管支炎	38℃，咳漱，気管支炎，	ぬぐい液	6.29	Rhinovirus
8	1	男	咽頭結膜熱	41℃，上気道炎，	ぬぐい液	6.29	Adenovirus 2
9	2	男	手足口病	発疹，	ぬぐい液	6.29	Enterovirus 71
10	1	男	呼吸器感染症	39℃，咳漱，気管支炎，	鼻咽腔ぬぐい液	6.30	Parainfluenza virus 3
11	2	男	手足口病	発疹，	ぬぐい液	6.30	Cytomegalovirus Herpes simplex virus 1 Rhinovirus
12	6	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	6.30	human parvovirus B19 Herpes simplex virus 1
13	8ヶ月	男	手足口病	37℃，水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	7.2	Adenovirus 1 Enterovirus 71
14	3	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	7.2	Rhinovirus
15	2	男	伝染性紅斑	38℃，発疹，	ぬぐい液	7.2	Coxsackievirus A9
16	1	男	不明発疹症	37℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	7.2	Herpes simplex virus 1 Human herpes virus 6 Human herpes virus 7 Rhinovirus
17	1	男	ヘルパンギーナ	発疹，	ぬぐい液	7.3	Coxsackievirus A9
18	2	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7.3	Coxsackievirus A9
19	1	男	感染性胃腸炎	38℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	7.9	Echovirus 7 Norovirus GII NT
20	11ヶ月	男	気管支炎	38℃，気管支炎，肝機能，	ぬぐい液	7.9	Cytomegalovirus
21	1	男	伝染性紅斑？	発疹，	ぬぐい液	7.9	Coxsackievirus A9
22	2	女	不明発疹症	36℃，発疹，	ぬぐい液	7.9	Rhinovirus
23	1	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	7.9	Coxsackievirus A9
24	6	男	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	7.9	Epstein-Barr virus Human herpes virus 7
25	2ヶ月	男	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	7.10	Coxsackievirus A9
26	5	男	-	39℃，	ぬぐい液	7.11	Coxsackievirus A9

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
27	2ヶ月	女	-	嘔吐,	ふん便	7.11	Norovirus GII NT
28	7	女	手足口病	40℃, 発疹,	ぬぐい液	7.11	Enterovirus 71
29	2	女	手足口病	38℃, 嘔吐, 発疹,	ぬぐい液	7.11	Enterovirus 71
30	1	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.11	Coxsackievirus A9
31	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	7.11	Coxsackievirus A9
32	15	女	感染性胃腸炎		ふん便	7.12	<i>Salmonella</i> Enteritidis
33	2	男	手足口病	38℃, 発疹,	ぬぐい液	7.12	Enterovirus 71
34	1ヶ月	女	上気道炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	7.13	Coxsackievirus B2
35	4	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	7.13	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
36	11ヶ月	女	急性発疹症	38℃, 下痢, 発疹,	ぬぐい液	7.13	Coxsackievirus A9
37	4	女	発疹症	発疹,	ぬぐい液	7.13	Human herpes virus 7
38	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎	39℃,	髄液	7.16	Parechovirus 3
				38℃,	うがい液	7.14	
39	1	女	感染性胃腸炎, 気管支肺炎	40℃, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 気管支炎, 肺炎,	鼻腔	7.16	Human metapneumovirus
40	1	女	手足口病	36℃, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	7.17	Rhinovirus
41	1	女	熱性けいれん, 気管支炎	38℃, 咳漱, 気管支炎,	鼻腔	7.17	Parainfluenza virus 3
42	1	女	不明発疹症	39℃, 発疹,	ぬぐい液	7.17	Coxsackievirus A9
43	10ヶ月	男	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	7.19	Human herpes virus 6
44	1	男	-	発疹,	ぬぐい液	7.23	Cytomegalovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年							2018年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1			1		2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1					1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1		1		2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12						1		1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					2		1	3
	計			2	1	2	3	1	9
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	1			38
	Influenza virus A H1pdm09	28	3		1				32
	Influenza virus B /Victoria	3	1		2				6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3				35
	計	69	23	11	7	1			111
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1					2		3
	Adenovirus 2	1	1		2	1		1	6
	Cytomegalovirus					1			1
	Rhinovirus			1					1
	計	2	1	1	2	2	2	1	11
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1		1			2
	Adenovirus 40/41				1				1
	Adenovirus 41				1	2	1		4
	Astrovirus NT			1			1		2
	Echovirus 7							1	1
	Enterovirus 71					1			1
	Human metapneumovirus							1	1
	Norovirus GI NT				1				1
	Norovirus GII NT	5	1	1	3	2	2	1	15
	Rotavirus group AG9				1		1		2
	Sapovirus genogroup unknown	2			2	4	1	1	10
	<i>Salmonella</i> Enteritidis					1		1	2
計	7	1	3	9	11	6	5	42	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A9							1	1
	Cytomegalovirus					1			1
	計					1		1	2
手足口病	Adenovirus 1				1		1		2
	Cytomegalovirus						1	1	2
	Enterovirus 71	2	1		2	1	3	5	14
	Echovirus 7				1				1
	Epstein-Barr virus	1							1
	Human herpes virus 6					1			1
	Human herpes virus 7						2		2
	Herpes simplex virus 1				1	2		1	4
	Rhinovirus						3	3	6
	計	3	1		5	4	8	11	32
流行性角結膜炎	Adenovirus 2							1	1
	Astrovirus NT							1	1
	Rhinovirus						1	1	2
計						1	1	2	
伝染性紅斑	Cytomegalovirus					1			1
	Coxsackievirus A9							1	1
	Human metapneumovirus			1					1
計			1		1			3	
流行性耳下腺炎	Mumps virus								
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1							1
	Echovirus 9								
	Human herpes virus 6							1	1
	Human herpes virus 7							1	1
	Herpes simplex virus 1							1	1
	Parechovirus 3							1	1
	Varicella-zoster virus							3	3
計	1						3	4	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>								
RS ウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A	1							1
	Respiratory syncytial virus B					1			1
	Rhinovirus					1			1
	計	1				2			3
水痘	Varicella-zoster virus								
突発性発疹	Cytomegalovirus					2			2
	Enterovirus 71						1		1
	Human herpes virus 6	1			1				2
計	1			1	2	1		5	
その他	Adenovirus 1			1	1	5	1		9
	Adenovirus 2	1		1	1	1			4
	Adenovirus 5			1					1
	Adenovirus 8				1				1
	Adenovirus 41			1	1				2
	Astrovirus NT					1			1
	Coxsackievirus A9						2	10	12
	Coxsackievirus B2							1	1
	Coxsackievirus B4		1	1					2
	Cytomegalo virus	1		1			2	2	6
	Enterovirus 71						1	1	2
	Epstein-Barr virus	1	1					1	3
	Herpes simplex virus 1	1	1	1	2		3	2	10
	Human herpes virus 6	2	1	1	2	3	2	2	13
	Human herpes virus 7	1			3	2	1	3	10
	Human metapneumovirus	3	1	4	2	2			12
	Human parvovirus B19							1	1
	Influenza virus A H1pdm09	1							1
	Influenza virus B Yamagata		2						2
	Norovirus GII NT	1				1		1	3
	Parainfluenza virus 2	1							1
	Parainfluenza virus 3				1	1	5	2	9
	Rhinovirus				1	5	2	4	12
Rotavirus group AG1						1		1	
Rotavirus group AG3						1		1	
Sapovirus genogroup unknown						1		1	
計	13	7	11	14	22	22	30	119	
総計	97	33	29	39	48	43	54	343	

高知県感染症情報月報 2018年 8 月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ			1					1		17
小児科	咽頭結膜熱			4	35	12	3	39	93	77	49
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		9	74	9	6	19	118	112	149
	感染性胃腸炎		21	73	159	14	8	38	313	333	389
	水痘		5	3	23	3		15	49	17	34
	手足口病		18	38	107	21	33	28	245	203	208
	伝染性紅斑			6	4		13	4	27	29	6
	突発性発疹			6	31	9	5	4	55	53	37
	ヘルパンギーナ	1		21	44	17	3	16	102	22	65
	流行性耳下腺炎				7			2	9	11	9
	RSウイルス感染症		3	13	62			3	45	126	7
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				37			1	38	14	1
STD	性器クラミジア感染症				1				1	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										1
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎			4	10				14	5	2
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				2				2		1
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)				2				2	1	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			2	11			1	14	17	31
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
薬剤耐性緑膿菌感染症											
計			49	180	609	85	74	212	1,209	902	1,270
前月			87	134	421	46	49	165			
前年同月			56	253	617	78	58	208			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2018年 8月

全国情報（7月30日～9月2日）

第31週（7月30日～）から第35週（～9月2日）までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における8月の上位6疾患の合計は4週間換算が40.57と7月の48.67と比べて減少した。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値が12.99（7月1位17.58）と減少した。2位はヘルパンギーナで8.18（同2位9.47）と減少した。3位はRSウイルス感染症で5.99（同6位2.89）と増加した。4位は手足口病で4.99（同4位7.45）と減少、5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.54（同3位7.67）と減少した。6位は流行性角結膜炎で3.87（同5位3.61）と横ばいだった。

成人の風疹が関東で流行している。第29週から第33週までに、合計119例の風疹の報告があり、千葉が27例、東京が18例と関東に多く、年齢は20歳代が25例、30歳代が27例、40歳代が43例、50歳代が20例で成人が主体である。その結果、本年の報告が合計183例（うち172例が検査診断例）になった。厚生労働省は8月14日に通達を出し、「30～50歳代男性の2割程度に抗体価の低い方がいるので、この世代では風疹を意識した診療をこころがけるよう注意喚起し、特に妊娠可能年齢の女性のうち、抗体価が低い女性において任意で予防接種を受けることを推奨する」としている。2012～13年の全国での風疹流行で、2012～14年に45人が先天性風疹症候群を発症したことは記憶に新しい。今回の流行は夏期休暇期間と重なっているため、全国への流行拡大も予想される。同様な事態に至らないように注意喚起と努力が必要である。

沖縄県、愛知県などで輸入例を発端に麻疹が流行していたが、新たな報告は減少し、流行拡大は失速した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	35週	計
1	感染性胃腸炎		3.86	3.05	2.50	3.26	3.57	16.24
2	ヘルパンギーナ		3.12	2.35	1.48	1.57	1.70	10.22
3	RSウイルス感染症		1.33	1.37	1.34	1.34	2.11	7.49
4	手足口病		1.71	1.37	1.00	0.99	1.17	6.24
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.44	1.10	0.83	1.11	1.20	5.68
6	流行性角結膜炎		1.09	0.81	0.83	1.10	1.01	4.84

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の8月の上位6疾患の合計は4週間換算で34.24と7月の30.59と比べて増加したが、全国より

も少なかった（表2）。

夏の感染症である手足口病と咽頭結膜熱（プール熱）が上位に名を連ねた。風疹、麻疹ともに、四国4県では発生していない。

1位は流行性角結膜炎で4週換算値が10.14（7月3位4.66）と増加し、全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で8.34（同1位11.10）と減少し全国よりも少なかった。3位は手足口病で6.54（同2位6.76）と横ばいで全国よりも多かった。4位はRSウイルス感染症で3.35（同12位0.23）と増加したが全国よりも少なかった。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で3.14（同4位3.74）と減少、6位はヘルパンギーナで2.71（同8位0.73）と増加したが、いずれも全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	31週	32週	33週	34週	35週	計
1	流行性角結膜炎		0.67	1.67	4.67	2.00	3.67	12.68
2	感染性胃腸炎		2.30	1.93	2.00	2.33	1.87	10.43
3	手足口病		1.47	1.47	1.57	1.47	2.20	8.18
4	RSウイルス感染症		0.33	0.60	0.73	0.83	1.70	4.19
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.83	0.77	0.80	0.63	0.90	3.93
6	ヘルパンギーナ		0.47	0.33	0.43	0.83	1.33	3.39

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況 抜粋

1) インフルエンザ

報告数 1名（7月 0名）。流行は終息しているが、中央東からB型の5歳児が報告されている。

2) 咽頭結膜熱

報告数 93名（7月 77名）。この時期としては過去10年で最多の報告数であった。安芸をのぞく県下全域から報告があり、とくに幡多、中央西、高知市の順に多かった。ウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 118名（7月 112名）。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、とくに高知市、幡多、中央西＝須崎の順に多かった。細菌は*Streptococcus pyogenes* T1, T4, TB3264が各1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 313名（7月 333名）。平年並の報告数である。県下全域から報告があり、とくに高知市、安芸、中央東からの報告が多い。病原体は、Sapovirus genogroup unknownが3件、Norovirus GII NTが2件検出された。

5) 水痘

報告数 49名（7月 17名）。7月と比べて増加したとはいえ、2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。須崎以外の全域から報告され、幡多、安芸、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 245名（7月 203名）。初夏に流行が始まる感染症で、2017年は5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。7月は同時期として過去10年間で2010年に次ぐ2番目に多い報告数で、8月以降は徐々に減少したが、11月に再増加したが12月以降は減少し、2018年に入っても増減が波打っていた。5月から再び流行期に突入したが、昨年より流行規模は小さく平年並みである。県下全域から報告があり須崎、高知市、安芸、中央西、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスはEnterovirus 71が昨年10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件、2月1件、4月に2件、5月に2件、6月は5件、7月は6件、8月は「その他」と診断された患者から1件検出された。今季は手足口病の発疹が非定型的な例が多いせいもあってか、手足口病と診断された患者からCoxsackievirus A9, A16, Cytomegalovirus が各1件検出されている。

7) 伝染性紅斑

報告数 27名（7月 29名）。平年並の推移である。須崎、中央東、幡多、高知市から表記の順に多く報告された。当該診断の患者からHHV7が1件検出されたが、6歳の不明発疹症患者からHuman parvovirus B19が1件検出されている。

8) 突発性発疹

報告数 55名（7月 53名）。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 102名（7月 22名）。例年6-7月から流行がみられるが本年は遅れて増加してきた。県下全域から報告され、とくに中央西、高知市、幡多、中央東で多かった。ウイルスはCoxsackievirus A2が1件検出された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 9名（7月 11名）。高知市、幡多か

ら5報告された。昨年夏以降は、過去10年で最も少ない数字で推移している。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 126名（7月 7名）。2017年の8-9月は季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間で月間報告数が最多であったが10月は減少に転じ11月以降は半減、1月以降は徐々に減少して推移していた。2018年は昨年同様に夏季からの流行開始になった。幡多、高知市、中央東、須崎=安芸から表記の順に多く報告された。全国のデータでは7月の6位から3位に増加しており、昨年に続き早い流行にならないか注意が必要である。ウイルスは1件検出されている。

12) 流行性角結膜炎

報告数 38名（7月 14名）。過去10年間で最多の報告を記録した。高知市、幡多から報告された。ウイルスは検出されていないが、臨床の場では眼脂からアデノウイルス抗原が検出されることが多く経験される。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（7月 0名）。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（7月 0名）。前年から少ない報告数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 14名（7月 5名）。中央東と高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 14名（7月 17名）。例年並みの変動の範囲である。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（7月 0名）。2018年は報告は1例もない。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成30年8月）

類型	病名	報告年																														総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30											
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	70	1,620										
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	70	1,620										
3	コレラ	1					1					1										3										
	パラチフス	2																				2										
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2		27										
	腸チフス		1						1									1				3										
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	3	196										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	3	231											
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			32										
	Q熱	1	1	2				1														5										
	オウム病			1		1														1		3										
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	85										
	マラリア								2					1								3										
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	3	60									
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	10	159										
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1									6										
	レプトスピラ症											1		4	2	1					1	9										
	E型肝炎												1		1							2										
	デング熱												1				3	2	1			7										
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	34									
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	18	405										
5	アเมอร์バ赤痢			2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	1	42									
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2		56										
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	14	83									
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	31	31									
	ジアルジア症			1	2	1						1			1	1						1	8									
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1							1							1		1	4	4									
	急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1	18	18									
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1				1		1		1	3		1			3	5	5	23									
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	8	73	73									
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	5	18	18									
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	13	64	64									
	水痘（入院例に限る）																		2	1	1	1	5									
	播種性クリプトコックス症																			1	3	4	8									
	髄膜炎菌性髄膜炎										1											1	1									
	破傷風			3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1	30	30									
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	15	172	172									
	百日咳																					154	154									
	麻疹										5											5	5									
風しん										1	1			4	9	1					16	16										
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	222	811											
新型	新型インフルエンザ											34										34										
	計											34										34										
動物	鳥インフルエンザ													1								1										
	計													1								1										
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	313	3,102										

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

8月はウイルス62件，細菌4件の搬入があり，そのうちウイルス20件，細菌3件の病原体を検出した。また，平成30年7月に搬入された検体でウイルス30件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 1件，Coxsackievirus A2 1件，Coxsackievirus A9 15件，Coxsackievirus A16 2件，Cytomegalovirus 3件，Echovirus 7 1件，Enterovirus 71 3件，Epstein-Barr virus 1件，Herpes simplex virus 1 3件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 2件，Human parvovirus B19 1件，Norovirus GII NT 3件，Parainfluenza virus 3 4件，Parechovirus 1 1件，Parechovirus 3 1件，Respiratory syncytial virus 1件，Rhinovirus 3件，Sapovirus genogroup unknown 3件，また，細菌の内訳は*Streptococcus pyogenes* T1 1件，*Streptococcus pyogenes* T4 1件，*Streptococcus pyogenes* TB3264 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	10ヶ月	男	-	41℃，	ふん便	7. 9	Echovirus 7
2	3	女	手足口病	水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	7. 9	Enterovirus 71
3	11ヶ月	女	-	40℃，	ふん便	7.10	Rhinovirus
4	5	男	咽頭結膜熱	41℃，発疹，結膜炎，	鼻咽頭ぬぐい液	7.10	Herpes simplex virus 1
5	1	男	流行性耳下腺炎	40℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	7.10	Parechovirus 1
6	2ヶ月	女	-	嘔吐，	ふん便	7.11	Enterovirus 71
7	1	男	-	41℃，	ぬぐい液	7.12	Herpes simplex virus 1
					髄液		Human herpes virus 6
8	6	男	伝染性紅斑	発疹，	ぬぐい液	7.13	Herpes simplex virus 1
9	1	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7.17	Coxsackievirus A9
10	1	女	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	7.17	Coxsackievirus A9
11	13	男	急性咽頭炎	41℃，上気道炎，	鼻咽頭ぬぐい液	7.18	Coxsackievirus A9
12	0ヶ月	男	-	38℃，	ふん便	7.20	Parechovirus 3
13	9ヶ月	男	感染性胃腸炎	-	ふん便	7.20	Coxsackievirus A9
14	10ヶ月	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	7.20	Coxsackievirus A9
15	3ヶ月	女	-	38℃，咳漱，	ぬぐい液	7.22	Parainfluenza virus 3
16	1ヶ月	女	気管支炎	39℃，	ふん便	7.23	Coxsackievirus A9
17	10ヶ月	女	感染性胃腸炎	38℃，下痢，発疹，	ふん便	7.24	Adenovirus 2
							Norovirus GII NT
							Rhinovirus
18	1	女	不明発疹症	咳漱，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	7.24	Coxsackievirus A9
19	2	女	不明発疹症（EB？）	38℃，発疹，	ぬぐい液	7.24	Coxsackievirus A9
20	1	女	-	40℃，肺炎，	ぬぐい液	7.25	Coxsackievirus A9
21	1	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7.25	Coxsackievirus A9
22	11ヶ月	女	急性気管支炎	39℃，咳漱，上気道炎，	鼻腔	7.26	Parainfluenza virus 3
23	1	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	7.27	Rhinovirus
24	6	女	不明熱 頸部リンパ節腫大	39℃，	ぬぐい液	7.27	Human herpes virus 7
25	1	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	7.27	Coxsackievirus A9
26	2	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	7.30	Coxsackievirus A16
27	1	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	7.30	Coxsackievirus A9
28	1	女	突発性発しん疑い	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	7.30	Cytomegalovirus
29	7ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃，咳漱，上気道炎，気管支炎，	ぬぐい液	8. 1	Parainfluenza virus 3
30	1	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	8. 1	Cytomegalovirus
31	1	男	不明発疹症	40℃，発疹，	ぬぐい液	8. 1	Coxsackievirus A9
32	1ヶ月	男	-	39℃，	ふん便	8. 2	Enterovirus 71

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
33	2	男	急性咽頭炎	咳漱, 上気道炎,	ぬぐい液	8. 2	Cytomegalovirus
34	7	男	伝染性紅斑	-	ぬぐい液	8. 2	Human herpes virus 7
35	1	女	ヘルパンギーナ	39℃, 上気道炎,	ぬぐい液	8. 3	Coxsackievirus A2
36	9ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8. 4	Norovirus GII NT
37	11	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃,	ぬぐい液	8. 5	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
38	9ヶ月	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	8. 7	Coxsackievirus A9
39	9	男	感染性胃腸炎	38℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	8. 9	Norovirus GII NT
40	1	女	手足口病	38℃, 発疹,	ぬぐい液	8. 9	Coxsackievirus A9
41	5	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	8.13	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4
42	3ヶ月	女	RSウイルス感染症	38℃, 気管支炎,	鼻汁	8.13	Respiratory syncytial virus
43	1	女	手足口病	37℃, 発疹,	ぬぐい液	8.13	Coxsackievirus A16
44	6ヶ月	男	インフルエンザ様疾患	39℃, 下気道炎,	ぬぐい液	8.14	Parainfluenza virus 3
45	7	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	8.15	Epstein-Barr virus
46	6	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37℃, 上気道炎,	ぬぐい液	8.16	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
47	6	女	不明発疹症	38℃, 発疹,	ぬぐい液	8.18	human parvovirus B19
48	3	女	感染性胃腸炎	嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.21	Sapovirus genogroup unknown
49	6ヶ月	女	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 咳漱, 上気道炎,	ふん便	8.22	Sapovirus genogroup unknown
50	1	男	感染性胃腸炎	41℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	8.24	Sapovirus genogroup unknown

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年								2018年 総計
		1	2	3	4	5	6	7	8	
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1			1		1	3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1					1	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1		1		1	3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12						1		1	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					2		1	1	4
	計			2	1	2	3	1	3	12
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	1				38
	Influenza virus A H1pdm09	28	3							32
	Influenza virus B /Victoria	3	1		2					6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3					35
	計	69	23	11	7	1				111
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1					2			3
	Adenovirus 2	1	1		2	1		1		6
	Cytomegalovirus								1	1
	Herpes simplex virus 1							1		1
	Rhinovirus			1						1
	計	2	1	1	2	2	2	2		12
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1		1		1		3
	Adenovirus 40/41				1					1
	Adenovirus 41				1	2		1		4
	Astrovirus NT			1			1			2
	Coxsackievirus A9							1		1
	Echovirus 7							1		1
	Enterovirus 71					1				1
	Human metapneumovirus							1		1
	Norovirus GI NT				1					1
	Norovirus GII NT				3	2	2	2	2	18
	Rotavirus group AG9	5	1	1	1		1			2
	Rhinovirus								1	1
	Sapovirus genogroup unknown	2			2	4	1	1	3	13
	<i>Salmonella</i> Enteritidis					1		1		2
	計	7	1	3	9	11	6	9	5	51
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A2							1	1	1
	Coxsackievirus A9								1	1
	Cytomegalovirus					1				1
	Parainfluenza virus 3								1	1
	計					1		1	2	4
手足口病	Adenovirus 1				1			1		2
	Coxsackievirus A9							1	1	2
	Coxsackievirus A16							1	1	2
	Cytomegalovirus							1	1	2
	Enterovirus 71	2	1		2	1	3	6		15
	Echovirus 7				1					1
	Epstein-Barr virus	1								1
	Human herpes virus 6					1				1
	Human herpes virus 7						2			2
	Herpes simplex virus 1				1	2		1		4
	Rhinovirus						3	4		7
	計	3	1		5	4	8	15	3	39
流行性角結膜炎	Adenovirus 2							1		1
	Astrovirus NT							1		1
	Rhinovirus							1	1	2
	計							1	1	2
伝染性紅斑	Cytomegalovirus					1				1
	Coxsackievirus A9							1		1
	Herpes simplex virus 1							1		1
	Human herpes virus 7								1	1
	Human metapneumovirus			1						1
	計			1		1		2	1	5
流行性耳下腺炎	Mumps virus							1		1
	Parvovirus 1							1		1
	計							1		1
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1								1
	Echovirus 9									
	Human herpes virus 6									
	Human herpes virus 7								1	1
	Herpes simplex virus 1								1	1
	Parvovirus 3								1	1
Varicella-zoster virus										
	計	1						3		4
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>									
	計									
RS ウイルス感染症	Respiratory syncytial virus							1		1
	Respiratory syncytial virus A	1								1
	Respiratory syncytial virus B					1				1
	Rhinovirus					1				1
	計	1				2			1	4
水痘	Varicella-zoster virus									
	計									
突発性発疹	Cytomegalovirus					2				2
	Enterovirus 71						1			1
	Human herpes virus 6	1			1					2
	計	1			1	2	1			5
その他	Adenovirus 1					1				1
	Adenovirus 2	1		1	1	5	1			9
	Adenovirus 5			1		1				2
	Adenovirus 8				1					1
	Adenovirus 41			1	1					2
	Astrovirus NT					1				1
	Coxsackievirus A9						2	20	2	24
	Coxsackievirus B2							1		1
	Coxsackievirus B4			1						2
	Cytomegalo virus	1	1	1			2	2	2	8
	Echovirus 7							1		1
	Enterovirus 71							2	1	4
	Epstein-Barr virus	1	1					1	1	4
	Herpes simplex virus 1	1	1	1	2		3	3		11
	Human herpes virus 6	2	1	1	2	3	2	3		14
	Human herpes virus 7	1			3	2	1	4		11
	Human metapneumovirus	3	1	4	2	2				12
	Human parvovirus B19							1	1	2
	Influenza virus A H1pdm09	1								1
	Influenza virus B Yamagata		2							2
	Norovirus GII NT	1				1		1		3
	Parainfluenza virus 2	1								1
	Parainfluenza virus 3				1	1	5	4		11
	Parvovirus 3							1	1	2
	Rhinovirus				1	5	2	5		13
	Rotavirus group AG1						1			1
	Rotavirus group AG3						1			1
	Sapovirus genogroup unknown						1			1
		計	13	7	11	14	22	22	49	8
総計		97	33	29	39	48	43	84	23	396

高知県感染症情報月報 2018年9月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ				1	27	1		29	1	1
小児科	咽頭結膜熱			6	27	13	1	23	70	93	48
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			7	60	5	5	9	86	118	103
	感染性胃腸炎		11	49	92	1	7	14	174	313	376
	水痘			3	4	1	2		10	49	25
	手足口病		10	32	58	10	49	6	165	245	89
	伝染性紅斑			1	6	2	15		24	27	1
	突発性発疹			4	21	2	1	2	30	55	41
	ヘルパンギーナ		11	49	90	22	13	41	226	102	36
	流行性耳下腺炎					1		2	3	9	8
	RSウイルス感染症		2	34	249	20	35	98	438	126	660
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				28				28	38	
STD	性器クラミジア感染症				2				2	1	3
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎				11				11	14	3
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				1				1	2	2
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)				1				1	2	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	1	11			1	15	14	35
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
薬剤耐性緑膿菌感染症											
計			36	186	662	104	129	196	1,313	1,209	1,431
前月			49	180	609	85	74	212			
前年同月			51	182	709	75	82	332			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2018年9月

全国情報（9月3日～9月30日）

第36週（9月3日～）から第39週（～9月30日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における9月の上位6疾患の合計は40.45で8月の4週間換算値40.57と比べて横ばいであった。

1位は感染性胃腸炎で13.51（8月1位4週間換算値12.99）と横ばいであった。2位はRSウイルス感染症で8.66（同3位5.99）と増加した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で5.12（同5位4.54）とわずかに増加した。4位はヘルパンギーナで4.99（同2位8.18）、5位は手足口病で4.14（同4位4.99）といずれも減少した。6位は流行性角結膜炎で4.03（同6位3.87）と横ばいだった。

成人の風疹が、関東を中心に流行拡大している。第34週から第37週（9月16日）までに、合計413例の風疹の報告があり、関東に多く、年齢は10歳代が11例、20歳代が78例、30歳代が102例、40歳代が120例、50歳代が76例で成人が主体である。その結果、本年の報告が累積で640例（うち613例が検査診断例）になった。累積数を都道府県別でみると、多い順に、東京都が196例、千葉県161例、神奈川県68例、埼玉県42例、愛知県36例、茨城県19例である。四国では、第37週までに5例（第33週と34週に香川県から1例ずつ、第36週に徳島県から1例、第37週に愛媛県から2例）の報告である。

厚生労働省は8月14日に通達を出し、「30～50歳台男性の2割程度に抗体価の低い方がいるので、この世代では風疹を意識した診療をこころがけるよう注意喚起し、特に妊娠可能年齢の女性のうち、抗体価が低い女性において任意で予防接種を受けることを推奨する」としている。2012～13年の全国での風疹流行で、45人が先天性風疹症候群を発症したことは記憶に新しい。今回の流行でも同様な事態に至らないように注意喚起と努力が必要である。

沖縄県、愛知県などで輸入例を発端に麻疹が流行していたが、新たな報告は減少した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	感染性胃腸炎		3.72	3.65	3.15	2.99	13.51
2	RSウイルス感染症		2.39	2.46	2.11	1.70	8.66
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.32	1.38	1.18	1.24	5.12
4	ヘルパンギーナ		1.66	1.45	1.04	0.84	4.99
5	手足口病		1.13	1.14	1.01	0.86	4.14
6	流行性角結膜炎		0.94	1.06	1.02	1.01	4.03

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の9月の上位6疾患の合計は45.62と8月の4週間換算値34.24と比べて増加し、全国よりも多かった。（表2）。RSウイルス感染症とヘルパンギーナの増加がその原因である。風疹、麻疹ともに、高知県では発生していない。

1位はRSウイルス感染症で14.60（8月4位4週間換算値3.35）と増加し、2位は流行性角結膜炎で9.33（同1位10.14）と横ばい、3位はヘルパンギーナで7.54（同6位2.71）と増加し、いずれも全国よりも多かった。4位は感染性胃腸炎で5.80（同2位8.34）と減少し、全国よりも少なかった。5位は手足口病で5.49（同3位6.54）と減少したが全国よりも多かった。6位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.86（同5位3.14）と横ばいで全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	36週	37週	38週	39週	計
1	RSウイルス感染症		3.10	4.00	4.27	3.23	14.60
2	流行性角結膜炎		1.67	4.33	2.00	1.33	9.33
3	ヘルパンギーナ		1.67	2.53	1.47	1.87	7.54
4	感染性胃腸炎		1.50	1.27	1.50	1.53	5.80
5	手足口病		2.03	1.23	1.50	0.73	5.49
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.90	0.73	0.53	0.70	2.86

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 29名（8月 1名）。中央西で27名、高知市、須崎で各1名報告された。1～4歳が9名、5～9歳が12名、成人が8名報告された。定点当たり報告数は36週から39週まで、0.17、0.21、0.17、0.06と増加の一途をたどる経過ではなく、また、季節的にも早いので、本格的な流行期に突入する可能性は高くないと推測される。全例がA型と報告されていて、ウイルスとして「その他」の臨床診断の者から、A/H1pdm09が1件検出された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 70名（8月 93名）。減少傾向とはいえ多めの数字で推移している。安芸をのぞく県下全域から報告があり、とくに幡多、中央西、高知市の順に多かった。ウイルスは咽頭結膜熱からAdenovirus 8型が1件、感染性胃腸炎から2型が1件検出されている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 86名（8月 118名）。平年並みの報告数である。安芸をのぞく県下全域から報告があり、

高知市，須崎，幡多，中央西，中央東の順に多かった。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 174名（8月 313名）。例年と比べ少なめの報告数である。県下全域から報告があり，とくに高知市，中央東，安芸からの報告が多い。病原体は，Adenovirus 2型が1件検出された。

5) 水痘

報告数 10名（8月 49名）。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。須崎，中央東，高知市，中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 165名（8月 245名）。初夏に流行が始まる感染症で，2017年は5月から流行が開始し，過去10年で最大の流行となった。8月以降は減少増加をくりかえし，2018年に入っても完全に終息しないまま，5月から再び流行期に突入したが，昨年より流行規模は小さく平年並みであった。県下全域から報告があり須崎，高知市，安芸，中央東でとくに多く表記の順であった。ウイルスはEnterovirus 71が昨年10月4件，11月2件，12月1件，本年1月2件，2月1件，4月に2件，5月に2件，6月は5件，7月は8件，8月は3件，9月も1件検出された。Coxsackievirus A16の検出が7月1件，8月5件，9月4件と遅れて目立ってきている。

7) 伝染性紅斑

報告数 24名（8月 27名）。平年並の推移である。須崎，中央西，高知市，中央東から表記の順に多く報告された。当該診断の患者からRhinovirusが1件検出されたが，不明発疹症の幼児からHuman parvovirus B19が2件検出されている。

8) 突発性発疹

報告数 30名（8月 55名）。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 226名（8月 102名）。例年6-7月から流行がみられるが，本年は遅れて8月から増加してきた。そのため，9月としては過去10年間で最大の報告数だった。県下全域から報告され，とくに幡多，高知市，中央西，中央東，須崎，安芸の順に多かった。ウイルスはCoxsackievirus

A4，A9が各1件検出された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 3名（8月 9名）。幡多，中央西から報告された。昨年夏以降は，過去10年で最も少ない数字で推移している。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 438名（8月 126名）。2017年の8-9月は季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間ですべての月間報告数のうちで最多であったが，10月は減少に転じ11月以降は半減，以後は徐々に減少していた。2018年も昨年同様に夏季からの流行開始で，9月としては昨年に次ぐ大きな流行になった。県下全域から報告があり，とくに，高知市，幡多，須崎から多く報告された。RSウイルスは計5件検出された。

12) 流行性角結膜炎

報告数 28名（8月 38名）。過去10年間で最多の報告を記録した。高知市から報告された。ウイルスは検出されていないが，臨床の場では眼脂からアデノウイルス抗原が検出されることが多く経験される。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 0名）。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（8月 0名）。前年から少ない報告数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 11名（8月 14名）。高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 15名（8月 14名）。例年並みの変動の範囲である。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（8月 0名）2018年は報告は1例もない。2014年は計4例，2015年，2016年は各1例，2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成30年9月）

類型	病名	報告年																														総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30											
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	74	1,624										
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	74	1,624										
3	コレラ	1					1					1										3										
	パラチフス	2																				2										
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2		27										
	腸チフス		1						1									1				3										
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	197										
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	232											
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			32										
	Q熱	1	1	2				1														5										
	オウム病			1		1														1		3										
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	85										
	マラリア								2					1								3										
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	6	63										
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	11	160										
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1									6										
	レプトスピラ症											1		4	2	1				1		9										
	E型肝炎												1		1							2										
	デング熱												1				3	2	1			7										
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5										
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	22	409										
5	アเมอร์バ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	44										
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2		56										
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	16	85										
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3			2			2	1	31	31										
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						1	8										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1		1	4	4										
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1	18	18										
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	24										
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	8	73										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	6	19										
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	13	64										
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	1	5										
	播種性クリプトコックス症																		1	3	4	8										
	髄膜炎菌性髄膜炎									1											1	1										
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1	30	30										
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	17	174										
	百日咳																				160	160										
麻疹									5											5	5											
風しん									1	1				4	9	1				16	16											
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	236	825											
新型	新型インフルエンザ											34									34											
	計											34									34											
動物	鳥インフルエンザ													1							1											
	計													1							1											
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	336	3,125										

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

9月はウイルス62件，細菌4件の搬入があり，そのうちウイルス36件の病原体を検出し，また，平成30年8月に搬入された検体でウイルス20件，細菌1件，7月に搬入された検体でウイルス2件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 2件，Adenovirus 8 2件，Coxsackievirus A4 4件，Coxsackievirus A9 1件，Coxsackievirus A16 8件，Echovirus 25 1件，Enterovirus 71 3件，Herpes simplex virus 1 1件，Human herpes virus 6 3件，Human herpes virus 7 3件，human parvovirus B19 3件，Influenza virus A H1pdm09 1件，Parainfluenza virus 3 1件，Parechovirus 1 1件，Parechovirus 3 1件，Respiratory syncytial virus 6件，Rhinovirus 16件，また，細菌の内訳はSalmonella Enteritidis 1件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	2	男	伝染性紅斑	38℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	7.17	Rhinovirus
2	2	男	気管支炎	40℃，咳嗽，上気道炎，気管支炎，	鼻汁	7.24	Adenovirus 1 Rhinovirus
3	4	女	手足口病	-	ぬぐい液	7.25	Rhinovirus
4	1	女	上気道炎	39℃，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	7.31	Herpes simplex virus 1
5	1	男	手足口病	38℃，発疹，	ぬぐい液	8.1	Coxsackievirus A16
6	6ヶ月	男	-	嘔吐，嘔気，	ふん便	8.2	Parechovirus 1
7	9ヶ月	男	感染性胃腸炎	38℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	8.4	Adenovirus 2
8	4	女	手足口病	41℃，咳嗽，上気道炎，	鼻腔	8.9	Coxsackievirus A16
9	1	男	ヘルパンギーナ	38℃，	髄液	8.12	Human herpes virus 6
10	4	男	咽頭結膜熱	41℃，下痢，	ぬぐい液	8.14	Adenovirus 8
11	3	女	咽頭結膜熱，無菌性髄膜炎	40℃，	ぬぐい液	8.14	Human herpes virus 6
12	9	女	-	38℃，嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	8.15	Human herpes virus 7
13	6ヶ月	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	8.22	Enterovirus 71
14	9	女	感染性胃腸炎	-	ふん便	8.24	Salmonella Enteritidis
15	7	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	8.24	Human herpes virus 7
16	1ヶ月	女	下気道炎	38℃，下気道炎，	鼻汁	8.27	Respiratory syncytial virus
17	2	女	ヘルパンギーナ	40℃，上気道炎，気管支炎，口内炎，	ぬぐい液	8.27	Human herpes virus 6
18	1	女	手足口病	発疹，口内炎，	ぬぐい液	8.27	Coxsackievirus A16
19	3	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	8.27	Coxsackievirus A16
20	10	男	手足口病	39℃，発疹，	ぬぐい液	8.27	Enterovirus 71
21	2	男	手足口病	36℃，発疹，	ぬぐい液	8.27	Human herpes virus 7
22	1	男	喘息	38℃，咳嗽，気管支炎，	鼻咽腔	8.27	Rhinovirus
23	3	女	咽頭結膜熱，呼吸器感染症	39℃，咳嗽，発疹，結膜炎，	鼻咽腔ぬぐい液	8.28	Rhinovirus
24	11ヶ月	男	手足口病	38℃，発疹，口内炎，	うがい液	8.28	human parvovirus B19 Coxsackievirus A16
25	2	男	ヘルパンギーナ	41℃，咳嗽，上気道炎，口内炎，	ふん便	8.29	Coxsackievirus A9
26	1	女	不明発疹症	40℃，下痢，発疹，	ぬぐい液	8.29	Rhinovirus
27	1ヶ月	女	急性咽頭炎	39℃，	髄液 ぬぐい液	8.30	Parechovirus 3 Rhinovirus
28	1	女	手足口病	37℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	8.30	Coxsackievirus A16
29	0ヶ月	女	-	37℃，	ふん便	8.31	Rhinovirus
30	1	女	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	8.31	human parvovirus B19
31	4	男	-	41℃，咳嗽，	ぬぐい液	9.1	Echovirus 25
32	1	男	-	39℃，	ぬぐい液	9.3	Coxsackievirus A4
33	2	女	ヘルパンギーナ	39℃，上気道炎，口内炎，	ぬぐい液	9.3	Coxsackievirus A4

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
34	1	男	手足口病	40℃, 発疹,	ぬぐい液	9. 3	Coxsackievirus A16
35	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎疑い	38℃, 発疹,	髄液	9. 3	Rhinovirus
36	8	男	-	-	ふん便	9. 6	Rhinovirus
37	1	女	RSウイルス感染症、呼吸器感染症	41℃, 咳嗽, 気管支炎,	鼻咽腔ぬぐい液	9. 6	Coxsackievirus A4 Respiratory syncytial virus
38	3ヶ月	女	胆道閉鎖症疑い	-	ふん便	9. 6	Rhinovirus
39	3	男	不明発疹症	37℃, 発疹,	ぬぐい液	9. 6	human parvovirus B19
40	1	女	インフルエンザ様疾患	39℃, 下気道炎,	鼻汁	9. 7	Coxsackievirus A4
41	7	女	咽頭結膜熱	結膜炎,	ぬぐい液	9. 7	Adenovirus 8
42	1	女	手足口病	38℃, 発疹,	ぬぐい液	9. 7	Enterovirus 71
43	10ヶ月	男	不明熱	40℃,	ぬぐい液	9. 7	Rhinovirus
44	8ヶ月	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 肝機能,	ふん便	9. 8	Adenovirus 2
45	2	女	IgA 血管炎	38℃, 腹痛,	ぬぐい液	9.10	Rhinovirus
46	3	女	RSウイルス感染症	38℃, 下気道炎,	鼻腔	9.10	Respiratory syncytial virus
47	1	女	手足口病	39℃, 口内炎,	ぬぐい液	9.10	Coxsackievirus A16
48	8	女	伝染性紅斑 不明発疹症	咳嗽, 発疹,	ぬぐい液	9.11	Rhinovirus
49	5	男	川崎病疑い	39℃,	ぬぐい液	9.12	Rhinovirus
50	0ヶ月	男	上気道炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	9.13	Rhinovirus
51	1	男	上気道炎	40℃, 咳嗽, 上気道炎,	ぬぐい液	9.14	Parainfluenza virus 3
52	3	女	下気道炎	40℃, 下気道炎,	鼻汁	9.18	Respiratory syncytial virus
53	1	男	RSウイルス感染症	39℃, 咳嗽, 気管支炎,	鼻腔	9.18	Respiratory syncytial virus
54	3	女	インフルエンザ様疾患	40℃, 咳嗽,	ぬぐい液	9.20	Influenza virus A H1pdm09
55	1	女	気管支炎	40℃, 下痢, 咳嗽, 上気道炎, 下気道炎, 気管支炎,	鼻咽頭	9.21	Respiratory syncytial virus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年									2018年 総計		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9			
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1					1				3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1									1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1				1		1		3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12								1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					2			1		1		4
	計			2	1			2	3	1	3		12
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	1							38
	Influenza virus A H1pdm09	28	3		1								32
	Influenza virus B /Victoria	3	1		2								6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3								35
	計	69	23	11	7	1							111
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1					2						3
	Adenovirus 2	1	1		2	1		1					6
	Adenovirus 8								1		1		2
	Cytomegalovirus					1							1
	Herpes simplex virus 1								1				1
	Human herpes virus 6									1			1
	Rhinovirus			1							1		2
	計	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	16
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1		1		1		1	1		5
	Adenovirus 40/41				1								1
	Adenovirus 41				1	2							4
	Astrovirus NT			1			1						2
	Coxsackievirus A9								1				1
	Echovirus 7								1				1
	Enterovirus 71					1							1
	Human metapneumovirus								1				1
	Norovirus GI NT				1								1
	Norovirus GII NT	5	1	1	3	2	2	2	2	2			18
	Rotavirus group AG9				1		1						2
	Rhinovirus							1					1
	Sapovirus genogroup unknown	2			2	4	1	1	3				13
	<i>Salmonella</i> Enteritidis					1		1	1				3
計	7	1	3	9	11	6	9	7	1			54	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A2								1				1
	Coxsackievirus A4										1		1
	Coxsackievirus A9								1				2
	Cytomegalovirus					1							1
	Human herpes virus 6									2			2
	Parainfluenza virus 3									1			1
計					1			1	4	2		8	
手足口病	Adenovirus 1				1			1					2
	Coxsackievirus A9							1	1	5	4		10
	Coxsackievirus A16							1	1				2
	Cytomegalovirus								1				1
	Enterovirus 71	2	1		2	1	3	6	2	1			18
	Echovirus 7				1								1
	Epstein-Barr virus	1											1
	Human herpes virus 6					1							1
	Human herpes virus 7						2		1				3
	Human parvovirus B19										1		1
	Herpes simplex virus 1				1	2	3	5					8
	Rhinovirus												1
計	3	1		5	4	8	16	10	6			53	
流行性角結膜炎	Adenovirus 2												1
	Astrovirus NT												1
	Rhinovirus									1			1
計									1			2	
伝染性紅斑	Cytomegalovirus					1							1
	Coxsackievirus A9								1				1
	Herpes simplex virus 1								1				1
	Human herpes virus 7									1			1
	Human metapneumovirus			1									1
Rhinovirus								1		1		2	
計			1		1		3	1	1			7	
流行性耳下腺炎	Mumps virus												1
	Parechovirus 1									1			1
計									1			1	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1											1
	Human herpes virus 7								1				1
	Herpes simplex virus 1								1				1
	Parechovirus 3								1				1
計	1							3				4	
マイコプラズマ肺炎	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>												1
計												1	
RS ウイルス感染症	Coxsackievirus A4										1		1
	Respiratory syncytial virus									1	3		4
	Respiratory syncytial virus A	1											1
	Respiratory syncytial virus B					1							1
	Rhinovirus					1							1
計	1				2				1	4		8	
水痘	Varicella-zoster virus												1
	計												1
突発性発疹	Cytomegalovirus					2							2
	Enterovirus 71						1						1
	Human herpes virus 6	1			1								2
	計	1			1	2	1						5
その他	Adenovirus 1					1				1			2
	Adenovirus 2	1		1	1	5	1						9
	Adenovirus 5			1		1							2
	Adenovirus 8				1								1
	Adenovirus 41			1	1								2
	Astrovirus NT					1							1
	Coxsackievirus A4										2		2
	Coxsackievirus A9						2	20	2				24
	Coxsackievirus B2							1					1
	Coxsackievirus B4												2
	Cytomegalo virus	1	1	1			2	2	2	2			8
	Echovirus 7							1					1
	Echovirus 25												1
	Enterovirus 71						1	2	1		1		4
	Epstein-Barr virus							1					4
	Herpes simplex virus 1	1	1	1	2		3	3	1				12
	Human herpes virus 6	2	1	1	2	3	2	3					14
	Human herpes virus 7	1			3	2	1	4	2				13
	Human metapneumovirus	3	1	4	2	2							12
	Human parvovirus B19								1	1	2		4
	Influenza virus A H1pdm09	1									1		2
	Influenza virus B Yamagata		2										2
	Norovirus GII NT	1					1			1			3
	Parainfluenza virus 2												1
	Parainfluenza virus 3				1	1	5	4			1		12
	Parechovirus 1									1			1
	Parechovirus 3									1			1
	Respiratory syncytial virus									1	2		3
	Rhinovirus				1	5	2	5	2		10		25
Rotavirus group AG1												1	
Rotavirus group AG3												1	
Sapovirus genogroup unknown												1	
計	13	7	11	14	22	22	49	16	20			174	
総計	97	33	29	39	48	43	86	44	36			455	

高知県感染症情報月報 2018年10月

(65定点医療機関)

定点名	保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
	疾病名										
内科・小児科	インフルエンザ			1		1			2	29	3
小児科	咽頭結膜熱			6	23	3		2	34	70	24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		4	72	14	6	7	104	86	164
	感染性胃腸炎	14		37	102	2	8	24	187	174	344
	水痘			1	7	3		4	15	10	42
	手足口病			19	40	20	7	21	107	165	94
	伝染性紅斑			9	9	3	1		22	24	
	突発性発疹			8	14	3	4	4	33	30	42
	ヘルパンギーナ	5		11	30	7	17	14	84	226	44
	流行性耳下腺炎			1	1	1	1	1	5	3	6
	RSウイルス感染症	9		39	151	32	13	25	269	438	382
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				1				1	28	2
STD	性器クラミジア感染症				2				2	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症										1
基幹	細菌性髄膜炎										1
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎			2	11				13	11	5
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2	1	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)									1	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			1	5			1	7	15	29
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 薬剤耐性緑膿菌感染症										
計			29	139	470	89	57	103	887	1,313	1,191
前月			36	186	662	104	129	196			
前年同月			50	203	632	59	67	180			
小児科定点数			2	7	11	3	2	5			

2018年10月

全国情報 (10月1日～10月28日)

第40週 (10月1日～) から第43週 (～10月28日) までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における9月の上位6疾患の合計は34.54で9月の40.45と比べて減少した。

1位は感染性胃腸炎で13.79 (9月1位13.51) と横ばいであった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で6.36 (同3位5.12) と増加した。3位はRSウイルス感染症で4.58 (同2位8.66) と減少した。4位は手足口病で3.94 (同5位4.14) と横ばいであった。5位は流行性角結膜炎で3.60 (同6位4.03) とわずかに減少した。6位はヘルパンギーナで2.27 (同4位4.99) と減少した。

成人の風疹が、関東を中心に流行拡大し続けている。第38週から第41週 (10月14日) までに、合計506例の風疹の報告があった。その結果、本年の報告が累積で1287例 (うち1226例が検査診断例) になった。累積数を都道府県別でみると、多い順に、東京都が432例、千葉県234例、神奈川県163例、埼玉県90例、愛知県71例、茨城県37例である。四国では、第41週までに7例 (第33週、34週と40週に香川県から1例ずつ、第36週と40週に徳島県から1例ずつ、第37週に愛媛県から2例) の報告である。高知県では未だ報告はない。

厚生労働省は8月14日に通達を出し、「30～50歳台男性の2割程度に抗体価の低い方がいるので、この世代では風疹を意識した診療をこころがけるよう注意喚起し、特に妊娠可能年齢の女性のうち、抗体価が低い女性において任意で予防接種を受けることを推奨する」としている。2012～13年の全国での風疹流行で、45人が先天性風疹症候群を発症したことは記憶に新しい。今回の流行でも同様な事態に至らないように注意喚起が必要である。

沖縄県、愛知県などで輸入例を発端に麻疹が流行していたが、新たな報告は減少した。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	感染性胃腸炎		3.35	2.99	3.56	3.89	13.79
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.47	1.29	1.68	1.92	6.36
3	RSウイルス感染症		1.58	1.15	0.98	0.87	4.58
4	手足口病		1.08	0.91	0.99	0.96	3.94
5	流行性角結膜炎		1.01	0.86	0.87	0.86	3.60
6	ヘルパンギーナ		0.84	0.55	0.52	0.36	2.27

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の10月の上位6疾患の合計は26.67と9月の45.62と比べて減少し、全国よりも少なかった。(表2)。風疹、麻疹ともに、高知県では発生していない。

1位はRSウイルス感染症で8.97 (9月1位14.60) と減少したが全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で6.24 (同4位5.80) と横ばいで、全国よりも少なかった。3位は手足口病で3.56 (同5位5.49) と減少し、全国よりも少なかった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で3.47 (同6位2.86) と増加したが全国よりも少なかった。5位はヘルパンギーナで2.80 (同3位7.54) と減少したが全国よりもわずかに多かった。6位はマイコプラズマ肺炎で1.63 (同8位1.39) と増加し、全国よりも多かった。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	週	40週	41週	42週	43週	計
1	RSウイルス感染症		3.43	2.57	2.07	0.90	8.97
2	感染性胃腸炎		1.47	1.50	1.67	1.60	6.24
3	手足口病		1.03	0.77	1.23	0.53	3.56
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.77	0.73	0.67	1.30	3.47
5	ヘルパンギーナ		1.23	0.67	0.53	0.37	2.80
6	マイコプラズマ肺炎		0.75	0.25	0.50	0.13	1.63

2. 全体の傾向

麻疹、風疹の報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 2名 (9月 29名)。9月に小流行がみられたが、本格的流行にはまだ突入しない様相である。中央東と中央西で1名ずつ報告された。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 34名 (9月 70名)。高知市、中央西、中央東、幡多から表記の順に多く報告があった。ウイルスはその他の感染症からAdenovirus 2型と54型が各1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 104名 (9月 86名)。平年並みの報告数である。県下全域から報告があり、特に高知市、中央西、須崎、幡多の順に多かった。細菌は *Streptococcus pyogenes* TB3264が2件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 187名 (9月 174名)。例年と比べ少ない報告数である。県下全域から報告があり、とくに高知市、安芸、中央東、幡多、須崎からの報告が多い。病原体は、Sapovirus genogroup unknownが2件、Enterovirus NTが1件検出さ

れた。

5) 水痘

報告数 15名(9月 10名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。中央西、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 107名(9月 165名)。初夏に流行が始まる感染症で、2017年は5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。8月以降は減少増加をくりかえし、2018年に入っても完全に終息しないまま、5月から再び流行期に突入したが、昨年よりも流行規模は小さく平年並みであった。安芸を除くエリアから報告があり中央西、幡多、高知市、須崎、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスはEnterovirus 71が昨年10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件、2月1件、4月に2件、5月に2件、6月は5件、7月は9件、8月は3件、9月に2件検出された。Coxsackievirus A16の検出が7月1件、8月5件、9月7件、10月は2件と遅れて目立ってきていて、流行ウイルスのシフトが認められる。

7) 伝染性紅斑

報告数 22名(9月 24名)。平年並の推移である。中央東、中央西、高知市、須崎から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 33名(9月 30名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 84名(9月 226名)。例年6-7月から流行がみられるが、本年は遅れて8月から増加してきた。そのため、9月は同時期として過去10年間で最多、10月は2番目に多い報告数だった。県下全域から報告され、とくに須崎で報告が多かった。ウイルスはCoxsackievirus A4が2件検出された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 5名(9月 3名)。安芸以外の全域から報告があり、とくに須崎、中央西が多かった。

昨年夏以降は、過去10年で最も少ない数字で推移している。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 269名(9月 438名)。2017年の8-9月は季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間ですべての月間報告数のうちで最多であったが、10月は減少に転じ11月以降は半減、以後は徐々に減少していた。2018年も昨年同様に夏季からの流行開始で、9月としては昨年に次ぐ大きな流行になったが10月は減少した。県下全域から報告があり、とくに高知市、中央西から多く報告された。その他の感染症からRespiratory syncytial virus A型が2件、B型が1件検出された。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名(9月 28名)。8月は過去10年間で最多の報告を記録した。高知市から1名報告された。ウイルスは検出されていない。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(9月 0名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(9月 0名)。前年から少ない報告数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 13名(9月 11名)。高知市と中央東から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 7名(9月 15名)。例年並みの変動の範囲である。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(9月 0名)。2018年は報告は6月に1例の報告があった。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

10月はウイルス70件，細菌8件の搬入があり，そのうちウイルス28件，細菌2件の病原体を検出した。また，平成30年9月に搬入された検体でウイルス23件，8月に搬入された検体で2件，7月に搬入された検体で1件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 2件，Adenovirus 54 1件，Coxsackievirus A4 3件，Coxsackievirus A10 1件，Coxsackievirus A16 5件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 7 2件，Echovirus 11 1件，Echovirus 18 1件，Enterovirus 68 1件，Enterovirus 71 2件，Enterovirus NT 1件，Epstein-Barr virus 3件，Human herpes virus 7 4件，Human metapneumovirus 1件，Norovirus GII NT 1件，Respiratory syncytial virus A 2件，Respiratory syncytial virus B 1件，Rhinovirus 17件，Sapovirus genogroup unknown 3件，また，細菌の内訳はStreptococcus pyogenes TB3264 2件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	4	女	手足口病	-	ぬぐい液	7.25	Enterovirus 71
2	4ヶ月	男	不明発疹症	39℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	8.18	Cytomegalovirus
3	1	男	呼吸器疾患	39℃，咳漱，下気道炎，	鼻咽腔	8.27	Rhinovirus
4	1	女	口内炎（ヘルペス、手足口病）	41℃，発疹，口内炎，	ぬぐい液	8.28	Human herpes virus 7
5	1	男	ヘルパンギーナ	39℃，咳漱，気管支炎，肝機能，	ぬぐい液	8.31	Enterovirus 68
6	3	男	感染性胃腸炎	下痢，腹痛，	ふん便	9.3	Rhinovirus
7	1	男	無菌性髄膜炎	39℃，	髄液	9.3	Rhinovirus
8	3	男	-	-	髄液	9.4	Rhinovirus
9	0ヶ月	男	無菌性髄膜炎	40℃，	髄液	9.6	Echovirus 7
10	15	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	9.7	Enterovirus 71
11	8ヶ月	女	急性気管支炎	咳漱，上気道炎，	ぬぐい液	9.10	Rhinovirus
12	0ヶ月	男	-	38℃，	髄液	9.11	Echovirus 7
13	6	女	急性上気道炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	9.11	Coxsackievirus A10
14	2ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃，下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	9.12	Echovirus 11
15	9ヶ月	男	不明発疹症	39℃，咳漱，発疹，	ぬぐい液	9.14	Adenovirus 2
16	7ヶ月	男	咽頭結膜熱（結膜炎はなし）	40℃，	ふん便	9.14	Rhinovirus
17	1	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	9.15	Rhinovirus
18	1ヶ月	男	-	39℃，	ぬぐい液	9.18	Rhinovirus
19	2	女	手足口病	水疱，発疹，	ぬぐい液	9.18	Coxsackievirus A16
20	2ヶ月	男	上気道炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	9.19	Rhinovirus
21	4	男	肺炎	40℃，嘔吐，嘔気，咳漱，上気道炎，下気道炎，肺炎，	鼻腔	9.19	Rhinovirus
22	15	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	9.19	Human herpes virus 7
23	2	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	9.20	Coxsackievirus A16
24	6	男	感染性胃腸炎疑い	嘔吐，嘔気，腹痛，関節痛，	ぬぐい液	9.21	Rhinovirus
25	4ヶ月	女	手足口病	発疹，	ぬぐい液	9.21	Coxsackievirus A16 Cytomegalovirus
26	9ヶ月	男	上気道炎	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	9.21	Coxsackievirus A4
27	3	男	感染性胃腸炎	36℃，嘔吐，嘔気，	ふん便	9.25	Enterovirus NT Sapovirus genogroup unknown
28	8ヶ月	男	呼吸器感染症	気管支炎，	鼻腔	9.25	Respiratory syncytial virus B
29	1ヶ月	男	上気道炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	9.27	Respiratory syncytial virus A
30	1	男	上気道炎	40℃，上気道炎，	ぬぐい液	9.28	Adenovirus 2
31	10	男	-	39℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ふん便	9.28	Norovirus GII NT
32	3	男	ヘルパンギーナ	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	10.1	Coxsackievirus A4
33	6ヶ月	男	急性気管支炎	咳漱，気管支炎，	鼻腔	10.1	Respiratory syncytial virus A

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
34	10ヶ月	女	手足口病	37℃, 水疱, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	10. 1	Coxsackievirus A16
35	7	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃, 上気道炎,	ぬぐい液	10. 2	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
36	6	女	手足口病疑い	38℃, 発疹,	ぬぐい液	10. 2	Epstein-Barr virus
			腸管膜リンパ節炎の疑い	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	10. 5	Echovirus 18
37	6	男	流行性耳下腺炎	37℃,	ぬぐい液	10. 6	Epstein-Barr virus
							Human herpes virus 7
38	11ヶ月	男	手足口病	38℃, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	10. 9	Coxsackievirus A16
39	1	男	ヘルパンギーナ	39℃,	ぬぐい液	10. 9	Coxsackievirus A4
40	1	男	呼吸器疾患	38℃, 咳漱, 下気道炎,	鼻咽腔	10. 9	Rhinovirus
41	8ヶ月	男	肺炎	39℃, 咳漱, 上気道炎, 肺炎,	吸引鼻汁	10. 15	Rhinovirus
							Adenovirus 54
42	1	男	気管支喘息	38℃, 咳漱, 上気道炎,	鼻腔	10. 15	Rhinovirus
43	4	女	-	下痢,	ふん便	10. 16	Rhinovirus
44	2	男	不明熱	39℃, 咳漱,	ぬぐい液	10. 17	Human metapneumovirus
45	5	女	手足口病	水疱, 発疹, 口内炎,	ぬぐい液	10. 19	Rhinovirus
46	2	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10. 20	Epstein-Barr virus
47	7	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,	ぬぐい液	10. 10	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
				38℃, 咳漱, 上気道炎,		10. 22	
48	1	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10. 22	Human herpes virus 7
49	7	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	10. 22	Rhinovirus
50	1	男	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	10. 27	Sapovirus genogroup unknown
51	1	女	-	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	10. 29	Sapovirus genogroup unknown

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年										2018年 総計			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1											3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1											1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1										3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12														6
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T63264														6
	計			2	1		2	3	1	3			2	14	
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	1									38
	Influenza virus A H1pdm09	28	3		1										32
	Influenza virus B /Victoria	3	1		2										6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3										35
	計	69	23	11	7	1									111
咽頭結膜熱	Adenovirus 1	1													3
	Adenovirus 2	1	1		2	1	2	1		1					6
	Adenovirus 8								1		1				2
	Cytomegalovirus					1									1
	Herpes simplex virus 1								1						1
	Human herpes virus 6									1					1
	Rhinovirus			1									2		3
計	2	1	1	2	2	2	2	2	2	3				17	
感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1		1		1	1	1					5
	Adenovirus 40/41				1										1
	Adenovirus 41				1		2	1							4
	Astrovirus NT			1				1							2
	Coxsackievirus A9								1						1
	Echovirus 7								1						1
	Echovirus 11										1				1
	Enterovirus 71						1								1
	Enterovirus NT													1	1
	Human metapneumovirus								1						1
	Norovirus GI NT				1										1
	Norovirus GII NT				3		2	2	2	2					18
	Rotavirus group AG9	5	1	1	1	3	1	1	2	2					22
	Rhinovirus							1			1				2
	Sapovirus genogroup unknown	2				2	4	1	1	3			2		15
<i>Salmonella</i> Enteritidis					1	1		1	1					3	
計	7	1	3	9	11	6	9	7	3	3				59	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A2								1						1
	Coxsackievirus A4									1			2	3	
	Coxsackievirus A9							1		1				2	
	Cytomegalovirus					1								1	
	Enterovirus 68										1			1	
	Human herpes virus 6									2				2	
Parainfluenza virus 3								1					1		
計					1		1	4	3	2			11		
手足口病	Adenovirus 1				1				1						2
	Coxsackievirus A9								1						1
	Coxsackievirus A16								5		7	2		15	
	Cytomegalovirus								1		1			2	
	Enterovirus 71	2	1		2	1	3	7	2	2				20	
	Echovirus 7				1									1	
	Epstein-Barr virus	1												1	
	Human herpes virus 6					1								1	
	Human herpes virus 7							2		1				3	
	Human parvovirus B19										1			1	
	Herpes simplex virus 1				1	2					1			4	
	Rhinovirus						3	5		1		1		10	
	計	3	1		5	4	8	17	10	12	3			63	
流行性角結膜炎	Astrovirus NT						1							1	
	Rhinovirus							1						1	
計							1						2		
伝染性紅斑	Cytomegalovirus						1							1	
	Coxsackievirus A9								1					1	
	Herpes simplex virus 1								1					1	
	Human herpes virus 7									1				1	
	Human metapneumovirus			1										1	
Rhinovirus								1		1			2		
計			1		1		3	1	1				7		
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus												1	1	
	Human herpes virus 7												1	1	
	Parechovirus 1								1					1	
計								1					2		
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1												1	
	Echovirus 7											1		1	
	Human herpes virus 7													1	
	Herpes simplex virus 1													1	
	Parechovirus 3													1	
Rhinovirus												1	1		
計	1											1	6		
RSウイルス感染症	Coxsackievirus A4													1	
	Respiratory syncytial virus													1	
	Respiratory syncytial virus A	1								1		3		4	
	Respiratory syncytial virus B						1							1	
Rhinovirus													1		
計	1					1							8		
水痘	Varicella-zoster virus														
	計														
突発性発疹	Cytomegalovirus						2							2	
	Enterovirus 71							1						1	
	Human herpes virus 6	1			1									2	
計	1			1	2	1							5		
その他	Adenovirus 1				1					1				2	
	Adenovirus 2	1		1	1	5	1				1	1		11	
	Adenovirus 5			1		1								2	
	Adenovirus 8				1									1	
	Adenovirus 41			1	1									2	
	Adenovirus 54												1	1	
	Astrovirus NT						1							1	
	Coxsackievirus A4													3	
	Coxsackievirus A9							2	20	2	3			24	
	Coxsackievirus A10											1		1	
	Coxsackievirus B2													1	
	Coxsackievirus B4													2	
	Cytomegalovirus	1	1	1			2	2	3					9	
	Echovirus 7							1						2	
	Echovirus 18													1	
	Echovirus 25											1		1	
	Enterovirus 71						1	2	1	1				4	
	Epstein-Barr virus	1	1					1					2	6	
	Herpes simplex virus 1	1	1	1	2	3	3	3	1					12	
	Human herpes virus 6	2	1	1	2	3	2	3						14	
	Human herpes virus 7	1			3	2	1	4	3	1		1		16	
	Human metapneumovirus	3	1	4	2									13	
	Human parvovirus B19													4	
	Influenza virus A H1pdm09	1							1	1	2			4	
	Influenza virus B Yamagata		2							1				2	
	Norovirus GII NT	1					1		1					4	
	Parainfluenza virus 2	1											1	1	
	Parainfluenza virus 3													1	
	Parechovirus 1				1	1	5	4		1	1			12	
	Parechovirus 3									1				1	
	Respiratory syncytial virus A								1	1				3	
	Respiratory syncytial virus B													1	
	Respiratory syncytial virus													3	
Rhinovirus				1	5	2	5	1	2	16	6		37		
Rotavirus group AG1													1		
Rotavirus group AG3													1		
Sapovirus genogroup unknown													1		
計	13	7	11	14	22	22	49	18	31	18			205		
総計	97	33	29	39	48	43	87	46	59	30			511		

高知県感染症情報月報 2018年11月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ		2	7	2	1	1	13	2	14
小児科	咽頭結膜熱	1		22	3	3	3	32	34	16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		23	128	2	14	4	171	104	194
	感染性胃腸炎	41	62	177	19	26	54	379	187	543
	水痘		7	14	2	1	8	32	15	65
	手足口病		48	25	12	2		87	107	114
	伝染性紅斑		11	16	1	1		29	22	5
	突発性発疹	3	11	34	6	5	5	64	33	46
	ヘルパンギーナ		4	2		3	3	12	84	51
	流行性耳下腺炎		1	2		2	2	7	5	7
	RSウイルス感染症	1	12	27	13	3	3	59	269	171
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			9				9	1	3
STD	性器クラミジア感染症								2	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									1
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎			2				2		3
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎		1	9				10	13	6
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			3				3	2	1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)	1		1				2		1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	19			4	25	7	37
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									1
薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		46	185	497	60	61	87	936	887	1,280
前月		29	139	470	89	57	103			
前年同月		95	232	620	57	54	222			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年11月

全国情報 (10月29日～12月2日)

第44週 (10月29日～) から第48週 (～12月2日) までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における11月の上位6疾患の合計は4週間換算すると44.09で10月の34.54と比べて増加した。主な増加の原因は感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の増加である。

1位は感染性胃腸炎で4週間換算値が23.50 (10月1位13.79) と増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.54 (同2位6.36) と増加した。3位は流行性角結膜炎で3.37 (同5位3.60) と横ばいであった。4位は手足口病で2.88 (同4位3.94) と減少した。5位は伝染性紅斑で2.57 (同7位1.68) と増加した。6位はRSウイルス感染症で2.22 (同3位4.58) と減少した。

関東中心にはじまった、風疹が流行拡大し続けている。第42週から第46週 (11月18日) までに、合計752例の風疹の報告があった。その結果、本年の報告が累積で2186例 (うち2062例が検査診断例) になった。累積数を都道府県別でみると、多い順に、東京都が763例、千葉県310例、神奈川県295例、埼玉県147例、愛知県103例である。四国では、第46週までに7例 (香川県から6例、愛媛県から4例、徳島県から3例) の報告がある。49週 (11月30日) に、ついに高知県高知市保健所管区から成人の風疹が1例報告された。確実に全国的な流行となっており、高知県では20年以上にわたって本格的な流行がなかったこと、予防接種未施行者 (すなわち風疹感受性者) が中年～壮年者に数多く存在することなどから、本格的な流行となる危惧が現実となりそうである。

2012年 (2,386人が報告) ～2013年 (14,344人が報告された) の全国での風疹流行で、45人が先天性風疹症候群を発症したことは記憶に新しい。来年に向けて本県を巻き込んだ大きな流行になる可能性が高く、対策を講じなければならない。

麻疹風疹ワクチン定期接種の対象者 (1歳児と就学前の児) はすぐに接種を済ませることが第一である。厚生労働省が8月14日に通達を出しているように、「30～50歳台男性の2割程度に抗体価の低い方がいるので、この世代では風疹を意識した診療をこころがけるよう注意喚起し、特に妊娠可能年齢の女性のうち、抗体価が低い女性において任意で予防接種を受けることを推奨する」。

風疹は臨床診断の難しい疾患である。発疹性疾患を診たら、積極的に咽頭スワブと尿の両者を採取し、衛生研究所に検査を依頼することが重要である。風

疹IgM抗体は疑陽性が少なくないので単独での診断は推奨されない。

沖縄県、愛知県などで輸入例を発端に麻疹が流行していたが、新たな報告は減少した。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	44週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎	4.14	5.44	5.91	6.00	7.89	29.38
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.90	2.43	2.43	2.40	2.77	11.93
3	流行性角結膜炎	0.80	0.87	0.79	0.82	0.93	4.21
4	手足口病	0.77	0.76	0.79	0.65	0.63	3.60
5	伝染性紅斑	0.44	0.64	0.61	0.65	0.87	3.21
6	RSウイルス感染症	0.62	0.60	0.56	0.50	0.50	2.78

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の11月の上位6疾患の合計は4週間換算すると22.68で10月の26.67と比べて減少し、全国よりも少なかった。(表2)。上でも述べたとおり、高知県で49週に風疹が1例報告されており、今後の流行が危惧される。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値が10.11 (10月2位6.24) と増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.56 (同2位3.47)、3位は流行性角結膜炎で2.40 (同11位0.33) とともに増加した。4位は手足口病で2.32 (同3位3.56) と減少した。5位は突発性発疹で1.71 (同8位1.10) と増加し、全国と同等だった。6位はRSウイルス感染症で1.58 (同1位8.97) と減少した。突発性発疹を除く5疾患はいずれも全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数 (高知県)

No	疾病名	44週	45週	46週	47週	48週	計
1	感染性胃腸炎	1.53	2.47	2.37	3.10	3.17	12.64
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.97	1.03	1.10	1.10	1.50	5.70
3	流行性角結膜炎	0.67	0.33	0.67	1.33	0.00	3.00
4	手足口病	0.43	0.57	0.50	0.73	0.67	2.90
5	突発性発疹	0.33	0.57	0.57	0.27	0.40	2.14
6	RSウイルス感染症	0.37	0.63	0.27	0.30	0.40	1.97

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 13名 (10月 2名)。9月に29名と小流行がみられたが、10月2名、11月13名で、週毎に増加という様相でもなく散發的で本格的流行はまだのようだ。高知市から7名、中央東、中央西から各2名、須崎、幡多から各1名報告された。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

- 報告数 32名(10月 34名)。高知市、須崎、中央西、幡多、安芸から表記の順に多く報告があった。ウイルスはAdenovirus 1型が1件と、感染性胃腸炎からAdenovirus 2型が1件、その他の感染症から3型が1件、11型が2件検出された。
- 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
報告数 171名(10月 104名)。平年並みの報告数である。安芸以外から報告があり、特に高知市、須崎中央東から多かった。細菌は*Streptococcus pyogenes* TB3264が2件検出された。
- 4) 感染性胃腸炎
報告数 379名(10月 187名)。増加したがそれでも例年と比べ少なめの報告数である。県下全域から報告があり、とくに安芸、高知市、須崎からの報告が多い。病原体は、Sapovirus genogroup unknownが3件、Adenovirus 2型が1件、Coxsackievirus A4が1件検出された。
- 5) 水痘
報告数 32名(10月 15名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。幡多、高知市、中央東、中央西、須崎から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。
- 6) 手足口病
報告数 87名(10月 107名)。初夏に流行が始まる感染症で、2017年は5月から流行が開始し、過去10年で最大の流行となった。8月以降は減少増加をくりかえし、2018年に入っても完全に終息しないまま、5月から再び流行期に突入したが、昨年よりも流行規模は小さく平年並みであった。中央東、中央西、高知市、須崎から表記の順に多く報告された。ウイルスはEnterovirus 71が昨年10月4件、11月2件、12月1件、本年1月2件、2月1件、4月に2件、5月に2件、6月は5件、7月は9件、8月は3件、9月に2件検出された。Coxsackievirus A16の検出が7月1件、8月5件、9月7件、10月は2件と遅れて目立ってきていて、流行ウイルスのシフトが認められた。11月はRhinovirusが2件、Coxsackievirus A4が1件検出された。
- 7) 伝染性紅斑
報告数 29名(10月 22名)。平年並みの推移である。中央東、高知市、須崎、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスはParvovirus B19が1件検出された。
- 8) 突発性発疹
報告数 64名(10月 33名)。想定内の変動で

- 推移している。
- 9) ヘルパンギーナ
報告数 12名(10月 84名)。例年6-7月から流行がみられるが、本年は遅れて8月から増加してきた。そのため、9月は同時期として過去10年間で最多、10月は2番目に多い報告数だったが終息に向かっている。須崎、幡多、中央東、高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。
- 10) 流行性耳下腺炎
報告数 7名(10月 5名)。昨年夏以降は、少ない数字で推移している。須崎、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。
- 11) RSウイルス感染症
報告数 59名(10月 269名)。2017年の8-9月は季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間ですべての月間報告数のうちで最多であったが、10月は減少に転じ11月以降は半減、以後は徐々に減少していた。2018年も昨年同様に夏季からの流行開始で、9月としては昨年に次ぐ大きな流行になったが10月、11月と減少した。県下全域から報告があり、とくに中央西、高知市から多く報告された。ウイルスは検出されていない。
- 12) 流行性角結膜炎
報告数 9名(10月 1名)。8月は過去10年間で最多の報告を記録した。高知市のみから9名報告された。ウイルスは検出されていない。
- 13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 2名(10月 0名)。高知市から30代、70歳以上の高齢者の2名が報告された。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。
- 14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 0名(10月 0名)。前年から少ない報告数で推移している。
- 15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)
報告数 10名(10月 13名)。高知市と中央東から報告された。細菌は検出されていない。
- 基幹定点の月報疾患
- 16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数 25名(10月 7名)。例年並みの変動の範囲である。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。
- 17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数 0名(10月 0名)。2018年は報告

は6月に1例の報告があった。2014年は計4例、
2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告が
あった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（平成30年11月）

類型	病名	報告年																														総計
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30											
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	94	1,644										
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	94	1,644										
3	コレラ	1					1					1										3										
	バラチフス	2																				2										
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2		27										
	腸チフス		1						1										1			3										
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	197										
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	232										
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1		3						3	1			32										
	Q熱	1	1	2				1														5										
	オウム病			1		1														1		3										
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	1	86										
	マラリア									2				1								3										
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	8	65										
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	162										
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1									6										
	レプトスピラ症											1		4	2	1				1		9										
	E型肝炎												1		1							2										
	デング熱												1			3	2	1				7										
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	34										
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	27	414										
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	44										
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	57										
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	20	89										
	急性弛緩性麻痺																				1	1										
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	31										
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						1	8										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1						1		1	1	5										
	急性脳炎							1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1	1		18										
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	24										
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	8	73										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	20										
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	65										
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3	7										
	播種性クリプトコックス症																		1	3	4	8										
	髄膜炎菌性髄膜炎									1												1										
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		30										
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	17	174										
百日咳																				165	165											
麻疹										5											5											
風しん										1	1			4	9	1					16											
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	252	841											
新型	新型インフルエンザ											34									34											
	計											34									34											
動物	鳥インフルエンザ													1							1											
	計													1							1											
総計		61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	377	3,166										

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

11月はウイルス58件，細菌3件の搬入があり，そのうちウイルス27件，細菌2件の病原体を検出し，また，平成30年10月に搬入された検体でウイルス9件，細菌3件を検出した。検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 1 1件，Adenovirus 2 3件，Adenovirus 3 1件，Adenovirus 11 2件，Astrovirus 3 1件，Coxsackievirus A4 2件，Coxsackievirus A9 1件，Coxsackievirus A10 1件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 7 1件，Enterovirus 68 2件，Enterovirus 71 1件，Human herpes virus 6 1件，Human herpes virus 7 4件，Human metapneumovirus 1件，human parvovirus B19 1件，Rhinovirus 8件，Sapovirus genogroup unknown 3件であった。また，細菌の内訳は，Enteropathogenic *Escherichia coli* OUT 1件，*Streptococcus pyogenes* T3264 4件であった。

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	4	男	咽頭結膜熱	嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	10.15	Enterovirus 71
2	10ヶ月	男	ヘルパンギーナ	39℃，	ぬぐい液	10.18	Coxsackievirus A10
3	3	男	-	38℃，咳嗽，	ぬぐい液	10.19	Rhinovirus
4	14	女	細菌性腸炎	39℃，下痢，腹痛，	ふん便	10.22	Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> OUT
5	3	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	10.24	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
6	8ヶ月	女	上気道炎	40℃，嘔吐，嘔気，上気道炎，	ふん便	10.24	Echovirus 7
7	2	男	呼吸器感染症	38℃，咳嗽，気管支炎，	鼻咽腔ぬぐい液	10.25	Enterovirus 68
8	1	男	肺炎	肺炎，発疹，	ぬぐい液	10.25	Human herpes virus 6
9	9	男	急性咽頭炎	38℃，	ぬぐい液	10.26	Rhinovirus
10	1	女	-	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	10.29	Adenovirus 2
11	6	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃，上気道炎，	ぬぐい液	10.29	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
12	8ヶ月	女	呼吸器感染症	37℃，肺炎，	鼻咽腔ぬぐい液	10.29	Human metapneumovirus
13	7ヶ月	女	感染性胃腸炎	39℃，上気道炎，	ふん便	10.29	Adenovirus 3
14	10	男	頸部リンパ節腫大	39℃，	ぬぐい液	10.30	Human herpes virus 7
15	37	男	頸部リンパ節腫大（小指頭大までが++）	38℃，	ぬぐい液	10.30	Adenovirus 11
16	1	男	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	10.31	Adenovirus 2 Sapovirus genogroup unknown
17	1	女	呼吸器感染症	40℃，咳嗽，気管支炎，肺炎，	鼻咽腔ぬぐい液	10.31	Enterovirus 68
18	7	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	11. 1	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
19	14	男	-	39℃，	尿	11. 1	Adenovirus 11
20	2ヶ月	男	-	39℃，発疹，	ふん便	11. 3	Coxsackievirus A9
21	4	女	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	11. 5	Human herpes virus 7
22	1	男	手足口病	下気道炎，	ぬぐい液	11. 5	Rhinovirus
23	1	男	突発性発しん	40℃，下痢，	ふん便	11. 7	Adenovirus 2
24	2	男	-	39℃，	ぬぐい液	11. 8	Cytomegalovirus
25	3	女	インフルエンザ様疾患	39℃，下気道炎，	鼻汁	11. 8	Rhinovirus
26	3	男	手足口病	37℃，発疹，	ぬぐい液	11. 9	Rhinovirus
27	3	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	11. 9	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
28	1	女	咽頭結膜熱	上気道炎，結膜炎，	ぬぐい液	11. 9	Adenovirus 1
29	1	女	気管支炎	40℃，咳嗽，上気道炎，気管支炎，	吸引鼻汁	11. 9	Adenovirus 3
30	4ヶ月	女	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	11.10	Rhinovirus
31	4ヶ月	男	川崎病	39℃，上気道炎，	鼻腔	11.14	Rhinovirus
32	7	男	伝染性紅斑，りんご病	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	11.15	human parvovirus B19
33	1	女	不明発疹症	38℃，発疹，	ぬぐい液	11.16	Cytomegalovirus
34	1	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.17	Coxsackievirus A4 Sapovirus genogroup unknown

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
35	2	女	不明発疹症	40℃, 発疹,	ぬぐい液	11.19	Rhinovirus
36	1	男	手足口病	40℃, 上気道炎,	ぬぐい液	11.19	Coxsackievirus A4
37	15	男	感染性胃腸炎, 無菌性髄膜炎	39℃, 下痢, 腹痛,	ふん便	11.21	Human herpes virus 7
38	1	女	川崎病疑い	39℃, 発疹,	鼻咽腔	11.22	Human herpes virus 7
39	3	男	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	ふん便	11.29	Sapovirus genogroup unknown

高知県感染症情報月報 2018年12月

(65定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	30	296	345	68	67	58	864	13	884
小児科	咽頭結膜熱		17	13	1	4	3	38	32	30
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	42	125	19	21	20	228	171	220
	感染性胃腸炎	14	160	195	40	52	62	523	379	373
	水痘		4	11	6		3	24	32	58
	手足口病		26	12	6	1		45	87	51
	伝染性紅斑		11	20	1		1	33	29	1
	突発性発疹	2	6	18	3	2	4	35	64	44
	ヘルパンギーナ			1	2		2	5	12	7
	流行性耳下腺炎		1	3	2		1	7	7	6
	RSウイルス感染症		11	28	3	11	4	57	59	82
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			5				5	9	
STD	性器クラミジア感染症			1				1		1
	性器ヘルペスウイルス感染症			1				1		
	尖圭コンジローマ									1
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎								2	
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			8				8	10	7
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								3	2
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)			1				1	2	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	4	16				21	25	21
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		48	578	803	151	158	158	1,896	936	1,788
前月		46	185	497	60	61	87			
前年同月		108	246	775	188	97	374			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

2018年12月

全国情報 (12月3日～12月30日)

第49週 (12月3日～) から第52週 (～12月30日) までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における12月の上位6疾患の合計は81.33で11月の4週換算値44.09と比べて増加した。増加の主因はインフルエンザと感染性胃腸炎の増加である。インフルエンザは注意報値10を超え、流行が始まった。

1位は感染性胃腸炎で35.78 (11月1位4週間換算値23.50) と増加した。2位はインフルエンザで24.27 (同8位1.91) と著明に増加した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で11.48 (同2位9.54) と増加した。4位は流行性角結膜炎で3.68 (同3位3.37) と横ばいであった。5位は伝染性紅斑で3.46 (同5位2.57)、6位は咽頭結膜熱で2.66 (同7位2.00) と増加した。

高知県内外で風疹の流行が拡大し続けている。第47週から第50週 (12月16日) までに、合計463例の風疹の報告があった。その結果、本年の報告が累積で2,713例 (うち2,556例 94.2%が検査診断例) になった。都道府県別でみると、多い順に、東京都、千葉県、神奈川県である。高知県では49週 (11月30日) に、高知市から成人の風疹が1例報告された。続いて51週、52週と小児例、成人例が報告され、二次感染が確認された。高知県では20年以上にわたって本格的な流行がなかったこと、予防接種未施行者 (すなわち風疹感受性者) が中年～壮年者に数多く存在することなどから、本格的な流行となる可能性が高く、対策が急がれる。

2012年 (風疹患者2,386人が報告) ～2013年 (患者14,344人が報告された) の風疹流行で、45人の先天性風疹症候群を出したことは記憶に新しい。近年、小児予防接種の徹底によって、患者の年齢層が小児から成人 (主として30～50歳代男性) へシフトする現象が海外でも確認されていたが、日本ではこれがはじめての経験であった。

2013年の風疹流行に際して米国防疫センター (CDC) は、妊婦の日本への渡航を控えるように渡航警戒情報 (レベル2) を出していた。今回も流行がさらに拡大すれば、東京五輪を控えて、同様の事態となるだろう。思い起こせば、リオデジャネイロ五輪では、ジカ熱の流行で妊娠可能性のある女性に渡航警戒情報が出されていた。「2020年東京五輪で風疹流行による渡航警戒情報」といったシナリオは、先進国として不名誉すぎる。何とか流行拡大をくいとめたい。

正確なサーベイランスのために、臨床医が見逃すことなく風疹を診断することが重要だが、風疹の診断はたやすくはない。発疹性疾患を診たら、積極的に咽頭スワブ、EDTA血、尿を採取し、衛生研究所に検査を依頼する。風疹IgM抗体は疑陽性が少ないので単独での診断は推奨されない。

先天性風疹症候群の発生を防ぐためには、妊婦への感染を防止することが重要であり、妊娠出産年齢の女性および妊婦の周囲の者のうち感受者を減少させる必要がある。

日本の予防接種制度をふりかえると、昭和54年4月1日生まれ以前の男性 (39歳以上) は、一度も風疹ワクチンを受ける機会がなかった。30～50代の男性に蓄積した感受性を早急に減少させることが、今回の風疹流行を抑制するためのカギとなる。このため、厚生労働省は『2019年～2021年度末の約3年間にかけて、これまで定期接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性 (現在39～56歳) を対象に、風疹の抗体検査を前置した上で、定期接種を行う』と発表した。接種率向上のために休日の予防接種や実施場所、方法について十分かつ早急な検討が必要だろう。

各事業所の産業医、健康管理業務者への啓発が必要であり、2014年に国立感染症研究所が作成した「職場における風しん対策ガイドライン」を参照されたい。

産科医師、妊婦への啓発も重要である。日本産婦人科学会による「産婦人科診療ガイドライン2017年版」にあるとおり、妊娠中の検査で風疹HI抗体価が低いもの (≤16倍) には、産褥早期の風疹 (またはMR) ワクチン接種が勧められている。これを推進すれば、次の妊娠では先天性風疹症候群を回避することができる。

当然ながら、麻疹風疹ワクチン定期接種の対象者 (1歳児と就学前の児) はすぐに接種を済ませてほしい。

表1 各週定点当たり報告数 (全国)

No	疾病名	週				計
		49週	50週	51週	52週	
1	感染性胃腸炎	8.86	9.24	10.10	7.58	35.78
2	インフルエンザ	1.70	3.35	8.05	11.17	24.27
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.07	2.96	3.25	2.20	11.48
4	流行性角結膜炎	0.94	0.95	0.98	0.81	3.68
5	伝染性紅斑	0.96	0.88	0.92	0.70	3.46
6	咽頭結膜熱	0.66	0.73	0.70	0.57	2.66

県内情報

1. 全国との対比 (定点当たり報告数)

高知県の12月の上位6疾患の合計は48.11で11月

の4週換算値22.68と比べて増加したが、全国よりも少なかった。(表2)。インフルエンザは高知県でも注意報値の10を超え流行期に突入した。上でも述べたとおり、高知市で49週、51週、52週と各1例風疹の報告があり、二次感染が確認されており、流行の危惧が現実のものとなった。

1位はインフルエンザで18.01(11月13位4週換算値0.22)と著増し、2位は感染性胃腸炎で17.44(同1位10.11)、3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で7.60(同2位4.56)、4位はRSウイルス感染症で1.90(同6位1.58)といずれも増加した。5位は流行性角結膜炎で1.66(同3位2.40)、6位は手足口病で1.50(同4位2.32)と減少した。上位6疾患ともに全国よりも少なかった。

表2 各週定点当たり報告数(高知県)

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	計
1	インフルエンザ		0.71	1.15	4.92	11.23	18.01
2	感染性胃腸炎		4.37	4.10	3.97	5.00	17.44
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.53	1.77	2.23	2.07	7.60
4	RSウイルス感染症		0.27	0.70	0.60	0.33	1.90
5	流行性角結膜炎		0.33	0.33	0.33	0.67	1.66
6	手足口病		0.67	0.33	0.37	0.13	1.50

2. 全体の傾向

麻疹の報告なし。風しんは、49週(11月30日)に高知市から成人の風疹が1例報告された。続いて51週、52週と小児例、成人例が報告され、二次感染が確認され、流行が本格的になりそうな見通しである。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 864名(11月 13名)。9月に29名と小流行がみられ、10月2名、11月13名と推移したが、12月になって著増し、全国ではほぼ一斉に流行が始まった。昨季につづいて早い年内での流行開始となった。今季第50週までに全国で検出されたウイルスはAH1 pdm09が216株(72.5%)、AH3が75株(25.2%)、B型が7株(2.3%) (山形系統4株、ビクトリア系統3株)である。

県下全域で報告されたが、中央東、高知市、須崎、中央西の順に多く、この地域では注意報値10を上回った。高知県でも今季はじめてウイルスが検出された。AH3 NTが7件、AH1 pdm09が2件検出され、全国の趨勢と異なる点で注目される。

2) 咽頭結膜熱

報告数 38名(11月 32名)。中央東、須崎、高知市、幡多、中央西から表記の順に多く報告された。ウイルスは、咽頭結膜熱から検出された例はないが、感染性胃腸炎からAdenovirus 2型が1件、その他の感染症から6型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 228名(11月 171名)。平年並みの報告数である。高知市、須崎、中央西、中央東、幡多、安芸の順に多く報告があった。細菌は *Streptococcus pyogenes* TB3264が1件検出された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 523名(11月 379名)。増加したがそれでも例年と比べ少なめの報告数である。県下全域から報告があり、須崎、中央東、高知市、中央西、幡多、安芸から表記の順に多く報告された。病原体は、Sapovirus genogroup unknownが5件、Norovirus GII NTが4件、Adenovirus 2型、Coxsackievirus A4、Echovirus 11、*Salmonella* Enteritidisが各1件検出された。

5) 水痘

報告数 24名(11月 32名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。中央西、高知市、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

6) 手足口病

報告数 45名(11月 87名)。初夏に流行が始まる感染症で、2017年は過去10年で最大の流行となった。8月以降は減少増加をくりかえし、2018年に入っても完全に終息しないまま、5月から再び流行期に突入したが、前年よりも流行規模は小さく平年並みであった。中央東、中央西、高知市、須崎から表記の順に多く報告された。ウイルスはEnterovirus 71が2018年1月以降で合計21件検出された。Coxsackievirus A16の検出が2018年7月以降で合計17件検出されていて、流行ウイルスのシフトが認められた。12月はCoxsackievirus A16が2件、Enterovirus 71が1件検出された。

7) 伝染性紅斑

報告数 33名(11月 29名)。平年並みの推移である。高知市、中央東、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。その他の診断とされた患者からウイルスはParvovirus B19が1件検出された。

8) 突発性発疹

報告数 35名(11月 64名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 5名(11月 12名)。例年6-7月から流行がみられるが、2018年は遅れて8月から増加してきた。そのため、9月は同時期として過去10年間で最多、10月は2番目に多い報告数だったが11月以降は終息に向かっている。中央西、幡多、

高知市から報告された。ウイルスは検出されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 7名(11月 7名)。2017年夏以降は、少ない数字で推移している。中央西、高知市、幡多、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 57名(11月 59名)。2017年の8-9月は季節外れの爆発的流行となった。9月は過去10年間ですべての月間報告数のうちで最多であったが、10月以降は減少していた。2018年も昨年同様に夏季からの流行開始で、9月としては昨年に次ぐ大きな流行になったが10月以降は減少した。安芸をのぞき全域から報告があり、とくに須崎、高知市、中央東、中央西から多く報告された。ウイルスは検出されていない。

12) 流行性角結膜炎

報告数 5名(11月 9名)。2018年8月は過去10年間で最多の報告を記録した。高知市のみから5名報告された。ウイルスは検出されていない。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(11月 2名)。1年に10名前後の数で推移している。乳児を対象としたHibと肺

炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因菌とする小児例の報告はない。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(11月 0名)。2017年から少ない報告数で推移している。無菌性髄膜炎の患者からHerpes simplex virus 1型が1件検出されている。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 8名(11月 10名)。高知市から報告された。細菌は検出されていない。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名(11月 25名)。例年並みの変動の範囲である。中央東、高知市、安芸から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(11月 0名) 2018年は報告は6月に1例の報告があった。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例の報告があった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

検査情報

ウイルス，細菌の分離状況

12月はウイルス76件，細菌2件の搬入があり，そのうちウイルス35件，細菌2件の病原体を検出し，また，平成30年11月に搬入された検体でウイルス7件を検出した．検出ウイルスの内訳は，Adenovirus 2 2件，Adenovirus 6 1件，Adenovirus 31 1件，Coxsackievirus A4 1件，Coxsackievirus A16 2件，Cytomegalovirus 2件，Echovirus 11 1件，Enterovirus 71 1件，Epstein-Barr virus 2件，Herpes simplex virus 1 2件，Human herpes virus 7 1件，Human parvovirus B19 1件，Influenza virus A H1pdm09 2件，Influenza virus A H3 NT 7件，Norovirus GII NT 4件，Rhinovirus 7件，Sapovirus genogroup unknown 5件であった．また，細菌の内訳は，*Salmonella* Enteritidis 1件，*Streptococcus pyogenes* TB3264 1件であった．

ウイルス，細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス，細菌の検出
1	4ヶ月	女	不明発疹症	39℃，発疹，	ぬぐい液	11.10	Cytomegalovirus
2	6	女	消化器感染症	腹痛，	ふん便	11.20	Adenovirus 31
3	1	女	川崎病疑い	40℃，上気道炎，	鼻腔	11.22	Rhinovirus
4	2	男	感染性胃腸炎	39℃，	ふん便	11.24	Adenovirus 2
5	2	男	気管支喘息	38℃，咳嗽，上気道炎，	鼻腔	11.26	Rhinovirus
6	2ヶ月	男	-		髄液	11.26	Herpes simplex virus 1
7	4	女	咽頭結膜熱，アデノウイルス感染症の疑い	40℃，咳嗽，肺炎，発疹，結膜炎，	ぬぐい液	11.26	Rhinovirus
8	3	女	不明発疹症	36℃，上気道炎，発疹，	ぬぐい液	11.27	Rhinovirus
9	4	女	手足口病	水疱，発疹，口内炎，	ぬぐい液	11.27	Coxsackievirus A16
10	9ヶ月	女	アデノウイルス，ロタウイルス	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	11.27	Adenovirus 6
11	4	女	感染性胃腸炎	下痢，腹痛，	ふん便	11.28	<i>Salmonella</i> Enteritidis
12	1	男	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	11.29	Adenovirus 2 Sapovirus genogroup unknown
13	2	女	感染性胃腸炎	下痢，	ふん便	11.30	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
14	3	女	咽頭結膜熱，川崎病も疑われます	39℃，咳嗽，発疹，結膜炎，肝機能，	鼻咽頭ぬぐい液	12. 2	Rhinovirus
15	3	男	-	-	ぬぐい液	12. 3	Rhinovirus
16	40	男	インフルエンザ	39℃，	ぬぐい液	12. 5	Influenza virus A H1pdm09
17	12	男	インフルエンザ	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	12. 6	Influenza virus A H3 NT
18	3	女	手足口病	39℃，	ぬぐい液	12. 6	Coxsackievirus A16
19	3	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎，不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	12. 7	Epstein-Barr virus
20	1	男	手足口病	発疹，口内炎，	ぬぐい液	12. 7	Enterovirus 71
21	9	男	不明発疹症	発疹，	ぬぐい液	12. 7	Human herpes virus 7
22	6	男	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40℃，嘔吐，嘔気，腹痛，	ぬぐい液	12. 7	Epstein-Barr virus
23	1	男	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	12. 8	Coxsackievirus A4 Norovirus GII NT
24	12	男	インフルエンザ	39℃，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12.10	Influenza virus A H3 NT
25	12	女	インフルエンザ	39℃，嘔吐，嘔気，咳嗽，上気道炎，	ぬぐい液	12.12	Influenza virus A H3 NT
26	1ヶ月	女	-	咳嗽，	ぬぐい液，ふん便	12.12	Rhinovirus
27	12	女	インフルエンザ	39℃，咳嗽，気管支炎，	ぬぐい液	12.13	Influenza virus A H3 NT
28	16	女	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃，上気道炎，	ぬぐい液	12.14	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264
29	2	女	感染性胃腸炎	下痢，嘔吐，嘔気，	ふん便	12.15	Sapovirus genogroup unknown
30	1	男	感染性胃腸炎	下痢，咳嗽，	ふん便	12.17	Echovirus 11 Norovirus GII NT
31	6	男	インフルエンザ	嘔吐，嘔気，	ぬぐい液	12.17	Influenza virus A H3 NT

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
32	2	男	インフルエンザ	39℃,	鼻腔	12.18	Influenza virus A H3 NT
33	11ヶ月	女	上気道炎	40℃, 上気道炎, 肝機能,	鼻腔	12.18	Cytomegalovirus
34	69	男	無菌性髄膜炎	40℃, 中枢神経系障害,	髄液	12.18	Herpes simplex virus 1
35	2	男	感染性胃腸炎	37℃, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	ふん便	12.22	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
36	1	女	感染性胃腸炎	下痢,	ふん便	12.22	Sapovirus genogroup unknown
37	9	女	-	発疹,	ぬぐい液	12.23	human parvovirus B19
38	43	男	インフルエンザ	40℃, 咳嗽,	ぬぐい液	12.24	Influenza virus A H1pdm09
39	2	女	インフルエンザ	40℃, 咳嗽, 上気道炎,	ぬぐい液	12.25	Influenza virus A H3 NT

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2018年												2018年 総計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1			1		1						3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T3			1											1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4				1		1		1						3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12						1		1						1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264					2		1	1			4	2	1	11
	Epstein-Barr virus													2	2
	計			2	1	2	3	1	3		4	2	3	21	
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	17	12	7	1	1								7	45
	Influenza virus A H1pdm09	28	3		1									2	34
	Influenza virus B Victoria	3	1		2										6
	Influenza virus B Yamagata	21	7	4	3										35
	計	69	23	11	7	1								9	120
咽頭結膜炎	Adenovirus 1	1					2						1		4
	Adenovirus 2	1	1		2	1		1							6
	Adenovirus 8								1	1					2
	Cytomegalovirus				1										1
	Enterovirus 71										1				1
	Herpes simplex virus 1							1							1
	Human herpes virus 6								1						1
	Rhinovirus			1						2			1	1	5
	計	2	1	1	2	2	2	2	2	3	1	2	1	2	21
	感染性胃腸炎	Adenovirus 2			1		1		1	1	1			2	1
Adenovirus 3											1				1
Adenovirus 40/41					1										1
Adenovirus 41					1	2		1							4
Astrovirus NT				1											2
Coxsackievirus A4													1	1	2
Coxsackievirus A9									1						1
Echovirus 7								1							1
Echovirus 11										1					2
Enterovirus 71						1								1	1
Enterovirus NT											1				1
Human metapneumovirus									1						1
Norovirus GI NT					1										1
Norovirus GII NT					3	2	2	2	2					4	22
Rotavirus group AG9		5	1	1	1		1								2
Rhinovirus					1			1							2
Sapovirus genogroup unknown		2			2	4	1	1		3			3	5	23
<i>Salmonella</i> Enteritidis				1	1	1	1		1				1	7	
計	7	1	3	9	11	6	9	7	3	4	6	13	13	79	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A2								1						1
	Coxsackievirus A4									1					1
	Coxsackievirus A9							1							2
	Coxsackievirus A10									1					1
	Cytomegalovirus				1						1				2
	Enterovirus 68										1				1
	Human herpes virus 6								2						2
	Parainfluenza virus 3								1						1
計					1	1	1	4	3	3				13	
手足口病	Adenovirus 1				1			1							2
	Coxsackievirus A4							1					1		1
	Coxsackievirus A9							1	1						2
	Coxsackievirus A16							1	5	7		2	2	2	17
	Cytomegalovirus							1	1	1					3
	Enterovirus 71	2	1		2	1	3	7	2	2				1	21
	Echovirus 7				1										1
	Epstein-Barr virus	1													1
	Human herpes virus 6					1									1
	Human herpes virus 7							2							3
	Human parvovirus B19								1		1				3
	Herpes simplex virus 1				1	2		1							4
	Rhinovirus						3	5		1	1	2			12
	計	3	1		5	4	8	17	10	12	3	3	3	3	69
流行性角結膜炎	Adenovirus 2														1
	Astrovirus NT														1
	Rhinovirus														1
計														2	
伝染性紅斑	Cytomegalovirus						1								1
	Coxsackievirus A9							1							1
	Herpes simplex virus 1								1						1
	Human herpes virus 7									1					1
	Human metapneumovirus			1											1
	Human parvovirus B19											1			1
	Rhinovirus							1		1					2
計			1		1		3	1	1		1			8	
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus											1			1
	Human herpes virus 7											1			1
	Mumps virus														1
	Parvovirus 1														1
計											2			3	
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4	1													1
	Echovirus 7									1					1
	Human herpes virus 7											1			2
	Herpes simplex virus 1												1		2
	Parvovirus 3														1
	Rhinovirus										1				1
計	1								3			1	1	8	
RSウイルス感染症	Coxsackievirus A4									1					1
	Respiratory syncytial virus										1				1
	Respiratory syncytial virus A	1								3					4
	Respiratory syncytial virus B														1
	Rhinovirus						1								1
計	1					2			1	4				8	
水痘	Varicella-zoster virus														1
突発性発疹	Adenovirus 2												1		1
	Cytomegalovirus					2									2
	Enterovirus 71														1
	Human herpes virus 6	1			1	2	1						1		6
計	1			1	2	1						1		6	
その他	Adenovirus 1		1			1			1						2
	Adenovirus 2			1	1	5	1			1		2			12
	Adenovirus 3												1		1
	Adenovirus 5			1		1									2
	Adenovirus 6													1	1
	Adenovirus 8														1
	Adenovirus 11												2		2
	Adenovirus 31												1		1
	Adenovirus 41				1	1									2
	Adenovirus 54											1			1
	Astrovirus NT						1								1
	Coxsackievirus A4							2	20	2	3				3
	Coxsackievirus A9											1			25
	Coxsackievirus A10										1				1
	Coxsackievirus B2								1						1
	Coxsackievirus B4														2
	Cytomegalovirus	1	1	1			2	2	3	1		3	1		13
	Echovirus 7							1							3
	Echovirus 18											1			1
	Echovirus 25									1					1
	Enterovirus 68												1		2
	Enterovirus 71						1	2	1		1				4
	Epstein-Barr virus	1	1						1			2			6
	Herpes simplex virus 1	1	1	1	2		3	3	1			1			13
	Human herpes virus 6	2	1	1	2	3	2	3				1			15
	Human herpes virus 7	1		</											

V 参 考

高知県の伝染病

高知県法定・指定伝染病患者(疑似を含む)疾病別年次別発生数

年	コレラ		赤痢(疫痢)		腸管性出血性大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		ジフテリア		流行性脳脊髄膜炎		日本脳炎		急性灰白髄炎		計	
	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数	患者数	死者数
昭和	30		647	31			40	1	1		118	2	11	3	72	26			889	63
	31		1,440	26			25	1	1		158	2	3		114	39			1,741	68
	32		1,704	23			37	1	2		260		6		59	27			2,068	51
	33		1,377	23			41		4		268	2	8	1	89	22			1,787	48
	34		2,107	24			17				595	17	7		47	18	9	3	2,782	62
	35		1,857	14			15		1		416	1	6	1	57	25	37	2	2,389	43
	36		1,640	14			14	1	1		267	4	2		77	35	29		2,030	54
	37		2,180	3			8				268	1	2		71	27	4	1	2,533	32
	38		724	10			7		3		296		3	1	18	9	1	1	1,052	21
	39		778	1			6				136		1		52	22	3		976	23
	40		1,151	4			1				71		3		28	9			1,254	13
	41		1,085	2			1		2		48		1		57	30	1		1,195	32
	42		1,119	2			1	1			57				41	18	1	1	1,219	22
	43		227				3				14				29	12	1	1	274	13
	44		338	3			2				7				13	8			360	11
	45		269				2				6				7	5			284	5
	46		38				7				1				9	4			55	4
	47		23				8				1				3	3			35	3
	48		16				1				6				5	1			28	1
	49		10				1				2		1						14	
	50		379								1				3	2			383	2
	51		25				2				1				4	3			32	3
	52		19				2		2		1				2	2			26	2
	53		21				2		1						2	1			26	1
	54		14				1				1				4	2			20	2
	55		14				3						2		3				22	
	56		1												1				2	
	57		3												4	1			7	1
	58		24				2												26	
	59		5						5		1								11	
	60	2	7						1						1				11	
	61		5								2				5				12	
	62		5				2												7	
	63		1																1	
平成	元		1																1	
	2		4												8	5			12	5
	3		2																2	
	4		2						1										3	
	5																			
	6	1	5	1															6	1
	7		2						1										3	
	8		3			13									1				17	
	9		11			5							1		2				19	
	10	1	3			19		1	1						1				26	
	11	1	1												1				3	

1. どうそう、発しんチフス、ペストについては、28年以降発生なし。
2. 腸管性出血性大腸菌感染症については、平成8年8月6日指定伝染病に指定された。
3. 平成11年は、3月31日まで、4月以降は感染症法により別掲。

高知県日本脳炎患者発生状況

年	患者発生数(人)		性別・年齢	診定月日	予 後	日脳汚染決定月日	
昭和	56	1	男 1	男 47歳	8月28日	転症	9月16日
	57	4	男 2 女 2 (1)	男 41歳	8月07日	治癒(真性)	7月21日
				男 81歳	8月14日	治癒(真性)	
				女 85歳	8月21日	死亡	
				女 6歳	8月31日	治癒(真性)	
	58						8月23日
	59						指定ならず
	60	1	男 1	男 81歳	8月24日	転症	8月07日
	61	5	男 2 女 3	男 42歳	8月06日	治癒(真性)	8月28日
				女 78歳	8月27日	治癒(疑似)	
女 76歳				8月29日	治癒(真性)		
女 68歳				9月03日	治癒(真性)		
62						8月19日	
						8月29日	
63						8月17日	
平成	元						8月17日
	2	8	男 6 (5) 女 2	男 49歳	8月14日	死亡(真性)	8月01日
				男 41歳	8月22日	死亡(真性)	
				男 31歳	8月29日	死亡(疑似)	
				女 45歳	9月03日	転症	
				男 90歳	9月08日	死亡(真性)	
				男 27歳	9月18日	転症	
				男 65歳	9月26日	死亡(真性)	
				女 68歳	10月13日	転症	
	3						8月02日
	4						8月27日
	5						8月28日
	6						8月03日
	7						8月16日
	8	1	男 1	男 73歳	8月23日	治癒(真性)	8月09日
	9	2	男 1 女 1	男 60歳	8月20日	治癒(真性)	8月01日
				女 59歳	9月30日	治癒(真性)	
	10	1	女 1	女 86歳	8月04日	治癒(疑似)	7月17日
	11	1	男 1	男 56歳	8月20日	治癒(真性)	7月16日
	12	1	女 1	女 71歳	9月12日	治癒(真性)	7月19日
	13	1	女 1	女 11歳	10月30日	治癒(真性)	8月24日
	14						7月23日
	15						7月04日
	16						7月12日
	17						6月30日
	18	1	男 1	男 46歳	9月01日	治癒(真性)	8月03日
	19						8月03日
	20						7月23日
21	1	女 1	女 1歳	10月23日	治癒(真性)	7月17日	
22	1	男 1	男 70歳	11月22日	治癒(真性)	9月03日	
23						9月16日	
24						8月01日	
25						7月16日	
26						8月01日	
27						7月17日	
28						7月15日	

注：平成14年から日脳汚染決定年月日を日本脳炎ウイルス感染の注意報発令に変更（ ）内死亡数

VI そ の 他

高知県感染症発生動向調査事業実施要綱

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和54年6月から県単独で、昭和56年7月からは全国レベルで開始され、さらに昭和62年1月からコンピュータを用いたオンラインシステムにおいて27疾患を対象にする等、充実・拡大されて運用されてきたところである。平成10年9月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第114号。以下「法」という。）が成立し、平成11年4月から施行されたことに伴い、法に基づく施策として感染症発生動向調査が位置づけられた。本事業は、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の県民や医療関係者への的確な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として、医師等の医療関係者の協力のもと、的確な体制を構築していくこととする。

第2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る.）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る.）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む.）、(22) A型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る.）、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く.）、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) Bウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、

(56) 野兔病, (57) ライム病, (58) リッサウイルス感染症, (59) リフトバレー熱, (60) 類鼻疽, (61) レジオネラ症, (62) レプトスピラ症, (63) ロッキー山紅斑熱

五類感染症

(64) アメーバ赤痢, (65) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く.), (66) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症, (67) 急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く.), (68) 急性脳炎 (ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く.), (69) クリプトスポリジウム症, (70) クロイツフェルト・ヤコブ病, (71) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症, (72) 後天性免疫不全症候群, (73) ジアルジア症, (74) 侵襲性インフルエンザ菌感染症, (75) 侵襲性髄膜炎菌感染症, (76) 侵襲性肺炎球菌感染症, (77) 水痘 (患者が入院を要すると認められるものに限る.) (78) 先天性風しん症候群, (79) 梅毒, (80) 播種性クリプトコックス症, (81) 破傷風, (82) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症, (83) バンコマイシン耐性腸球菌感染症, (84) 百日咳, (85) 風しん, (86) 麻しん, (87) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(112) 新型インフルエンザ, (113) 再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症 (定点)

(88) R S ウイルス感染症, (89) 咽頭結膜熱, (90) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎, (91) 感染性胃腸炎, (92) 水痘, (93) 手足口病, (94) 伝染性紅斑, (95) 突発性発しん, (96) ヘルパンギーナ, (97) 流行性耳下腺炎, (98) インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く.), (99) 急性出血性結膜炎, (100) 流行性角結膜炎, (101) 性器クラミジア感染症, (102) 性器ヘルペスウイルス感染症, (103) 尖圭コンジローマ, (104) 淋菌感染症, (105) クラミジア肺炎 (オウム病を除く.), (106) 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌, 髄膜炎菌, 肺炎球菌を原因として同定された場合を除く.), (107) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症, (108) マイコプラズマ肺炎, (109) 無菌性髄膜炎, (110) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症, (111) 薬剤耐性緑膿菌感染症
法第14条第1項に規定する厚生労働省で定める疑似症

(114) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く.)
若しくは (115) 発熱及び発しん又は水疱 (ただし, 当該疑似症が二類感染症, 三類感染症, 四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く.)

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13) 鳥インフルエンザ (H5N1)

第3 実施主体

実施主体は, 高知県及び高知市とする.

1 高知県感染症情報センター及び基幹高知県感染症情報センター

高知県感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を衛生研究所内に設置し、高知県における基幹の感染症情報センターとしての役割を併せ持ち、高知市を含む高知県域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、高知県健康政策部健康対策課（組織改正や名称変更等があった場合は、事務を引き継いだ所管課、以下「本庁担当課」という。）に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに県民及び保健所（高知市含む、以下同じ。）及び医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（別紙）

(1) 定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。

(2) 定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

3 感染症発生動向調査部会

県内における情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、高知県医師会、高知大学医学部附属病院等感染症に関する専門の学識経験者の代表等からなる高知県感染症対策協議会の中に感染症発生動向調査部会を置く。部会の事務局は、本庁担当課で行う。

4 検査施設

県内における本事業に係る検体等の検査については、平成27年11月17日付厚生労働省結核感染症課長通知別添の検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査業務管理要領」という。）に基づき、衛生研究所又は保健所の検査施設（以下「衛生研究所等」という。）において実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

第4 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第2の(75)、(85)及び(86)）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第2の(75)、(85)及び(86)）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を届出基準等通知に基づき診断した医師は、別に定める基準（平成18年3月8日付け健感発第0308001号「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出基準等について」（以下、「医師の届出基準等通知」という。））に基づく様式のうち該当する感染症の様式（別記様式1-1～4-44、5-12、5-22～5-23、新型インフルエンザ等感染症については別に定める）により、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1の検査票（特別に様式を指定する感染症にあってはそ

の様式、以下同じ。)を添付して提供する。

ウ 保健所

- ① 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持している医療機関等に対して、必要に応じて病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所と協議する。
- ② 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1の検査票を添付して衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。
- ③ 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報について、地域の特性に応じた適切な方法を用い、週報（月単位の場合は月報）等として、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

エ 衛生研究所等

- ① 衛生研究所等は、別記様式1の検査票及び検体等が提供された場合は、病原体検査業務管理要領に基づき当該検体等を検査し、別記様式1に検査結果を記入のうえ保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、本庁担当課及び感染症情報センターに送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター内に設置、以下同じ。）に報告する。
- ② 検査のうち、衛生研究所等において実施困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- ③ 衛生研究所等は、県域を越えた感染症の集団感染が発生する等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

オ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、高知県域で得られた患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- ② 感染症情報センターは、高知県域において得られた全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

2 全数把握対象の五類感染症（第2の(75)、(85)及び(86)を除く。）

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

全数把握対象の五類感染症（第2の（75）、（85）及び（86）を除く。）の患者を医師の届出基準等通知に基づき診断した医師は、医師の届出基準等通知に基づく様式のうち該当する感染症の様式（別記様式5-1～5-11、5-13～5-21、5-24）により、診断後7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1の検査票を添付して提供する。

ウ 保健所

- ① 当該届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所と協議する。
- ② 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1の検査票を添付して衛生研究所等へ検査を依頼する。
- ③ 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報について、地域の特性など必要に応じて週報（月単位の場合は月報）等として、地域住民及び市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

エ 衛生研究所等

- ① 衛生研究所等は、別記様式1の検査票及び検体等が提供された場合は、病原体検査業務管理要領に基づき当該検体等を検査し、別紙様式1に検査結果を記入のうえ保健所を經由して診断した医師に通知するとともに、本庁担当課及び感染症情報センターに報告する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- ② 検査のうち、衛生研究所等において実施困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- ③ 衛生研究所等は、県域を越えた感染症の集団感染が発生する等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

オ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、高知県域で得られた患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- ② 感染症情報センターは、高知県域において得られた全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携

の上、迅速な対応を行う。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

定点把握対象の五類感染症について、医師の届出基準等通知の報告基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、患者定点を選定する。

- ① 人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。
- ② 対象感染症のうち、第2の(88)から(97)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。小児科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～3万人	1
3万人～7.5万人	2
7.5万人～	$3 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 5\text{万人}$

- ③ 対象感染症のうち、第2の(98)に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記②で選定した小児科定点のうち、インフルエンザ定点として協力をする小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせたインフルエンザ定点及び別途後記⑥に定める基幹定点とする。内科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～7.5万人	1
7.5万人～12.5万人	2
12.5万人～	$3 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

なお、基幹定点における届出基準は、インフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定されることに留意すること。

- ④ 対象感染症のうち、第2の(99)及び(100)に掲げるものについては、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。眼科定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
～12.5万人	0
12.5万人～	$1 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 15\text{万人}$

(注) 総定点数が3未満と計算された場合は、3 定点とする。

- ⑤ 対象感染症のうち、第2の(101)から(104)に掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科(産婦人科系)、医療法施行令(昭和23年政令第326号)第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関(主として各々の標榜科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は下記の計算式を参考として算定する。

保健所管内人口	定点数
~7.5万人	0
7.5万人~	$1 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 13\text{万人}$

(注) 産婦人科系と泌尿器科・皮膚科系が同数になるよう指定する。

- ⑥ 対象感染症のうち、第2の(91)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(105)から(111)までに掲げるものについては、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を2次医療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、県は、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て病原体定点を選定する。

- ① 人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。
- ② 医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。
- ③ アの②により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点として、第2の(88)から(97)までを対象感染症とする。
- ④ アの③により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点として、第2の(98)を対象感染症とする。なお、インフルエンザ病原体定点の選定に当たっては、小児科定点から10%以上及び内科定点から10%以上を、それぞれ3定点と2定点を下回らないよう選定することとし、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として指定する。
- ⑤ アの④により選定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として、第2の(99)及び(100)を対象感染症とする。
- ⑥ アの⑥により選定された患者定点の全てを基幹病原体定点として、第2の(91)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(106)及び(109)を対象感染症とする。

(3) 調査単位等

ア 患者情報のうち、(2)のアの②、③、④及び⑥(第2の(107)、(110)及び(111)に関する患者情報を除く。)により選定された患者定点に関するものについては、1週間(月曜日から日曜日)を調査単位として、(2)のアの⑤及び⑥(第2の(107)、(110)及び(111)に関する患者情報のみ)により選定された患者定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

イ 病原体情報のうち、(2)のイの④により選定された病原体定点に関するものについては、第2の(98)に掲げるインフルエンザの流行期((2)のアの③により選定された患者定点当たりの患者発生数が1を超えた時点から1を下回るまでの間)には1週間(月曜日から日曜日)を調査単位とし、非流行期(流行期以外の期間)には各月を調査単位とする。その他の病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- ① 患者定点として選定された医療機関(以下「定点医療機関」という。)は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における医師の届出基準等通知の報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。
- ② 定点医療機関は、別記様式7-1～7-6に、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。
- ③ 上記②による患者情報については、調査単位が週の場合は翌週の月曜日に、月単位の場合は翌月の初日に保健所への発送を行う。この場合において、提供の方法については、患者情報の円滑な収集の観点から、地域の特性に応じた適切な方法を採用することができるものとする。

イ 病原体定点

- ① 病原体定点として選定された医療機関(以下「病原体定点医療機関」という。)は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。
- ② 病原体定点は、検体等について、別記様式8の検査票を添えて、速やかに衛生研究所等へ送付する。
- ③ (2)のイの③により選定された病原体定点においては、第2の(88)から(97)までの対象感染症のうち、患者発生状況等を踏まえ、別に定める病原体検査業務管理要領により選定した複数の感染症について、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1検体を送付するものとする。
- ④ (2)のイの④により選定された病原体定点においては、第2の(98)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式8の検査票を添付して提供する。

エ 保健所

- ① 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は、調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても本庁担当課及び感染症情報センターへ報告する。また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式8の検査票を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所と協議する。

② 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式 8 の検査票を添付して衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。

③ 保健所は、感染症情報センターが出す患者情報及び病原体情報を把握し、地域の特性など必要に応じて週報（月単位の場合は月報）として、地域住民及び市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

オ 衛生研究所等

① 衛生研究所等は、別記様式 8 の検査票及び検体等が提供された場合は、病原体検査業務管理要領に基づき当該検体を検査し、その結果を別記様式 8 に記載し病原体情報として病原体定点に通知するとともに、本庁担当課及び感染症情報センターに送付する。また、病原体情報については、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

② 検査のうち、衛生研究所等において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

③ 衛生研究所等は、県域を越えた感染症の集団感染が発生する等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

カ 感染症情報センター

① 感染症情報センターは、県域内の患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

② 感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される県及び全国情報と併せて、県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

4 法第14条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、医師の届出基準等通知を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症の発生状況を地域的に把握するため、県は次の点に留意し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。

また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の疑似症の発生状況を把握できるよう考慮する。

対象疑似症のうち、第 2 の (114) に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）又は内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供

しているもの)を第一号疑似症定点として指定する。

また、第2の(115)に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関(主として小児科医療を提供しているもの)、内科を標榜する医療機関(主として内科医療を提供しているもの)又は皮膚科を標榜する医療機関(主として皮膚科医療を提供しているもの)を第二号疑似症定点として指定する。

なお、各疑似症定点の数は下記の計算式を参考として算定するとともに、内科を標榜する医療機関については、第4の3(2)ア⑥に掲げる基幹定点の要件を満たす病院を2次医療圏域毎に1カ所以上含むよう考慮する。

保健所管内人口	定点数
～3万人	3
3万人～7.5万人	4
7.5万人～12.5万人	7
12.5万人～	$7 + 6 \times (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- ① 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における医師の届出基準等通知の報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- ② 疑似症定点においては、別記様式7-7に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載し、最寄りの保健所に電話連絡後FAXする。

イ 保健所

- ① 届出を受けた保健所は、疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても本庁担当課及び感染症情報センター及び中央感染症情報センターへ報告する。
- ② 保健所は、感染症情報センターが出す疑似症情報等について、必要に応じて週報等として、地域住民及び市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供し連携を図る。

ウ 感染症情報センター

- ① 感染症情報センターは、県域内の疑似症情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- ② 感染症情報センターは、県域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される県及び全国情報と併せて、県民及び保健所、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

エ 本庁担当課

本庁担当課は、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁担当課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な

対応を行う。

5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 保健所

鳥インフルエンザ（N5H1）に係る積極的疫学調査を実施した保健所は、別に定める基準（届出基準等通知）に従い、直ちに疑い症例調査支援システムに調査内容を入力するものとする。

なお、医療機関より提出される検体は、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を添付し、衛生研究所に送付する。

(2) 衛生研究所等

ア 衛生研究所等は、検査依頼票及び検体等が送付された場合は、当該検体等を病原体検査指針に基づき検査し、その結果を検体等を提供した医療機関及び保健所に通知する。通知を受けた保健所においては、その内容を直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 鳥インフルエンザ（N5H1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合は、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。

6 その他

感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明のうえ、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。

第5 実施時期

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

この要綱は、平成15年11月5日から施行する。

この要綱は、平成18年11月22日から施行する。

この要綱は、平成20年1月1日から施行する。

この要綱は、平成22年2月23日から施行する。

この要綱は、平成23年3月8日から施行する。

この要綱は、平成23年7月4日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

この要綱は、平成23年9月5日から施行する。ただし、第4の3の(2)の③の指定については、平成23年7月29日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年3月4日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年4月1日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年5月6日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年5月12日から施行する。ただし、第2の1の指定感染症（107）鳥インフルエンザ（H7N9）の指定期間延長については平成26年4月25日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成27年5月21日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成28年4月1日から施行する。ただし、第2の1の対象感染症の追加に係る改正については、平成28年2月15日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成30年1月1日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成30年3月9日から施行し、平成30年3月1日から適用する。

この実施要綱の一部改正は、平成30年5月1日から施行する。

別紙 感染症発生動向調査定点医療機関

病原体検査定点数	4	2	10	0	2	0	0	8	
HC	市町村名	ICU/ICU・小児科定点名(30)	小児科定点名(18)	小児科定点名(30)	STD定点名(6)	眼科定点名(3)	第一号疑似症定点名(39)	第二号疑似症定点(39)	基準定点名(8)
安芸	室戸市	室戸中央病院 0887-34-3111	ICU/ICU・内科定点名(18)	室戸中央病院 0887-23-3311	室戸中央病院	室戸中央病院	室戸中央病院	室戸中央病院	室戸中央病院
	安芸市	県立あき総合病院 0887-34-3111	県立あき総合病院	県立あき総合病院	県立あき総合病院	県立あき総合病院	県立あき総合病院	県立あき総合病院	県立あき総合病院
	田野町	田野病院 0887-38-7111	田野病院	田野病院	田野病院	田野病院	田野病院	田野病院	田野病院
		高知大学医学部 088-866-5811	高知大学医学部	高知大学医学部	高知大学泌尿器科 高知大学産婦人科	高知大学医学部	高知大学医学部	高知大学医学部	高知大学医学部
中央東	窪川市	JA高知病院 089-863-2121	JA高知病院	JA高知病院	JA高知病院	JA高知病院	JA高知病院	JA高知病院	JA高知病院
		田村こどもクリニック 088-863-0723	田村こどもクリニック	田村こどもクリニック	田村こどもクリニック	田村こどもクリニック	田村こどもクリニック	田村こどもクリニック	田村こどもクリニック
		いちほら内科小児科 088-863-3915	いちほら内科小児科	いちほら内科小児科	いちほら内科小児科	いちほら内科小児科	いちほら内科小児科	いちほら内科小児科	いちほら内科小児科
		野市中央病院 0887-55-1101	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院	野市中央病院
高知市		おひさまこどもクリニック 0887-57-8880	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック	おひさまこどもクリニック
		早明浦病院 0887-82-0456	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院	早明浦病院
		国立病院機構高知病院 088-844-3111	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院	国立病院機構高知病院
		細木病院 088-822-7211	細木病院	細木病院	細木病院	細木病院	細木病院	細木病院	細木病院
高知市		矢野小児科 088-875-0178	矢野小児科	矢野小児科	矢野小児科	矢野小児科	矢野小児科	矢野小児科	矢野小児科
		福井小児科 088-824-6556	福井小児科	福井小児科	福井小児科	福井小児科	福井小児科	福井小児科	福井小児科
		高知赤十字病院 088-822-1201	高知赤十字病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院
		三愛病院 088-845-5291	三愛病院	三愛病院	三愛病院	三愛病院	三愛病院	三愛病院	三愛病院
		高知医療センター 088-837-3000	高知医療センター	高知医療センター	高知医療センター	高知医療センター	高知医療センター	高知医療センター	高知医療センター
		けら小児科・アレルギー科 088-860-1350	けら小児科・アレルギー科	けら小児科・アレルギー科	けら小児科・アレルギー科	けら小児科・アレルギー科	けら小児科・アレルギー科	けら小児科・アレルギー科	けら小児科・アレルギー科
		ふないキッズクリニック 088-832-2271	ふないキッズクリニック	ふないキッズクリニック	ふないキッズクリニック	ふないキッズクリニック	ふないキッズクリニック	ふないキッズクリニック	ふないキッズクリニック
		依田内科 088-841-1170	依田内科	依田内科	依田内科	依田内科	依田内科	依田内科	依田内科
		ほまた小児科 088-805-0855	ほまた小児科	ほまた小児科	ほまた小児科	ほまた小児科	ほまた小児科	ほまた小児科	ほまた小児科
			近藤病院 088-822-5231	近藤病院	近藤病院	近藤病院	近藤病院	近藤病院	近藤病院
佐川町		くぼたこどもクリニック 0889-22-0666	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック	くぼたこどもクリニック
			高北病院 0889-22-1166	高北病院	高北病院	高北病院	高北病院	高北病院	高北病院
中央西	日高村	日高クリニック 0889-24-7785	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック	日高クリニック
	土佐市	石黒小児科 088-852-0100	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科	石黒小児科
須崎		もりはた小児科 0889-48-2211	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科	もりはた小児科
		大西病院 0880-22-1191	大西病院	大西病院	大西病院	大西病院	大西病院	大西病院	大西病院
	四万十町		くぼかわ病院 0880-22-1111	くぼかわ病院	くぼかわ病院	くぼかわ病院	くぼかわ病院	くぼかわ病院	くぼかわ病院
		こいけクリニック 0880-35-5113	こいけクリニック	こいけクリニック	こいけクリニック	こいけクリニック	こいけクリニック	こいけクリニック	こいけクリニック
幡多	四万十市	さたけ小児科 0880-37-2255	さたけ小児科	さたけ小児科	さたけ小児科	さたけ小児科	さたけ小児科	さたけ小児科	さたけ小児科
		幡多けんみん病院 0880-48-2222	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院	幡多けんみん病院
	宿毛市	大井田病院 0880-63-2101	大井田病院	大井田病院	大井田病院	大井田病院	大井田病院	大井田病院	大井田病院
	土佐清水市	滑南病院 0880-2-1511	滑南病院	滑南病院	滑南病院	滑南病院	滑南病院	滑南病院	滑南病院
		松谷病院 0880-82-0001	松谷病院	松谷病院	松谷病院	松谷病院	松谷病院	松谷病院	

※斜体は病棟検査定点

□□-□□-□□

□□□□-□□□□□□-□□□□□□

□□□□□□□□□□

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型コロナウイルス感染症及び指定感染症検査票(病原体)

性別	(男・女)
年齢	(歳 月)
氏名	
住所	
[主治医等記載欄]	
医療機関等名及び主治医等医師名(記載者)	定症医療機関の場合は該当するものを○で囲んでください ・インフルエンザ定点 ・小児科定点 ・眼科定点 ・性感染症定点 ・基幹定点
検体送付日	年 月 日 分離株(無、有、検査中)
診断名	
発病日	年 月 日 入院
入院・外来の別	外来
検採取日	年 月 日
査材料の種類	・ふん便(腸内容物、直腸ぬぐい液) ・髄液 ・尿 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・咽頭ぬぐい液(のどがけ液、鼻汁) ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・陰部尿道頸管擦過物/分泌物 [該当するもの一つを○で囲んで下さい]
材料	・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・細胞診、生検、剖検材料(臓器) ・血液(全血、血清、血漿、血漿、抗凝固剤) ・その他()
臨床徴候等	・発熱(最高℃) ・熱性けいれん ・関節痛(関節炎、筋肉痛) ・口内炎 ・上気道炎(咽頭炎/痛、扁桃炎) ・下気道炎(肺炎、気管支炎) ・水疱 ・発疹(丘疹、紅斑、麻疹) ・出血傾向※全身性のもの ・リンパ節腫脹(部位)、唾液腺腫脹、浮腫(部位) ・ショック症状(低血圧、循環不全) ・その他の症状(上記以外の症状や臨床徴候) []
基礎疾患	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)
転帰	
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項	
*インフルエンザ迅速キット使用(無、有、メーカー名 []) *抗インフルエンザ薬投与(無、有、薬剤名 []) []: [陰性、陽性、保留]] 投与開始日 年 月 日 [予防投与、治療投与] 投与終了日 年 月 日	

[保健所等記載欄](主治医記載可)

発生の状況	・散発 ・集団発生(無、有) ・発生市区町村() ・地域流行 ・家族内発生(無、有) 有の場合(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舍・寮、病院、老人ホーム[介護施設を含む]、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、海外ツアー、国内ツアー、その他[])
最近の海外渡航歴	国名 年 月 日 ~ 年 月 日
ワクチン接種歴	(無、有、不明) 最終接種年月日 年 月 日 ワクチン名 (Lot No.)
[地方衛生研究所記載欄]	
記載者名	
抗体検出方法	(蛍光、IP、ELISA、CF、HI、PA、中和、イムノプロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他[])
結果	()
検出年月日	年 月 日
検出方法	・分離培養(培養細胞:細胞名 []) 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []) ・抗原検出(蛍光、EIA、RPHA、LA、PA、IC[イムノクロマト]、その他 []) ・遺伝子検出 1.非増幅(ハイブリ)、PAGE、その他 []) 2.増幅(PCR、リアルタイムハイブリ、PCR+シーケンエクス、LAMP、その他 []) ・電顕 ・鏡検
検出病原体(群、型、重型)	
[その他特記事項]	

注1)患者の氏名及び住所欄については、感染症法第16条の3、第26条の4、第44条の7及び第50条に基づく一類感染症、二類感染症、新型コロナウイルス感染症又は新感染症に係る検査の場合に記載をお願いします。
注2)主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
注3)ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。
注4)医療機関(民間検査所を含む)で病原体を分離した場合、地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

工ボラ出血熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届出する。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
3性別
4 生年月日
5診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9,10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 発熱・頭痛・腹痛・胸痛・出血・その他
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫の種類・状況)
3 針等の鋭利なものによる感染(刺入物による感染(刺入物の種類・状況)
4 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検案)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日
17 死亡年月日(※)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 13欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに持ってってください

クリミア・コンゴ出血熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届出する。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
3性別
4 生年月日
5診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9,10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 発熱・頭痛・腹痛・胸痛・出血・その他
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫の種類・状況)
3 針等の鋭利なものによる感染(刺入物による感染(刺入物の種類・状況)
4 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検案)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日
17 死亡年月日(※)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 13欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断後直ちに持ってってください

痘 そ う 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名, 10. 保護者住所

Table with 2 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 2 columns: 13. 初診年月日, 14. 診断(検案)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 10. 11. 12欄は該当する番号等を○で囲み、4. 12から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

南 米 出 血 熱 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 6 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名, 10. 保護者住所

Table with 2 columns: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域

Table with 2 columns: 13. 初診年月日, 14. 診断(検案)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日, 19. その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

ペスト発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにに行ってください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

マールブルグ病発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにに行ってください

11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

ラ ッ サ 熱 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・疑似症患者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(歳)は月齢 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保腫者氏名 10 保腫者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -

11 症状
・発熱 ・全身倦怠感 ・咽頭痛 ・関節痛 ・咳 ・咽頭痛 ・筋肉痛 ・心窩部痛 ・後胸部痛
・嘔吐 ・下痢 ・腹痛 ・腰痛
・腹痛や腫 ・頭痛や腫 ・眼球出血 ・結膜出血
・消化管出血 ・心膜炎 ・胸膜炎 ・ショック
・その他 ()
・なし
12 診断方法
・分潤・同定による病原体の検出
検体:血液・その他 ()
・ELISA 法による病原体抗原の検出
検体:血液・尿・咽頭拭い液・その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体:血液・尿・咽頭拭い液・その他 ()
・蛍光抗体法による血清抗体の検出 (IgM・IgG)
・その他の方法 ()
検体 ()
結果 ()
臨床決定 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 接触感染 (接触した人・物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 針等の鋭利なもの刺入による感染 (刺入物の種類・状況)
4 輸血・血液製剤 (輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに実行してください

急性灰白髄炎発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(歳)は月齢 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保腫者氏名 10 保腫者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -

11 症状
・発熱 ・全身倦怠感 ・咽頭痛 ・頭痛
・腹痛 ・項部硬直 ・弛緩性麻痺
・その他 ()
・なし
12 診断方法
・分潤・同定による病原体の検出
検体:便・その他 ()
・その他の方法 ()
検体 ()
結果 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 経口感染 (飲食物の種類・状況)
2 接触感染 (接触した人・物の種類・状況)
3 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
③ポリオ含有ワクチン接種歴 (有・無・不明)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに実行してください

結核発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・疑似症患者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2. 当該者氏名; 7. 当該者住所; 8. 当該者所在地; 9. 保羅者氏名

Main table for tuberculosis reporting with columns for symptoms (11), diagnosis methods (12), and infection details (18). Includes sub-tables for 11 (Symptoms), 12 (Diagnosis Methods), and 18 (Infection Details).

この届出は診断後直ちにに行ってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ジフテリア発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体; 2. 当該者氏名; 7. 当該者住所; 8. 当該者所在地; 9. 保羅者氏名

Main table for diphtheria reporting with columns for symptoms (11), diagnosis methods (12), and infection details (18). Includes sub-tables for 11 (Symptoms), 12 (Diagnosis Methods), and 18 (Infection Details).

この届出は診断後直ちにに行ってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

重症急性性呼吸器症候群 (SARS) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地 (※) 電話番号 (※) (署名又は記名押印のこと)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2. 当該者氏名, 3. 性別, 4. 生年月日, 5. 診断時の年齢, 6. 当該者職業, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名, 10. 保護者住所.

Table with 2 columns: 11. 症状 (発熱, 咳, 全身倦怠感, etc.), 12. 診断方法 (検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出, etc.), 18. 感染原因・感染経路・感染地域.

Table with 4 rows: 13. 初診年月日, 14. 診断 (検案) 年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日.

(1. 3. 11. 12. 16 欄は該当する番号等○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (※)欄は、患者 (前定例) を診断した場合のみ記入すること。 11. 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

中東呼吸器症候群 (MERS) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地 (※) 電話番号 (※) (署名又は記名押印のこと)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2. 当該者氏名, 3. 性別, 4. 生年月日, 5. 診断時の年齢, 6. 当該者職業, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名, 10. 保護者住所.

Table with 2 columns: 11. 症状 (発熱, 咳, 咳以外の急性性呼吸器症状, etc.), 12. 診断方法 (検体から直接のPCR法による病原体の遺伝子の検出, etc.), 18. 感染原因・感染経路・感染地域.

Table with 4 rows: 13. 初診年月日, 14. 診断 (検案) 年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日.

(1. 3. 11. 12 及び 16 欄において該当する番号等を○で囲み、4. 5 及び 13 から 17 までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (※)欄は、患者 (前定例) を診断した場合のみ記入すること。 11 及び 12 欄においては、該当するものを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

鳥インフルエンザ (H 5 N 1) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)

Table with 6 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢 (0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保腫者氏名, 10 保腫者住所

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日 (*), 17 死亡年月日 (※)

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者 (確定例) を診断した時点のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに... (Text partially obscured)

鳥インフルエンザ (H 7 N 9) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)
(署名又は記名押印のこと)

Table with 6 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢 (0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保腫者氏名, 10 保腫者住所

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断 (検案) 年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日 (*), 17 死亡年月日 (※)

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (*)欄は、患者 (確定例) を診断した時点のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに... (Text partially obscured)

コロナ発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名、印、報告年月日、平成 年 月 日、(署名又は記名押印のこと) 従事する施設・診療所の名称、上記病院・診療所の所在地、電話番号

1 診断(検査)した者(死体)の種類、患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体、感染者の死体、2 当該者氏名、3性別、4 生年月日、5診断時の年齢(0歳は月齢)、6 当該者職業、7 当該者住所、8 当該者所在地、9 保護者氏名、10 保護者住所

11 症状、12 診断方法、18 感染原因・感染経路・感染地域、19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等をOで囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

細菌性赤痢発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名、印、報告年月日、平成 年 月 日、(署名又は記名押印のこと) 従事する施設・診療所の名称、上記病院・診療所の所在地、電話番号

1 診断(検査)した者(死体)の種類、患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体、感染者の死体、2 当該者氏名、3性別、4 生年月日、5診断時の年齢(0歳は月齢)、6 当該者職業、7 当該者住所、8 当該者所在地、9 保護者氏名、10 保護者住所

11 症状、12 診断方法、18 感染原因・感染経路・感染地域、19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等をOで囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。)(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

腸管出血性大腸菌感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main diagnostic table with columns for symptoms (11), laboratory findings (12), and other information (18-19). Includes sections for 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, and 19 医師が必要と認める事項.

この届出は、診断後直ちに行ってください

Table for 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日(*), 17 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

腸チフス発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Main diagnostic table with columns for symptoms (11), laboratory findings (12), and other information (18-19). Includes sections for 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, and 19 医師が必要と認める事項.

この届出は、診断後直ちに行ってください

Table for 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日(*), 17 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

パラチフス発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(前定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9,10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状
・高熱 ・比較的頻脈 ・ハツ疹 ・脾腫
・下痢 ・便秘 ・腸出血 ・腸穿孔
・意識障害 ・嘔吐 ・胆石 ・急性胆嚢炎
・その他 ()
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
検体:血液・骨髄液・便・尿・胆汁・その他
フアージ型:()
・その他の方法()
検体()
結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内()
2 国外()
詳細地域()
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日
14 診断(検査(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 13欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(前定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに持ってくださ

E型肝炎発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(前定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9,10は患者が未成年の場合のみ記入)

11 症状
・発熱 ・全身倦怠感
・食欲不振 ・黄疸
・肝機能異常 ・肝腫大
・その他()
・なし
12 診断方法
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体:血液・便・その他()
遺伝子型:G1・G2・G3・G4
・血清IgM抗体の検出
・血清IgA抗体の検出
・その他の方法()
検体()
結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
4 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内()
2 国外()
詳細地域()
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日
14 診断(検査(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1, 3, 11, 12, 13欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(前定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに持ってくださ

ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む）発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)
従事する施設・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9、10)は患者が未成年の場合のみ記入
電話番号() -

11 症状
・発熱 ・頭痛 ・筋肉痛
・リンパ節腫脹 ・痲痺 ・痲痺
・意識障害 ・筋力低下
・副鼻腔炎 ・脳炎
・その他()
12 状態
・なし
・分瀾・同定による病原体の検出
検体:血液・髄液・その他()
検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体:血液・髄液・その他()
・IgM抗体の検出
検体:血清・髄液・その他()
・ベア血清での中和抗体の検出
結果:抗体陽転・抗体価の有意上昇
・その他の方法()
検体()
結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

A型肝炎発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
印
(署名又は記名押印のこと)
従事する施設・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保羅者氏名 10 保羅者住所 (9、10)は患者が未成年の場合のみ記入
電話番号() -

11 症状
・全身倦怠感 ・発熱 ・黄疸
・食欲不振 ・肝機能異常
・肝腫大 ・その他()
・なし
12 状態
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体:血液・便・その他()
・血清IgM抗体の検出
検体()
結果()
・その他の方法()
検体()
結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 性的接触(A:性交 B:経口)(A:同性間 I:異性間 U:不明)
4 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
③A型肝炎ワクチン接種歴(有・無・不明)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日 平成 年 月 日
14 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

エギノコックス症発生病

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
(9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話() 電話()

18 感染原因・感染経路・感染地域
1) 多包虫、2) 単包虫
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 経口感染(飲食物の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに執行してください

黄熱発生病

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
(9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話() 電話()

18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(詳細地域)
③黄熱ワクチン接種歴(有・無・不明)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日
14 診断(検案(※))年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに執行してください

帰熱発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(署名又は記名押印のこと) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
3性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

キヤサヌル森林病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(署名又は記名押印のこと)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
3性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
12 診断方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

Q 熱 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体 2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業 7 当該者住所 8 当該者所在地 9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話() 電話()

11 症状 12 診断方法 18 感染原因・感染経路・感染地域 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

狂 犬 病 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体 2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(0歳は月齢) 6 当該者職業 7 当該者住所 8 当該者所在地 9 保護者氏名 10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話() 電話()

11 症状 12 診断方法 18 感染原因・感染経路・感染地域 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

腎 症 候 性 出 血 熱 (HFRS) 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Main table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

西 部 ウ マ 脳 炎 発 生 届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断 (検案) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Main table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ダニ媒介脳炎発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類・患者(確定例)・無症状病原体保有者、2 当該者氏名、7 当該者住所、8 当該者所在地、9 保護者氏名、10 保護者住所

Main table with 11 rows: 11 症状、12 診断方法、18 感染原因・感染経路・感染地域、19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医師のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに引っ行ってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

炭疽発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類・患者(確定例)・無症状病原体保有者、2 当該者氏名、7 当該者住所、8 当該者所在地、9 保護者氏名、10 保護者住所

Main table with 11 rows: 11 症状、12 診断方法、18 感染原因・感染経路・感染地域、19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医師のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに引っ行ってください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

チクングニア熱発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症 状
12 診 断 方 法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

つつが虫病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
2 当該者氏名
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名

11 症 状
12 診 断 方 法
18 感染原因・感染経路・感染地域
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちにしてください

(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

デング熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者住所. Includes fields for patient name, sex, age, and address.

Main table for Dengue fever reporting. Columns include: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他. Includes detailed medical and epidemiological information.

この届出は、診断後直ちに帰国していただくこと。

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

東部ウマ脳炎発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 2 columns: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者住所. Includes fields for patient name, sex, age, and address.

Main table for Eastern Equine Encephalitis reporting. Columns include: 11. 症状, 12. 診断方法, 18. 感染原因・感染経路・感染地域, 19. その他. Includes detailed medical and epidemiological information.

この届出は、診断後直ちに帰国していただくこと。

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9) を除く。

発生病

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 10 rows: 1 診断 (検査) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Table with 18 rows: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため

この届出は診断後直ちにこの届出は診断後直ちに

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

三パウウイルス感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
報告年月日 平成 年 月 日
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 10 rows: 1 診断 (検査) した者 (死体) の類型, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所

Table with 18 rows: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため

この届出は診断後直ちにこの届出は診断後直ちに

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

日本紅斑熱発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -
電話 () -

11 症状
・発熱
・頭痛
・嘔吐
・意識障害
・痲痺
・DIC
・その他 ()
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体: 血液・その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・抗体: 血液・その他 ()
・間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清抗体の検出
結果: IgM抗体 ・ ペア血清での抗体陽転 ・ ペア血清での抗体面の有意上昇
・その他の方法 ()
・抗体: ()
・検体: ()
・結果 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 () 都道府県 () 市区町村 ()
2 国外 () 国 () 詳細地域 ()
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日
14 診断 (検案(※)) 年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日 (*)
17 死亡年月日 (※)

この届出は診断後直ちに実行してください

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

日本脳炎発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話 () -
電話 () -

11 症状
・発熱
・嘔吐
・意識障害
・痲痺
・脳神経麻痺
・運動失調
・その他 ()
・なし
12 診断方法
・分離・同定による病原体の検出
・抗体: 血液・髄液・その他 ()
・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・抗体: 血液・髄液・その他 ()
・IgM抗体の検出
・抗体: 血清・髄液・その他 ()
・ペア血清での赤血球凝集阻止抗体の検出
結果: 抗体陽転 ・ 抗体面の有意上昇
・ペア血清での中抗抗体の検出
結果: 抗体陽転 ・ 抗体面の有意上昇
・ペア血清での補体結合抗体の検出
結果: 抗体陽転 ・ 抗体面の有意上昇
・その他の方法 ()
・抗体: ()
・検体: ()
・結果 ()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤 (輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 () 都道府県 () 市区町村 ()
2 国外 () 国 () 詳細地域 ()
③日本脳炎ワクチン接種歴
1 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H 年 月 日)
2 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H 年 月 日)
3 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H 年 月 日)
4 回目 有 () 無 () 不明 ()
接種年月日 (S・H 年 月 日)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
13 初診年月日
14 診断 (検案(※)) 年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日 (*)
17 死亡年月日 (※)

この届出は診断後直ちに実行してください

(1、3、11、12、18欄は該当する番号等○で囲み、4、5、13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

鼻 疽 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡疑い者の死体	5 診断時の年齢(歳は月齢)	6 当該者職業
2 当該者氏名	3 性別 年 月 日	4 生年月日 年 月 日
7 当該者住所	男・女	歳(か月)
8 当該者所在地	電話()	
9 保護者氏名	10 保護者住所	(9,10)は患者が未成年の場合のみ記入 電話()

11 症 状	・発熱 ・敗血症 ・肺炎 ・筋肉疼痛 ・その他() ・なし	・頭痛 ・シヨック ・肺腫瘍 ・腹部臓器腫瘍	・皮膚膿瘍	18 感染原因・感染経路・感染地域
12 診 断 方 法	・分離・同定による病原体の検出 ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 ・その他()	・検体：皮膚病変組織・膿・喀痰・咽頭拭い液・血液・その他()	・検体：皮膚膿瘍	①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況) 2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況) 3 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内(都道府県 市区町村) 2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日	平成 年 月 日	19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
14 診断(検案(※))年月日	平成 年 月 日	
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日	
16 発病年月日(※)	平成 年 月 日	
17 死亡年月日(※)	平成 年 月 日	

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

ブルセラ症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例)・無症状病原体保有者・感染症死亡者の死体・感染症死亡疑い者の死体	4 生年月日	5 診断時の年齢(歳は月齢)	6 当該者職業
2 当該者氏名	3 性別 年 月 日	歳(か月)	
7 当該者住所	男・女		
8 当該者所在地	電話()		
9 保護者氏名	10 保護者住所	(9,10)は患者が未成年の場合のみ記入 電話()	

11 症 状	・発熱 ・関節痛 ・腰痛 ・リンパ管腫脹 ・精巣炎 ・心内膜炎 ・中核神経症状 ・肺炎 ・その他() ・なし	・倦怠感 ・筋肉痛 ・腹痛 ・関節炎 ・肝腫大 ・肺炎 ・骨髄炎 ・仙腸骨炎	18 感染原因・感染経路・感染地域
12 診 断 方 法	・分離・同定による病原体の検出 ・検体：血液・骨髄・膿瘍・その他()	・検体：血液・骨髄・膿瘍・その他()	①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 経口感染(飲食物の種類・状況) 2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況) 3 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内(都道府県 市区町村) 2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日	平成 年 月 日	19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
14 診断(検案(※))年月日	平成 年 月 日	
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日	
16 発病年月日(※)	平成 年 月 日	
17 死亡年月日(※)	平成 年 月 日	

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに行ってください

ベネズエラウマ脳炎発生病

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

印

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9,10)は患者が未成年の場合のみ記入

11 症状 18 感染原因・感染経路・感染地域
12 診断方法
13 初診年月日
14 診断(検査)(※)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1,3,11,12,18欄は該当する番号等を○で囲み、4,5,13から17欄は年齢、年月日を入力すること。)
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

この届出は診断後直ちにしてください

ヘンドライルス感染症発生病

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

印

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3性別 4 生年月日 5 診断時の年齢(歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9,10)は患者が未成年の場合のみ記入

11 症状 18 感染原因・感染経路・感染地域
12 診断方法
13 初診年月日
14 診断(検査)(※)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)

(1,3,11,12,18欄は該当する番号等を○で囲み、4,5,13から17欄は年齢、年月日を入力すること。)
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

この届出は診断後直ちにしてください

発しんちフス発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 署名又は記名押印のこと
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日

この届出は診断後直ちに行ってください

(1, 3, 11, 12, 16 欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ボツリヌス症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 署名又は記名押印のこと
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類, 2 当該者氏名, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 13 初診年月日, 14 診断(検案)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 発病年月日, 17 死亡年月日

この届出は診断後直ちに行ってください

(1, 3, 11, 12, 16 欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

マラリア発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
・発熱 ・悪寒 ・頭痛 ・関節痛
・胸腫 ・貧血 ・出血症状 ・低血糖
・意識障害 ・急性腎不全 ・DIC
・肺水腫 /ARDS
・その他
・なし
12 診断方法
・血液検体の検出による病原体の検出
・血液検体のPCR法による病原体遺伝子の検出
・その他の方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 母子感染(ア・胎内 イ・出産時 ウ・母乳)
4 その他
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日
14 診断(検案)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)
(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

野兔病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所

11 症状
・悪寒 ・発熱 ・頭痛 ・筋肉痛
・関節痛 ・リンパ節腫脹
・その他
・なし
12 診断方法
・分測・同定による病原体の検出
・核体
・核体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
・菌凝集反応による血清抗体の検出
結果：単一血清で40倍以上、ペア血清での抗体価
転・ペア血清での抗体価の有意上昇
・その他の方法
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 水系感染(水の種類・状況)
2 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

13 初診年月日
14 診断(検案)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日(※)
17 死亡年月日(※)
(1. 3. 11. 12. 18欄は該当する番号等を○で囲み、4. 5. 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11. 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに帰ってくださ

ライム病発生病

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地 (※) 電話番号 (※)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (前定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3 性別 4 生年月日 5 診断時の年齢 (0 歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9, 10 は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () -

11 症状 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断 (検案 (※)) 年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日 (※) 17 死亡年月日 (※)
18 感染原因・感染経路・感染地域
① 感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他 ()
② 感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 16 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。 (※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (※) 欄は、患者 (前定例) を診断した場合のみ記入すること。 11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

リッサウイルス感染症発生病

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項 (同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日

従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと) 上記病院・診療所の所在地 (※) 電話番号 (※)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (前定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名 3 性別 4 生年月日 5 診断時の年齢 (0 歳は月齢) 6 当該者職業
7 当該者住所 8 当該者所在地
9 保護者氏名 10 保護者住所 (9, 10 は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 () -

11 症状 12 診断方法 13 初診年月日 14 診断 (検案 (※)) 年月日 15 感染したと推定される年月日 16 発病年月日 (※) 17 死亡年月日 (※)
18 感染原因・感染経路・感染地域
① 感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染 (動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 その他 ()
② 感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県 市区町村)
2 国外 (国 詳細地域)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに実行してください

(1, 3, 11, 12, 16 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13 から 17 欄は年齢、年月日を記入すること。 (※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。 (※) 欄は、患者 (前定例) を診断した場合のみ記入すること。 11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

リフトババレー熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
(9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入
電話() -

11 発熱 ・頭痛 ・嘔吐 ・意識障害 ・痲痺 ・脳神経障害 ・運動失調 ・その他() ・なし
12 分濾・同定による病原体の検出
検体: 血液・髄液・その他()
検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体: 血液・髄液・その他()
血清での中和抗体の検出
ELISA法による血清抗体の検出 (IgM・IgG)
蛍光抗体法による血清抗体の検出 (IgM・IgG)
その他の方法()
検体()
結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 動物・蚊・昆虫等からの感染(動物・蚊・昆虫等の種類・状況)
2 輸血・血液製剤(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
3 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検査)(※)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発症年月日(※)
17 死亡年月日(※)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに持って行ってください

類鼻疽発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体 ・感染症死亡疑い者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
(9, 10)は患者が未成年の場合のみ記入
電話() -

11 発熱 ・頭痛 ・シソック ・敗血症 ・肺炎 ・筋肉痛 ・リンパ節腫脹 ・その他() ・なし
12 分濾・同定による病原体の検出
検体: 喀痰・咽頭拭い液・膿・皮膚病変組織・血液・その他()
検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出
検体: 喀痰・咽頭拭い液・膿・皮膚病変組織・血液・その他()
その他の方法()
検体()
結果()
18 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 水系感染(水の種類・状況)
2 創傷感染(創傷の部位・状況)
3 塵埃感染(吸入物の種類・状況)
4 その他()
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県 市区町村)
2 国外(国 詳細地域)

13 初診年月日
14 診断(検査)(※)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発症年月日(※)
17 死亡年月日(※)
19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに持って行ってください

レジオネラ症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所, 11 電話番号, 12 電話番号

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに... (この届出は診断後直ちに...)

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11, 12欄は、該当するものを記載すること。)

レプトスピラ症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 報告年月日 平成 年 月 日 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 6 columns: 1 診断(検査)した者(死体)の類型, 2 当該者氏名, 3 性別, 4 生年月日, 5 診断時の年齢(0歳は月齢), 6 当該者職業, 7 当該者住所, 8 当該者所在地, 9 保護者氏名, 10 保護者住所, 11 電話番号, 12 電話番号

Table with 2 columns: 11 症状, 12 診断方法, 18 感染原因・感染経路・感染地域, 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

この届出は診断後直ちに... (この届出は診断後直ちに...)

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 (※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11, 12欄は、該当するものを記載すること。)

ロツキ一山紅斑熱発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

Table with 10 rows for patient information: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 当該者氏名, 3. 性別, 4. 生年月日, 5. 診断時の年齢, 6. 当該者職業, 7. 当該者住所, 8. 当該者所在地, 9. 保護者氏名, 10. 保護者住所

Main table for clinical details: 11. 症状, 12. 診断方法, 13. 初診年月日, 14. 診断(検案)年月日, 15. 感染したと推定される年月日, 16. 発病年月日, 17. 死亡年月日

この届出は診断後直ちに行政機関に行ってください

(1, 3, 11, 12欄は該当する番号等○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。 ※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

アメーバ赤痢発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日 印 (署名又は記名押印のこと)

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 従事する病院・診療所の名称 上記病院・診療所の所在地(※) 電話番号(※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 rows for patient information: 1. 診断(検案)した者(死体)の類型, 2. 性別, 3. 診断時の年齢

Main table for clinical details: 11. 感染原因・感染経路・感染地域, 12. 症状, 13. 診断方法, 14. 初診年月日, 15. 診断(検案)年月日, 16. 感染したと推定される年月日, 17. 発病年月日, 18. 死亡年月日

この届出は診断後直ちに行政機関に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。 ※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。 4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）発生病

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 3 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2 性別, 3 診断時の年齢(0歳は月齢)

Main table with 6 rows (1-6) and 2 columns: 11 感染原因・感染経路・感染地域, 12 診断方法

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

Table with 3 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の種類・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2 性別, 3 診断時の年齢(0歳は月齢)

Main table with 6 rows (1-6) and 2 columns: 11 感染原因・感染経路・感染地域, 12 診断方法

(1, 2, 4, 5及び11欄において該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものを全てを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

1. 急性灰白髄炎との鑑別のため、診断後速やかに病原検査のための検体を採取し、検査結果を待つことなく、出来るだけ速やかに髄液の検体所へ急性弛緩性麻痺の届出をさせていただきますようお願いいたします。

2. 届出後、病原検査により急性灰白髄炎と診断された場合には、届出の取り下げ等にご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式 5-4

急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。） 発生源

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 _____ 印
 従事する病院・診療所の名称 _____
 上記病院・診療所の所在地（※） _____
 電話番号（※） _____
 （※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の類型
 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別	3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男・女	歳（ 月）

1) 病原体 ()	11 感染原因・感染経路・感染地域
2) 病原体不明	①感染原因・感染経路（確定・推定）
4 症状	1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況：）
・弛緩性麻痺	2 接触感染（接触した人・物の種類・状況：）
・左上肢・右上肢・左下肢・右下肢・呼吸筋・顔面・	3 経口感染（飲食物の種類・状況：）
・深腱反射低下 ・蹄跗高踏障害 ・瞳孔散大	4 その他（）
・筋萎縮・筋肉痛・頭痛・髄液蛋白質増加	②感染地域（確定・推定）
・髄液細胞数増加・発熱・嘔吐・咳・鼻汁	1 日本国内（都道府県 市区町村）
・下痢・嘔吐・便秘・腰痛・意識障害・感覚障害	2 国外（ 国）
・小脳症状 ・不随意運動・脊髄の画像異常所見	③ポリオウイルス検査の実施（有・無）
・その他（）	④ポリオ含有ワクチン接種歴
・次の①～③の全ての要件を満たすことを確認	1 回目 有（ ）か月（ ）年（ ）月（ ）日（ ）不明
① 15歳未満	ワクチンの種類（生・IPV・DPT-IPV・不明）
② 急性の弛緩性麻痺状態を伴って死亡した者	接種年月日（S・H 年 月 日 / 不明）
または当該症状が24時間以上消失しなかつた者	2 回目 有（ ）か月（ ）年（ ）月（ ）日（ ）不明
③ 明らかに感染性でない血管障害、腫瘍、外傷、代謝障害などでないこと	ワクチンの種類（生・IPV・DPT-IPV・不明）
	接種年月日（S・H 年 月 日 / 不明）
	製造会社/Lot 番号（ / 不明）
	3 回目 有（ ）か月（ ）年（ ）月（ ）日（ ）不明
	ワクチンの種類（生・IPV・DPT-IPV・不明）
	接種年月日（S・H 年 月 日 / 不明）
	製造会社/Lot 番号（ / 不明）
	4 回目 有（ ）か月（ ）年（ ）月（ ）日（ ）不明
	ワクチンの種類（生・IPV・DPT-IPV・不明）
	接種年月日（S・H 年 月 日 / 不明）
	製造会社/Lot 番号（ / 不明）
	その他：海外でポリオ含有ワクチンの接種歴がある場合（生・IPV 含有ワクチン・不明）
	接種年月日（H 年 月 日 / 不明）
	製造会社/Lot 番号（ / 不明）

(1, 2, 4, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
 (※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
 (*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
 4, 11 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

別記様式 5-5

急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。） 発生源

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 _____ 印
 従事する病院・診療所の名称 _____
 上記病院・診療所の所在地（※） _____
 電話番号（※） _____
 （※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の類型
 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別	3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男・女	歳（ 月）

1) 病原体 ()	11 感染原因・感染経路・感染地域
2) 病原体不明	①感染原因・感染経路（確定・推定）
4 症状	1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況：）
・発熱 ・頭痛 ・嘔吐 ・頸部硬直	2 経口感染（飲食物の種類・状況：）
・痲痺 ・意識障害 ・髄液細胞数の増加	3 接触感染（接触した人・物の種類・状況：）
・その他（）	4 動物・蚊・昆虫等からの感染（動物・蚊・昆虫等の種類・状況：）
・意識障害を伴って死亡した者、または意識障害を伴って24時間以上入院した者のうち、次の①②③の少なくとも1つの症状を呈したことを確認	5 その他（）
① 38度以上の高熱、② 何らかの中枢神経症状、③ 先行感染症状（急性痲痺、代謝性痲痺、脳腫瘍、外傷等、明らかに感染性とは異なる場合は除外する。）	
5 診断方法	②感染地域（確定・推定）
	1 日本国内（都道府県 市区町村）
	2 国外（ 国）
	③初診年月日 平成 年 月 日
	7 診断（検査）年月日 平成 年 月 日
	8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
	9 発病年月日（*） 平成 年 月 日
	10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日

(1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
 (※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
 (*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
 4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

11の届出は診断から7日以内に行ってください

クリプトスポリジウム症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 3 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の種類, 2. 性別, 3. 診断時の年齢(0歳は月齢)

Main form table with 4 columns: 1. 症状, 2. 診断方法, 3. 感染原因・感染経路・感染地域, 4. 検査法

この届出は診断日から7日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。

4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

クローイツフェルト・ヤコブ病発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日(平成 年 月 日)

医師の氏名

(署名または記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

Main form table with 6 columns: 1. 診断(検査)した者(死体)の種類, 2. 性別, 3. 診断時の年齢, 4. 病型, 5. 診断方法, 6. 症状

この届出は診断日から7日以内に行ってください

(1, 2, 4から6, 12欄は該当する番号等を○で囲み、3, 7から11欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者を診断した場合のみ記入すること)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型

・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別 男・女

3 診断時の年齢 (0歳は月齢) 歳 (か月)

Table with 4 columns: 4 症状, 5 診断方法, 11 感染原因・感染経路・感染地域, 6 初診年月日, 7 診断(検査)年月日, 8 感染したと推定される年月日, 9 発病年月日, 10 死亡年月日. Includes detailed medical and epidemiological information.

この届出は診断日から7日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

後天性免疫不全症候群発生届 (HIV感染症を含む)

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型

・患者(確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体

2 性別 男・女

3 診断時の年齢 歳

Table with 7 columns: 4 病名, 5-1 診断方法, 6 診断時の症状, 7 発病年月日, 8 初診年月日, 9 診断(検査)年月日, 10 死亡年月日. Includes detailed clinical and diagnostic information.

別記様式 5-10

ジアルジア症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型 ・患者(補定例)・感染症死亡者の死体
2 性別 男・女
3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳() 月() 日()

4 症状 ・腹部不快感 ・嘔吐 ・下痢 ・胆嚢炎 ・その他()	11 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 経口感染(飲食物の種類・状況:) 2 水系感染(水の種類・状況:) 3 性的接触(A.性交 B.経口(ア)同性間 イ.異性間 ウ.不明) 4 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県() 市区町村() 2 国外() 国() 詳細地域()
5 診断方法 ・顕微鏡による病原体の検出 検体: 便・生検組織・十二指腸液・胆汁・胆汁・胆汁・その他() ・病原体抗原の検出 検体: 便・生検組織・十二指腸液・胆汁・胆汁・胆汁・その他() 検査法(酵素抗体法・イムノクロマト法) ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 便・生検組織・十二指腸液・胆汁・胆汁・胆汁・その他() ・その他の検査方法() 検体() 検査()	12 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 性的接触 ア.同性間 イ.異性間 ウ.不明 2 経注薬物使用 3 母子感染 ア.胎内・出産時 イ.母乳 4 輸血・血液製剤 輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況: 5 その他() 6 不明 ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県() 市区町村() 2 国外() 国() 詳細地域() 3 不明
6 初診年月日 平成 年 月 日	7 診断(検査)年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日	9 発病年月日(※) 平成 年 月 日
10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日	

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢・年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(補定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断日から7日以内に行ってください

- カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)
- クリプトコッカス症(肺以外)
- コクシジオイデス症(①全身に播種したもの ②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの)
- ヒストプラズマ症(①全身に播種したもの ②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの)
- ニューモシステリス肺炎
- トキソプラズマ脳症(生後1か月以後)
- クリプトスポリジウム症(1か月以上続く下痢を伴ったもの)
- インスボラ症(1か月以上続く下痢を伴ったもの)
- 化膿性細菌感染症(13歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により①敗血症 ②肺炎 ③髄膜炎 ④骨髄炎 ⑤中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍のいずれかが、2年以内、二つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの)
- サルモネラ菌血症(再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く)
- 活動性結核(肺結核又は肺外結核)
- 非結核性抗酸菌症(①全身に播種したもの ②肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの)
- サイトメガロウイルス感染症(生後1か月以後で、肝、脾、リンパ節以外)
- 単純ヘルペスウイルス感染症(①1か月以上持続する粘膜炎、皮膚の潰瘍を呈するもの ②生後1か月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの)
- 進行性多巣性白質脳症
- カポジ肉腫
- 原発性脳リンパ腫
- 非ホジキンリンパ腫
- 浸潤性子宮頸癌
- 反復性肺炎
- リンパ性間質性肺炎/肺リンパ腫形成: LIP/PLH complex(13歳未満)
- HIV脳症(認知症又は亜急性脳炎)
- HIV消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)

この届出は診断日から7日以内に行ってください	13 感染症のまん延の防止及び当該患者の医療のために必要な事項として厚生労働大臣が定める事項 ①最近数年間の主な居住地 1 日本国内() 都道府県() 2 その他() 3 不明 ②国籍 1 日本 2 その他() 3 不明
------------------------	--

(1, 2, 4から6, 12, 13欄は該当する番号等を○で囲み、3, 7から11欄は年齢・年月日を記入すること。*欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。)

侵襲性インフルエンザ菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・感染症死亡者の死体
2 性別
3 診断時の年齢(0歳は月齢)
4 性別
5 生年月日
6 年齢(歳)
7 性別
8 年齢(歳)

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路(確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況)
2 接触感染(接触した人・物の種類・状況)
3 その他
②感染地域(確定・推定)
1 日本国内(都道府県)
2 国外(国)
③ピブクチン接種歴
1 回目有(歳)・無・不明
2 回目有(歳)・無・不明
3 回目有(歳)・無・不明
4 回目有(歳)・無・不明
5 回目有(歳)・無・不明
6 初診年月日
7 診断(検案)年月日
8 感染したと推定される年月日
9 発病年月日
10 死亡年月日

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

侵襲性髄膜炎菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型
・患者(確定例)・感染症死亡者の死体
2 当該者氏名
3 性別
4 生年月日
5 診断時の年齢(0歳は月齢)
6 当該者職業
7 当該者住所
8 当該者所在地
9 保護者氏名
10 保護者住所
(9, 10は患者が未成年の場合のみ記入)
電話()
電話()

11 頭痛
・発熱
・嘔吐
・意識障害
・点状状出血
・多臓器不全
12 分灌・同定による病原体の検出
検体: 髄液・血液・その他
血清型: 未定・A群・B群・C群・Y群
13 初診年月日
14 診断(検案)年月日
15 感染したと推定される年月日
16 発病年月日
17 死亡年月日

この届出は診断後直ちに行ってください

(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

侵襲性肺炎球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断 (検査) した者 (死体) の類型, 患者 (確定例) ・ 感染症死亡者の死体. 2 性別, 男・女. 3 診断時の年齢 (0歳は月齢), 歳 (か月).

Main table for invasive pneumococcal infection reporting. Columns include symptoms (発熱, 頭痛, etc.), diagnosis methods (1 感染原因, 2 接触感染, etc.), and dates (初診年月日, etc.).

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

水痘 (入院例に限る。) 発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地 (※)
電話番号 (※)

(※)病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断 (検査) した者 (死体) の類型, 患者 (確定例) ・ 感染症死亡者の死体. 2 性別, 男・女. 3 診断時の年齢 (0歳は月齢), 歳 (か月).

Main table for chickenpox reporting. Columns include symptoms (発熱, 発疹, etc.), diagnosis methods (1 検査診断例, 2 臨床診断例, etc.), and dates (初診年月日, etc.).

(1, 2, 4, 5及び11欄において該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

先天性風しん症候群発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・感染症死亡者の死体
2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢 (0歳は月齢)
歳 () か月 ()

1 1 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路
1 母親の妊娠中の風しん罹患歴
・あり (発症した妊娠週数 週)
・なし
・不明
2 母親の感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県)
2 国外 (詳細地域)
3 出生時の母親の年齢 (歳)
④母親の風しん含有ワクチン接種歴
1 回目 (歳) ・ 無 ・ 不明
母子手帳等の記録による確認の有無 (有 ・ 無)
ワクチンの種類 (風しん単抗原・MR・MMR・不明)
接種年月日 (S ・ H 年 月 日) ・ 不明
製造会社/Lot 番号 (製造会社/Lot 番号)
2 回目 (歳) ・ 無 ・ 不明
母子手帳等の記録による確認の有無 (有 ・ 無)
ワクチンの種類 (風しん単抗原・MR・MMR・不明)
接種年月日 (S ・ H 年 月 日) ・ 不明
製造会社/Lot 番号 (製造会社/Lot 番号)
⑤その他の検査方法 ()
検体 ()
結果 ()
6 初診年月日 平成 年 月 日
7 診断 (検案(※)) 年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
9 発病年月日 (※) 平成 年 月 日
10 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

(*) 欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。

4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断から7日以内に行ってください

梅毒発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

印

(署名又は記名押印のこと)

医師の氏名

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断 (検案) した者 (死体) の類型
・患者 (確定例) ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体
2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢 (0歳は月齢)
歳 () か月 ()

1 1 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路
1 性的接触
(A) 性交
(B) 経口
(ア) 同性間 イ 異性間 ウ 不明
(性風俗産業の従事歴 (直近6か月以内)
1) 有 2) 無 3) 不明
(性風俗産業の利用歴 (直近6か月以内)
1) 有 2) 無 3) 不明
2 輸注薬物使用
3 母子感染 (ア) 胎内・出産時 イ 母乳
4 輸血・血液製剤
(輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況)
5 その他 ()
6 不明
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 (都道府県)
2 国外 (詳細地域)
3 不明
③過去の治療歴
1) 1年より前 2) 1年以内 3) なし 4) 不明
1, 2 感染症のまん延の防止及び当該患者の医療のために必要な事項として厚生労働大臣が定める事項
・妊娠の有無
1) 有 (週) 2) 無 3) 不明

6 初診年月日 平成 年 月 日
7 診断 (検案(※)) 年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
9 発病年月日 (※) 平成 年 月 日
10 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1, 2, 4, 5, 11, 12欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。

(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

(*) 欄は、患者 (確定例) を診断した場合のみ記入すること。

4, 5欄は、該当するものすべてを記載すること。

この届出は診断から7日以内に行ってください

播種性クリプトコックス症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)
(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2 性別, 3 診断時の年齢(0歳は月齢)

Main table with 4 columns: 4 症状, 5 診断方法, 11 感染原因・感染経路・感染地域, 6-10 初診年月日, 診断(検案)年月日, 感染したと推定される年月日, 発病年月日(*), 死亡年月日(※)

(1, 2, 4, 5及び11欄においては該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4及び5欄においては、該当するものを全てを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

破傷風発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日
医師の氏名
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※)
(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

Table with 2 columns: 1 診断(検案)した者(死体)の類型・患者(確定例)・感染症死亡者の死体, 2 性別, 3 診断時の年齢(0歳は月齢)

Main table with 4 columns: 4 症状, 5 診断方法, 11 感染原因・感染経路・感染地域, 6-10 初診年月日, 診断(検案)年月日, 感染したと推定される年月日, 発病年月日(*), 死亡年月日(※)

(1, 2, 4, 5, 11欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4, 5欄は、該当するものを全てを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

バンコムイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※補院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢 (0歳は月齢)
歳 (か月)

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染 (感染源の種類・状況)
2 経口感染 (飲食物の種類・状況)
3 接触感染 (接触した人・物の種類・状況)
4 針等の鋭利なものへの刺入による感染 (刺入物の種類・状況)
5 創傷感染 (創傷の種類・状況)
6 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 ()
2 国外 ()
詳細地域 ()
6 初診年月日 平成 年 月 日
7 診断(検査)年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
9 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
10 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

バンコムイシン耐性腸球菌感染症発生届

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項 (同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※)

(※補院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検査)した者(死体)の類型
・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体

2 性別
男 ・ 女
3 診断時の年齢 (0歳は月齢)
歳 (か月)

11 感染原因・感染経路・感染地域
①感染原因・感染経路 (確定・推定)
1 飛沫・飛沫核感染 (感染源の種類・状況)
2 経口感染 (飲食物の種類・状況)
3 接触感染 (接触した人・物の種類・状況)
4 針等の鋭利なものへの刺入による感染 (刺入物の種類・状況)
5 その他 ()
②感染地域 (確定・推定)
1 日本国内 ()
2 国外 ()
詳細地域 ()
4 発熱
・皮膚感染症
・肺炎
・髄膜炎
・菌血症
・免疫不全
・その他 ()
5 通常無菌的ではない検体からの分離・同定による黄色ブドウ球菌の検出かつ分離開のバンコムイシンのMIC値が16µg/ml以上
検体:血液・膿水・胸水・髄液
菌種名:()
耐性遺伝子: vanA・vanB・vanC・その他()・未発表
6 初診年月日 平成 年 月 日
7 診断(検査)年月日 平成 年 月 日
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
9 発病年月日 (*) 平成 年 月 日
10 死亡年月日 (※) 平成 年 月 日

(1. 2. 4. 5. 11欄は該当する番号等を○で囲み、3. 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
4. 5欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を要するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に調査し、察しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式5-2-3

麻しん発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日
 従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと)
 上記病院・診療所の所在地(※) _____
 電話番号(※) _____
 (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体	2 当該者氏名	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業
7 当該者住所	男・女	年	月	日	歳(月)
8 当該者所在地	電話() -				
9 保羅者氏名	電話() -				
10 保羅者住所	(9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話() -				

1) 麻しん(検査診断例)	2) 麻しん(臨床診断例)	13 感染原因・感染経路・感染地域
3) 修飾麻しん(検査診断例)		①感染原因・感染経路(確定・推定)
11 症状 ・発熱(月・日出現) ・咳・鼻汁・結膜充血 ・眼瞼 ・コプリック斑 ・麻疹(月・日出現) ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クルーズ ・脳炎 (急性脳炎の届出もお届けします) ・その他()	1 飛沫・飛沫核感染(感染源となった麻疹患者・状況) 2 接触感染(感染源となった麻疹患者・物の種類・状況) 3 その他()	②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県 (市区町村) 2 国外() 詳細地域 () 渡航期間 ()
12 陰性結果を含む実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体: 咽拭拭い液・血液・髄液・尿・その他() 検体採取日() 月 日 結果(陽性・陰性) 遺伝子型: () (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 咽拭拭い液・血液・髄液・尿・その他() 検体採取日() 月 日 結果(陽性・陰性) 遺伝子型: () (ウ) 血清IgM抗体の検出 検体採取日() 月 日 結果(陽性・陰性・判定保留) 抗体価: () (エ) ペア血清での抗体の検出 検体採取日(1回目 月 日 2回目 月 日) 抗体価(1回目 月 日 2回目 月 日) 結果: 抗体陽転・抗体価の上昇 検査方法: EIA・HI・NT・PA・その他() (オ) その他の検査方法() 検体() 検体採取日() 月 日 結果()	③麻しん含有ワクチン接種歴 1 回目 有() 無() 不明() ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日・不明) 製造会社/Lot番号(/) 2 回目 有() 無() 不明() ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日・不明) 製造会社/Lot番号(/)	④初診年月日 平成 年 月 日 15 診断(検案)(※)年月日 平成 年 月 日 16 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 17 発病年月日(※) 平成 年 月 日 18 死亡年月日(※) 平成 年 月 日 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項
(力) 臨床決定()		

(1、3、11から13欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、14から18欄は年齢、年月日を記入すること。
 (※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
 (※) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
 (※) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11、12欄は、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断後直ちに

別記様式5-2-4

薬剤耐性アシネトバクター感染症発生届

都道府県知事(保健所設置市長・特別区長)殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

医師の氏名 (署名又は記名押印のこと) 報告年月日 平成 年 月 日
 従事する病院・診療所の名称 (署名又は記名押印のこと)
 上記病院・診療所の所在地(※) _____
 電話番号(※) _____
 (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体	2 性別	3 診断時の年齢(0歳は月齢)
男・女	男・女	歳(月)

4 症 状	5 診 断 方 法	11 感染原因・感染経路・感染地域
・尿路感染症 ・肺炎 ・腸菌炎 ・髄膜炎 ・菌血症 ・敗血症 ・胆管炎 ・その他()	・通常無菌的であるべき検体からの分離・同定によるアシネトバクター属菌の検出及び分種のイミペネム・アミカシン及びジプロフロキサシンに対する耐性の確認 検体: 血液・髄液・胸水・髄液 菌種名() その他() 上記以外で確認に用いた薬剤名() ・通常無菌的でない検体からの分離・同定によるアシネトバクター属菌の検出、分種のイミペネム・アミカシン及びジプロフロキサシンに対する耐性の確認、並びに分種菌が感染の起原菌であることの判定 検体: 喀痰・膿・尿 その他() 菌種名() 上記以外で確認に用いた薬剤名()	①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 以前からの保菌(保護部位:) 2 院内感染(保菌も含めた患者数など感染伝播の状況:) 3 医療器具関連感染(中心静脈カテーテル・尿路カテーテル・人工呼吸器・その他()) 4 手術部位感染(手術手技:) 5 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内() 都道府県 (市区町村) 2 国外() 詳細地域 () ③90日以内の海外渡航歴(有・無)有りの場合 1 渡航先() 国) 2 海外での医療機関の受診歴(有・無)有りの場合 3 感染したと推定される年月日() 国) 4 入院歴(有・無)
6 初診年月日 平成 年 月 日	7 診断(検案)(※)年月日 平成 年 月 日	8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
9 発病年月日(※) 平成 年 月 日	10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日	

(1、2、4、5及び11欄においては該当する番号等を○で囲み、3及び6から10までの欄においては年齢又は年月日を記入すること。
 (※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
 (※) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。
 (※) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。4及び5欄においては、該当するものすべてを記載すること。)

この届出は診断日から7日以内に行ってください

感染症発生動向調査(小児科定点)

週報

保健所コード
医療機関コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 第 週 医療機関名:

疾病	年齢		1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20歳以上	合計	コメント
	0~5 か月	6~11 か月														
RSウイルス感染症	男	女														
咽頭結膜熱	男	女														
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	女														
感染性胃腸炎	男	女														
水痘	男	女														
手足口病	男	女														
伝染性紅斑	男	女														
突発性発疹	男	女														
ヘルパンギーナ	男	女														
流行性耳下腺炎	男	女														
福祉保健所 FAX: 088-822-1880																

* 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

(インフルエンザ定点)

疾病	年齢		1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	合計	予防接種	
	0~5 か月	6~11 か月																					
インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く)	男	女																					

感染症発生動向調査(インフルエンザ定点)

週報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 第 週 医療機関名: _____

疾病	年齢		0~5 九月		6~11 九月		1歳		2		3		4		5		6		7		8		9		10~ 14		15~ 19		20~ 29		30~ 39		40~ 49		50~ 59		60~ 69		70~ 79		80歳 以上		合計		予防接種			
	男	女																																														
インフルエンザ (鳥インフルエンザ を除く)																																																

コメント

インフルエンザ迅速検査結果		
検査数	検査結果	
	Aのみ+	Bのみ+
	陽性(+)を計上してください	

福祉保健所

FAX: 0887-34-3170

感染症発生動向調査(基幹定点)
(インフルエンザによる入院患者の報告)

週報

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0報告であってください。
調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名: _____

ID番号	性別	年齢 (0歳は月 齢)	入院時の対応				備考	
			ICU入室	人工呼吸 器の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検 査(予定含		脳波検査 (予定含
1	男・女							
2	男・女							
3	男・女							
4	男・女							
5	男・女							
6	男・女							
7	男・女							
8	男・女							
9	男・女							
10	男・女							
11	男・女							
12	男・女							
13	男・女							
14	男・女							
15	男・女							

<記載上の留意>

- インフルエンザに罹患し、入院した患者(院内感染を含む)を報告してください
- 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

感染症発生動向調査(眼科定点)

週報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 ~ ____ 年 ____ 月 ____ 日 第 ____ 週 医療機関名: _____

疾病	年齢		0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳 以上	合計	
	男	女																					
急性出血性結膜炎																							
流行性角結膜炎																							

コメント

福祉保健所
FAX: 0880-35-5980

感染症発生動向調査(STD定点)

月報

保健所コード

医療機関コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

疾病	年齢		1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上	合計
	男	女	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症									
性器クラミジア感染症																		
性器ヘルペスウイルス感染症																		
尖圭コンジローマ																		
淋菌感染症																		

コメント

福祉保健所
FAX:

感染症発生動向調査(基幹定点)

週報

保健所コード

医療機関コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 第 週 医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	病原体名称(検査結果)	病原体検査							
					左記の結果を得た 病原体検査方法**							検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7							

* 疾病名

- 1:細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌,髄膜炎菌,肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)
- 2:無菌性髄膜炎
- 3:マイコプラズマ肺炎
- 4:クラミジア肺炎(オウム病を除く)
- 5:感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

** 病原体検査方法

- 1:分離・同定
- 2:抗原検出
- 3:核酸・PCR
- 4:塗抹検鏡
- 5:電顕
- 6:抗体検出
- 7:その他

<記載上の注意>

- ・ 細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎: 病原体が判明している場合は, その病原体名(複数検出された場合は, 主要なもの二種のみ記載), その結果を得た病原体検出方法(複数の場合は, 最も相契となった方法の一つを選択)及びその検体名を記載. 病原体が判明していない場合は, 病原体名称欄に“検出せず”と記載してください(病原体検査欄の記載は不要).
- ・ マイコプラズマ肺炎: 病原体検査診断が必須. 病原体名称欄に*M. pneumoniae*と記載の上, 病原体検査方法(1, 2, 3, 6, 7のいずれか, 複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください.
- ・ クラミジア肺炎: 病原体検査診断が必須. 病原体名称欄に*C. pneumoniae*, *C. trachomatis*を記載の上, 病原体検査方法(1, 2, 3, 6, 7のいずれか, 複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください.
- ・ 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルス): 病原体検査診断が必須. 病原体名称欄にロタウイルスと記載の上, 病原体検査方法(1, 2, 3, 7, のいずれか, 複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください. ※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合, 感染性胃腸炎の届出も行うこと. スであるものに限る.)

コメント

福祉保健所

FAX:

感染症発生動向調査(基幹定点)

月報

保健所コード _____

医療機関コード _____

調査期間 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日 医療機関名: _____

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	検体採取部位**
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

- * 疾病名 (番号を○で囲む)
- 1:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
 - 2:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
 - 3:薬剤耐性緑膿菌感染症
- ** 検体採取部位

複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1か所のみを記載。

コメント
福祉保健所
FAX:

緊急連絡

この届出は診断後直ちに行ってください

報告番号：

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日

医療機関名：

主治医名：

症候群分類*	1	2
年齢	歳	ヶ月
性別	男	女

* 症候群分類（番号を○で囲む）

- 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状
（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
- 2：発熱及び発しん又は水疱

※届出については、最寄りの保健所に電話連絡後、FAXをお願いします。
 （夜間・休日の連絡先は、高知市内；高知市保健所地域保健課電話822-0577、
 高知市以外；高知県庁代表電話088-823-1111にお願います。）

高知県感染症対策協議会規約

(要旨)

第1条 この規約は、感染症の予防及び感染症の患者の医療に関する法律第6条第1項に規定する感染症について、有効かつ的確な感染症対策を確立するとともに感染症の予防の総合的な推進を図るため、高知県感染症対策協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(任務)

第2条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について協議するとともに当該事項の推進にあたるものとする。

- (1)感染症発生動向調査実施要綱に基づく情報の解析・評価
- (2)予防計画に関すること
- (3)事前対応に即した予防対策の検討
- (4)肝炎対策に関すること
- (5)その他、必要な事項

(組織)

第3条 協議会は、高知県医師会、高知大学医学部附属病院など感染症に関する専門の学識経験者のなかから知事が委嘱する委員20名以内で構成する。

- 2 日常的な情報を解析し具体的な予防対策を検討するため、協議会に結核対策部会、エイズ・性感染症対策部会、感染症発生動向調査部会、肝炎対策部会の部会を設ける。

(任期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、再任を防げない。

- 2 委員に欠員が生じたとき、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(役員等)

第5条 協議会には会長及び副会長2名をおき、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は会を統括する。
- 3 会長に事故があるときは、副会長が職務を代行する。
- 4 部会の部会長は会長が指名する。
- 5 部会の部会長は、協議会の中から会長が指名する。

(会議)

第6条 会議は、会長が必要と認めるときに召集し、会長が議長となる。

- 2 部会は、部会長が必要に応じて召集し、部会長が議長となる。
- 3 部会での検討事項は、協議会に報告する。
- 4 協議会及び部会は、必要に応じ委員及び部会員の同意を得て会長指名の専門委員を会議に参加させることができる。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、高知県健康政策部健康対策課に置く。

(雑則)

第8条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は別に定める。

附則

- 1 この規約は平成12年2月17日から施行する。
- 2 高知県結核・感染症発生動向調査委員会規約及び高知県エイズ対策協議会の規約は廃止する。
- 3 第1回の協議会は、第6条第1項の規定にかかわらず知事が召集する。

附則

この規約は平成20年1月1日から施行する。

附則

この規約は平成22年2月8日から施行する。

附則

この規約は平成23年2月15日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

高知県感染症対策協議会委員名簿

高知県感染症対策協議会（10名）

会 長：吉川 清志（土佐希望の家）
副会長：石黒 成人（県医師会） 西原 利治（高知大）
委 員：池上 信夫（県産婦人科医会） 大串 文隆（国立高知）
小倉 英郎（大西病院） 猿田 隆夫（県医師会）
藤枝 幹也（高知大） 前田 明彦（幡多けんみん）
高崎 元宏（市医師会）

結核対策部会（4名）

会 長：大串 文隆（国立高知）
委 員：浦田 知之（高知医療センター） 竹内 栄治（日赤）
豊田 誠（高知市）

エイズ・性感染症対策部会（5名）

会 長：猿田 隆夫（県医師会）
委 員：池上 信夫（県産婦人科医会） 武内 世生（高知大）
大田 和道（高須病院） 滝川 稚也（国立高知）

肝炎対策部会（5名）

会 長：西原 利治（高知大）
委 員：石黒 成人（県医師会） 岩村 伸一（日赤）
堀川 俊一（高知市） 前田 隆（クリニック地球33番地）

感染症発生動向調査部会（7名）

会 長：吉川 清志（土佐希望の家）
委 員：石黒 成人（県医師会） 小倉 英郎（大西病院）
西内 律雄（高知医療センター） 浜田 義文（はまだ小児科）
前田 明彦（幡多けんみん） 森畑 東洋一（もりはた小児科）

高知県感染症対策協議会の体系図

《目的》

- * 事前対応に即した感染症情報の収集・解析・評価
- * 有効かつ的確な感染症予防対策の確立

平常時

感染症対策協議会

感染症

感染症法
に基づく
疾患

日常的な情報解析委員

エイズ・性感染症対策部会

結核対策部会

肝炎対策部会

感染症発生動向調査部会
(週報・月報)

情報解析

具体の予防
対策の検討

緊急時

- * 厚生労働省専門員の派遣・助言
- * 会長指名専門委員の参加

感染症対策協議会

感染症

- ・ 集団発生
- ・ 特殊事例
(不明疾患等)

拡大防止
のために
臨時召集

事態に応じ迅速
・ 的確に対応す
るための協議

執筆担当

患者情報

－高知県における感染症の年次的推移（第19号）－

高知医療センター 吉川 清志

検査情報

－高知県感染症発生動向調査における病原微生物分離－

幡多けんみん病院 前田 明彦

地域情報

－2017年～2018年 1 検査定点における病原体分離とその臨床像

はまだ小児科 濱田 義文

濱田 文彦

倉繁 迪

－2018年須崎市とその周辺を中心にみられた百日咳の流行について

もりはた小児科 森畑 東洋一

－2017/18 シーズンに当院を受診したインフルエンザ患児の検討

ふないキッズクリニック 船井 守

－2017年、2018年に経験した感染性腸炎の発生状況

けら小児科アレルギー科 森澤 豊

－2017/18 シーズンインフルエンザについて

高知県衛生研究所 戸梶 彰彦

高知県感染症発生動向調査事業報告

第19号

平成31年3月発行

発行 ・高知県感染症対策協議会感染症発生動向調査部会

事務局 高知県健康政策部健康対策課

〒780-8570 高知市丸ノ内 1-2-20

電話 088-823-9677

・高知県感染症情報センター

高知県衛生研究所

〒780-0850 高知市丸ノ内 2-4-1

電話 088-821-4961

印刷所 ・西富謄写堂印刷

〒780-8037 高知市城山町 36

電話 088-831-6820